

設置計画の概要

事項	記入欄
事前相談事項	事前伺い
計画の区分	研究科の設置
フリガナ設置者	コカッダイカクホカジン ヒロシマダイカウ 国立大学法人 広島大学
フリガナ大学の名称	ヒロシマダイカクダイカクイン 広島大学大学院(The Graduate School of Hiroshima University)
新設学部等における教育研究上の目的、養成する人材像	<p>【医系科学研究科】</p> <p>①養成する人材 医学・歯学・薬学・保健学の4分野における基盤的研究の深化と分野間の連携・融合を図り、生命医学の急速な進歩と医療技術の高度化に迅速に対応する先端的教育研究を推進することにより、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を養成するとともに、旧来の学問分野の枠組みを超えて、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材を養成する。</p> <p>②教育研究上の目的 医学・歯学・薬学・保健学における高度な専門的知識と研究力を身に付けさせるとともに、幅広く深い教養と専門領域にとらわれない広い視野を涵養する。また、高度な論理力と課題発見能力ならびにチーム医療の一員として活躍できる行動力や倫理観を育成する。</p> <hr/> <p>【医歯薬学専攻(博士課程)】</p> <p>①養成する人材 研究能力に裏打ちされ、かつ医療系の幅広い知識と学識を有した高度専門医療人としての指導的臨床能力を有した医師、歯科医師、薬剤師又はこれらの枠を超えた先端的生命科学研究に精通した人材を養成する。</p> <p>②教育研究上の目的 高度専門医療人としての指導的臨床能力を有した医師、歯科医師、薬剤師又はこれらの枠を超えた先端的生命科学研究に精通した人材として、必要な卓越した専門的知識と高度な研究力を身に付けさせるとともに、幅広く深い教養と専門領域にとらわれない学際的かつ国際的な視野を涵養する。また、高度な論理力と卓越した課題発見能力並びにチームのリーダーとして活躍できる行動力や倫理観を育成する。</p> <p>③修了後の進路等 国内外の医療機関における高度専門医療人、国内外の機関・企業研究者、大学教員等</p> <hr/> <p>【医学専門プログラム(博士課程)】</p> <p>①養成する人材 医学における幅広い学識と高度な研究能力を有し、学際的・国際的に活躍できる教育者・研究者及び時代の要求に応え、先進的医療技術の開発・応用を担うことができる高度専門医療人を養成する。</p> <p>②教育研究上の目的 上記人材を養成するために以下の能力を習得させることを教育研究上の目的とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・高い生命倫理観と社会貢献に関する幅広い知識を持って研究を計画・遂行できる能力 ・薬物治療を含む臨床腫瘍学の専門的な知識と医療に関連する情報工学の知識を有し、診断・治療開発研究を推進できる力 ・得られた研究成果を世界に発信する能力 ・基礎的・先進的な研究解析法に関する知識と確かな技術力を持って、生命医学の基礎的・応用的研究を展開できる能力 </p> <p>③修了後の進路等 先進的医療技術の知識を有した高度臨床医、国内外の医療機関における先端治療専門家、生命医学研究に関わる国内外の機関・企業研究者、国内外の医療機関における最先端臨床医学研究者、大学教員等</p> <hr/> <p>【歯学専門プログラム(博士課程)】</p> <p>①養成する人材 歯科医学分野における研究を統合・発展させ、より高度な先進的歯学基礎研究を遂行するとともに、これに基づく応用研究によって高度先進歯科医療を開発し、これを地域社会から国際社会まで広く展開できる人材を養成する。</p> <p>②教育研究上の目的 上記人材を養成するために以下の能力を習得させることを教育研究上の目的とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・咀嚼系の発達を理解し、咀嚼系の健全な発達を育成するための歯科医療を開発できる能力 ・咀嚼系の老化に伴う変化を理解し、咀嚼系の機能や形態を保持増進するための歯科医療を開発する能力 ・失われた咀嚼系の機能回復や形態を再建するための知識と、新しい再建法を開発する能力 ・口腔顎顔面領域に生じる疾病の成立機序を分子レベルで理解し、新しい疾病予防、診断法、治療法を開発することのできる能力 ・口腔顎顔面領域に関連する微生物の特性や感染症の成立機序を分子レベルで理解し、感染症の制御法を開発できる能力 </p> <p>③修了後の進路等 地域医療における指導的臨床歯科医師、海外の医療機関における指導的臨床歯科医師、歯科医学領域に関わる機関・企業研究者、臨床歯科医療開発に関わる機関・企業研究者、大学教員等</p> <hr/> <p>【薬学専門プログラム(博士課程)】</p> <p>①養成する人材 薬学に関する深い学識及び高い見識を有し、薬学の教育・研究を通じて、我が国の医療薬学及び薬物療法の発展に貢献できる人材、医療を中心とした薬学研究領域で国際的に活躍できる人材を養成する。</p> <p>②教育研究上の目的 上記人材を養成するために以下の能力を習得させることを教育研究上の目的とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・臨床現場を熟知し、高度臨床薬剤師としてチーム医療に関する研究を行い、それに携われる能力 ・専門的臨床薬学知識を修得して、その専門知識の適切な利用を研究する能力 ・薬の使用についての知識を修得して、その適正使用を指導する能力 ・臨床薬学を修め、国民の健康福祉に寄与する研究を行う能力 ・臨床現場における薬物療法を履修した上で、医薬品開発研究を行う能力 ・専門的臨床薬学領域を修め、教育・研究を行う能力 </p> <p>③修了後の進路等 病院における高度臨床薬剤師、薬局における専門薬剤師、健康管理業務を行う臨床薬剤師、公的機関の先端的研究薬剤師、臨床的医薬品開発を行う企業研究薬剤師、大学教員等</p> <hr/> <p>【放射線医学専門プログラム(博士課程)】</p> <p>①養成する人材 放射線の人体影響に関する基礎的研究から臨床放射線医学までの先進的、かつ体系的な教育・研究を実施し、これを地域社会から国際社会まで広く展開できる人材を養成する。</p> <p>②教育研究上の目的 上記人材を養成するために以下の能力を習得させることを教育研究上の目的とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・放射線の生物・人体影響とそのメカニズムを理解し、研究展開できる能力 ・放射線障害のメカニズムと治療及び放射線リスクに関する知見を修得し応用できる力 ・放射線診断と治療に関する基礎的及び臨床的知見を修得し展開できる能力 </p> <p>③修了後の進路等 放射線医療における高度臨床医、放射線研究及び放射線防護に関わる機関・企業研究者、放射線安全・防護に関わる機関・企業研究者、放射線研究に関わる国際機関、先端放射線医療を担う高度専門医師や医学的背景を持つ放射線領域の教育者・研究者、大学教員等</p>

新設学部等における教育研究上の
目的、養成する人材像

【総合健康科学専攻(博士課程前期)】

①養成する人材

QOL向上や健康寿命の延伸に貢献し、多職種連携、地域包括ケアなど新たな医療提供体制において重要な役割を演じる看護師、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、歯科技工士、医学物理士ならびに公衆衛生学の専門人材や医歯薬学分野の生命科学研究者などを養成する。

②教育研究上の目的

看護師、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、歯科技工士、医学物理士ならびに公衆衛生学の専門人材や医歯薬学分野の生命科学研究者として必要な専門的知識と研究力を身に付けさせるとともに、幅広い教養と専門領域にとらわれない視野を涵養する。また、論理力と課題発見能力ならびにチーム医療の一員として活躍できる行動力や倫理観を育成する。

③修了後の進路等

保健医療施設、健康・医療関連企業などの研究者・専門技術者、医療系公務員、博士課程後期への進学等

【保健科学プログラム(博士課程前期)】

①養成する人材

保健医療及び健康管理の高度化、複雑多様化に対応できる、高度専門的医療人としての看護師、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、歯科技工士の養成、さらに、これらの職種における保健医療施設でのスペシャリスト・指導者、教育研究機関の教育者・研究者を養成する。

②教育研究上の目的

国民の健康維持増進のため、疾病予防、機能回復、介護支援など保健一般に関する、豊かで幅広い学識と高度な研究能力及び問題解決能力として必要な専門的知識と研究力を身に付けさせるとともに、幅広い教養と専門領域にとらわれない視野を涵養する。また、論理力と課題発見能力ならびにチーム医療の一員として活躍できる行動力や倫理観を育成する。

③修了後の進路等

保健医療及び健康管理の高度化、複雑多様化に対応できる高度専門的医療人としての看護師、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、歯科技工士並びにこれらの職種の保健医療施設におけるスペシャリスト・指導者、教育研究機関の教育者・研究者、博士課程後期への進学等

【薬科学プログラム(博士課程前期)】

①養成する人材

国民の健康維持や疾病の治療における新規医薬品創製への期待が高まっているが、従来から存在する研究領域のみでは解決できない課題も存在するようになってきている。このような時代背景を受けて、革新的な医薬品創製を目指す創薬研究者及び生命薬学研究者として幅広い分野で活躍できる人材を養成する。さらに薬科学の発展と普及を担う教育者・研究者の養成も行う。

②教育研究上の目的

現在の医療において、薬物療法は疾病治療法の一つとして極めて重要な位置づけにある。また、新規医薬品の創製は、国民の健康に直結するだけでなく、経済的にも世界的競争力を高める上で重要である。薬科学プログラム(博士課程前期)では、新たな医薬品の探索・創製およびその基盤となる生命薬科学の専門性を養う。

③修了後の進路等

保健医療施設、製薬企業、健康関連企業、食品企業などの研究者・専門技術者、医療系公務員、博士課程後期への進学等

【公衆衛生学プログラム(博士課程前期)】

①養成する人材

超高齢化・超少子化社会の進展に伴う疾病構造の変化や急速に進むグローバル化の中で、医療、保健、福祉、医療行政、臨床研究などの現場では、それぞれの専門に加えて、疫学、生物統計学、社会・行動科学、保健行政、国際・環境保健学の5分野にわたる公衆衛生学を修めた者が求められている。

公衆衛生学プログラムでは、国際基準であるこれら5分野の教育を体系的に行う学位プログラムを設置し、科学的根拠に基づく医療を評価・実践できる医療従事者や政策の評価・企画立案を担う行政担当者、国際保健に貢献できる人材の養成を行う。

②教育研究上の目的

科学的根拠に基づく医療を実施できる能力を習得することを目的とし、疫学、生物統計学、社会・行動科学、保健行政、国際・環境保健学の5分野における専門的な知識の習得と技能を養う。さらに臨床、保健、医療行政の課題解決に実際に取り組みすることができる能力の習得を目的とする。

③修了後の進路等

科学的根拠に基づく医療を評価・実践できる医師・歯科医師・薬剤師・看護師・保健師・臨床検査技師・理学療法士・診療放射線技師・作業療法士・栄養士・治験コーディネーター(CRC)、行政機関等の保健健康施策実務者、博士課程後期への進学等

【医学物理士プログラム(博士課程前期)】

①養成する人材

医学物理学分野の高度専門職業人として、病院、その他の保健医療施設において、高度化、多様化する医学、歯学、保健学等の進歩に対応できる医学物理士等の医療者、技術者及び各種教育機関において医学物理学の普及を担う教育者・研究者並びに医学物理学分野で国際的に活躍できる人材を養成する。

②教育研究上の目的

医学・歯学・薬学・保健学に関する豊かな学識の上に、医学物理学に関する知識、技能、態度を幅広く修得し、様々なチーム医療における問題解決能力を涵養し、独創的で未来志向的な医療者、教育者を養成するとともに、博士課程へ進学するための基盤となる研究能力を涵養する。

③修了後の進路等

医学物理学に関わる機関職員、企業研究者、大学教員、高度専門職業人、保健医療施設における医療従事者、博士課程後期への進学等

【生命医療科学プログラム(博士課程前期)】

①養成する人材

生命医療科学や様々な科学領域との学際領域において、教育・研究機関で基礎的・応用的生命医療科学を推進でき、医療関係の企業等において研究開発に関わることができ、また医療施設において高い研究志向を持って医療に携わる医療人として活躍できる人材を養成する。

②教育研究上の目的

生命科学並びに医療分野における体系的・集中的教育を行い、先端的・学際的な研究を進めることにより、高度な基礎的・応用的医歯薬科学研究力を醸成する。

③修了後の進路等

バイオテクノロジー、製薬などの医療関係企業等の研究者、研究志向を身に付けた保健医療施設における医療従事者、教育・研究機関における教育者・研究者、博士課程後期への進学等

<p>新設学部等における教育研究上の目的、養成する人材像</p>	<p>【総合健康科学専攻(博士課程後期)】 ①養成する人材 QOL向上や健康寿命の延伸に貢献し、多職種連携、地域包括ケアなど新たな医療提供体制において幅広い知識を有し、リーダーシップをとることができる看護師、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、歯科技工士、医学物理士、公衆衛生学の専門人材や医歯薬学分野の生命科学研究者などを養成する。</p> <p>②教育研究上の目的 看護師、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、歯科技工士、医学物理士、公衆衛生学の専門人材や医歯薬学分野の生命科学研究者として必要な高度な専門的知識と研究力を身に付けさせるとともに、幅広く深い教養と専門領域にとらわれない広い視野や国際性を涵養する。また、高度な論理力と課題発見能力ならびにチーム医療のリーダーとして活躍できる行動力や倫理観を育成する。</p> <p>③修了後の進路等 国内外の健康・医療関連企業の研究者、公的研究機関の高度技術者及び医療系公務員、大学等の高等教育機関における教育・研究者等</p> <p>【保健科学プログラム(博士課程後期)】 ①養成する人材 幅広い基礎的知識及び各領域の高度専門知識を身に付け、保健医療の現場で活躍できる実践家、保健医療施設などの指導者並びに国際的に活躍できる視野のある教育者・研究者を養成する。</p> <p>②教育研究上の目的 少子高齢化社会の急速な到来により、疾病構造の変化から保健、医療の分野においても専門化が進み、それぞれの分野においても高度な専門知識と技術を有する研究者が必要とされている。そのため、疾病予防、機能回復、介護予防など保健一般に関する、豊かで幅広い学識と高度な研究能力及び問題解決能力を涵養し、高度医療の実践者及び独創性のある教育者・研究者で、国際的にも活躍できる人材としての能力を身に付けさせる。</p> <p>③修了後の進路等 保健科学に関する幅広い基礎的知識及び各領域の高度専門知識を身に付け、保健医療の現場で活躍できる実践家、保健医療施設などの指導者並びに国際的に活躍できる視野のある教育者・研究者等</p> <p>【薬科学プログラム(博士課程後期)】 ①養成する人材 国民の健康維持や疾病の治療における新規医薬品創製への期待が高まっているが、従来から存在する研究領域のみでは解決できない課題も存在するようになってきている。このような時代背景を受けて、革新的な医薬品創製を目指す薬科学に関する深い学識及び高い見識を有し、薬科学の教育・研究を通じて我が国の創薬科学及び生命薬科学の発展に貢献できる人材を養成する。さらに国際的視点に立って創薬科学及び生命薬科学を基盤とした応用研究を展開する人材の養成も行う。</p> <p>②教育研究上の目的 新規医薬品の創製は、国民の健康に直結するだけでなく、経済的にも世界的競争力を高める上で重要である。しかし、現在でも、治療に対する薬剤の貢献度、治療の満足度も低い、いわゆるメディカル・アンメット・ニーズは多く、新たな研究・技術開発が求められている。薬科学プログラム(博士課程後期)では、国際的な視点に立って創薬科学及び生命薬科学の発展・応用に貢献できる専門性を養う。</p> <p>③修了後の進路等 保健医療施設、製薬企業、健康関連企業、食品企業などの研究者・高度専門技術者、医薬品関連公的研究機関の高度技術者及び技術系公務員、大学等の高等教育機関における教育・研究者等</p> <p>【生命医療科学プログラム(博士課程後期)】 ①養成する人材 生命医療科学や様々な科学領域との学際領域において、教育・研究機関で基礎的・応用的生命医療科学を高度に推進でき、医療関係の企業等において中心的な立場となって高度な研究開発に関わることができ、また医療施設において高い研究志向を持って高度な医療に中心的な役割を担って活躍できる人材を養成する。</p> <p>②教育研究上の目的 生命科学ならびに医療分野における体系的・集中的教育を行い、先端的・学際的な研究を進めることにより、基礎的・応用的生命医療科学力を醸成するとともに、様々な研究領域や医療領域において中心的な役割を担って活躍できる研究者、教育者あるいは医療従事者になるための基盤となる研究能力を涵養する。</p> <p>③修了後の進路等 バイオテクノロジー、製薬などの医療関係企業等の研究者、高い研究志向を身に付けた保健医療施設における医療従事者、教育・研究機関における教育者・研究者、大学教員等</p>
<p>既設学部等における教育研究上の目的、養成する人材像</p>	<p>【医歯薬保健学研究科】 ①養成する人材 医学・歯学・薬学・保健学の基盤的研究を推進し、その深奥を究めるとともに、諸学問の総合的研究あるいは学際的研究及び先進的研究を推進して新しい学問を切り開くこと並びにこれらを通じて豊かで幅広い学識と高度な研究能力を有する教育者・研究者及び高度専門医療人を養成する。</p> <p>②教育研究上の目的 医学・歯学・薬学・保健学における高度な専門的知識と研究力を身に付けさせるとともに、豊かで幅広い学識と課題解決能力を涵養する。</p> <p>【医歯薬学専攻(博士課程)】 1) 医学専門プログラム ①養成する人材 医学における幅広い学識と高度な研究能力を有し、学際的・国際的に活躍できる教育者・研究者及び時代の要求に応え、先進的医療技術の開発・応用を担うことができる高度専門医療人を養成する。</p> <p>②教育研究上の目的 上記人材を養成するために以下の能力を習得させることを教育研究上の目的とする。 ・高い生命倫理観と社会貢献に関する幅広い知識を持って研究を計画・遂行できる能力 ・薬物治療を含む臨床腫瘍学の専門的知識と医療に関連する情報医学の知識を有し、診断・治療開発研究を推進できる力 ・得られた研究成果を世界に発信する能力 ・基礎的・先進的な研究解析法に関する知識と確かな技術力を持って、生命医学の基礎的・応用的研究を展開できる能力</p> <p>③修了後の進路等 先進的医療技術の知識を有した高度臨床医、国内外の医療機関における先端治療専門家、生命医学研究に関わる国内外の機関・企業研究者、国内外の医療機関における最先端臨床医学研究者、大学教員</p>

既設学部等における教育研究上の目的、養成する人材像

<p>2) 歯学専門プログラム</p> <p>①養成する人材 歯科医学分野における研究を統合・発展させ、より高度な先進的歯学基礎研究を遂行するとともに、これに基づく応用研究によって高度先進歯科医療を開発し、これを地域社会から国際社会まで広く展開できる人材を養成する。</p> <p>②教育研究上の目的 上記人材を養成するために以下の能力を習得させることを教育研究上の目的とする。 ・咀嚼系の発達を理解し、咀嚼系の健全な発達を育成するための歯科医療を開発できる能力 ・咀嚼系の老化に伴う変化を理解し、咀嚼系の機能や形態を保持増進するための歯科医療を開発する能力 ・失われた咀嚼系の機能回復や形態を再建するための知識と、新しい再建法を開発する能力 ・口腔顎顔面領域に生じる疾病の成立機序を分子レベルで理解し、新しい疾病予防、診断法、治療法を開発することのできる能力 ・口腔顎顔面領域に関連する微生物の特性や感染症の成立機序を分子レベルで理解し、感染症の制御法を開発できる能力</p> <p>③修了後の進路等 地域医療における指導的臨床歯科医師、海外の医療機関における指導的臨床歯科医師、歯科医学領域に関わる機関・企業研究者、臨床歯科医療開発に関わる機関・企業研究者、大学教員</p> <p>3) 薬学専門プログラム</p> <p>①養成する人材 薬学に関する深い学識及び高い見識を有し、薬学の教育・研究を通じて、我が国の医療薬学及び薬物療法の発展に貢献できる人材、医療を中心とした薬学研究領域で国際的に活躍できる人材を養成する。</p> <p>②教育研究上の目的 上記人材を養成するために以下の能力を習得させることを教育研究上の目的とする。 ・臨床現場を熟知し、高度臨床薬剤師としてチーム医療に関する研究を行い、それに携われる能力 ・専門的臨床薬学知識を修得して、その専門知識の適切な利用を研究する能力 ・薬の使用についての知識を修得して、その適正使用を指導する能力 ・臨床薬学を修め、国民の健康福祉に寄与する研究を行う能力 ・臨床現場における薬物療法を履修した上で、医薬品開発研究を行う能力 ・専門的臨床薬学領域を修め、教育・研究を行う能力</p> <p>③修了後の進路等 病院における高度臨床薬剤師、薬局における専門薬剤師、健康管理業務を行う臨床薬剤師、公的機関の先端的研究薬剤師、臨床的医薬品開発を行う企業研究薬剤師、大学教員</p> <p>4) 放射線医学専門プログラム</p> <p>①養成する人材 放射線の人体影響に関する基礎的研究から臨床放射線医学までの先進的、かつ体系的な教育・研究を実施し、これを地域社会から国際社会まで広く展開できる人材を養成する。</p> <p>②教育研究上の目的 上記人材を養成するために以下の能力を習得させることを教育研究上の目的とする。 ・放射線の生物・人体影響とそのメカニズムを理解し、研究展開できる能力 ・放射線障害のメカニズムと治療及び放射線リスクに関する知見を修得し応用できる力 ・放射線診断と治療に関する基礎的及び臨床的知見を修得し展開できる能力③修了後の進路等</p> <p>③修了後の進路等 放射線医療における高度臨床医、放射線研究及び放射線防護に関わる機関・企業研究者、放射線安全・防護に関わる機関・企業研究者、放射線研究に関わる国際機関、大学教員、先端放射線医療を担う高度専門医師や医学的背景を持つ放射線領域の教育者・研究者</p>
<p>【口腔健康科学専攻(博士課程前期)】</p> <p>①養成する人材 ・口腔保健の高度専門医療人を養成する。 ・口腔健康科学の確立及び普及を担う教育者・研究者となる人材を養成する。 ・口腔工学の確立及び普及を担う教育者・研究者となる人材を養成する。</p> <p>②教育研究上の目的 上記人材を養成するために以下の能力を習得させることを教育研究上の目的とする。</p> <p>1) クリニカルコース ・問題を抱えた患者や家族に対して総合的に口腔管理が実践できる能力 ・看護活動及び保健活動の実態、児童生徒の発達と健康上の問題を踏まえた上で児童生徒の健康保持増進のための口腔管理指導が実践できる能力 ・歯科医療の高度化・複雑化に伴い変化している歯科衛生士の職務内容に対応する能力</p> <p>2) リサーチコース ・歯科材料の特性と生体の構造、組織・細胞の特徴の両面から生体材料を開発する能力 ・CTやMRI、cone beam CTなどの生体から得られる情報から生体の構造・機能を予測するシステムを構築・応用する能力 ・材料の改質を組織・細胞レベルと微生物との相互作用の両面からアプローチし、臨床研究まで発展させる能力 ・国民の健康の維持増進を目的とし、口腔から全身の健康を維持促進する口腔健康科学を教育・研究する能力</p> <p>③修了後の進路等</p> <p>1) クリニカルコース 地域医療における指導的歯科衛生士、学校や行政機関における指導的歯科衛生士、高齢者介護施設やデイケアなどにおける多職種と連携の図れる歯科衛生士、博士課程後期への進学</p> <p>2) リサーチコース ・歯工融合領域における医薬関連企業研究者、歯科医療機器・歯科材料を細胞生物学的観点から開発できる歯科企業研究者、顎口腔領域と工学の融合領域におけるIT企業研究者、博士課程後期への進学 ・病院、診療所での歯科医療に貢献する高度専門的医療人、大学や企業等での口腔保健学分野での教育者・研究者、行政分野等における口腔保健の専門家、博士課程後期への進学</p>
<p>【口腔健康科学専攻(博士課程後期)】</p> <p>①養成する人材 口腔健康科学分野の教育・研究をリードし、口腔健康科学分野の拠点となるべく教育・研究を展開し、国際的に貢献できる人材養成を行うとともに、国民の健康の維持増進を目的とし、口腔から全身の健康を維持増進するための口腔健康科学の学術分野を構築すべく、その教育者及び大学・企業における研究者を養成する。</p> <p>②教育研究上の目的 上記人材を養成するために以下の能力を習得させることを教育研究上の目的とする。 ・プロバイオティクスや感染といった微生物と生体反応に関連した臨床的研究の結果に基づいて、そのメカニズムを解明するための基礎的研究系を構築し、検証できる能力 ・生体材料と細胞との相互作用などの基礎的解析の結果から臨床研究を展開し、検証できる能力 ・間葉系幹細胞、ES細胞、IPS細胞などの幹細胞を用いて、臨床的研究と基礎的研究手法の両者を展開し、新規の治療法を開発する能力 ・口腔健康科学分野をリードし教育・研究を展開し、国際的に貢献する能力</p> <p>③修了後の進路等 ・口腔保健学領域における製薬関連、化粧品関連及び歯工連携関連等の企業研究者、口腔工学領域における歯工連携関連及び工学関連等の企業研究者、大学教員 ・大学や専門学校などでの口腔保健学の指導者・教育者、病院での口腔保健のスペシャリスト、企業や研究所での口腔保健学分野の研究者、行政分野等における口腔保健のリーダー</p>

	<p>【薬科学専攻(博士課程前期)】</p> <p>①養成する人材 創薬研究者及び生命科学研究者として幅広い分野で活躍できる人材、薬科学の発展と普及を担う教育者・研究者並びに薬科学分野で国際的に活躍できる人材を養成する。</p> <p>②教育研究上の目的 上記人材を養成するために以下の能力を習得させることを教育研究上の目的とする。 ・薬学基礎領域を修め、薬を設計、合成できる能力 ・薬の作用を修め、さらにその適切利用について研究する力 ・薬学基礎を学び、それをさらに発展させ、教育・研究に利用できる能力 ・薬学基礎を学び、さらに高度な学問領域を究める力</p> <p>③修了後の進路等 創薬を中心とした企業研究者、医薬品検査等に関わる行政機関の研究者、大学教員、博士課程後期への進学</p>
	<p>【薬科学専攻(博士課程後期)】</p> <p>①養成する人材 薬科学に関する深い学識及び高い見識を有し、薬科学の教育・研究を通じて、我が国の創薬科学及び生命科学の発展に貢献できる人材、国際的視点に立つて創薬科学及び生命科学を基盤とした応用研究を展開できる人材を養成する。</p> <p>②教育研究上の目的 上記人材を養成するために以下の能力を習得させることを教育研究上の目的とする。 ・先端的薬学基礎を修め、新薬の設計、新薬の合成、構造活性相関を通じてより適切な医薬品を創造できる能力 ・複雑な薬の作用を理解した上で、それについてさらに深く究明し、その利用について研究できる能力 ・専門的薬学領域を修め教育・研究を行う能力</p> <p>③修了後の進路等 先端的創薬を行う企業研究者、国民の健康に関わる行政機関の研究者、大学教員、創薬研究者、薬科学分野の教育者・研究者、環境・衛生領域の専門家等</p>
	<p>【保健学専攻(博士課程前期)】</p> <p>①養成する人材 ・保健学に関する豊かで幅広い学識と高度な研究能力を持つ研究者を養成する。 ・複雑化した健康問題を抱える総体としての「人」の反応を明らかにし、身体的・心理的・社会的な総合支援の効果的な方法論を開発する能力のある研究者を養成する。 ・問題解決能力を涵養し、独創性、未来志向性を引き出すことができる教育者を養成する。 ・生命・医療倫理の深い知識とこれに根ざした先進的な保健・医療・福祉開発研究を遂行できる人材を養成する。 ・先進的な保健・医療・福祉に関する情報発信と共有化の担い手となり、国際的にも活躍できる人材を養成する。</p> <p>②教育研究上の目的 上記人材を養成するために以下の能力を習得させることを教育研究上の目的とする。 ・生命への畏敬と医療倫理の深い知識を持ち、先進的な看護、理学療法及び作業療法を遂行できる能力 ・人間性に富み、看護に関する豊かで幅広い学識 ・理学療法・作業療法・保健・福祉に関する豊かで幅広い学識 ・複雑化した健康問題について、総合的な視点から効果的に問題を解決する能力 ・複雑化した健康問題に対して、身体的だけでなく、心理的・社会的な面からも総合的に問題を解決する能力 ・複雑化した健康問題に対して、精神身体的だけでなく、社会的にも総合的に問題を解決する能力</p> <p>③修了後の進路等 拠点病院の看護師、理学療法士及び作業療法士、医療・保健・福祉に関わる企業や行政機関の専門職、大学教員、博士課程後期への進学</p>
<p>既設学部等における教育研究上の目的、養成する人材像</p>	<p>【保健学専攻(博士課程後期)】</p> <p>①養成する人材 ・看護学の新しい理論と実践方法を自立して研究・開発できる看護学教育・研究者を養成する。 ・理学療法学及び作業療法学分野において高度な専門知識を持ち、優れた研究能力を持った教育者及び学問体系確立のための研究開発者を養成する。 ・保健医療福祉分野における新しい専門研究を推進できる高い研究能力及び国際的視野を有する教育者・研究者を養成する。</p> <p>②教育研究上の目的 上記人材を養成するために以下の能力を習得させることを教育研究上の目的とする。 ・生命の尊厳と医療倫理を尊重し、先進的な看護学、理学療法学及び作業療法学の研究を遂行できる能力 ・看護、理学療法及び作業療法に関する豊かで幅広い学識と高度な研究・実践能力 ・先進的な看護、理学療法及び作業療法に関する情報を発信し、国際的に活躍できる能力</p> <p>③修了後の進路等 先進的拠点病院における指導的看護師、指導的理学療法士及び指導的作業療法士、医療・保健・福祉に関わる機関の研究者、行政組織の管理職、大学教員</p>
	<p>【医歯科学専攻(修士課程)】</p> <p>1) 医歯科学コース</p> <p>①養成する人材 ・教育研究機関において、基礎医学・歯学研究を推進できる能力を身に付けている人材を養成する。 ・バイオテクノロジー、医療等に関係する企業等において研究開発又は医療関係業務に携わるために必要な能力を身に付けている人材を養成する。</p> <p>②教育研究上の目的 上記人材を養成するために以下の能力を習得させることを教育研究上の目的とする。 ・人体の構造と機能、疾病の病因・病態と生命医療倫理に関する確かな知識 ・医歯科学研究に必要な広汎な解析法の理論に関する知識と正確な技術力 ・疾病の発生・進展のメカニズムの理解に基づいた先進的研究を推進する能力と情報発進力 ・放射線計測学、放射線診断学・治療学、核医学等、医学物理士に必須の知識 ・放射線腫瘍学の専門的知識と確かな研究理論を有し、がんの制御に関わる先進的な臨床開発研究を遂行する能力</p> <p>③修了後の進路等 医歯科学研究に関わる研究機関の研究員、企業研究者、大学教員、医療従事者、博士課程後期への進学</p> <p>2) 医学物理士コース</p> <p>①養成する人材 医学物理学分野の高度専門職業人として活躍できる人材、医学物理学の確立と普及を担う教育者・研究者並びに医学物理学分野で国際的に活躍できる人材を養成する。</p> <p>②教育研究上の目的 上記人材を養成するために以下の能力を習得させることを教育研究上の目的とする。 ・人体の構造と機能、疾病の病因・病態と生命医療倫理に関する確かな知識 ・医歯科学研究に必要な広汎な解析法の理論に関する知識と正確な技術力 ・疾病の発生・進展のメカニズムの理解に基づいた先進的研究を推進する能力と情報発進力 ・放射線計測学、放射線診断学・治療学、核医学等、医学物理士に必須の知識 ・放射線腫瘍学の専門的知識と確かな研究理論を有し、がんの制御に関わる先進的な臨床開発研究を遂行する能力</p> <p>③修了後の進路等 医歯科学研究に関わる機関職員、企業研究者、大学教員、博士課程後期への進学、医学物理学分野における高度専門職業人、医学物理学に関わる機関職員、企業研究者、大学教員</p>

	3) 公衆衛生学コース ①養成する人材 疫学, 生物統計学, 社会科学・行動科学, 保健行政・医療管理学などを修め, 科学的根拠に基づく医療を実践する医療従事者等を養成する。 ②教育研究上の目的 上記人材を養成するために以下の能力を習得させることを教育研究上の目的とする。 ・医療, 保健, 福祉, 医療行政, 臨床研究の現場で臨床研究・疫学調査研究を行う能力 ・医療, 保健, 福祉, 医療行政, 臨床研究の現場で科学的根拠に基づく医療を実施できる能力 ・医療行政の現場で政策の企画立案を担う能力 ③修了後の進路等 医師・歯科医師・薬剤師・看護師・保健師・臨床検査技師・理学療法士・診療放射線技師・作業療法士・栄養士・治験コーディネーター(CRC)・行政機関等の保健健康施策実施者, 博士課程後期への進学													
新設学部等において取得可能な資格	【総合健康科学専攻(博士課程前期)保健科学プログラム】 ・養護教諭専修免許状 ①国家資格, ②資格取得可能, ③修了要件単位に含まれる科目の履修に加え, 養護関連科目を履修することで取得可能													
既設学部等において取得可能な資格	【保健学専攻(博士課程前期)】 ・養護教諭専修免許状 ①国家資格, ②資格取得可能, ③修了要件単位に含まれる科目の履修に加え, 養護関連科目を履修することで取得可能													
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等 学位又は称号		開設時期	専任教員 異動元			助教以上	うち教授	
	医系科学研究科 [Graduate School of Biomedical and Health Sciences]	医歯薬学専攻(博士課程) [Division of Biomedical Sciences]	4	97	-	388	博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学) 博士(学術)	医学関係 歯学関係 薬学関係	平成31年 4月	医歯薬学専攻	148	52		
		総合健康科学専攻(博士課程前期) [Division of Integrated Health Sciences]	2	76	-	152	修士(医科学) 修士(歯科学) 修士(公衆衛生学) 修士(薬科学) 修士(看護学) 修士(保健学) 修士(口腔健康科学) 修士(学術)	医学関係 歯学関係 薬学関係 保健衛生学関係(看護学関係) 保健衛生学関係(リハビリテーション関係) 保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	平成31年 4月	口腔健康科学専攻 薬科学専攻 保健学専攻 医歯科学専攻	10 10 35 111	5 6 20 53		
		総合健康科学専攻(博士課程後期) [Division of Integrated Health Sciences]	3	25	-	75	博士(医科学) 博士(歯科学) 博士(薬科学) 博士(看護学) 博士(保健学) 博士(口腔健康科学) 博士(学術)	医学関係 歯学関係 薬学関係 保健衛生学関係(看護学関係) 保健衛生学関係(リハビリテーション関係) 保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	平成31年 4月	口腔健康科学専攻 薬科学専攻 保健学専攻 医歯科学専攻	6 8 26 10	5 6 19 10		
計									148	52				
既設学部等の概要	既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	授与する学位等 学位又は称号		開設時期	専任教員 異動先			助教以上	うち教授	
	医歯薬保健学研究科(廃止)	医歯薬学専攻(博士課程)	4	97	-	388	博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学) 博士(学術)	医学関係 歯学関係 薬学関係	平成24年 4月	医系科学研究科医歯薬学専攻 退職	148 17	52 12		
		口腔健康科学専攻(博士課程前期)	2	12	-	24	修士(口腔健康科学)	保健衛生学関係	平成24年 4月	医系科学研究科総合健康科学専攻 その他 退職	10 6 3	5 0 1		
		口腔健康科学専攻(博士課程後期)	3	4	-	12	博士(口腔健康科学)	保健衛生学関係	平成24年 4月	医系科学研究科総合健康科学専攻 その他 退職	6 10 3	5 0 1		
		薬科学専攻(博士課程前期)	2	18	-	36	修士(薬科学)	薬学関係	平成24年 4月	医系科学研究科総合健康科学専攻 その他	6 6	5 0		
		薬科学専攻(博士課程後期)	3	3	-	9	博士(薬科学)	薬学関係	平成24年 4月	医系科学研究科総合健康科学専攻 その他	10 8	6 0		
		保健学専攻(博士課程前期)	2	34	-	68	修士(看護学) 修士(保健学)	保健衛生学関係	平成24年 4月	医系科学研究科総合健康科学専攻 その他 退職	35 19 2	20 0 2		
計									165	64				

	保健学専攻(博士課程後期)	3	15	-	45	博士(看護学) 博士(保健学)	保健衛生学関係	平成24年 4月	医系科学研究科総合健康科学専攻	26	19
									その他	28	1
									退職	2	2
									計	56	22
	医歯科学専攻(修士課程)	2	12	-	24	修士(医科学) 修士(歯科学) 修士(学術) 修士(公衆衛生学)	医学関係 歯学関係	平成24年 4月	医系科学研究科総合健康科学専攻	111	53
									計	111	53

【備考欄】

○同一設置者内における変更状況

総合科学研究科											
総合科学専攻	博士課程前期	[定員減]	(△10)	(平成31年4月)							
	博士課程後期	[定員減]	(△ 3)	(平成31年4月)							
理学研究科											
生物科学専攻	博士課程前期	(廃止)	(△24)	(平成31年4月学生募集停止)							
	博士課程後期	(廃止)	(△12)	(平成31年4月学生募集停止)							
数理分子生命理学専攻	博士課程前期	(廃止)	(△23)	(平成31年4月学生募集停止)							
	博士課程後期	(廃止)	(△11)	(平成31年4月学生募集停止)							
先端物質科学研究科											
分子生命機能科学専攻	博士課程前期	(廃止)	(△24)	(平成31年4月学生募集停止)							
	博士課程後期	(廃止)	(△11)	(平成31年4月学生募集停止)							
生物圏科学研究科(廃止)											
生物資源科学専攻	博士課程前期	(廃止)	(△30)	(平成31年4月学生募集停止)							
	博士課程後期	(廃止)	(△12)	(平成31年4月学生募集停止)							
生物機能開発学専攻	博士課程前期	(廃止)	(△24)	(平成31年4月学生募集停止)							
	博士課程後期	(廃止)	(△12)	(平成31年4月学生募集停止)							
環境循環系制御学専攻	博士課程前期	(廃止)	(△19)	(平成31年4月学生募集停止)							
	博士課程後期	(廃止)	(△ 9)	(平成31年4月学生募集停止)							
統合生命科学研究科											
統合生命科学専攻	博士課程前期		(170)	(平成30年4月事前伺い)							
	博士課程後期		(70)	(平成30年4月事前伺い)							

○大学院設置基準第14条における教育方法の特例を実施

【施設・設備の状況】

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計		
	校 舎 敷 地		951,632 m ²	0 m ²	0 m ²	951,632 m ²		
	運 動 場 用 地		244,009 m ²	0 m ²	0 m ²	244,009 m ²		
	小 計		1,195,641 m ²	0 m ²	0 m ²	1,195,641 m ²		
	そ の 他		1,134,377 m ²	0 m ²	0 m ²	1,134,377 m ²		
	合 計		2,330,018 m ²	0 m ²	0 m ²	2,330,018 m ²		
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
		514,567 m ² (514,567 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	514,567 m ² (514,567 m ²)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体	
	204 室	372 室	1,378 室	23 室 (補助職員 20人)	8 室 (補助職員 3人)			
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数			
		医系科学研究科			243 室			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での 特定不能なため、 大学全体の 数
	医系科学研究科	3,494,223 [1,318,193] (3,494,223 [1,318,193])	61,256 [25,336] (61,256 [25,336])	5,761 [5,753] (5,761 [5,753])	5,618 (5,618)	12,313 (12,313)	133 (133)	
	計	3,494,223 [1,318,193] (3,494,223 [1,318,193])	61,256 [25,336] (61,256 [25,336])	5,761 [5,753] (5,761 [5,753])	5,618 (5,618)	12,313 (12,313)	133 (133)	
図 書 館		面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体
		29,485 m ²		2,099		3,117,972		
体 育 館		面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				
		11,384 m ²		野球場、陸上競技場、サッカー・ラグビー場 外				

【既設学部等の状況】

大 学 の 名 称		国立大学法人 広島大学							
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
総合科学部 総合科学科	4	120	—	510	学士(総合科学)	1.04	昭49	広島県東広島市鏡山一丁目7番1号	平成30年度入学 定員減(△10人)
国際共創学科	4	40	—	40	学士(総合科学)	1.10	平30		
文学部 人文学科	4	130	3年次Ⅱ	570	学士(文学)	1.06	平9	広島県東広島市鏡山一丁目2番3号	平成30年度入学 定員減(△10人)
教育学部 第一類(学校教育系)	4	157	—	657	学士(教育学)	1.03	平12	広島県東広島市鏡山一丁目1番1号	平成28年度入学 定員減(△20人)
第二類(科学文化教育系)	4	82	—	346	学士(教育学)	1.02	平12		平成30年度入学 定員減(△3人)
第三類(言語文化教育系)	4	73	—	325	学士(教育学)	1.02	平12		平成30年度入学 定員減(△6人)
第四類(生涯活動教育系)	4	81	—	345	学士(教育学)	1.02	平12		平成30年度入学 定員減(△11人)
第五類(人間形成基礎系)	4	52	—	217	学士(心理学)	1.07	平12		平成30年度入学 定員減(△7人)
法学部 法学科(昼間コース)	4	140	3年次Ⅱ	580	学士(法学)	1.06	平7	広島県東広島市鏡山一丁目2番1号	平成30年度入学 定員減(△10人)
(夜間主コース)	4	30	3年次Ⅱ	170	学士(法学)	1.05 1.08	平7	広島県広島市中区東千田町一丁目1番89号	
経済学部 経済学科(昼間コース)	4	150	3年次5	615	学士(経済学)	1.05	平7	広島県東広島市鏡山一丁目2番1号	平成30年度編入 定員減(△7人)

(夜間主コース)	4	45	3年次5	240	学士(経済学)	1.08	平7	広島県広島市中区東千田町一丁目1番89号	予定員減(△5人) 平成30年度入学定員減(△15人) 平成30年度編入学定員減(△5人)
理学部						1.07		広島県広島市鏡山一丁目3番1号	
数学科	4	47	3年次 10	192	学士(理学)	1.06	昭24		
物理学科	4	66		268	学士(理学)	1.08	平10		
化学科	4	59		240	学士(理学)	1.10	昭24		
生物科学科	4	34		140	学士(理学)	1.03	平5		
地球惑星システム学科	4	24		100	学士(理学)	1.06	平4		
医学部						1.00		広島県広島市南区霞一丁目2番3号	6年制学科 4年制学科
医学科	6	120	—	720	学士(医学)	1.00	昭28		
保健学科	4	120	—	520	学士(看護学) 学士(保健学)	1.03	平4		
歯学部						1.00		広島県広島市南区霞一丁目2番3号	6年制学科 4年制学科
歯学科	6	53	—	318	学士(歯学)	1.04	昭40		
口腔健康科学科	4	40	—	160	学士(口腔健康科学)	1.00	平21		
薬学部						1.02		広島県広島市南区霞一丁目2番3号	6年制学科 4年制学科
薬学科	6	38	—	228	学士(薬学)	1.06	平18		
薬科学科	4	22	—	88	学士(薬科学)	1.02	平18		
工学部						1.04		広島県東広島市鏡山一丁目4番1号	
第一類(機械システム工学系)	4	—	—	—	学士(工学)	—	平13		平成30年度より 学生募集停止
第二類(電気・電子・システム・情報系)	4	—	—	—	学士(工学)	—	平13		平成30年度より 学生募集停止
第四類(建設・環境系)	4	—	—	—	学士(工学)	—	平13		平成30年度より 学生募集停止
第一類(機械・輸送・材料・エネルギー系)	4	150	3年次5	150	学士(工学)	1.03	平30		
第二類(電気電子・システム情報系)	4	90	3年次3	90	学士(工学)	1.03	平30		
第三類(応用化学・生物工学・化学工学系)	4	115	3年次4	465	学士(工学)	1.03	平13		平成30年度編入学定員変更(学部共通10人→第三類4人)
第四類(建設・環境系)	4	90	3年次3	90	学士(工学)	1.05	平30		
生物生産学部						1.14		広島県東広島市鏡山一丁目4番4号	
生物生産学科	4	90	3年次10	380	学士(農学)	1.14	昭54		
情報科学部						1.06		広島県東広島市鏡山一丁目4番1号	
情報科学科	4	80	3年次5	80	学士(情報科学)	1.06	平30		
総合科学研究科								広島県東広島市鏡山一丁目7番1号	
総合科学専攻(博士課程)	前期2 後期3	60 20	— —	120 60	修士(学術) 博士(学術)	0.99 0.71	平18 平18		
文学研究科								広島県東広島市鏡山一丁目2番3号	
人文学専攻(博士課程)	前期2 後期3	64 32	— —	128 96	修士(文学) 博士(文学)	1.00 0.76	平13 平13		
教育学研究科								広島県東広島市鏡山一丁目1番1号	
学習科学専攻(博士課程)	前期2	—	—	—	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	—	平12		平成28年度より 学生募集停止
生涯活動教育学専攻(博士課程)	前期2	—	—	—	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	—	平12		平成28年度より 学生募集停止
高等教育開発専攻	前期2	—	—	—	修士(教育学)	—	平12		平成28年度より 学生募集停止

既設大学等の状況	(博士課程)					修士(心理学)			学生募集停止
	学習開発専攻 (博士課程)	後期3	—	—	—	修士(学術) 博士(教育学) 博士(心理学) 博士(学術)	—	平12	平成28年度より 学生募集停止
	文化教育開発専攻 (博士課程)	後期3	—	—	—	博士(教育学) 博士(心理学) 博士(学術)	—	平12	平成28年度より 学生募集停止
	教育人間科学専攻 (博士課程)	後期3	—	—	—	博士(教育学) 博士(心理学)	—	平12	平成28年度より 学生募集停止
	教職開発専攻 (専門職学位課程)	2	20	—	40	教職修士(専門職)	0.97	平28	
	学習開発学専攻 (博士課程)	前期2	20	—	40	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	1.47	平28	
	教科教育学専攻 (博士課程)	前期2	80	—	160	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	1.17	平28	
	日本語教育学専攻 (博士課程)	前期2	14	—	28	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	1.28	平28	
	教育学専攻 (博士課程)	前期2	14	—	28	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	1.10	平12	平成28年度入学 定員減(△1人)
	心理学専攻 (博士課程)	前期2	19	—	38	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	1.12	平12	
	高等教育学専攻 (博士課程)	前期2	5	—	10	修士(教育学) 修士(心理学) 修士(学術)	0.90	平28	
	教育学習科学専攻 (博士課程)	後期3	49	—	147	博士(教育学) 博士(心理学) 博士(学術)	1.32	平28	
	社会科学部								
	法政システム専攻 (博士課程)	前期2	24	—	48	修士(法学) 修士(学術)	1.24	平16	広島県東広島市鏡山一丁目2番1号
		後期3	5	—	15	博士(法学) 博士(学術)	0.53	平16	
	社会経済システム専攻 (博士課程)	前期2	28	—	56	修士(経済学) 修士(学術)	1.05	平16	広島県東広島市鏡山一丁目2番1号
		後期3	8	—	24	博士(経済学) 博士(学術)	0.37	平16	
	マネジメント専攻 (博士課程)	前期2	28	—	56	修士(マネジメント)	0.49	平12	広島県広島市中区東千田町一丁目1番8号
		後期3	14	—	42	博士(マネジメント)	0.52	平12	
	理学部								
数学専攻 (博士課程)	前期2	22	—	44	修士(理学)	0.74	昭28	広島県東広島市鏡山一丁目3番1号	
	後期3	11	—	33	博士(理学)	0.48	昭28		
物理科学専攻 (博士課程)	前期2	30	—	60	修士(理学)	1.13	昭28		
	後期3	13	—	39	博士(理学)	0.66	昭28		
化学専攻 (博士課程)	前期2	23	—	46	修士(理学)	1.76	昭28		
	後期3	11	—	33	博士(理学)	0.57	昭28		
生物科学専攻 (博士課程)	前期2	24	—	48	修士(理学)	0.82	昭28		
	後期3	12	—	36	博士(理学)	0.19	昭28		
地球惑星システム学専攻 (博士課程)	前期2	10	—	20	修士(理学)	1.25	昭28		
	後期3	5	—	15	博士(理学)	0.40	昭28		
数理分子生命理学専攻 (博士課程)	前期2	23	—	46	修士(理学)	1.13	平11		
	後期3	11	—	33	博士(理学)	0.45	平11		
先端物質科学研究科									
量子物質科学専攻 (博士課程)	前期2	25	—	50	修士(理学) 修士(工学) 修士(学術)	1.20	平10		広島県東広島市鏡山一丁目3番1号

分子生命機能科学専攻 (博士課程)	後期3	12	—	36	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	0.24	平10		
	前期2	24	—	48	修士(理学) 修士(工学) 修士(学術)	1.54	平10		
	後期3	11	—	33	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	0.36	平10		
	前期2	15	—	30	修士(理学) 修士(工学) 修士(学術)	1.06	平16		
半導体集積科学専攻 (博士課程)	後期3	7	—	21	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	0.23	平16		
	前期2	15	—	30	修士(理学) 修士(工学) 修士(学術)	1.06	平16		
医歯薬保健学研究科								広島県広島市南区霞一丁目2番3号	
医歯薬学専攻 (博士課程)	4	97	—	388	博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学) 博士(学術)	1.12	平24	平成24年度より 学生募集停止	
口腔健康科学専攻 (博士課程)	前期2	12	—	24	修士(口腔健康科学)	1.08	平24		
	後期3	4	—	12	博士(口腔健康科学)	0.50	平24		
薬科学専攻 (博士課程)	前期2	18	—	36	修士(薬科学)	0.91	平24		
	後期3	3	—	9	博士(薬科学)	1.77	平24		
保健学専攻 (博士課程)	前期2	34	—	68	修士(看護学) 修士(保健学)	1.10	平24		
	後期3	15	—	45	博士(看護学) 博士(保健学)	1.55	平24		
医歯科学専攻 (修士課程)	2	12	—	24	修士(医科学) 修士(歯科学) 修士(学術)	0.78	平24		
保健学研究科								広島県広島市南区霞一丁目2番3号	
保健学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(看護学) 修士(保健学)	—	平14	平成24年度より 学生募集停止	
	後期3	—	—	—	博士(看護学) 博士(保健学)	—	平14		
工学研究科								広島県東広島市鏡山一丁目4番1号	
機械システム工学専攻 (博士課程)	前期2	28	—	56	修士(工学)	1.26	平22	平成24年度より 学生募集停止	
	後期3	9	—	27	博士(工学)	0.47	平22		
機械物理工学専攻 (博士課程)	前期2	30	—	60	修士(工学)	1.88	平22		
	後期3	10	—	30	博士(工学)	0.76	平22		
システムサイバネティクス専攻 (博士課程)	前期2	34	—	68	修士(工学) 修士(学術)	1.54	平22		
	後期3	11	—	33	博士(工学) 博士(学術)	1.05	平22		
情報工学専攻 (博士課程)	前期2	37	—	74	修士(工学) 修士(学術)	1.34	平22		
	後期3	13	—	39	博士(工学) 博士(学術)	0.45	平22		
化学工学専攻 (博士課程)	前期2	24	—	48	修士(工学)	1.33	平22		
	後期3	8	—	24	博士(工学)	0.79	平22		
応用化学専攻 (博士課程)	前期2	26	—	52	修士(工学)	1.45	平22		
	後期3	9	—	27	博士(工学)	0.40	平22		
社会基盤環境工学専攻 (博士課程)	前期2	20	—	40	修士(工学)	1.62	平22		
	後期3	7	—	21	博士(工学)	0.75	平22		
輸送・環境システム専攻 (博士課程)	前期2	20	—	40	修士(工学)	1.35	平22		
	後期3	7	—	21	博士(工学)	0.51	平22		
建築学専攻 (博士課程)	前期2	21	—	42	修士(工学)	1.35	平22		
	後期3	7	—	21	博士(工学)	0.80	平22		
生物圏科学研究科									広島県東広島市鏡山一丁目4番4号
生物資源科学専攻	前期2	30	—	60	修士(農学)	0.93	平18		

(博士課程)	後期3	12	—	36	修士(学術) 博士(農学)	0.74	平18	
生物機能開発学専攻 (博士課程)	前期2	24	—	48	修士(農学) 修士(学術)	1.74	平18	
	後期3	12	—	36	博士(農学) 博士(学術)	0.57	平18	
環境循環系制御学専攻 (博士課程)	前期2	19	—	38	修士(農学) 修士(学術)	0.68	平11	
	後期3	9	—	27	博士(農学) 博士(学術)	0.44	平11	
医歯薬学総合研究科 創生医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学) 博士(歯学) 博士(医薬学)	—	平14	平成24年度より 学生募集停止
展開医科学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学) 博士(歯学) 博士(医薬学)	—	平14	
口腔健康科学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(口腔健康科学)	—	平21	
	後期3	—	—	—	博士(口腔健康科学)	—	平23	
国際協力研究科 開発科学専攻 (博士課程)	前期2	43	—	86	修士(学術) 修士(工学) 修士(農学)	1.05	平6	広島県東広島市鏡山一丁目5番1号
	後期3	22	—	66	博士(学術) 博士(工学) 博士(農学)	0.71	平6	
教育文化専攻 (博士課程)	前期2	28	—	56	修士(学術) 修士(教育学)	1.37	平7	
	後期3	14	—	42	博士(学術) 博士(教育学)	0.87	平7	
法務研究科 法務専攻 (専門職学位課程)	3	20	—	60	法務博士(専門職)	0.58	平16	広島県広島市中区東千田町一丁目1番8号
<p>原爆放射線医科学研究所</p> <p>目的：原子爆弾その他の放射線による障害の治療及び予防に関する学理並びにその応用の研究</p> <p>所在地：広島市南区霞1丁目2番3号</p> <p>設置年月：昭和36年4月</p> <p>規模等：土地(霞地区144,700㎡)，建物7,971㎡</p> <p>病院</p> <p>目的：医学及び歯学に係る診療の場として機能するとともに、診療を通じて地域医療の向上に寄与すること</p> <p>所在地：広島市南区霞1丁目2番3号</p> <p>設置年月：昭和31年4月</p> <p>規模等：土地(霞地区144,700㎡)，建物122,552㎡</p> <p>図書館</p> <p>目的：図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を備え、これらの収集、整理及び提供を行うとともに、学術情報を提供すること</p> <p>所在地：東広島市鏡山1丁目2番2号ほか</p> <p>設置年月：昭和24年5月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡ほか)，建物29,584㎡</p> <p>薬学部附属薬用植物園</p> <p>目的：薬用植物に関する研究</p> <p>所在地：広島市南区霞1丁目2番3号</p> <p>設置年月：昭和55年4月</p> <p>規模等：土地(霞地区144,700㎡)，建物298㎡</p> <p>生物生産学部附属練習船豊潮丸</p>								

<p>目的：乗船実習，海洋調査等 所在地：広島県呉市宝町7番4号 設置年月：昭和53年10月 規模等（基地）：土地2,675㎡，建物840㎡</p>
<p>教育学研究科附属幼年教育研究施設 目的：学際的・臨床的な観点からの幼年教育に関する理論的並びに実証的研究 所在地：東広島市鏡山1丁目1番1号 設置年月：平成41年4月 規模等：土地（東広島地区2,492,191㎡），建物44,097㎡</p>
<p>教育学研究科附属教育実践総合センター 目的：学校教育の内容・方法に関する基礎的・理論的研究及び実践的研究の推進 所在地：東広島市鏡山1丁目1番1号 設置年月：昭和63年4月 規模等：土地（東広島地区2,492,191㎡），建物44,097㎡</p>
<p>教育学研究科附属特別支援教育実践センター 目的：特別支援教育についての基礎的・実践的な研究や教材開発等 所在地：東広島市鏡山1丁目1番1号 設置年月：平成7年4月 規模等：土地（東広島地区2,492,191㎡），建物44,097㎡</p>
<p>教育学研究科附属心理臨床教育研究センター 目的：心理臨床に関わる教育研究 所在地：東広島市鏡山1丁目1番1号 設置年月：平成14年4月 規模等：土地（東広島地区2,492,191㎡），建物44,097㎡</p>
<p>社会科学研究科附属地域経済システム研究センター 目的：中国・四国地方を中心とした地域の産業経済、企業経営、行財政システム等に関する理論的・実証的な調査・研究 所在地：広島市中区東千田町1丁目1番89号 設置年月：平成元年5月 規模等：土地（東千田地区18,470㎡），建物3,163㎡</p>
<p>理学研究科附属臨海実験所 目的：広い視野に立った海洋生物学の研究者の育成のための大学院教育等 所在地：広島県尾道市向島町2445番地 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地21,197㎡，建物1,590㎡</p>
<p>理学研究科附属宮島自然植物実験所 目的：国立公園宮島のすぐれた自然を利用した植物学の教育・研究 所在地：廿日市市宮島町三ツ丸子山1156-2外 設置年月：昭和49年4月 規模等：土地102,076㎡，建物578㎡</p>
<p>理学研究科附属植物遺伝子保管実験施設 目的：生物科学研究材料の系統保存等 所在地：東広島市鏡山1丁目4番3号 設置年月：昭和52年4月 規模等：土地（東広島地区2,492,191㎡），建物794㎡</p>
<p>理学研究科附属理学融合教育研究センター 目的：理学研究科における専攻の枠を越えた融合領域の研究と教育の推進 所在地：東広島市鏡山1丁目3番1号 設置年月：平成19年4月 規模等：土地（東広島地区2,492,191㎡），建物34,461㎡</p>
<p>医歯薬保健学研究科附属先駆的看護実践支援センター 目的：看護環境の向上および地域の人々への良質の看護の提供への貢献 所在地：広島市南区霞1丁目2番3号 設置年月：平成18年6月 規模等：土地（霞地区144,700㎡），建物84,633㎡</p>
<p>医歯薬保健学研究科附属先駆的リハビリテーション実践支援センター 目的：リハビリテーション環境の向上及び良質なリハビリテーションを地域に提供するための先駆的リハビリテーション実践能力を有するリハビリテーション従事者の養成並びに先駆的リハビリテーション実践を行うためのプロジェクト研究 所在地：広島市南区霞1丁目2番3号</p>

<p>設置年月：平成21年4月 規模等：土地(霞地区144,700㎡)，建物120㎡</p> <p>生物圏科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター</p> <p>目的：中国山地から瀬戸内海までのフィールドを一体化した対象として、環境と調和した持続的生物生産に関する研究等</p> <p>所在地：東広島市鏡山二丁目2965番地，広島県竹原市港町5丁目8番1号</p> <p>設置年月：平成15年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡，竹原地区4,268㎡)，建物1,353㎡</p>
<p>法務研究科附属リーガル・サービス・センター</p> <p>目的：無料法律相談の実施等</p> <p>所在地：広島市中区東千田町1丁目1番89号</p> <p>設置年月：平成17年4月 規模等：土地(東千田地区18,470㎡)，建物53㎡</p>
<p>原爆放射線医科学研究所附属被ばく資料調査解析部</p> <p>目的：原子爆弾及び放射線による被災に関する情報の調査並びにそれらの資料の収集、整理、保存及び解析</p> <p>所在地：広島市南区霞1丁目2番3号</p> <p>設置年月：昭和42年6月 規模等：土地(霞地区144,700㎡)，建物7,971㎡</p>
<p>放射光科学研究センター</p> <p>目的：全国共同利用施設として，放射光科学に関する学術研究を行い，かつ，大学の教員その他の者でこの分野の研究に従事するものの利用に供すること及び共同利用・共同研究を活かした人材育成を行うこと</p> <p>所在地：東広島市鏡山2丁目313番地</p> <p>設置年月：平成8年5月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)，建物3,881㎡</p>
<p>西条共同研修センター</p> <p>目的：中国・四国地区国立大学法人の学生及び職員の合宿研修のための共同利用施設として，共同生活を通じて学生相互又は学生，職員間の人間関係を緊密にし，かつ，学生の課外活動を振興し，教養を高め，社会性を助長するとともに，地域社会における学術文化の発達に寄与すること</p> <p>所在地：東広島市西条町御菌宇570</p> <p>設置年月：昭和47年4月 規模等：土地111,469㎡，建物1,022㎡</p>
<p>ナノデバイス・バイオ融合科学研究所</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として，ナノデバイス・集積回路技術とバイオ技術を発展・融合し，シリコンナノデバイス上で微小生命体やバイオ分子の多検体高速診断システムを開発するとともに，情報化社会の先にある高度医療保障社会に向けて，予防医学，病気早期診断及びユビキタス診断を実現するナノバイオ・医療工学の基盤研究を展開する拠点を構築し，これらに関係する教育を行うこと</p> <p>所在地：東広島市鏡山1丁目4番2号</p> <p>設置年月：平成8年5月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)，建物4,153㎡</p>
<p>高等教育研究開発センター</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として，国内外の大学・高等教育に関する基礎的・開発的研究の一体的推進を図るとともに，これらに関係する業務を行うこと</p> <p>所在地：東広島市鏡山1丁目2番2号</p> <p>設置年月：平成12年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)，建物1,207㎡</p>
<p>情報メディア教育研究センター</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として，本学の情報通信基盤を支え，情報メディアを活用した教育の企画・立案・実施の支援及び業務への支援を行い，情報メディア活用のための研究開発の推進を図ること</p> <p>所在地：東広島市鏡山1丁目4番2号</p> <p>設置年月：平成13年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)，建物2,507㎡</p>
<p>自然科学研究支援開発センター</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として，本学の生命科学，健康科学，物質科学，環境科学など自然科学全般の学際的な教育研究の支援体制を充実させる</p>

附属施設の概要

	<p>とともに、生命科学及び物質科学関連のプロジェクト研究を推進し、幅広い基礎研究基盤の充実及び先端的な応用研究への進展に資すること</p> <p>所在地：東広島市鏡山1丁目4番2号ほか</p> <p>設置年月：平成15年4月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡ほか)、建物13,074㎡</p>
	<p>国際センター</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として、本学の国際化推進機構の中核組織を担い、国際化の推進・実施を支援し、国際交流活動の推進を図ること</p> <p>所在地：東広島市鏡山1丁目1番1号ほか</p> <p>設置年月：平成22年4月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物1,001㎡</p>
	<p>産学・地域連携センター</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として、次に掲げる事項を行うこと</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 本学と国内外の民間等外部の機関との共同研究、受託研究及び交流を通じて、本学の教育研究の発展に寄与するとともに、地域社会及び国際社会における産業技術の振興及び発展に貢献すること(2) 本学において、ベンチャー・ビジネスの萌芽ともなるべき独創的な研究開発を推進し、その研究成果を活用するベンチャー・ビジネスの創出などを支援し、経済の活性化及び新産業の創出に貢献するとともに、高度の専門的職業能力を持つ創造的な人材を育成すること(3) 本学職員等の教育研究活動における知的財産の創出に関する支援を行うとともに、知的財産に関する教育研究を行って人材を育成し、知的財産の社会への還元と活用を通じて社会に貢献すること(4) 地域社会の抱える課題の解決や夢の実現に向けて、本学の知的資源を活用した研究・地域連携活動を促進するとともに、地域社会との協働による地域連携事業を開発・促進すること <p>所在地：東広島市鏡山1丁目3番2号ほか</p> <p>設置年月：平成22年4月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物1,509㎡</p>
	<p>教育開発国際協力研究センター</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として学内外の研究者と協力して、国際教育協力を効果的・効率的に実践するための研究開発を行うこと</p> <p>所在地：東広島市鏡山1丁目5番1号</p> <p>設置年月：平成9年4月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物306㎡</p>
	<p>保健管理センター</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として、学生及び職員の身体的・精神的健康の管理を行うこと</p> <p>所在地：東広島市鏡山1丁目7番1号ほか</p> <p>設置年月：昭和44年4月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡ほか)、建物1,146㎡</p>
	<p>平和センター</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として、平和科学に関する研究・調査及び資料の収集を行うこと</p> <p>所在地：広島市中区東千田町1丁目1番89号</p> <p>設置年月：昭和50年7月</p> <p>規模等：土地(東千田地区18,470㎡)、建物386㎡</p>
	<p>環境安全センター</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として、実験廃液の処理を含めた環境管理並びに学生及び職員の安全管理に関する専門的業務を行うとともに、環境及び安全に関する教育研究を行うこと</p> <p>所在地：東広島市鏡山1丁目5番3号</p> <p>設置年月：平成17年3月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物2,374㎡</p>
	<p>総合博物館</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として、次に掲げる事項を行うことにより、研究、教育及び社会貢献の推進に資すること</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 本学に所蔵する学術標本資料の収集、調査、保存及び管理並びにその研究、展示及び情報発信に関すること(2) 学芸員等の人材育成に関すること(3) 本学構内の埋蔵文化財の発掘調査並びに調査資料の保存、管理及び

公開に関すること

所在地：東広島市鏡山1丁目1番1号
設置年月：平成18年4月
規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡), 建物443㎡

北京研究センター

目的：海外教育研究拠点として、本学と中華人民共和国(以下「中国」という。)の研究者による共同研究及び学術・教育交流の推進
所在地：中華人民共和国 北京市海淀区西三環北路83号
首都師範大学国際文化大厦南楼310室
設置年月：平成14年10月
規模等：建物(使用部屋面積243㎡)

宇宙科学センター

目的：宇宙・天文の研究・教育を推進するとともに、大学共同利用機関法人自然科学研究機構等と連携し、全国の大学等との共同研究及び共同利用に供し、もって我が国の宇宙・天文の研究・教育、次世代を担う児童・生徒の科学教育及び生涯学習の推進に寄与すること
所在地：東広島市鏡山1丁目3番1号ほか
設置年月：平成16年4月
規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡ほか), 建物478㎡

外国語教育研究センター

目的：学内共同教育研究施設として、外国語教育に責任を持ち、学生の実践的コミュニケーション能力や外国語運用能力などの実力向上を図るとともに、外国語教育方法の研究開発と豊かな外国語教育の開発実施を通して、本学の学生及び職員に質の高い外国語学習の機会を提供し、もって国際的に活躍できる人材を育成すること
所在地：東広島市鏡山1丁目7番1号
設置年月：平成16年4月
規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡), 建物1, 195㎡

文書館

目的：学内共同教育研究施設として、本学にとって重要な文書の整理・保存並びに大学の歴史に関する資料の収集・整理・保存及び公開を行うとともに、関連する分野の教育研究を行うこと
所在地：東広島市鏡山1丁目1番1号
設置年月：平成16年4月
規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡), 建物783㎡

スポーツ科学センター

目的：学内共同教育研究施設として、本学におけるスポーツに関する学士課程教育を企画立案・実施し、課外活動を支援するとともに、スポーツに関する研究及び地域社会との連携を推進すること
所在地：東広島市鏡山1丁目1番1号
設置年月：平成17年4月
規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡), 建物26㎡

HiSIM研究センター

目的：学内共同教育研究施設として、HiSIM(Hiroshima—university STARC IGFET Model)がCMC(Compact Modeling Council)により次世代世界標準トランジスタモデル(以下「標準化モデル」という。)に選定されるための標準化プロセス第3フェーズ対応業務を行うとともに、CMCによる標準化モデル選定後のセンター業務及び体制の立案を行うこと
所在地：東広島市鏡山1丁目3番1号
設置年月：平成17年7月
規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡), 建物87㎡

現代インド研究センター

目的：学内共同教育研究施設として、現代インド地域に関する研究・調査及び資料の収集を行い、現代インド地域研究の拠点形成を図ること
所在地：東広島市鏡山1丁目1番1号
設置年月：平成22年4月
規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡), 建物60㎡

ダイバーシティ研究センター

目的：学内共同教育研究施設として、ダイバーシティ・インクルージョン推進拠点として活動するとともに、組織及び構成員の多様化から生じる問題に対処し、その多様性を生産性や革新的成果に結び付けられるような制度や

	<p>風土を創出する知識とスキルを備えた人材を育成すること</p> <p>所在地：東広島市鏡山1丁目3番2号</p> <p>設置年月：平成28年4月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡)</p> <p>両生類研究センター</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として、先端的な両生類研究を行うとともに、国際的なバイオリソースセンターとして両生類バイオリソースを維持するための技術の蓄積・継承及び高品質の両生類バイオリソースの提供を行うことにより、両生類研究者の育成・輩出、国内外の研究者に対する研究支援、国内外の共同研究及び両生類バイオリソースに関する国際的なネットワークの構築を促進すること</p> <p>所在地：東広島市鏡山1丁目3番1号</p> <p>設置年月：平成28年10月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡)，建物3, 886㎡</p> <p>トランスレーショナルリサーチセンター</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として、本学におけるシーズの開発及び管理と一元的なパイプラインの確立により関連機関と連携して橋渡し研究を推進するとともに、次世代の橋渡し研究を担う人材を育成すること</p> <p>所在地：広島市南区霞1丁目2番3号</p> <p>設置年月：平成30年4月</p> <p>規模等：土地(霞地区144, 700㎡)</p> <p>ハラスメント相談室</p> <p>目的：学内共同利用施設として、職員、学生、生徒、児童及び園児が当事者となるハラスメントに関する相談を受け付け、及びハラスメントの防止を推進すること</p> <p>所在地：東広島市鏡山1丁目2番2号</p> <p>設置年月：平成16年9月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡)，建物136㎡</p> <p>附属学校(幼稚園2, 小学校3, 中学校4, 高等学校2)</p> <p>目的：生徒、児童及び園児(以下「生徒等」という。)の心身の発達に応じて、教育とそれに伴う研究を行うとともに、本学における生徒等の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習の実施に当たること</p> <p>所在地：広島市南区翠1丁目1番1号ほか</p> <p>設置年月：昭和26年4月ほか</p> <p>規模等：土地(210, 983㎡＋附属幼稚園分6, 919㎡)，建物54, 375㎡</p>	
--	---	--

(注)

- 1 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。
- 2 「施設・設備の状況」の記載方法は「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(平成30年度改訂版)」P38～を参考にすること。
- 3 「既設学部等の状況」の記載方法は「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(平成30年度改訂版)」P41～を参考にすること。

	リハビリテーション学特別研究	1～3	12	○	1								
	腎臓内科学特別研究	1～3	12	○	1								
	形成外科学特別研究	1～3	12	○	1								
	総合診療医学特別研究	1～3	12	○		1	1						
	がん化学療法科学特別研究	1～3	12	○	1								
	生命科学特別研究	1～3	12	○	1								
	精神病態制御学特別研究	1～3	12	○								兼1	
	がん臨床制御学特別研究	1～3	12	○								兼4	
	死因究明特別研究	1～3	12	○		3						兼2	
	生体材料学特別演習	1通	4	○	1				1			共同	
	口腔生化学特別演習	1通	4	○								兼1	
	口腔細胞生物学特別演習	1通	4	○	1								
	細菌学特別演習	1通	4	○								兼2	共同
	口腔生理学特別演習	1通	4	○	1				1			共同	
	細胞分子薬理学特別演習	1通	4	○	1								
	口腔顎顔面病理病態学特別演習	1通	4	○			1		1			兼1	共同
	歯周病態学特別演習	1通	4	○			1						
	分子口腔医学・顎顔面外科学特別演習	1通	4	○					1				
	粘膜免疫学特別演習	1通	4	○	1	1						共同	
	歯科放射線学特別演習	1通	4	○	1								
	硬組織代謝生物学特別演習	1通	4	○								兼1	
	歯科麻酔学特別演習	1通	4	○	1								
	歯髄生物学特別演習	1通	4	○	1								
	口腔外科学特別演習	1通	4	○			1						
	先端歯科補綴学特別演習	1通	4	○	1	3	2	7					
	歯科矯正学特別演習	1通	4	○	1	1						共同	
	小児歯科学特別演習	1通	4	○		1							
	国際歯科医学・分子腫瘍学特別演習	1通	4	○	1								
	歯科医学教育学特別演習	1通	4	○	1								
	障害者歯科学特別演習	1通	4	○	1								
	法歯学特別演習	1通	4	○	1							兼1	共同
	矯正歯科専門医取得支援コース	1通	4	○	1	1						共同	
	小児歯科専門医取得支援コース	1通	4	○		1							
	生体材料学特別研究	1～3	12	○	1				1				
	口腔生化学特別研究	1～3	12	○								兼1	
	口腔細胞生物学特別研究	1～3	12	○	1								
	細菌学特別研究	1～3	12	○								兼2	
	口腔生理学特別研究	1～3	12	○	1				1				
	細胞分子薬理学特別研究	1～3	12	○	1								
	口腔顎顔面病理病態学特別研究	1～3	12	○			1		1				
	歯周病態学特別研究	1～3	12	○			1						
	分子口腔医学・顎顔面外科学特別研究	1～3	12	○					1				
	粘膜免疫学特別研究	1～3	12	○	1	1							
	歯科放射線学特別研究	1～3	12	○	1								
	硬組織代謝生物学特別研究	1～3	12	○								兼1	
	歯科麻酔学特別研究	1～3	12	○	1								
	歯髄生物学特別研究	1～3	12	○	1								
	口腔外科学特別研究	1～3	12	○			1						
	先端歯科補綴学特別研究	1～3	12	○	1	3	2	7					
	歯科矯正学特別研究	1～3	12	○	1	1	2	4					
	小児歯科学特別研究	1～3	12	○		1							
	国際歯科医学・分子腫瘍学特別研究	1～3	12	○	1								
	歯科医学教育学特別研究	1～3	12	○	1								
	障害者歯科学特別研究	1～3	12	○	1								
	法歯学特別研究	1～3	12	○	1							兼1	
	生理化学特別演習	1通	4	○	1								
	生体機能分子動態学特別演習	1通	4	○	1				1			共同	
	細胞分子生物学特別演習	1通	4	○	1								
	臨床薬物治療学特別演習	1通	4	○	1	1						共同	
	治療薬効学特別演習	1通	4	○	1	1						共同	
	病院薬剤学特別演習	1通	4	○	1	1			1			共同	
	核酸分析化学特別演習	1通	4	○	1								
	漢方診療学特別演習	1通	4	○	1								
	生理化学特別研究	1～3	12	○	1								
	生体機能分子動態学特別研究	1～3	12	○	1				1				
	細胞分子生物学特別研究	1～3	12	○	1								
	臨床薬物治療学特別研究	1～3	12	○	1	1							

プログラム専門科目

教育課程等の概要(事前伺い)

(医歯薬学専攻 博士課程 医学専門プログラム)

科目区分	授業科目	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院共通科目	持続可能な発展科目	スペシャリスト型SDGsアイデアメイニング学生セミナー	1・2・3①	1				○							兼1	集中
		SDGsの観点から見た地域開発セミナー	1・2・3	1				○							兼1	集中
		普遍的平和を目指して	1・2・3④	1				○							兼4	オムニバス
	キャリア開発・データリテラシー科目	データサイエンス	1・2・3④		2			○							兼1	オムニバス・共同(一部)
		パターン認識と機械学習	1・2・3②		2			○							兼1	
		データサイエンティスト養成	1・2・3		1			○							兼1	
		医療情報リテラシー活用	1・2・3③		1			○		5	2				兼2	
		リーダーシップ手法	1・2・3①		1			○							兼1	
		高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	1・2・3②④		1			○							兼1	
		イノベーション演習	1・2・3③		2				○						兼1	
	長期インターンシップ	1・2・3		2				○						兼1		
小計(11科目)	-	-	0	15	0		-		5	2	0	0	0	兼11	-	
研究科共通科目	生命・医療倫理学B	1①	1				○		4	1	1			兼2	オムニバス	
	研究方法論B	1①		1			○		2	3				兼2	オムニバス	
	アドバンスド生命科学コースワーク	1③		1				○		1						
	バイオメディカルサイエンスの創生展開	1③		1			○		5		1			兼3	オムニバス・共同(一部)	
	生体医工学イノベーションB	1①		1			○		1					兼6	オムニバス	
	多職種連携B	1①	1				○		4					兼4	オムニバス	
小計(6科目)	-	2	4	0		-		14	5	2	0	0	兼16	-		
専攻共通科目	臨床腫瘍学	1①		1			○		7			2				
	放射線統合医科学	1①		1			○		4	1	1			兼2	オムニバス	
	薬物治療学	1③		1			○		1	1		2			オムニバス	
	がん診療各論	1①		1			○		2	2	3	1			オムニバス	
	死因究明学	1①		1			○		2	1					オムニバス	
小計(5科目)	-	0	5	0		-		14	5	4	5	0	兼2	-		
プログラム専門科目	解剖学及び発生生物学特別演習	1通		4				○	1							
	神経生物学特別演習	1通		4				○						兼1		
	統合バイオ特別演習	1通		4				○						兼1		
	心臓血管生理医学特別演習	1通		4				○		1	1				共同	
	神経生理学特別演習	1通		4				○	1							
	分子細胞情報学特別演習	1通		4				○						兼1		
	医化学特別演習	1通		4				○	1		1				共同	
	神経薬理学特別演習	1通		4				○						兼1		
	分子病理学特別演習	1通		4				○		1				兼1	共同	
	病理学特別演習	1通		4				○						兼1		
	ウイルス学特別演習	1通		4				○		1				兼1	共同	
	疫学・疾病制御学特別演習	1通		4				○	1			1			共同	
	公衆衛生学特別演習	1通		4				○	1							
	法医学特別演習	1通		4				○	1							
	分子中毒学特別演習	1通		4				○			1					
	免疫学特別演習	1通		4				○						兼1		
	消化器・代謝内科学特別演習	1通		4				○		1						
	分子内科学特別演習	1通		4				○	1		1				共同	
	脳神経内科学特別演習	1通		4				○	1	1					共同	
	精神神経医学特別演習	1通		4				○	1					兼5	共同	
	小児科学特別演習	1通		4				○				1				
	外科学特別演習	1通		4				○		1	1				共同	
	消化器・移植外科学特別演習	1通		4				○	1	2		5			兼1	共同
	脳神経外科学特別演習	1通		4				○		1						
	整形外科特別演習	1通		4				○	1							
	皮膚科学特別演習	1通		4				○	1							
	腎泌尿器科学特別演習	1通		4				○	1	1					共同	
視覚病態学特別演習	1通		4				○	1	1					共同		
耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学特別演習	1通		4				○	1	1	1	1			共同		
放射線診断学特別演習	1通		4				○	1						兼1	共同	
放射線腫瘍学特別演習	1通		4				○	1								
産科婦人科学特別演習	1通		4				○	1								

プログラム専門科目	リハビリテーション学特別研究	1～3	12			○	1								
	腎臓内科学特別研究	1～3	12			○	1								
	形成外科学特別研究	1～3	12			○	1								
	総合診療医学特別研究	1～3	12			○		1	1						
	がん化学療法科学特別研究	1～3	12			○	1								
	生命科学特別研究	1～3	12			○	1								
	精神病態制御学特別研究	1～3	12			○								兼1	
	がん臨床制御学特別研究	1～3	12			○								兼4	
	死因究明特別研究	1～3	12			○	3							兼2	
	English Presentation	2前		2		○			1						
	英語論文修辞学	2後		2		○									兼1
小計(110科目)	-	0	824	4	-	28	20	11	12	0	兼27	-			
合計(132科目)			2	848	4	-	38	28	16	16	0	兼50	-		
学位又は称号	博士(医学), 博士(学術)			学位又は学科の分野		医学関係									

I 設置の趣旨・必要性

1. 背景等

平成28年1月に、国連開発計画（UNDP）は持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）として17のグローバル目標を設定し、その中で、あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進することを目標3として挙げている。

我が国では、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針として「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21（第2次））」を平成25年度から適応した。この中で、国民の健康の増進の推進に関する基本的な方向として、①健康寿命の延伸と健康格差の縮小、②生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、③社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上、④健康を支え、守るための社会環境の整備、⑤栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善を挙げている。これらの基本的な方向を実現するため、栄養・食生活など各分野に関する生活習慣の改善が重要であり、ライフステージや性差、社会経済的状况等の違いに着目し、生活習慣病を発症する危険度の高い集団などへの働きかけを重点的に行うとともに、地域や職場等を通じた国民への働きかけを進めるとしている。

また、未来投資戦略 2017—Society 5.0の実現に向けた改革の中で、我が国の政策資源を集中投入し、未来投資を促進すべき5つの分野として「健康寿命の延伸」を挙げ、我が国は、グローバルにも突出して高齢化社会をいち早く迎えることとなる一方で、国民皆保険制度や介護保険制度の下でデータが豊富にあることから、健康管理と病気・介護予防、自立支援に軸足を置いた、「新しい健康・医療・介護システム」を構築することにより、健康寿命を更に延伸し、世界に先駆けて生涯現役社会を実現させるとしている。

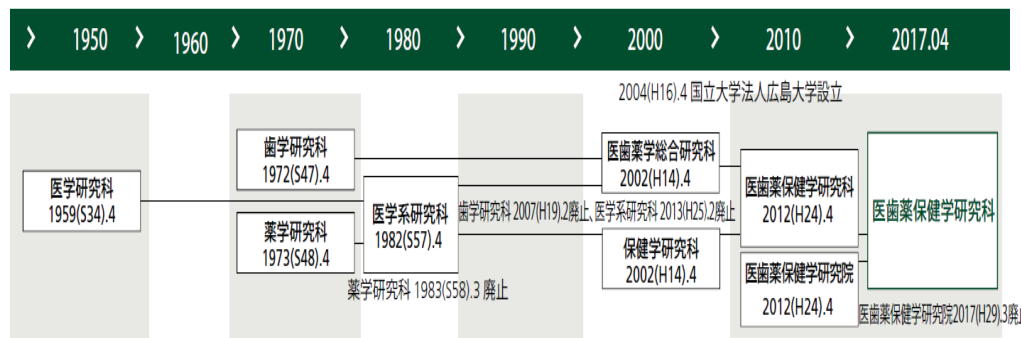
2. 広島大学の現状

平成14年4月から医歯薬学総合研究科と保健学研究科の2研究科で、大学院教育を行ってきたが、医歯薬学総合研究科と保健学研究科の共通目的は「新規医療の開発と高度実践医療の提供」に資する新時代の医学・医療開発研究の展開とそれを担う専門的人材の養成にある。そこで、平成24年4月に、共通の目的を有する2つの研究科を融合した医歯薬保健学研究科を設置した。

医歯薬保健学研究科では、旧来の学問分野の枠組みを超えた新しい領域や複合領域で活躍できる人材養成、学術の高度化・複合化に対応できる研究活動の活性化、新しい知の創造を目指した大規模プロジェクト研究を推進できる組織作りなど、それまでの2研究科では不可能であったより柔軟な教育、研究を展開し、「超高齢社会」に対応する医療、QOL（生活の質）に重点を置いたカスタムメイド医療、患者中心のチーム医療、広島で推進すべき放射線障害に対する医療などの社会的要請に対応してきた。また、医学物理学における幅広い知識を身につけ、医学物理学の基礎的・臨床的研究に取り組むとともに、医学物理士を目指す人材を養成するために、平成24年4月に、歯科学専攻（修士課程）に医学物理士コースを設置した。

平成27年4月には、科学的根拠に基づく医療を実施できる能力を有する医療従事者や公衆衛生行政の担当者及び研究方法や評価において専門的な知識・技能を修得し、臨床、保健、医療行政の課題解決に取り組む人材の養成を目的として、歯科学専攻（修士課程）に公衆衛生学（MPH）コースを設置した。

このような体制のもとで、特徴ある様々な未来型医療の創生研究やこれを担う高度専門人材の教育・養成に加え、極めて細分化かつ高度化する新時代の医学・医療に対応するための緊密な学際的教育・研究を展開している。



3. 機能強化と課題

平成14年4月に、生命医科学に関する新たな知の創造を目指す研究とその応用による先進的な医療開発、さらに新たな分野を切り開く高度専門医療人の養成を目指して医歯薬学総合研究科を、「健康管理」、「疾病予防」及び「リハビリテーション」等々人のQOL（生活の質）向上に資することを中心的課題として高度専門医療人の養成を目指して保健学研究科を設置した。

さらに平成24年4月には、超高齢化社会において患者と病気が共存する状態が増加しており、医師・歯科医師による処置や服薬だけでなく、生活指導や運動療法などが一層重要になっている。他方、医療の急速な進歩と医療制度の変化は、看護やリハビリテーションにも大きな影響を及ぼしている。このような社会状況に対応するために、医歯薬学総合研究科と保健学研究科を一つに統合し、医歯薬保健学研究科を設置した。

これらの改編により、医学・歯学・薬学・保健学分野の学生が同一研究科内で教育・研究を展開、発展させることで、より高度な医療人養成や研究の進歩に繋がってきた。

広島大学では、平成29年4月に新長期ビジョン「SPLENDOR (Sustainable Peace Leader Enhancement by Nurturing Development of Research) PLAN 2017」を策定・公表した。このビジョンにおいて、「これまで以上に、人間、社会、文化、食料、環境、自然の持続性に関連する全ての既存の学問領域を包含し、平和の構築に限りなくチャレンジし、働きかける新しい平和科学の理念『持続可能な発展を導く科学』の創生を目指した活動を展開し、100年後にも世界で光り輝く大学としての責務を果たす。」ことを宣言した。また、ビジョンの一つに「『持続可能な発展を導く科学』の骨格を創る基礎分野と、本学の強みである教育学、物性物理、宇宙科学、材料科学、半導体・ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、食料科学などの分野を融合し、より高度な世界的研究へと発展させることを掲げている。また、原爆の惨禍からの復興を支えてきた大学として、放射線障害に係る医療に関する研究拠点を発展させるとともに、再生医療、肝疾患や脳科学の分野を世界的な研究として発展させる。」ことを挙げた。

このように、未来社会の方向性の中で、医学医療や保健学の役割はさらに重要であるが、医系科学はその中核をなす医学・歯学・薬学・保健学といった専門領域のみならず、その基礎となる生命・生物系科学や人文社会科学との連携において、持続可能な発展を導く科学の一分野として役割を果たす必要がある。

そこで、大学院教育においても、医学・歯学・薬学・保健学のさらなる深化とともに、急速な進歩を続ける生命・生物系領域や健康を取り巻く社会経済的な背景となる人文社会科学系領域を理解することによって、全てのライフステージに対応し、健康寿命を延伸させる新しい健康・医療・介護システムを構築するための人材が求められており、既存の研究科における教育のさらなる融合や他の研究科との分野横断的なプログラムの提供が必要となっている。

また、看護学・保健学・口腔健康科学など医療のみならず健康科学に係る人材育成は、上記のように人々のQOL向上や健康寿命の延伸に極めて重要で、未来社会の創造に向かってさらに重要性が増してきた。医療を支えるコメディカル教育は教育内容に共通する部分が多いことに加え、今後、社会で求められる新たな医療提供体制（多職種連携、地域包括ケアなど）にとって、それら三つの分野がさらに垣根を越えて協働することが重要である。

これらの社会からの要請に応えるべき機能強化の必要性や課題をうけて、医学・歯学・薬学・保健学分野における基盤的研究の深化とこれら分野間の連携・融合のさらなる強化を図り、医学・歯学・薬学・保健学分野の枠組みを超えて展開するために「医系科学研究科」を組織する。

「医系科学研究科」には、研究能力に裏打ちされ、かつ医療系の幅広い知識と学識を有した高度専門医療人としての指導的臨床能力を優した医師、歯科医師、薬剤師又はこれらの枠を超えた先端的的生命科学研究に精通した人材を養成することを目的とする「医歯薬学専攻（博士課程）」とQOL向上や健康寿命の延伸に貢献し、多職種連携、地域包括ケアなど新たな医療提供体制において重要な役割を担う健康科学に係る人材を養成することを目的とする「総合健康科学専攻（博士課程前期及び博士課程後期）」の2専攻を置く。

「医系科学研究科」では、上記の課題や社会的要請に応えるために、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を養成するとともに、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材を養成する。そのため、大学院共通科目や研究科共通科目、専攻共通科目を履修させる。

新設する「総合生命科学研究科」との分野横断型のプログラムである「生命医療科学プログラム」を創設し、医系領域のみならず複合領域や新しい領域で活躍できる人材を養成する。

また、専攻の整理の中で、従来の保健学専攻と口腔健康科学専攻については、教育内容に共通性があることや、今後の医療提供体制においてそれら2つの分野が垣根を越えて協働することが重要であることから、保健科学プログラムとしてまとめる。

4. 広島大学大学院の3つのポリシー（博士課程）

(1) ディプロマ・ポリシー

広島大学大学院では、新しい平和科学、すなわち「持続可能な発展を導く科学」の創生と、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献する人材の育成を教育目標とし、次の方針に従って当該学位を授与する。

以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、博士の学位を授与する。

- ① 専門分野における卓越した専門知識と研究力を有している。
- ② 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない学際的かつ国際的な視野を有している。
- ③ 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と柔軟な複眼的思考力に裏打ちされた卓越した課題発見能力を有している。
- ④ 多分野の専門家で構成されるチームのリーダーとして社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- ⑤ 博士学位取得者としての使命を自覚し、極めて高い倫理観を有している。

(2) カリキュラム・ポリシー

広島大学大学院では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

学生が自分の専門以外の分野に触れる機会を増やし、広い範囲から研究テーマを見つけ、また研究テーマの変更や進路の選択が柔軟に行えるような環境、さらに、学生が社会とのつながりを意識し、開かれた問題意識を持ち、新たな発想ができるような環境を提供するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ① それぞれの専門分野で必要な卓越した専門的知識と研究能力の獲得を促すため、専攻分野に関連する専門科目を体系的に提供する。
- ② 研究科や専門領域を超えた学際的かつ国際的な視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるための科目やキャリアパスを拡げるための科目を大学院共通科目として開設する。
- ③ 人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学のそれぞれの分野において共通基盤となる能力を涵養するため、研究科共通科目を開設する。
- ④ 主として専攻する領域以外の授業科目の履修を必修とする。また、専門領域の異なるゼミの履修や研究指導を受けることにより修得した単位を修了要件とすることができる。
- ⑤ 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。
- ⑥ 異なる分野の専門家がチームとして取り組む研究プロジェクトへ参加することにより、修了要件とすることができる単位を修得できる。

(3) アドミッション・ポリシー

広島大学大学院では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を期待する。

- ① 広島大学の理念に共感し、現在の人類社会が抱える課題又は今後抱えるかもしれない課題に、自らの教養、知識、能力及び行動力によりチャレンジすることにより、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人
- ② 幅広い教養と共に、人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学のそれぞれの分野における高度な知識と研究能力を身に付け、多角的視点から「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人、又は学問での研鑽の成果を還元することにより社会に貢献したいという志を持つ人
- ③ 世界中から好奇心にあふれる若者や学び直しの社会人が集う、世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスで、多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付け、持続可能な共生社会を実現しようとする意欲を持つ人

5. 医系科学研究科の3つのポリシー（博士課程）

医学・歯学・薬学・保健学の4分野における基盤的研究の深化と分野間の連携・融合を図り、生命医科学の急速な進歩と医療技術の高度化に迅速に対応する先端的な教育研究を推進することにより、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を育成する。また、旧来の学問分野の枠組みを超えて、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材の育成を目的とする。

(1) ディプロマ・ポリシー

医系科学研究科では、教育上の目的に沿った人材の育成を目標とし、次の方針に従って当該学位を授与する。

以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、研究テーマ及び専門領域に応じて「博士（医学）、博士（歯学）、博士（薬学）、博士（薬科学）、博士（看護学）、博士（保健学）、博士（口腔健康科学）、博士（医科学）、博士（歯科学）、博士（学術）」のいずれかの学位を授与する。

- ① 専門分野における卓越した専門知識と高度な研究力を有している。
- ② 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない学際的かつ国際的な視野を有している。
- ③ 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と柔軟な複眼的思考力に裏打ちされた卓越した課題発見能力を有している。
- ④ 学際的・国際的なコミュニケーション能力を有し、多分野の専門家で構成されるチームのリーダーとして社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- ⑤ 博士学位取得者としての使命を自覚し、極めて高い倫理観を有している。

(2) カリキュラム・ポリシー

医系科学研究科では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

学生が自分の専門以外の分野に触れる機会を増やし、広い範囲から研究テーマを見つけ、また研究テーマの変更や進路の選択が柔軟に行えるような環境、さらに、学生が社会とのつながりを意識し、開かれた問題意識を持ち、新たな発想ができるような環境を提供するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ① それぞれの専門分野に必要な卓越した専門的知識と高度な研究能力の獲得を促すため、専攻分野に関連する専門科目を体系的に提供する。
- ② 研究科や専門領域を超えた学際的かつ国際的な視野と社会への関心や問題意識を涵養し、「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるための科目やキャリアパスを拡げるための科目を大学院共通科目として開設する。
- ③ 医系科学分野において共通基盤となる能力を涵養するため、生命・医療倫理及び多職種連携に関する科目を必修とした研究科共通科目を開設する。
- ④ 主として専攻する領域以外の授業科目の履修を必修とする。また、専門領域の異なるゼミの履修や研究指導を受けることにより修得した単位を修了要件とすることができる。
- ⑤ 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。
- ⑥ 異なる分野の専門家がチームとして取り組む研究プロジェクトへ参加することにより、修了要件とすることができる単位を修得できる。

(3) アドミッション・ポリシー

医系科学研究科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を期待する。

- ① 広島大学の理念に共感し、現在の人類社会が抱える課題又は今後抱えるかもしれない課題に、自らの教養、医学・歯学・薬学・保健学における卓越した知識、高度な能力及び行動力によりチャレンジすることで、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人
- ② 幅広い教養と共に、狭い専門領域にとらわれない学際的かつ国際的な視野と医学・歯学・薬学・保健学における卓越した知識と高度な研究能力を身に付け、多角的視点から「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人、又は学問での研鑽の成果を還元することにより地域や国際社会に貢献したいという志を持つ人
- ③ 世界中から好奇心にあふれる若者や学び直しの社会人が集う、世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスで、多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付け、持続可能な共生社会を実現しようとする意欲を持つ人

6. 医学専門プログラムの目的（博士課程）

医学における幅広い学識と高度な研究能力を有し、学際的・国際的に活躍できる教育者・研究者及び時代の要求に応え、先進的医療技術の開発・応用を担うことができる高度専門医療人を養成する。

シーズの発見、病態モデルの構築、治療開発を大きな柱とし、医学・歯学・薬学各分野の教育・研究を、研究の方法論に基づいて階層的に構築し、前臨床までトランスレーションして、がん、ゲノム疾患、神経精神疾患、組織再生等を対象に、斬新な医療開発に繋がる研究を行うとともに、それらを担う教育者・研究者の養成を行う。

また、これらの基礎的研究成果を基盤に、社会の要請に応えうる基礎医学、臨床医学及び社会医学分野を中心に応用的研究を行い、これを地域社会から国際社会まで広く展開するとともに、それを担う教育者・研究者の養成を行う。

7. 医学専門プログラムの3つのポリシー（博士課程）

(1) ディプロマ・ポリシー

以下の能力を身に付け、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、博士（医学）又は博士（学術）の学位を授与する。

- ① 医学における幅広い学識と高度な研究能力を有し、学際的・国際的に活躍できる能力を身に付けている。
- ② 時代の要求に応え、先進的医療技術の開発・応用を担うことができる能力を身に付けている。

(2) カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

- ① カリキュラムは講義、特別演習及び特別研究から構成する。
- ② 生命・医療倫理に関する科目を必修とし、豊かな人間性を涵養する。
- ③ 医療系分野の研究に必要な幅広い専門知識の修得を可能とするオムニバス講義科目を共通科目として設定する。
- ④ 医学分野における高度な専門知識と研究能力を修得するためプログラム専門科目を設定する。

(3) アドミッション・ポリシー

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、次のような学生の入学を期待する。

- ① 医学分野の基礎・臨床の先端研究に取り組みたい人
- ② 医学・歯学・薬学分野の既存の枠組みを越えて幅広く生命科学、放射線医学の基礎・臨床を学びたい人
- ③ 高度先進医療に取り組みたい人
- ④ 医学分野の高度専門知識を学び、国際的に活躍したい人
- ⑤ 社会人として医療系分野でのキャリアアップを図り、地域医療に貢献したい人

II 教育課程編成の考え方・特色

1. 研究科の教育課程編成の考え方

医系科学研究科では、医学・歯学・薬学・保健学の4専門分野の教育・研究のさらなる深化とともに、急速な進歩を続ける生命・生物系領域や健康を取り巻く社会経済的背景となる人文社会科学系領域を理解することによって、全てのライフステージに対応し、健康寿命を延伸させる新しい健康・医療・介護システムを構築するための人材を育成するために、既存の医歯薬保健学研究科における教育・研究のさらなる融合とともに他の研究分野との横断的なプログラムの提供できる編成とする。そのために、

- 1) 高度専門医療人を養成するための専門プログラムを充実させる。
- 2) 複合領域や新しい領域で活躍できる人材を養成することを目的として、大学院共通科目、研究科共通科目、専攻共通科目を履修させる。
- 3) 生命科学分野と融合した分野横断型のプログラムである「生命医療科学プログラム」を創設する。
- 4) 教育内容に共通性があり今後の医療提供体制において協働することが重要であることから、保健学分野と口腔健康科学分野を包含する保健科学プログラムを設置する。

これらの編成により、大学院生は、所属する学位プログラムで深い専門性を身に付けるだけでなく、分野を超えた教員の講義を受講することが可能となり幅広い知識を修得することが可能となる。

また、本研究科の研究指導は、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制としており、専門分野の異なる副指導教員が参画している研究プロジェクトに、学生が参加した場合については、当該研究プロジェクトに従事した時間数を、研究指導の授業時間として扱うことにより、学生は専門分野だけでなく、幅広い視野を身に付けることが可能となる。

2. 大学院共通科目の特色（博士課程）

広島大学大学院のディプロマ・ポリシーに従い、広い視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるために、さらに、社会のさまざまな課題に対応するための実践的な力を身に付けるために開設する。

そのために、次の2つのカテゴリーの大学院共通科目を開設し、学生は、各カテゴリーから、それぞれ1単位以上を選択し、履修する。

(1) 持続可能な発展科目

国際的目標である「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals: SDGs)を理解し、社会のさまざまな課題を解決する能力を身に付けさせる。

(2) キャリア開発・データリテラシー科目

現代社会の課題に具体的に取り組み、また、これからの時代に必須であるIT関連の知識・技術を使うことができる能力を身に付けさせる。

なお、長期インターンシップについては、学生の希望を踏まえ、大学が、国内外の民間企業、公的機関、非営利団体などから受入先候補を選び、学生とのマッチングを行い派遣先を決定する。

3. 研究科共通科目の特色（博士課程）

研究科共通科目は、研究科のディプロマ・ポリシーに従い、医系科学分野において共通基盤となる能力を涵養するため4単位以上を履修することとし、うち「生命・医療倫理学B」及び「多職種連携B」の2単位を必修としている。

- ① 生命・医療倫理学B
- ② 研究方法論B
- ③ アドバンスド生命科学コースワーク
- ④ バイオメディカルサイエンスの創生展開
- ⑤ 生体工医学イノベーションB
- ⑥ 多職種連携B

4. 医歯薬学専攻の共通科目の特色（博士課程）

専攻共通科目は、複合領域や新しい領域で活躍できる能力を身に付ける科目である。

学生は、学んできたバックグラウンドが異なるため、指導教員と相談の上、2単位以上を選択し、履修する。

- ① 臨床腫瘍学
- ② 放射線統合医科学
- ③ 薬物治療学
- ④ がん診療各論
- ⑤ 死因究明学

5. 医学専門プログラムの特色（博士課程）

本プログラムは、講義、特別演習、特別研究で構成し、医学分野における高度専門知識と研究能力を修得する上で必要となる専門科目を設けている。

研究科共通科目では、高い倫理性を持たせるための科目として「生命・医療倫理学B」を必修とし、さらに、高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を育成するため、多職種との連携について理解を深める科目として「多職種連携B」を必修としている。

6. 学位プログラムの選択

学位プログラムの選択は、入学者選抜において、学位プログラムごとに募集人員を設けて実施する。

7. 学位の名称

内科学、外科学、小児学等の臨床医学分野及び解剖学、病理学、ウイルス学等の基礎医学分野における研究を主な研究対象とするとともに、生命科学分野における幅広い分野の研究や学際的な研究も対象とした教育課程であることから、医学専門プログラムで授与する学位は、「博士（医学）」（Doctor of Philosophy in Medical Science）又は「博士（学術）」（Doctor of Philosophy）とする。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 修了要件単位数：30単位 (1) 大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修） (2) 研究科共通科目：4単位以上（ただし、生命・医療倫理学B及び多職種連携Bを必修） (3) 専攻共通科目：2単位以上 (4) プログラム専門科目：22単位以上（特別研究を除く授業科目から10単位以上、特別研究から12単位以上）	1学年の学期区分	2学期（4ターム）
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要(事前伺い)

(医歯薬学専攻 博士課程 歯学専門プログラム)

科目区分	授業科目	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
大学院共通科目	持続可能な発展科目 スペシャル型SDGsアイデアメイニング学生セミナー SDGsの観点から見た地域開発セミナー 普遍的平和を目指して	1・2・3①	1				○								兼1	集中	
		1・2・3	1				○								兼1	集中	
		1・2・3④	1				○								兼4	オムニバス	
	キャリア開発・データリテラシー科目	データサイエンス	1・2・3④		2			○								兼1	兼1 兼1 兼1 兼2 兼1 兼1 兼1 兼1
		パターン認識と機械学習	1・2・3②		2			○								兼1	
		データサイエンティスト養成	1・2・3		1			○								兼1	
		医療情報リテラシー活用	1・2・3③		1			○		5	2					兼2	
		リーダーシップ手法	1・2・3①		1			○								兼1	
		高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	1・2・3②④		1			○								兼1	
		イノベーション演習	1・2・3③		2			○								兼1	
	長期インターンシップ	1・2・3		2			○								兼1		
小計(11科目)	-	0	15	0	-	-	-	5	2	0	0	0	0	兼11	-		
研究科共通科目	生命・医療倫理学B	1①	1				○		4	1	1				兼2	オムニバス	
	研究方法論B	1①	1				○		2	3					兼2	オムニバス	
	アドバンスド生命科学コースワーク	1③	1					○		1							
	バイオメディカルサイエンスの創生展開	1③	1				○		5		1				兼3	オムニバス・共同(一部)	
	生体医工学イノベーションB	1①	1				○		1						兼6	オムニバス	
	多職種連携B	1①	1				○		4						兼4	オムニバス	
小計(6科目)	-	2	4	0	-	-	-	14	5	2	0	0	0	兼16	-		
専攻共通科目	臨床腫瘍学	1①	1				○		7				2				
	放射線総合医科学	1①	1				○		4	1	1				兼2	オムニバス	
	薬物治療学	1③	1				○		1	1			2			オムニバス	
	がん診療各論	1①	1				○		2	2	3		1			オムニバス	
	死因究明学	1①	1				○		2	1						オムニバス	
小計(5科目)	-	0	5	0	-	-	-	14	5	4	5	0		兼2	-		
プログラム専門科目	生体材料学特別演習	1通		4				○	1					1		共同	
	口腔生化学特別演習	1通		4				○								兼1	
	口腔細胞生物学特別演習	1通		4				○	1								
	細菌学特別演習	1通		4				○							兼2	共同	
	口腔生理学特別演習	1通		4				○	1			1				共同	
	細胞分子薬理学特別演習	1通		4				○	1								
	口腔顎顔面病理病態学特別演習	1通		4				○		1			1		兼1	共同	
	歯周病態学特別演習	1通		4				○			1						
	分子口腔医学・顎顔面外科学特別演習	1通		4				○				1					
	粘膜免疫学特別演習	1通		4				○	1	1						共同	
	歯科放射線学特別演習	1通		4				○	1								
	硬組織代謝生物学特別演習	1通		4				○							兼1		
	歯科麻酔学特別演習	1通		4				○	1								
	歯髄生物学特別演習	1通		4				○	1								
	口腔外科学特別演習	1通		4				○			1						
	先端歯科補綴学特別演習	1通		4				○	1	3	2	7					
	歯科矯正学特別演習	1通		4				○	1	1						共同	
	小児歯科学特別演習	1通		4				○	1		1						
	国際歯科医学・分子腫瘍学特別演習	1通		4				○	1								
	歯科医学教育学特別演習	1通		4				○	1								
	障害者歯科学特別演習	1通		4				○	1								
	法歯学特別演習	1通		4				○	1						兼1	共同	
	矯正歯科専門医取得支援コース	1通		4				○	1	1						共同	
	小児歯科専門医取得支援コース	1通		4				○		1							
	生体材料学特別研究	1~3		12				○	1				1				
	口腔生化学特別研究	1~3		12				○							兼1		
	口腔細胞生物学特別研究	1~3		12				○	1								
細菌学特別研究	1~3		12				○							兼2			
口腔生理学特別研究	1~3		12				○	1				1					
細胞分子薬理学特別研究	1~3		12				○	1									
口腔顎顔面病理病態学特別研究	1~3		12				○		1			1					
歯周病態学特別研究	1~3		12				○		1								

プログラム 専門科目	分子口腔医学・顎顔面外科学特別研究	1～3	12		○			1									
	粘膜免疫学特別研究	1～3	12		○		1	1									
	歯科放射線学特別研究	1～3	12		○		1										
	硬組織代謝生物学特別研究	1～3	12		○												兼1
	歯科麻酔学特別研究	1～3	12		○		1										
	歯髄生物学特別研究	1～3	12		○		1										
	口腔外科学特別研究	1～3	12		○				1								
	先端歯科補綴学特別研究	1～3	12		○		1	3	2	7							
	歯科矯正学特別研究	1～3	12		○		1	1	2	4							
	小児歯科学特別研究	1～3	12		○				1								
	国際歯科医学・分子腫瘍学特別研究	1～3	12		○		1										
	歯科医学教育学特別研究	1～3	12		○		1										
	障害者歯科学特別研究	1～3	12		○		1										
	死因究明特別研究	1～3	12		○		3										兼2
	法歯学特別研究	1～3	12		○		1										兼1
	English Presentation	2前		2	○				1								
	英語論文修辞学	2後		2	○												兼1
小計(49科目)	-	0	372	4	-		15	10	5	15	0					兼9	-
合計(71科目)			2	396	4	-	35	20	11	20	0					兼33	-
学位又は称号	博士(歯学), 博士(学術)		学位又は学科の分野			歯学関係											

I 設置の趣旨・必要性

1. 背景等

平成28年1月に、国連開発計画（UNDP）は持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）として17のグローバル目標を設定し、その中で、あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進することを目標3として挙げている。

我が国では、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針として「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21（第2次）」を平成25年度から適応した。この中で、国民の健康の増進の推進に関する基本的な方向として、①健康寿命の延伸と健康格差の縮小、②生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、③社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上、④健康を支え、守るための社会環境の整備、⑤栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善を挙げている。これらの基本的な方向を実現するため、栄養・食生活など各分野に関する生活習慣の改善が重要であり、ライフステージや性差、社会経済的状况等の違いに着目し、生活習慣病を発症する危険度の高い集団などへの働きかけを重点的に行うとともに、地域や職場等を通じた国民への働きかけを進めるとしている。

また、未来投資戦略 2017—Society 5.0の実現に向けた改革の中で、我が国の政策資源を集中投入し、未来投資を促進すべき5つの分野として「健康寿命の延伸」を挙げ、我が国は、グローバルにも突出して高齢化社会をいち早く迎えることとなる一方で、国民皆保険制度や介護保険制度の下でデータが豊富にあることから、健康管理と病気・介護予防、自立支援に軸足を置いた、「新しい健康・医療・介護システム」を構築することにより、健康寿命を更に延伸し、世界に先駆けて生涯現役社会を実現させるとしている。

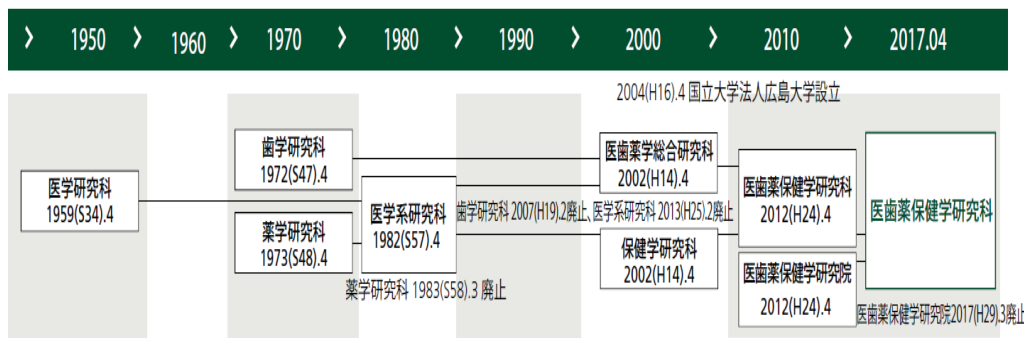
2. 広島大学の現状

平成14年4月から医歯薬学総合研究科と保健学研究科の2研究科で、大学院教育を行ってきたが、医歯薬学総合研究科と保健学研究科の共通目的は「新規医療の開発と高度実践医療の提供」に資する新時代の医学・医療開発研究の展開とそれを担う専門的人材の養成にある。そこで、平成24年4月に、共通の目的を有する2つの研究科を融合した医歯薬保健学研究科を設置した。

医歯薬保健学研究科では、旧来の学問分野の枠組みを超えた新しい領域や複合領域で活躍できる人材養成、学術の高度化・複合化に対応できる研究活動の活性化、新しい知の創造を目指した大規模プロジェクト研究を推進できる組織作りなど、それまでの2研究科では不可能であったより柔軟な教育、研究を展開し、「超高齢社会」に対応する医療、QOL（生活の質）に重点を置いたカスタムメイド医療、患者中心のチーム医療、広島で推進すべき放射線障害に対する医療などの社会的要請に対応してきた。また、医学物理学における幅広い知識を身につけ、医学物理学の基礎的・臨床的研究に取り組むとともに、医学物理士を目指す人材を養成するために、平成24年4月に、医歯科学専攻（修士課程）に医学物理士コースを設置した。

平成27年4月には、科学的根拠に基づく医療を実施できる能力を有する医療従事者や公衆衛生行政の担当者及び研究方法や評価において専門的な知識・技能を修得し、臨床、保健、医療行政の課題解決に取り組む人材の養成を目的として、医歯科学専攻（修士課程）に公衆衛生学（MPH）コースを設置した。

このような体制のもとで、特徴ある様々な未来型医療の創生研究やこれを担う高度専門人材の教育・養成に加え、極めて細分化かつ高度化する新時代の医学・医療に対応するための緊密な学際的・学際教育・研究を展開している。



3. 機能強化と課題

平成14年4月に、生命医科学に関する新たな知の創造を目指す研究とその応用による先進的な医療開発、さらに新たな分野を切り開く高度専門医療人の養成を目指して医歯薬学総合研究科を、「健康管理」、「疾病予防」及び「リハビリテーション」等々々のQOL（生活の質）向上に資することを中心的課題として高度専門医療人の養成を目指して保健学研究科を設置した。

さらに平成24年4月には、超高齢化社会において患者と病気が共存する状態が増加しており、医師・歯科医師による処置や服薬だけでなく、生活指導や運動療法などが一層重要になっている。他方、医療の急速な進歩と医療制度の変化は、看護やリハビリテーションにも大きな影響を及ぼしている。このような社会状況に対応するために、医歯薬学総合研究科と保健学研究科を一つに統合し、医歯薬保健学研究科を設置した。

これらの改編により、医学・歯学・薬学・保健学分野の学生が同一研究科内で教育・研究を展開、発展させることで、より高度な医療人養成や研究の進歩に繋がってきた。

広島大学では、平成29年4月に新長期ビジョン「SPLENDOR (Sustainable Peace Leader Enhancement by Nurturing Development of Research) PLAN 2017」を策定・公表した。このビジョンにおいて、「これまで以上に、人間、社会、文化、食料、環境、自然の持続性に関連する全ての既存の学問領域を包含し、平和の構築に限りなくチャレンジし、働きかける新しい平和科学の理念『持続可能な発展を導く科学』の創生を目指した活動を展開し、100年後にも世界で光り輝く大学としての責務を果たす。」ことを宣言した。また、ビジョンの一つに「『持続可能な発展を導く科学』の骨格を創る基礎分野と、本学の強みである教育学、物性物理、宇宙科学、材料科学、半導体・ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、食料科学などの分野を融合し、より高度な世界的研究へと発展させることを掲げている。また、原爆の惨禍からの復興を支えてきた大学として、放射線障害に係る医療に関する研究拠点を発展させるとともに、再生医療、肝疾患や脳科学の分野を世界的な研究として発展させる。」ことを挙げた。

このように、未来社会の方向性の中で、医学医療や保健学の役割はさらに重要であるが、医系科学はその中核をなす医学・歯学・薬学・保健学といった専門領域のみならず、その基礎となる生命・生物系科学や人文社会科学との連携において、持続可能な発展を導く科学の一分野として役割を果たす必要がある。

そこで、大学院教育においても、医学・歯学・薬学・保健学のさらなる深化とともに、急速な進歩を続ける生命・生物系領域や健康を取り巻く社会経済的な背景となる人文社会科学系領域を理解することによって、全てのライフステージに対応し、健康寿命を延伸させる新しい健康・医療・介護システムを構築するための人材が求められており、既存の研究科における教育のさらなる融合や他の研究科との分野横断的なプログラムの提供が必要となっている。

また、看護学・保健学・口腔健康科学など医療のみならず健康科学に係る人材育成は、上記のように人々のQOL向上や健康寿命の延伸に極めて重要で、未来社会の創造に向かってさらに重要性が増してきた。医療を支えるコメディカル教育は教育内容に共通する部分が多いことに加え、今後、社会で求められる新たな医療提供体制（多職種連携、地域包括ケアなど）にとって、それら三つの分野がさらに垣根を越えて協働することが重要である。

これらの社会からの要請に応えるべき機能強化の必要性や課題をうけて、医学・歯学・薬学・保健学分野における基盤的研究の深化とこれら分野間の連携・融合のさらなる強化を図り、医学・歯学・薬学・保健学分野の枠組みを超えて展開するために「医系科学研究科」を組織する。

「医系科学研究科」には、研究能力に裏打ちされ、かつ医療系の幅広い知識と学識を有した高度専門医療人としての指導的臨床能力を優した医師、歯科医師、薬剤師又はこれらの枠を超えた先端的生命科学研究に精通した人材を養成することを目的とする「医歯薬学専攻（博士課程）」とQOL向上や健康寿命の延伸に貢献し、多職種連携、地域包括ケアなど新たな医療提供体制において重要な役割を担う健康科学に係る人材を養成することを目的とする「総合健康科学専攻（博士課程前期及び博士課程後期）」の2専攻を置く。

「医系科学研究科」では、上記の課題や社会的要請に応えるために、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を養成するとともに、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材を養成する。そのため、大学院共通科目や研究科共通科目、専攻共通科目を履修させる。

新設する「総合生命科学研究科」との分野横断型のプログラムである「生命医療科学プログラム」を創設し、医系領域のみならず複合領域や新しい領域で活躍できる人材を養成する。

また、専攻の整理の中で、従来の保健学専攻と口腔健康科学専攻については、教育内容に共通性があることや、今後の医療提供体制においてそれら2つの分野が垣根を越えて協働することが重要であることから、保健科学プログラムとしてまとめる。

4. 広島大学大学院の3つのポリシー（博士課程）

(1) ディプロマ・ポリシー

広島大学大学院では、新しい平和科学、すなわち「持続可能な発展を導く科学」の創生と、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献する人材の育成を教育目標とし、次の方針に従って当該学位を授与する。

以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、博士の学位を授与する。

- ① 専門分野における卓越した専門知識と研究力を有している。
- ② 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない学際的かつ国際的な視野を有している。
- ③ 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と柔軟な複眼的思考力に裏打ちされた卓越した課題発見能力を有している。
- ④ 多分野の専門家で構成されるチームのリーダーとして社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- ⑤ 博士学位取得者としての使命を自覚し、極めて高い倫理観を有している。

(2) カリキュラム・ポリシー

広島大学大学院では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

学生が自分の専門以外の分野に触れる機会を増やし、広い範囲から研究テーマを見つけ、また研究テーマの変更や進路の選択が柔軟に行えるような環境、さらに、学生が社会とのつながりを意識し、開かれた問題意識を持ち、新たな発想ができるような環境を提供するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ① それぞれの専門分野で必要な卓越した専門的知識と研究能力の獲得を促すため、専攻分野に関連する専門科目を体系的に提供する。
- ② 研究科や専門領域を超えた学際的かつ国際的な視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるための科目やキャリアパスを拡げるための科目を大学院共通科目として開設する。
- ③ 人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学のそれぞれの分野において共通基盤となる能力を涵養するため、研究科共通科目を開設する。
- ④ 主として専攻する領域以外の授業科目の履修を必修とする。また、専門領域の異なるゼミの履修や研究指導を受けることにより修得した単位を修了要件とすることができる。
- ⑤ 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。
- ⑥ 異なる分野の専門家がチームとして取り組む研究プロジェクトへ参加することにより、修了要件とすることができる単位を修得できる。

(3) アドミッション・ポリシー

広島大学大学院では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を期待する。

- ① 広島大学の理念に共感し、現在の人類社会が抱える課題又は今後抱えるかもしれない課題に、自らの教養、知識、能力及び行動力によりチャレンジすることにより、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人
- ② 幅広い教養と共に、人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学のそれぞれの分野における高度な知識と研究能力を身に付け、多角的視点から「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人、又は学問での研鑽の成果を還元することにより社会に貢献したいという志を持つ人
- ③ 世界中から好奇心にあふれる若者や学び直しの社会人が集う、世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスで、多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付け、持続可能な共生社会を実現しようとする意欲を持つ人

5. 医系科学研究科の3つのポリシー（博士課程）

医学・歯学・薬学・保健学の4分野における基盤的研究の深化と分野間の連携・融合を図り、生命医科学の急速な進歩と医療技術の高度化に迅速に対応する先端的な教育研究を推進することにより、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を育成する。また、旧来の学問分野の枠組みを超えて、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材の育成を目的とする。

(1) ディプロマ・ポリシー

医系科学研究科では、教育上の目的に沿った人材の育成を目標とし、次の方針に従って当該学位を授与する。

以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、研究テーマ及び専門領域に応じて「博士（医学）、博士（歯学）、博士（薬学）、博士（薬科学）、博士（看護学）、博士（保健学）、博士（口腔健康科学）、博士（医科学）、博士（歯科学）、博士（学術）」のいずれかの学位を授与する。

- ① 専門分野における卓越した専門知識と高度な研究力を有している。
- ② 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない学際的かつ国際的な視野を有している。
- ③ 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と柔軟な複眼的思考力に裏打ちされた卓越した課題発見能力を有している。
- ④ 学際的・国際的なコミュニケーション能力を有し、多分野の専門家で構成されるチームのリーダーとして社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- ⑤ 博士学位取得者としての使命を自覚し、極めて高い倫理観を有している。

(2) カリキュラム・ポリシー

医系科学研究科では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

学生が自分の専門以外の分野に触れる機会を増やし、広い範囲から研究テーマを見つけ、また研究テーマの変更や進路の選択が柔軟に行えるような環境、さらに、学生が社会とのつながりを意識し、開かれた問題意識を持ち、新たな発想ができるような環境を提供するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ① それぞれの専門分野に必要な卓越した専門的知識と高度な研究能力の獲得を促すため、専攻分野に関連する専門科目を体系的に提供する。
- ② 研究科や専門領域を超えた学際的かつ国際的な視野と社会への関心や問題意識を涵養し、「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるための科目やキャリアパスを拡げるための科目を大学院共通科目として開設する。
- ③ 医系科学分野において共通基盤となる能力を涵養するため、生命・医療倫理及び多職種連携に関する科目を必修とした研究科共通科目を開設する。
- ④ 主として専攻する領域以外の授業科目の履修を必修とする。また、専門領域の異なるゼミの履修や研究指導を受けることにより修得した単位を修了要件とすることができる。
- ⑤ 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。
- ⑥ 異なる分野の専門家がチームとして取り組む研究プロジェクトへ参加することにより、修了要件とすることができる単位を修得できる。

(3) アドミッション・ポリシー

医系科学研究科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を期待する。

- ① 広島大学の理念に共感し、現在の人類社会が抱える課題又は今後抱えるかもしれない課題に、自らの教養、医学・歯学・薬学・保健学における卓越した知識、高度な能力及び行動力によりチャレンジすることで、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人
- ② 幅広い教養と共に、狭い専門領域にとらわれない学際的かつ国際的な視野と医学・歯学・薬学・保健学における卓越した知識と高度な研究能力を身に付け、多角的視点から「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人、又は学問での研鑽の成果を還元することにより地域や国際社会に貢献したいという志を持つ人
- ③ 世界中から好奇心にあふれる若者や学び直しの社会人が集う、世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスで、多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付け、持続可能な共生社会を実現しようとする意欲を持つ人

6. 歯学専門プログラムの目的（博士課程）

医学における幅広い学識と高度な研究能力を有し、学際的・国際的に活躍できる教育者・研究者及び時代の要求に応え、先進的医療技術の開発・応用を担うことができる高度専門医療人を養成する。

歯学分野には、①う蝕、歯周疾患、口腔顎顔面領域の発育異常等の歯科疾患発症の分子機構の解明と新しい予防方法の開発、②顎関節症、舌痛症、口腔癌等の難治性歯科口腔疾患の病態解明と治療法の開発に関する研究、③失われた歯牙、歯周組織並びに顎骨の再生歯科医療、④生体材料の開発や情報歯科医療工学分野における学際的連携による新規医療技術開発研究、⑤食育や口腔疾患と全身疾患の関係解明等の予防・健康発育・健康増進歯学研究、⑥咀嚼嚥下をはじめとする口腔機能の維持向上に関する研究等、他の生命科学研究分野に見られない特異な研究テーマがある。歯学専門プログラムでは、歯学研究におけるこれらの研究課題に関する高度先進的な歯学基礎研究と歯学臨床研究を積極的に行うとともに、幅広い学識、問題解決能力、独創的研究マインドを有し、次世代を担う歯科医学分野の教育者・研究者並びに歯科医療各分野の高度臨床専門歯科医を養成することを目的とする。

7. 歯学専門プログラムの3つのポリシー（博士課程）

(1) ディプロマ・ポリシー

以下の能力を身に付け、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、博士（歯学）又は博士（学術）の学位を授与する。

- ① 歯科医学分野における研究を統合・発展させ、より高度な先進的歯学基礎研究を遂行することができる能力を身に付けている。
- ② 先進的歯学基礎研究に基づく応用研究によって高度先進歯科医療を開発し、地域社会から国際社会まで広く展開できる能力を身に付けている。

(2) カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

- ① カリキュラムは講義、特別演習及び特別研究から構成する。
- ② 生命・医療倫理に関する科目を必修とし、豊かな人間性を涵養する。
- ③ 歯学分野の研究に必要な幅広い専門知識の修得を可能とするオムニバス講義科目を共通科目として設定する。
- ④ 歯学分野における高度な専門知識と研究能力を修得するためプログラム専門科目を設定する。

(3) アドミッション・ポリシー

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、次のような学生の入学を期待する。

- ① 歯学分野の基礎・臨床の先端研究に取り組みたい人
- ② 医学、歯学、薬学分野の既存の枠組みを越えて幅広く生命科学、放射線医学の基礎・臨床を学びたい人
- ③ 高度先進医療に取り組みたい人
- ④ 歯学分野の高度専門知識を学び、国際的に活躍したい人
- ⑤ 社会人として医療系分野でのキャリアアップを図り、地域医療に貢献したい人

II 教育課程編成の考え方・特色

1. 研究科の教育課程編成の考え方

医系科学研究科では、医学・歯学・薬学・保健学の4専門分野の教育・研究のさらなる深化とともに、急速な進歩を続ける生命・生物系領域や健康を取り巻く社会経済的な背景となる人文社会科学系領域を理解することによって、全てのライフステージに対応し、健康寿命を延伸させる新しい健康・医療・介護システムを構築するための人材を育成するために、既存の医歯薬保健学研究科における教育・研究のさらなる融合とともに他の研究分野との横断的なプログラムの提供できる編成とする。そのために、

- 1) 高度専門医療人を養成するための専門プログラムを充実させる。
- 2) 複合領域や新しい領域で活躍できる人材を養成することを目的として、大学院共通科目、研究科共通科目、専攻共通科目を履修させる。
- 3) 生命科学分野と融合した分野横断型のプログラムである「生命医療科学プログラム」を創設する。
- 4) 教育内容に共通性があり今後の医療提供体制において協働することが重要であることから、保健学分野と口腔健康科学分野を包含する保健科学プログラムを設置する。

これらの編成により、大学院生は、所属する学位プログラムで深い専門性を身に付けるだけでなく、分野を超えた教員の講義を受講することが可能となり幅広い知識を修得することが可能となる。

また、本研究科の研究指導は、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制としており、専門分野の異なる副指導教員が参画している研究プロジェクトに、学生が参加した場合については、当該研究プロジェクトに従事した時間数を、研究指導の授業時間として扱うことにより、学生は専門分野だけでなく、幅広い視野を身に付けることが可能となる。

2. 大学院共通科目の特色（博士課程）
 広島大学大学院のディプロマ・ポリシーに従い、広い視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるために、さらに、社会のさまざまな課題に対応するための実践的な力を身に付けるために開設する。
 そのために、次の2つのカテゴリーの大学院共通科目を開設し、学生は、各カテゴリーから、それぞれ1単位以上を選択し、履修する。
- (1) 持続可能な発展科目
 国際的目標である「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals: SDGs)を理解し、社会のさまざまな課題を解決する能力を身に付けさせる。
- (2) キャリア開発・データリテラシー科目
 現代社会の課題に具体的に取り組み、また、これからの時代に必須であるIT関連の知識・技術を使うことができる能力を身に付けさせる。
 なお、長期インターンシップについては、学生の希望を踏まえ、大学が、国内外の民間企業、公的機関、非営利団体などから受入先候補を選び、学生とのマッチングを行い派遣先を決定する。
3. 研究科共通科目の特色（博士課程）
 研究科共通科目は、研究科のディプロマ・ポリシーに従い、医系科学分野において共通基盤となる能力を涵養するため4単位以上を履修することとし、うち「生命・医療倫理学B」及び「多職種連携B」の2単位を必修としている。
- ① 生命・医療倫理学B
 ② 研究方法論B
 ③ アドバンスド生命科学コースワーク
 ④ バイオメディカルサイエンスの創生展開
 ⑤ 生体工学イノベーションB
 ⑥ 多職種連携B
4. 医歯薬学専攻の共通科目の特色（博士課程）
 専攻共通科目は、複合領域や新しい領域で活躍できる能力を身に付ける科目である。
 学生は、学んできたバックグラウンドが異なるため、指導教員と相談の上、2単位以上を選択し、履修する。
- ① 臨床腫瘍学
 ② 放射線統合医科学
 ③ 薬物治療学
 ④ がん診療各論
 ⑤ 死因究明学
5. 歯学専門プログラムの特色（博士課程）
 本プログラムは、講義、特別演習、特別研究で構成し、歯学分野における高度専門知識と研究能力を修得する上で必要となる専門科目を設けている。
 研究科共通科目では、高い倫理性を持たせるための科目として「生命・医療倫理学B」を必修とし、さらに、高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を育成するため、多職種との連携について理解を深める科目として「多職種連携B」を必修としている。
6. 学位プログラムの選択
 学位プログラムの選択は、入学者選抜において、学位プログラムごとに募集人員を設けて実施する。
7. 学位の名称
 歯周病学、口腔外科学、小児歯科学等の臨床歯学分野及び口腔解剖学、口腔病理学、口腔生理学等の基礎歯学分野における研究を主な研究対象とするとともに、生命科学分野における幅広い分野の研究や学際的な研究も対象とした教育課程であることから、歯学専門プログラムで授与する学位は、「博士（歯学）」(Doctor of Philosophy in Dental Science) 又は「博士（学術）」(Doctor of Philosophy) とする。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 修了要件単位数：30単位 (1) 大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修） (2) 研究科共通科目：4単位以上（ただし、生命・医療倫理学B及び多職種連携Bを必修） (3) 専攻共通科目：2単位以上 (4) プログラム専門科目：22単位以上（特別研究を除く授業科目から10単位以上、特別研究から12単位以上）	1学年の学期区分	2学期（4ターム）
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要(事前伺い)

(医歯薬学専攻 博士課程 薬学専門プログラム)

科目区分	授業科目	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
大学院共通科目	持続可能な発展科目 スペシャル型SDGsアイデアメイニング学生セミナー SDGsの観点から見た地域開発セミナー 普遍的平和を目指して	1・2・3①	1				○								兼1	集中	
		1・2・3	1				○								兼1	集中	
		1・2・3④	1				○								兼4	オムニバス	
	キャリア開発・データリテラシー科目	データサイエンス パターン認識と機械学習 データサイエンティスト養成 医療情報リテラシー活用 リーダーシップ手法 高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント イノベーション演習 長期インターンシップ	1・2・3④		2			○								兼1	オムニバス・共同(一部)
			1・2・3②		2			○								兼1	
			1・2・3		1			○			5	2				兼1	
			1・2・3③		1			○								兼2	
			1・2・3①		1			○								兼1	
			1・2・3②④		1			○								兼1	
			1・2・3③		2				○							兼1	
	1・2・3		2				○							兼1			
小計(11科目)	-	0	15	0	-	-	-	5	2	0	0	0	0	兼11	-		
研究科共通科目	生命・医療倫理学B 研究方法論B アドバンスド生命科学コースワーク バイオメディカルサイエンスの創生展開 生体医工学イノベーションB 多職種連携B	1①	1				○			4	1	1			兼2	オムニバス	
		1①		1				○		2	3				兼2	オムニバス	
		1③		1							1					兼3	オムニバス・共同(一部)
		1③		1				○		5		1				兼6	オムニバス
		1①		1				○		1						兼6	オムニバス
		1①	1					○		4						兼4	オムニバス
小計(6科目)	-	2	4	0	-	-	14	5	2	0	0	0	0	兼16	-		
専攻共通科目	臨床腫瘍学 放射線統合医科学 薬物治療学 がん診療各論 死因究明学	1①		1			○			7			2			オムニバス・共同(一部)	
		1①		1				○		4	1	1			兼2		
		1③		1				○		1	1		2				
		1①		1				○		2	2	3	1				
		1①		1				○		2	1						
小計(5科目)	-	0	5	0	-	-	14	5	4	5	0	0	0	兼2	-		
プログラム専門科目	生理化学特別演習 生体機能分子動態学特別演習 細胞分子生物学特別演習 臨床薬物治療学特別演習 治療薬効学特別演習 病院薬剤学特別演習 核酸分析化学特別演習 漢方診療学特別演習 生理化学特別研究 生体機能分子動態学特別研究 細胞分子生物学特別研究 臨床薬物治療学特別研究 治療薬効学特別研究 病院薬剤学特別研究 核酸分析化学特別研究 漢方診療学特別研究 English Presentation 英語論文修辞学	1通		4				○		1							共同
		1通		4				○		1			1				
		1通		4				○		1							
		1通		4				○		1	1						
		1通		4				○		1	1						
		1通		4				○		1	1		1				
		1通		4				○		1							
		1通		4				○		1							
		1～3		12				○		1							
		1～3		12				○		1			1				
		1～3		12				○		1							
		1～3		12				○		1	1						
		1～3		12				○		1	1		1				
		1～3		12				○		1							
		1～3		12				○		1							
		2前			2			○			1						
		2後			2			○								兼1	
		小計(18科目)	-	0	128	4	-	-	-	7	4	0	2	0	0	兼1	
合計(40科目)			2	152	4	-	-	28	14	6	7	0	0	兼28	-		
学位又は称号	博士(薬学), 博士(学術)		学位又は学科の分野				薬学関係										

I 設置の趣旨・必要性

1. 背景等

平成28年1月に、国連開発計画（UNDP）は持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）として17のグローバル目標を設定し、その中で、あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進することを目標3として挙げている。

我が国では、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針として「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21（第2次））」を平成25年度から適応した。この中で、国民の健康の増進の推進に関する基本的な方向として、①健康寿命の延伸と健康格差の縮小、②生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、③社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上、④健康を支え、守るための社会環境の整備、⑤栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善を挙げている。これらの基本的な方向を実現するため、栄養・食生活など各分野に関する生活習慣の改善が重要であり、ライフステージや性差、社会経済的状况等の違いに着目し、生活習慣病を発症する危険度の高い集団などへの働きかけを重点的に行うとともに、地域や職場等を通じた国民への働きかけを進めるとしている。

また、未来投資戦略 2017—Society 5.0の実現に向けた改革の中で、我が国の政策資源を集中投入し、未来投資を促進すべき5つの分野として「健康寿命の延伸」を挙げ、我が国は、グローバルにも突出して高齢化社会をいち早く迎えることとなる一方で、国民皆保険制度や介護保険制度の下でデータが豊富にあることから、健康管理と病気・介護予防、自立支援に軸足を置いた、「新しい健康・医療・介護システム」を構築することにより、健康寿命を更に延伸し、世界に先駆けて生涯現役社会を実現させるとしている。

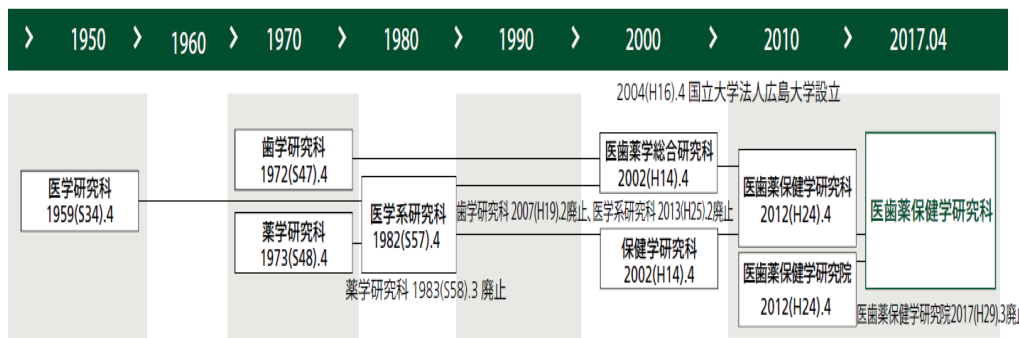
2. 広島大学の現状

平成14年4月から医歯薬学総合研究科と保健学研究科の2研究科で、大学院教育を行ってきたが、医歯薬学総合研究科と保健学研究科の共通目的は「新規医療の開発と高度実践医療の提供」に資する新時代の医学・医療開発研究の展開とそれを担う専門的人材の養成にある。そこで、平成24年4月に、共通の目的を有する2つの研究科を融合した医歯薬保健学研究科を設置した。

医歯薬保健学研究科では、旧来の学問分野の枠組みを超えた新しい領域や複合領域で活躍できる人材養成、学術の高度化・複合化に対応できる研究活動の活性化、新しい知の創造を目指した大規模プロジェクト研究を推進できる組織作りなど、それまでの2研究科では不可能であったより柔軟な教育、研究を展開し、「超高齢社会」に対応する医療、QOL（生活の質）に重点を置いたカスタムメイド医療、患者中心のチーム医療、広島で推進すべき放射線障害に対する医療などの社会的要請に対応してきた。また、医学物理学における幅広い知識を身につけ、医学物理学の基礎的・臨床的研究に取り組むとともに、医学物理士を目指す人材を養成するために、平成24年4月に、歯科学専攻（修士課程）に医学物理士コースを設置した。

平成27年4月には、科学的根拠に基づく医療を実施できる能力を有する医療従事者や公衆衛生行政の担当者及び研究方法や評価において専門的な知識・技能を修得し、臨床、保健、医療行政の課題解決に取り組む人材の養成を目的として、歯科学専攻（修士課程）に公衆衛生学（MPH）コースを設置した。

このような体制のもとで、特徴ある様々な未来型医療の創生研究やこれを担う高度専門人材の教育・養成に加え、極めて細分化かつ高度化する新時代の医学・医療に対応するための緊密な学際的教育・研究を展開している。



3. 機能強化と課題

平成14年4月に、生命医科学に関する新たな知の創造を目指す研究とその応用による先進的な医療開発、さらに新たな分野を切り開く高度専門医療人の養成を目指して医歯薬学総合研究科を、「健康管理」、「疾病予防」及び「リハビリテーション」等々人のQOL（生活の質）向上に資することを中心的課題として高度専門医療人の養成を目指して保健学研究科を設置した。

さらに平成24年4月には、超高齢化社会において患者と病気が共存する状態が増加しており、医師・歯科医師による処置や服薬だけでなく、生活指導や運動療法などが一層重要になっている。他方、医療の急速な進歩と医療制度の変化は、看護やリハビリテーションにも大きな影響を及ぼしている。このような社会状況に対応するために、医歯薬学総合研究科と保健学研究科を一つに統合し、医歯薬保健学研究科を設置した。

これらの改編により、医学・歯学・薬学・保健学分野の学生が同一研究科内で教育・研究を展開、発展させることで、より高度な医療人養成や研究の進歩に繋がってきた。

広島大学では、平成29年4月に新長期ビジョン「SPLENDOR (Sustainable Peace Leader Enhancement by Nurturing Development of Research) PLAN 2017」を策定・公表した。このビジョンにおいて、「これまで以上に、人間、社会、文化、食料、環境、自然の持続性に関連する全ての既存の学問領域を包含し、平和の構築に限りなくチャレンジし、働きかける新しい平和科学の理念『持続可能な発展を導く科学』の創生を目指した活動を展開し、100年後にも世界で光り輝く大学としての責務を果たす。」ことを宣言した。また、ビジョンの一つに「『持続可能な発展を導く科学』の骨格を創る基礎分野と、本学の強みである教育学、物性物理、宇宙科学、材料科学、半導体・ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、食料科学などの分野を融合し、より高度な世界的研究へと発展させることを掲げている。また、原爆の惨禍からの復興を支えてきた大学として、放射線障害に係る医療に関する研究拠点を発展させるとともに、再生医療、肝疾患や脳科学の分野を世界的な研究として発展させる。」ことを挙げた。

このように、未来社会の方向性の中で、医学医療や保健学の役割はさらに重要であるが、医系科学はその中核をなす医学・歯学・薬学・保健学といった専門領域のみならず、その基礎となる生命・生物系科学や人文社会科学との連携において、持続可能な発展を導く科学の一分野として役割を果たす必要がある。

そこで、大学院教育においても、医学・歯学・薬学・保健学のさらなる深化とともに、急速な進歩を続ける生命・生物系領域や健康を取り巻く社会経済的な背景となる人文社会科学系領域を理解することによって、全てのライフステージに対応し、健康寿命を延伸させる新しい健康・医療・介護システムを構築するための人材が求められており、既存の研究科における教育のさらなる融合や他の研究科との分野横断的なプログラムの提供が必要となっている。

また、看護学・保健学・口腔健康科学など医療のみならず健康科学に係る人材育成は、上記のように人々のQOL向上や健康寿命の延伸に極めて重要で、未来社会の創造に向かってさらに重要性が増してきた。医療を支えるコメディカル教育は教育内容に共通する部分が多いことに加え、今後、社会で求められる新たな医療提供体制（多職種連携、地域包括ケアなど）にとって、それら三つの分野がさらに垣根を越えて協働することが重要である。

これらの社会からの要請に応えるべき機能強化の必要性や課題をうけて、医学・歯学・薬学・保健学分野における基盤的研究の深化とこれら分野間の連携・融合のさらなる強化を図り、医学・歯学・薬学・保健学分野の枠組みを超えて展開するために「医系科学研究科」を組織する。

「医系科学研究科」には、研究能力に裏打ちされ、かつ医療系の幅広い知識と学識を有した高度専門医療人としての指導的臨床能力を優した医師、歯科医師、薬剤師又はこれらの枠を超えた先端的生命科学研究に精通した人材を養成することを目的とする「医歯薬学専攻（博士課程）」とQOL向上や健康寿命の延伸に貢献し、多職種連携、地域包括ケアなど新たな医療提供体制において重要な役割を担う健康科学に係る人材を養成することを目的とする「総合健康科学専攻（博士課程前期及び博士課程後期）」の2専攻を置く。

「医系科学研究科」では、上記の課題や社会的要請に応えるために、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を養成するとともに、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材を養成する。そのため、大学院共通科目や研究科共通科目、専攻共通科目を履修させる。

新設する「総合生命科学研究科」との分野横断型のプログラムである「生命医療科学プログラム」を創設し、医系領域のみならず複合領域や新しい領域で活躍できる人材を養成する。

また、専攻の整理の中で、従来の保健学専攻と口腔健康科学専攻については、教育内容に共通性があることや、今後の医療提供体制においてそれら2つの分野が垣根を越えて協働することが重要であることから、保健科学プログラムとしてまとめる。

4. 広島大学大学院の3つのポリシー（博士課程）

(1) ディプロマ・ポリシー

広島大学大学院では、新しい平和科学、すなわち「持続可能な発展を導く科学」の創生と、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献する人材の育成を教育目標とし、次の方針に従って当該学位を授与する。

以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、博士の学位を授与する。

- ① 専門分野における卓越した専門知識と研究力を有している。
- ② 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない学際的かつ国際的な視野を有している。
- ③ 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と柔軟な複眼的思考力に裏打ちされた卓越した課題発見能力を有している。
- ④ 多分野の専門家で構成されるチームのリーダーとして社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- ⑤ 博士学位取得者としての使命を自覚し、極めて高い倫理観を有している。

(2) カリキュラム・ポリシー

広島大学大学院では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

学生が自分の専門以外の分野に触れる機会を増やし、広い範囲から研究テーマを見つけ、また研究テーマの変更や進路の選択が柔軟に行えるような環境、さらに、学生が社会とのつながりを意識し、開かれた問題意識を持ち、新たな発想ができるような環境を提供するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ① それぞれの専門分野で必要な卓越した専門的知識と研究能力の獲得を促すため、専攻分野に関連する専門科目を体系的に提供する。
- ② 研究科や専門領域を超えた学際的かつ国際的な視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるための科目やキャリアパスを拡げるための科目を大学院共通科目として開設する。
- ③ 人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学のそれぞれの分野において共通基盤となる能力を涵養するため、研究科共通科目を開設する。
- ④ 主として専攻する領域以外の授業科目の履修を必修とする。また、専門領域の異なるゼミの履修や研究指導を受けることにより修得した単位を修了要件とすることができる。
- ⑤ 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。
- ⑥ 異なる分野の専門家がチームとして取り組む研究プロジェクトへ参加することにより、修了要件とすることができる単位を修得できる。

(3) アドミッション・ポリシー

広島大学大学院では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を期待する。

- ① 広島大学の理念に共感し、現在の人類社会が抱える課題又は今後抱えるかもしれない課題に、自らの教養、知識、能力及び行動力によりチャレンジすることにより、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人
- ② 幅広い教養と共に、人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学のそれぞれの分野における高度な知識と研究能力を身に付け、多角的視点から「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人、又は学問での研鑽の成果を還元することにより社会に貢献したいという志を持つ人
- ③ 世界中から好奇心にあふれる若者や学び直しの社会人が集う、世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスで、多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付け、持続可能な共生社会を実現しようとする意欲を持つ人

5. 医系科学研究科の3つのポリシー（博士課程）

医学・歯学・薬学・保健学の4分野における基盤的研究の深化と分野間の連携・融合を図り、生命医科学の急速な進歩と医療技術の高度化に迅速に対応する先端的な教育研究を推進することにより、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を育成する。また、旧来の学問分野の枠組みを超えて、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材の育成を目的とする。

(1) ディプロマ・ポリシー

医系科学研究科では、教育上の目的に沿った人材の育成を目標とし、次の方針に従って当該学位を授与する。

以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、研究テーマ及び専門領域に応じて「博士（医学）、博士（歯学）、博士（薬学）、博士（薬科学）、博士（看護学）、博士（保健学）、博士（口腔健康科学）、博士（医科学）、博士（歯科学）、博士（学術）」のいずれかの学位を授与する。

- ① 専門分野における卓越した専門知識と高度な研究力を有している。
- ② 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない学際的かつ国際的な視野を有している。
- ③ 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と柔軟な複眼的思考力に裏打ちされた卓越した課題発見能力を有している。
- ④ 学際的・国際的なコミュニケーション能力を有し、多分野の専門家で構成されるチームのリーダーとして社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- ⑤ 博士学位取得者としての使命を自覚し、極めて高い倫理観を有している。

(2) カリキュラム・ポリシー

医系科学研究科では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

学生が自分の専門以外の分野に触れる機会を増やし、広い範囲から研究テーマを見つけ、また研究テーマの変更や進路の選択が柔軟に行えるような環境、さらに、学生が社会とのつながりを意識し、開かれた問題意識を持ち、新たな発想ができるような環境を提供するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ① それぞれの専門分野に必要な卓越した専門的知識と高度な研究能力の獲得を促すため、専攻分野に関連する専門科目を体系的に提供する。
- ② 研究科や専門領域を超えた学際的かつ国際的な視野と社会への関心や問題意識を涵養し、「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるための科目やキャリアパスを拡げるための科目を大学院共通科目として開設する。
- ③ 医系科学分野において共通基盤となる能力を涵養するため、生命・医療倫理及び多職種連携に関する科目を必修とした研究科共通科目を開設する。
- ④ 主として専攻する領域以外の授業科目の履修を必修とする。また、専門領域の異なるゼミの履修や研究指導を受けることにより修得した単位を、修了要件とすることができる。
- ⑤ 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。
- ⑥ 異なる分野の専門家がチームとして取り組む研究プロジェクトへ参加することにより、修了要件とすることができる単位を修得できる。

(3) アドミッション・ポリシー

医系科学研究科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を期待する。

- ① 広島大学の理念に共感し、現在の人類社会が抱える課題又は今後抱えるかもしれない課題に、自らの教養、医学・歯学・薬学・保健学における卓越した知識、高度な能力及び行動力によりチャレンジすることで、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人
- ② 幅広い教養と共に、狭い専門領域にとらわれない学際的かつ国際的な視野と医学・歯学・薬学・保健学における卓越した知識と高度な研究能力を身に付け、多角的視点から「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人、又は学問での研鑽の成果を還元することにより地域や国際社会に貢献したいという志を持つ人
- ③ 世界中から好奇心にあふれる若者や学び直しの社会人が集う、世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスで、多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付け、持続可能な共生社会を実現しようとする意欲を持つ人

6. 薬学専門プログラムの目的（博士課程）

薬学専門プログラムでは、高度臨床薬剤師の養成及び研究能力を有する薬剤師の養成を主な目的としている。このような人材を養成するに当たっては、医療系薬学領域の教育・研究に携わる教員が中心となって、医療現場で遭遇する問題点の解決能力や高度専門医療人としての能力を有する人材を養成する。また、本プログラムでは、薬剤師の視点と研究能力を有し、薬学系大学教員としての教育を行うことも目的としている。

7. 薬学専門プログラムの3つのポリシー（博士課程）

(1) ディプロマ・ポリシー

以下の能力を身に付け、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、博士（薬学）又は博士（学術）の学位を授与する。

- ① 薬学に関する深い学識及び高い見識を有し、薬学の教育・研究を通じて、我が国の医療薬学及び薬物療法の発展に貢献できる能力を身に付けている。
- ② 医療を中心とした薬学研究領域で国際的に活躍できる能力を身に付けている。

(2) カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

- ① カリキュラムは講義、特別演習及び特別研究から構成する。
- ② 生命・医療倫理に関する科目を必修とし、豊かな人間性を涵養する。
- ③ 薬学分野の研究に必要な幅広い専門知識の修得を可能とするオムニバス講義科目を共通科目として設定する。
- ④ 薬学分野における高度な専門知識と研究能力を修得するためプログラム専門科目を設定する。

(3) アドミッション・ポリシー

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、次のような学生の入学を期待する。

- ① 薬学分野の基礎・臨床の先端研究に取り組みたい人
- ② 医学、歯学、薬学分野の既存の枠組みを越えて幅広く生命科学、放射線医学の基礎・臨床を学びたい人
- ③ 高度先進医療に取り組みたい人
- ④ 薬学分野の高度専門知識を学び、国際的に活躍したい人
- ⑤ 社会人として医療系分野でのキャリアアップを図り、地域医療に貢献したい人

II 教育課程編成の考え方・特色

1. 研究科の教育課程編成の考え方

医系科学研究科では、医学・歯学・薬学・保健学の4専門分野の教育・研究のさらなる深化とともに、急速な進歩を続ける生命・生物系領域や健康を取り巻く社会経済的背景となる人文社会科学系領域を理解することによって、全てのライフステージに対応し、健康寿命を延伸させる新しい健康・医療・介護システムを構築するための人材を育成するために、既存の医歯薬保健学研究科における教育・研究のさらなる融合とともに他の研究分野との横断的なプログラムの提供できる編成とする。そのために、

- 1) 高度専門医療人を養成するための専門プログラムを充実させる。
- 2) 複合領域や新しい領域で活躍できる人材を養成することを目的として、大学院共通科目、研究科共通科目、専攻共通科目を履修させる。
- 3) 生命科学分野と融合した分野横断型のプログラムである「生命医療科学プログラム」を創設する。
- 4) 教育内容に共通性があり今後の医療提供体制において協働することが重要であることから、保健学分野と口腔健康科学分野を包含する保健科学プログラムを設置する。

これらの編成により、大学院生は、所属する学位プログラムで深い専門性を身に付けるだけでなく、分野を超えた教員の講義を受講することが可能となり幅広い知識を修得することが可能となる。

また、本研究科の研究指導は、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制としており、専門分野の異なる副指導教員が参画している研究プロジェクトに、学生が参加した場合については、当該研究プロジェクトに従事した時間数を、研究指導の授業時間として扱うことにより、学生は専門分野だけでなく、幅広い視野を身に付けることが可能となる。

2. 大学院共通科目の特色（博士課程）

広島大学大学院のディプロマ・ポリシーに従い、広い視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるために、さらに、社会のさまざまな課題に対応するための実践的な力を身に付けるために開設する。

そのために、次の2つのカテゴリーの大学院共通科目を開設し、学生は、各カテゴリーから、それぞれ1単位以上を選択し、履修する。

(1) 持続可能な発展科目

国際的目標である「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals: SDGs)を理解し、社会のさまざまな課題を解決する能力を身に付けさせる。

(2) キャリア開発・データリテラシー科目

現代社会の課題に具体的に取り組み、また、これからの時代に必須であるIT関連の知識・技術を使うことができる能力を身に付けさせる。

なお、長期インターンシップについては、学生の希望を踏まえ、大学が、国内外の民間企業、公的機関、非営利団体などから受入先候補を選び、学生とのマッチングを行い派遣先を決定する。

3. 研究科共通科目の特色（博士課程）
 研究科共通科目は、研究科のディプロマ・ポリシーに従い、医系科学分野において共通基盤となる能力を涵養するため4単位以上を履修することとし、うち「生命・医療倫理学B」及び「多職種連携B」の2単位を必修としている。
- ① 生命・医療倫理学B
 - ② 研究方法論B
 - ③ アドバンスド生命科学コースワーク
 - ④ バイオメディカルサイエンスの創生展開
 - ⑤ 生体工学イノベーションB
 - ⑥ 多職種連携B
4. 歯薬学専攻の共通科目の特色（博士課程）
 専攻共通科目は、複合領域や新しい領域で活躍できる能力を身に付ける科目である。
 学生は、学んできたバックグラウンドが異なるため、指導教員と相談の上、2単位以上を選択し、履修する。
- ① 臨床腫瘍学
 - ② 放射線統合医科学
 - ③ 薬物治療学
 - ④ がん診療各論
 - ⑤ 死因究明学
5. 薬学専門プログラムの特色（博士課程）
 本プログラムは、講義、特別演習、特別研究で構成し、薬学分野における高度専門知識と研究能力を修得する上で必要となる専門科目を設けている。
 研究科共通科目では、高い倫理性を持たせるための科目として「生命・医療倫理学B」を必修とし、さらに、高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を育成するため、多職種との連携について理解を深める科目として「多職種連携B」を必修としている。
6. 学位プログラムの選択
 学位プログラムの選択は、入学者選抜において、学位プログラムごとに募集人員を設けて実施する。
7. 学位の名称
 臨床薬物治療学、治療薬効学、病院薬剤学等の薬学分野における研究を主な研究対象とするとともに、生命科学分野における幅広い分野の研究や学際的な研究も対象とした教育課程であることから、薬学専門プログラムで授与する学位は、「博士（薬学）」(Doctor of Philosophy in Pharmaceutical Science)又は「博士（学術）」(Doctor of Philosophy)とする。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 修了要件単位数：30単位 (1) 大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修） (2) 研究科共通科目：4単位以上（ただし、生命・医療倫理学B及び多職種連携Bを必修） (3) 専攻共通科目：2単位以上 (4) プログラム専門科目：2.2単位以上（特別研究を除く授業科目から10単位以上、特別研究から1.2単位以上）	1学年の学期区分
1学期の授業期間		15週
1時限の授業時間		90分

教育課程等の概要(事前伺い)

(医歯薬学専攻 博士課程 放射線医学専門プログラム)

科目区分	授業科目	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院共通科目	持続可能な発展科目	スペシャリスト型SDGsアイデアマイニング学生セミナー	1・2・3①	1			○								兼1	集中
		SDGsの観点から見た地域開発セミナー	1・2・3	1			○								兼1	集中
		普遍的平和を目指して	1・2・3④	1			○								兼4	オムニバス
	キャリア開発・データリテラシー科目	データサイエンス	1・2・3④		2			○							兼1	
		パターン認識と機械学習	1・2・3②		2			○							兼1	
		データサイエンティスト養成	1・2・3		1			○							兼1	
		医療情報リテラシー活用	1・2・3③		1			○		5	2				兼2	オムニバス・共同(一部)
		リーダーシップ手法	1・2・3①		1			○							兼1	
		高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	1・2・3②④		1			○							兼1	
		イノベーション演習	1・2・3③		2			○							兼1	
		長期インターンシップ	1・2・3		2			○							兼1	
小計(11科目)	-	0	15	0	-	-	-	5	2	0	0	0	0	兼11	-	
研究科共通科目	生命・医療倫理学B	1①	1				○		4	1	1			兼2	オムニバス	
	研究方法論B	1①	1				○		2	3				兼2	オムニバス	
	アドバンスド生命科学コースワーク	1③	1					○		1						
	バイオメディカルサイエンスの創生展開	1③	1				○		5		1			兼3	オムニバス・共同(一部)	
	生体医工学イノベーションB	1①	1				○		1					兼6	オムニバス	
	多職種連携B	1①	1				○		4					兼4	オムニバス	
小計(6科目)	-	2	4	0	-	-	-	14	5	2	0	0	0	兼16	-	
専攻共通科目	臨床腫瘍学	1①	1				○		7			2				
	放射線総合医科学	1①	1				○		4	1	1			兼2	オムニバス	
	薬物治療学	1③	1				○		1	1		2			オムニバス	
	がん診療各論	1①	1				○		2	2	3	1			オムニバス	
	死因究明学	1①	1				○		2	1					オムニバス	
小計(5科目)	-	0	5	0	-	-	-	14	5	4	5	0	0	兼2	-	
プログラム専門科目	細胞修復制御学特別演習	1通		4				○			1			兼1	共同	
	疾患モデル解析学特別演習	1通		4				○	1	1					共同	
	分子疫学特別演習	1通		4				○	1	1		1			共同	
	計量生物学特別演習	1通		4				○			1					
	線量測定・評価学特別演習	1通		4				○	1							
	放射線ゲノム疾患学特別演習	1通		4				○						兼1		
	ゲノム障害病理学特別演習	1通		4				○	1							
	がん分子病態学特別演習	1通		4				○	1							
	分子発がん制御学特別演習	1通		4				○		1				兼1	共同	
	幹細胞機能学特別演習	1通		4				○						兼1		
	放射線医療開発学特別演習	1通		4				○	1							
	血液・腫瘍内科学特別演習	1通		4				○	1							
	腫瘍外科学特別演習	1通		4				○	1	1					共同	
	放射線誘発突然変異解析特別演習	1通		4				○						兼2		
	放射線健康影響疫学特別演習	1通		4				○						兼2		
	生体ゲノム制御機能特別演習	1通		4				○						兼3		
	がん重粒子線治療法特別演習	1通		4				○						兼2		
	分子イメージング診断法特別演習	1通		4				○						兼1		
	低線量放射線安全研究特別演習	1通		4				○						兼2		
	緊急被ばく医療開発特別演習	1通		4				○						兼1		
	細胞修復制御学特別研究	1～3		12				○			1	1			兼1	
	疾患モデル解析学特別研究	1～3		12				○	1	1						
	分子疫学特別研究	1～3		12				○	1	1		1				
	計量生物学特別研究	1～3		12				○			1					
	線量測定・評価学特別研究	1～3		12				○	1							
	放射線ゲノム疾患学特別研究	1～3		12				○						兼1		
	ゲノム障害病理学特別研究	1～3		12				○	1							
がん分子病態学特別研究	1～3		12				○	1								
分子発がん制御学特別研究	1～3		12				○		1				兼1			
幹細胞機能学特別研究	1～3		12				○						兼1			
放射線医療開発学特別研究	1～3		12				○	1								
血液・腫瘍内科学特別研究	1～3		12				○	1								

プログラム 専門科目	腫瘍外科学特別研究	1～3	12			○		1	1									
	放射線誘発突然変異解析特別研究	1～3	12			○											兼2	
	放射線健康影響疫学特別研究	1～3	12			○											兼2	
	生体ゲノム制御機能特別研究	1～3	12			○											兼3	
	がん重粒子線治療法特別研究	1～3	12			○											兼2	
	分子イメージング診断法特別研究	1～3	12			○											兼1	
	低線量放射線安全研究特別研究	1～3	12			○											兼2	
	緊急被ばく医療開発特別研究	1～3	12			○											兼1	
	English Presentation	2前			2		○				1							兼1
	英語論文修辞学	2後			2		○											兼1
	小計(42科目)	-	0	320	4		-		7	6	1	2	0					兼17
合計(64科目)		2	344	4		-		27	16	7	7	0					兼42	-
学位又は称号	博士(医学), 博士(学術)			学位又は学科の分野			医学関係											

I 設置の趣旨・必要性

1. 背景等

平成28年1月に、国連開発計画（UNDP）は持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）として17のグローバル目標を設定し、その中で、あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進することを目標3として挙げている。

我が国では、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針として「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21（第2次））」を平成25年度から適応した。この中で、国民の健康の増進の推進に関する基本的な方向として、①健康寿命の延伸と健康格差の縮小、②生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、③社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上、④健康を支え、守るための社会環境の整備、⑤栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善を挙げている。これらの基本的な方向を実現するため、栄養・食生活など各分野に関する生活習慣の改善が重要であり、ライフステージや性差、社会経済的状况等の違いに着目し、生活習慣病を発症する危険度の高い集団などへの働きかけを重点的に行うとともに、地域や職場等を通じた国民への働きかけを進めるとしている。

また、未来投資戦略 2017—Society 5.0の実現に向けた改革の中で、我が国の政策資源を集中投入し、未来投資を促進すべき5つの分野として「健康寿命の延伸」を挙げ、我が国は、グローバルにも突出して高齢化社会をいち早く迎えることとなる一方で、国民皆保険制度や介護保険制度の下でデータが豊富にあることから、健康管理と病気・介護予防、自立支援に軸足を置いた、「新しい健康・医療・介護システム」を構築することにより、健康寿命を更に延伸し、世界に先駆けて生涯現役社会を実現させるとしている。

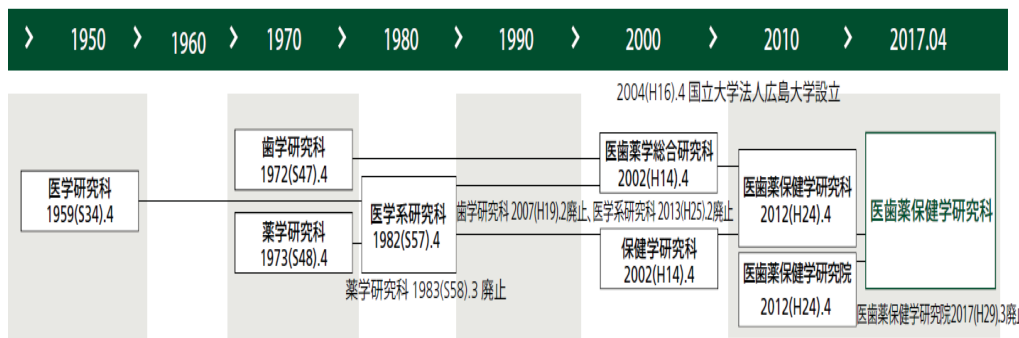
2. 広島大学の現状

平成14年4月から医歯薬学総合研究科と保健学研究科の2研究科で、大学院教育を行ってきたが、医歯薬学総合研究科と保健学研究科の共通目的は「新規医療の開発と高度実践医療の提供」に資する新時代の医学・医療開発研究の展開とそれを担う専門的人材の養成にある。そこで、平成24年4月に、共通の目的を有する2つの研究科を融合した医歯薬保健学研究科を設置した。

医歯薬保健学研究科では、旧来の学問分野の枠組みを超えた新しい領域や複合領域で活躍できる人材養成、学術の高度化・複合化に対応できる研究活動の活性化、新しい知の創造を目指した大規模プロジェクト研究を推進できる組織作りなど、それまでの2研究科では不可能であったより柔軟な教育、研究を展開し、「超高齢社会」に対応する医療、QOL（生活の質）に重点を置いたカスタムメイド医療、患者中心のチーム医療、広島で推進すべき放射線障害に対する医療などの社会的要請に対応してきた。また、医学物理学における幅広い知識を身につけ、医学物理学の基礎的・臨床的研究に取り組むとともに、医学物理士を目指す人材を養成するために、平成24年4月に、歯科学専攻（修士課程）に医学物理士コースを設置した。

平成27年4月には、科学的根拠に基づく医療を実施できる能力を有する医療従事者や公衆衛生行政の担当者及び研究方法や評価において専門的な知識・技能を修得し、臨床、保健、医療行政の課題解決に取り組む人材の養成を目的として、歯科学専攻（修士課程）に公衆衛生学（MPH）コースを設置した。

このような体制のもとで、特徴ある様々な未来型医療の創生研究やこれを担う高度専門人材の教育・養成に加え、極めて細分化かつ高度化する新時代の医学・医療に対応するための緊密な学際教育・研究を展開している。



3. 機能強化と課題

平成14年4月に、生命医科学に関する新たな知の創造を目指す研究とその応用による先進的な医療開発、さらに新たな分野を切り開く高度専門医療人の養成を目指して医歯薬学総合研究科を、「健康管理」、「疾病予防」及び「リハビリテーション」等々々のQOL（生活の質）向上に資することを中心的課題として高度専門医療人の養成を目指して保健学研究科を設置した。

さらに平成24年4月には、超高齢化社会において患者と病気が共存する状態が増加しており、医師・歯科医師による処置や服薬だけでなく、生活指導や運動療法などが一層重要になっている。他方、医療の急速な進歩と医療制度の変化は、看護やリハビリテーションにも大きな影響を及ぼしている。このような社会状況に対応するために、医歯薬学総合研究科と保健学研究科を一つに統合し、医歯薬保健学研究科を設置した。

これらの改編により、医学・歯学・薬学・保健学分野の学生が同一研究科内で教育・研究を展開、発展させることで、より高度な医療人養成や研究の進歩に繋がってきた。

広島大学では、平成29年4月に新長期ビジョン「SPLENDOR (Sustainable Peace Leader Enhancement by Nurturing Development of Research) PLAN 2017」を策定・公表した。このビジョンにおいて、「これまで以上に、人間、社会、文化、食料、環境、自然の持続性に関連する全ての既存の学問領域を包含し、平和の構築に限りなくチャレンジし、働きかける新しい平和科学の理念『持続可能な発展を導く科学』の創生を目指した活動を展開し、100年後にも世界で光り輝く大学としての責務を果たす。」ことを宣言した。また、ビジョンの一つに「『持続可能な発展を導く科学』の骨格を創る基礎分野と、本学の強みである教育学、物性物理、宇宙科学、材料科学、半導体・ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、食料科学などの分野を融合し、より高度な世界的研究へと発展させることを掲げている。また、原爆の惨禍からの復興を支えてきた大学として、放射線障害に係る医療に関する研究拠点を発展させるとともに、再生医療、肝疾患や脳科学の分野を世界的な研究として発展させる。」ことを挙げた。

このように、未来社会の方向性の中で、医学医療や保健学の役割はさらに重要であるが、医系科学はその中核をなす医学・歯学・薬学・保健学といった専門領域のみならず、その基礎となる生命・生物系科学や人文社会科学との連携において、持続可能な発展を導く科学の一分野として役割を果たす必要がある。

そこで、大学院教育においても、医学・歯学・薬学・保健学のさらなる深化とともに、急速な進歩を続ける生命・生物系領域や健康を取り巻く社会経済的な背景となる人文社会科学系領域を理解することによって、全てのライフステージに対応し、健康寿命を延伸させる新しい健康・医療・介護システムを構築するための人材が求められており、既存の研究科における教育のさらなる融合や他の研究科との分野横断的なプログラムの提供が必要となっている。

また、看護学・保健学・口腔健康科学など医療のみならず健康科学に係る人材育成は、上記のように人々のQOL向上や健康寿命の延伸に極めて重要で、未来社会の創造に向かってさらに重要性が増してきた。医療を支えるコメディカル教育は教育内容に共通する部分が多いことに加え、今後、社会で求められる新たな医療提供体制（多職種連携、地域包括ケアなど）にとって、それら三つの分野がさらに垣根を越えて協働することが重要である。

これらの社会からの要請に応えるべき機能強化の必要性や課題をうけて、医学・歯学・薬学・保健学分野における基盤的研究の深化とこれら分野間の連携・融合のさらなる強化を図り、医学・歯学・薬学・保健学分野の枠組みを超えて展開するために「医系科学研究科」を組織する。

「医系科学研究科」には、研究能力に裏打ちされ、かつ医療系の幅広い知識と学識を有した高度専門医療人としての指導的臨床能力を優した医師、歯科医師、薬剤師又はこれらの枠を超えた先端的生命科学研究に精通した人材を養成することを目的とする「医歯薬学専攻（博士課程）」とQOL向上や健康寿命の延伸に貢献し、多職種連携、地域包括ケアなど新たな医療提供体制において重要な役割を担う健康科学に係る人材を養成することを目的とする「総合健康科学専攻（博士課程前期及び博士課程後期）」の2専攻を置く。

「医系科学研究科」では、上記の課題や社会的要請に応えるために、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を養成するとともに、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材を養成する。そのため、大学院共通科目や研究科共通科目、専攻共通科目を履修させる。

新設する「総合生命科学研究科」との分野横断型のプログラムである「生命医療科学プログラム」を創設し、医系領域のみならず複合領域や新しい領域で活躍できる人材を養成する。

また、専攻の整理の中で、従来の保健学専攻と口腔健康科学専攻については、教育内容に共通性があることや、今後の医療提供体制においてそれら2つの分野が垣根を越えて協働することが重要であることから、保健科学プログラムとしてまとめる。

4. 広島大学大学院の3つのポリシー（博士課程）

(1) ディプロマ・ポリシー

広島大学大学院では、新しい平和科学、すなわち「持続可能な発展を導く科学」の創生と、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献する人材の育成を教育目標とし、次の方針に従って当該学位を授与する。

以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、博士の学位を授与する。

- ① 専門分野における卓越した専門知識と研究力を有している。
- ② 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない学際的かつ国際的な視野を有している。
- ③ 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と柔軟な複眼的思考力に裏打ちされた卓越した課題発見能力を有している。
- ④ 多分野の専門家で構成されるチームのリーダーとして社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- ⑤ 博士学位取得者としての使命を自覚し、極めて高い倫理観を有している。

(2) カリキュラム・ポリシー

広島大学大学院では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

学生が自分の専門以外の分野に触れる機会を増やし、広い範囲から研究テーマを見つけ、また研究テーマの変更や進路の選択が柔軟に行えるような環境、さらに、学生が社会とのつながりを意識し、開かれた問題意識を持ち、新たな発想ができるような環境を提供するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ① それぞれの専門分野で必要な卓越した専門的知識と研究能力の獲得を促すため、専攻分野に関連する専門科目を体系的に提供する。
- ② 研究科や専門領域を超えた学際的かつ国際的な視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるための科目やキャリアパスを拡げるための科目を大学院共通科目として開設する。
- ③ 人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学のそれぞれの分野において共通基盤となる能力を涵養するため、研究科共通科目を開設する。
- ④ 主として専攻する領域以外の授業科目の履修を必修とする。また、専門領域の異なるゼミの履修や研究指導を受けることにより修得した単位を、修了要件とすることができる。
- ⑤ 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。
- ⑥ 異なる分野の専門家がチームとして取り組む研究プロジェクトへ参加することにより、修了要件とすることができる単位を修得できる。

(3) アドミッション・ポリシー

広島大学大学院では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を期待する。

- ① 広島大学の理念に共感し、現在の人類社会が抱える課題又は今後抱えるかもしれない課題に、自らの教養、知識、能力及び行動力によりチャレンジすることにより、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人
- ② 幅広い教養と共に、人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学のそれぞれの分野における高度な知識と研究能力を身に付け、多角的視点から「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人、又は学問での研鑽の成果を還元することにより社会に貢献したいという志を持つ人
- ③ 世界中から好奇心にあふれる若者や学び直しの社会人が集う、世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスで、多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付け、持続可能な共生社会を実現しようとする意欲を持つ人

5. 医系科学研究科の3つのポリシー（博士課程）

医学・歯学・薬学・保健学の4分野における基盤的研究の深化と分野間の連携・融合を図り、生命医科学の急速な進歩と医療技術の高度化に迅速に対応する先端的な教育研究を推進することにより、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を育成する。また、旧来の学問分野の枠組みを超えて、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材の育成を目的とする。

(1) ディプロマ・ポリシー

医系科学研究科では、教育上の目的に沿った人材の育成を目標とし、次の方針に従って当該学位を授与する。

以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、研究テーマ及び専門領域に応じて「博士（医学）、博士（歯学）、博士（薬学）、博士（薬科学）、博士（看護学）、博士（保健学）、博士（口腔健康科学）、博士（医科学）、博士（歯科学）、博士（学術）」のいずれかの学位を授与する。

- ① 専門分野における卓越した専門知識と高度な研究力を有している。
- ② 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない学際的かつ国際的な視野を有している。
- ③ 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と柔軟な複眼的思考力に裏打ちされた卓越した課題発見能力を有している。
- ④ 学際的・国際的なコミュニケーション能力を有し、多分野の専門家で構成されるチームのリーダーとして社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- ⑤ 博士学位取得者としての使命を自覚し、極めて高い倫理観を有している。

(2) カリキュラム・ポリシー

医系科学研究科では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

学生が自分の専門以外の分野に触れる機会を増やし、広い範囲から研究テーマを見つけ、また研究テーマの変更や進路の選択が柔軟に行えるような環境、さらに、学生が社会とのつながりを意識し、開かれた問題意識を持ち、新たな発想ができるような環境を提供するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ① それぞれの専門分野に必要な卓越した専門的知識と高度な研究能力の獲得を促すため、専攻分野に関連する専門科目を体系的に提供する。
- ② 研究科や専門領域を超えた学際的かつ国際的な視野と社会への関心や問題意識を涵養し、「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるための科目やキャリアパスを拡げるための科目を大学院共通科目として開設する。
- ③ 医系科学分野において共通基盤となる能力を涵養するため、生命・医療倫理及び多職種連携に関する科目を必修とした研究科共通科目を開設する。
- ④ 主として専攻する領域以外の授業科目の履修を必修とする。また、専門領域の異なるゼミの履修や研究指導を受けることにより修得した単位を、修了要件とすることができる。
- ⑤ 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。
- ⑥ 異なる分野の専門家がチームとして取り組む研究プロジェクトへ参加することにより、修了要件とすることができる単位を修得できる。

(3) アドミッション・ポリシー

医系科学研究科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を期待する。

- ① 広島大学の理念に共感し、現在の人類社会が抱える課題又は今後抱えるかもしれない課題に、自らの教養、医学・歯学・薬学・保健学における卓越した知識、高度な能力及び行動力によりチャレンジすることで、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人
- ② 幅広い教養と共に、狭い専門領域にとらわれない学際的かつ国際的な視野と医学・歯学・薬学・保健学における卓越した知識と高度な研究能力を身に付け、多角的視点から「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人、又は学問での研鑽の成果を還元することにより地域や国際社会に貢献したいという志を持つ人
- ③ 世界中から好奇心にあふれる若者や学び直しの社会人が集う、世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスで、多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付け、持続可能な共生社会を実現しようとする意欲を持つ人

6. 放射線医学専門プログラムの目的（博士課程）

安全な原子力・放射線利用を支える高度放射線専門医及び放射線安全・防護の研究者・専門家は、現状では絶対的に不足しており、その養成が以前にも増して緊急の課題となっている。しかし、このような人材を養成できる機関は、我が国のみならず世界的にも不足している。我が国では、大学での放射線基礎医学関連講座は減少し教育・研究基盤の喪失が起きているが、同様な事態は欧米諸国でも認められる。

そのため、国際レベルで放射線医学の体系的な大学院教育が実施できる機関が必要である。これまで、医歯薬保健学研究科では、医歯薬学専攻の中に独立した放射線医学専門プログラムを置き、本学の原爆放射線医学研究所（以下、「原医研」という。）が大学院教育に参加することで原医研に蓄積している世界的にも貴重な研究資産を大学院教育に活用し、高度な研究を通じた特徴ある放射線障害医学の大学院教育を実施してきた。

医系科学研究科においても、放射線医学専門プログラムを継続して設置し、臨床放射線医学の教員と原医研の教員が協力することで放射線生物学を基盤とする放射線影響学や放射線障害医学及び放射線リスク学から臨床放射線医学までの教育を体系的かつ包括的に実施する。本大学院教育は、世界唯一といえる体系的な放射線医学の教育であり、被爆地ヒロシマにある広島大学に蓄積した放射線障害の研究資産と教育・研究組織によって可能になるものである。

したがって、放射線分野の人材養成における世界の期待に応えるもので、国際的な観点からも放射線医学専門プログラムを置くことは重要である。

7. 放射線医学専門プログラムの3つのポリシー（博士課程）

(1) ディプロマ・ポリシー

放射線の人体影響に関する基礎的研究から臨床放射線医学までの先進的、かつ体系的な教育・研究を実施し、地域社会から国際社会まで広く展開できる能力を身に付け、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、博士（医学）又は博士（学術）の学位を授与する。

(2) カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

- ① カリキュラムは講義、特別演習及び特別研究から構成する。
- ② 生命・医療倫理に関する科目を必修とし、豊かな人間性を涵養する。
- ③ 放射線医学分野の研究に必要な幅広い専門知識の修得を可能とするオムニバス講義科目を共通科目として設定する。
- ④ 放射線医学分野における高度な専門知識と研究能力を修得するためプログラム専門科目を設定する。

(3) アドミッション・ポリシー

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、次のような学生の入学を期待する。

- ① 放射線医学分野の基礎・臨床の先端研究に取り組みたい人
- ② 医学・歯学・薬学の既存の枠組みを越えて幅広く生命科学、放射線医学の基礎・臨床を学びたい人
- ③ 高度先進医療に取り組みたい人
- ④ 放射線医学分野の高度専門知識を学び、国際的に活躍したい人
- ⑤ 社会人として医療系分野でのキャリアアップを図り、地域医療に貢献したい人

II 教育課程編成の考え方・特色

1. 研究科の教育課程編成の考え方

医系科学研究科では、医学・歯学・薬学・保健学の4専門分野の教育・研究のさらなる深化とともに、急速な進歩を続ける生命・生物系領域や健康を取り巻く社会経済的な背景となる人文社会科学系領域を理解することによって、全てのライフステージに対応し、健康寿命を延伸させる新しい健康・医療・介護システムを構築するための人材を育成するために、既存の医歯薬保健学研究科における教育・研究のさらなる融合とともに他の研究分野との横断的なプログラムの提供できる編成とする。そのために、

- 1) 高度専門医療人を養成するための専門プログラムを充実させる。
- 2) 複合領域や新しい領域で活躍できる人材を養成することを目的として、大学院共通科目、研究科共通科目、専攻共通科目を履修させる。
- 3) 生命科学分野と融合した分野横断型のプログラムである「生命医療科学プログラム」を創設する。
- 4) 教育内容に共通性があり今後の医療提供体制において協働することが重要であることから、保健学分野と口腔健康科学分野を包含する保健科学プログラムを設置する。

これらの編成により、大学院生は、所属する学位プログラムで深い専門性を身に付けるだけでなく、分野を超えた教員の講義を受講することが可能となり幅広い知識を修得することが可能となる。

また、本研究科の研究指導は、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制としており、専門分野の異なる副指導教員が参画している研究プロジェクトに、学生が参加した場合については、当該研究プロジェクトに従事した時間数を、研究指導の授業時間として扱うことにより、学生は専門分野だけでなく、幅広い視野を身に付けることが可能となる。

2. 大学院共通科目の特色（博士課程）
 広島大学大学院のディプロマ・ポリシーに従い、広い視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるために、さらに、社会のさまざまな課題に対応するための実践的な力を身に付けるために開設する。
 そのために、次の2つのカテゴリーの大学院共通科目を開設し、学生は、各カテゴリーから、それぞれ1単位以上を選択し、履修する。
- (1) 持続可能な発展科目
 国際的目標である「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals: SDGs)を理解し、社会のさまざまな課題を解決する能力を身に付けさせる。
 - (2) キャリア開発・データリテラシー科目
 現代社会の課題に具体的に取り組み、また、これからの時代に必須であるIT関連の知識・技術を使うことができる能力を身に付けさせる。
 なお、長期インターンシップについては、学生の希望を踏まえ、大学が、国内外の民間企業、公的機関、非営利団体などから受入先候補を選び、学生とのマッチングを行い派遣先を決定する。
3. 研究科共通科目の特色（博士課程）
 研究科共通科目は、研究科のディプロマ・ポリシーに従い、医系科学分野において共通基盤となる能力を涵養するため4単位以上を履修することとし、うち「生命・医療倫理学B」及び「多職種連携B」の2単位を必修としている。
- ① 生命・医療倫理学B
 - ② 研究方法論B
 - ③ アドバンスド生命科学コースワーク
 - ④ バイオメディカルサイエンスの創生展開
 - ⑤ 生体工学イノベーションB
 - ⑥ 多職種連携B
4. 医歯薬学専攻の共通科目の特色（博士課程）
 専攻共通科目は、複合領域や新しい領域で活躍できる能力を身に付ける科目である。
 学生は、学んできたバックグラウンドが異なるため、指導教員と相談の上、2単位以上を選択し、履修する。
- ① 臨床腫瘍学
 - ② 放射線統合医科学
 - ③ 薬物治療学
 - ④ がん診療各論
 - ⑤ 死因究明学
5. 放射線医科学専門プログラムの特色（博士課程）
 本プログラムは、講義、特別演習、特別研究で構成し、放射線医科学分野における高度専門知識と研究能力を修得する上で必要となる専門科目を設けている。
 研究科共通科目では、高い倫理性を持たせるための科目として「生命・医療倫理学B」を必修とし、さらに、高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を育成するため、多職種との連携について理解を深める科目として「多職種連携B」を必修としている。
6. 学位プログラムの選択
 学位プログラムの選択は、入学者選抜において、学位プログラムごとに募集人員を設けて実施する。
7. 学位の名称
 放射線ゲノム疾患学、放射線治療学、緊急被ばく医療開発学等の放射線医科学分野における研究を主な研究対象とするとともに、生命科学分野における幅広い分野の研究や学際的な研究も対象とした教育課程であることから、放射線医科学専門プログラムで授与する学位は、「博士(医学)」(Doctor of Philosophy in Medical Science)又は「博士(学術)」(Doctor of Philosophy)とする。
 なお、放射線医科学専門プログラムを修了する学生の大多数が医学部医学科卒業者であり、医学専門プログラム修了者と同等の能力・資格を有していると言えるため、「医科学」や「放射線医学」ではなく「医学」という学位名称を用いる。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。	1学年の学期区分	2学期(4ターム)
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分
修了要件単位数：30単位 (1) 大学院共通科目：2単位以上(持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修) (2) 研究科共通科目：4単位以上(ただし、生命・医療倫理学B及び多職種連携Bを必修) (3) 専攻共通科目：2単位以上 (4) プログラム専門科目：22単位以上(特別研究を除く授業科目から10単位以上、特別研究から12単位以上)		

教育課程等の概要(事前伺い)

(総合健康科学専攻 博士課程前期)

科目区分	授業科目	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える	1・2③		1		○								兼5	オムニバス
		Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace	1・2③		1		○								兼7	オムニバス
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2④		1		○			2					兼4	オムニバス
		SDGsへの学問的アプローチA	1・2①		1		○			2	1				兼5	オムニバス・共同(一部)
		SDGsへの学問的アプローチB	1・2③		1		○								兼7	オムニバス
		ダイバーシティの理解	1・2②		1		○								兼4	集中・オムニバス・共同(一部)
	キャリア開発・データリテラシー科目	データリテラシー	1・2①		1		○								兼2	オムニバス
		医療情報リテラシー	1・2③		1		○			6	1				兼2	オムニバス・共同(一部)
		人文社会系キャリアマネジメント	1・2②③		2		○								兼1	
		理工系キャリアマネジメント	1・2②		2		○								兼1	
		ストレスマネジメント	1・2③		2		○								兼1	
	小計(11科目)	-	0	14	0				7	2	0	0	0	兼3⑥	-	
研究科共通科目	生命・医療倫理学A	1①	1			○			5	1	1			兼1	オムニバス	
	研究方法論A	1①		1		○			5	3				兼1	オムニバス・共同(一部)	
	スタートアップ生命科学コースワーク	1①		1				○		1						
	生体医工学イノベーションA	1①		1		○			1					兼6	オムニバス	
	多職種連携A	1①	1			○			8						オムニバス	
	医学統計パッケージ演習	1③		1			○		1			2			集中	
	小計(6科目)	-	2	4	0				20	5	1	2	0	兼8	-	
専攻共通科目	生命医療科学論	1①		1		○			8	1					オムニバス・共同(一部)	
	栄養学	1③		1		○			3	2				兼3	オムニバス	
	健康生活科学	1③		1		○			1					兼8	オムニバス・共同(一部)	
	予防医学・健康指導特論A	1①		1		○			3	2	1	1			オムニバス	
	予防医学・健康指導特論B	1③		1		○			4	2		1			オムニバス	
	Health Communication and Health Promotion	1③		1		○			1	1					共同	
	Research Methodology in Health Science	1①		1		○			1	1					共同	
	小計(7科目)	-	0	7	0				14	8	1	1	0	兼1①	-	
プログラム専門科目	保健科学特論Ⅰ(調査研究)	1前		2		○			7						オムニバス	
	保健科学特論Ⅱ(質的研究)	1後		2		○			7						オムニバス	
	保健科学特論Ⅲ(実験研究)	1前		2		○			7						オムニバス	
	Epidemiology and Disease Prevention	1前		2		○			1	1					共同	
	Statistics in Health Science	1後		2		○			1						共同	
	Global Health Challenges and Solutions I	1後		2		○			1	1					共同	
	健康推進科学特論	1後		2		○			1							
	健康情報学特論	1前		2		○			1					兼1	共同	
	基礎看護方法学特論	1前		2		○			1							
	助産・母性看護方法学特論	2前		2		○			1					兼2	オムニバス	
	小児看護方法学特論	1後		2		○			1		1					
	成人看護方法学特論	1前		2		○			1							
	成人健康学特論	1前		2		○			1		1					
	老年・がん看護方法学特論	1前		2		○			1							
	精神保健看護方法学特論	1前		2		○			1							
	地域・在宅看護方法学特論	1前		2		○			1							
	地域・学校看護方法学特論	1前		2		○			1							
	健康情報学解析特論	1前		2		○			1							
	看護学教育特論	1後		2		○			1							
	健康推進科学特別演習	1前・後		2				○	1						兼1	
	健康情報学特別演習	1前・後		2				○	1							
	基礎看護方法学特別演習	1前・後		2				○	1							
	助産・母性看護方法学特別演習	1前・後		2				○	1						兼1	共同
	小児看護方法学特別演習	1前・後		2				○	1		1					共同
	成人看護方法学特別演習	1前・後		2				○	1							
	成人健康学特別演習	1前・後		2				○	1							
老年・がん看護方法学特別演習	1前・後		2				○	1								
精神保健看護方法学特別演習	1前・後		2				○	1								
地域・在宅看護方法学特別演習	1前・後		2				○	1		1					共同	

教育課程等の概要(事前伺い)															
(総合健康科学専攻 博士課程前期 保健科学プログラム)															
科目区分	授業科目	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える	1・2③	1		○								兼5	オムニバス
		Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace	1・2③	1		○								兼7	オムニバス
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2④	1		○			2					兼4	オムニバス
		SDGsへの学問的アプローチA	1・2①	1		○			2	1				兼5	オムニバス・共同(一部)
		SDGsへの学問的アプローチB	1・2③	1		○								兼7	オムニバス
		ダイバーシティの理解	1・2②	1		○								兼4	オムニバス・共同(一部)
		キャリア開発・キャリア開発科目	データリテラシー	1・2①	1		○			6	1				兼2
	医療情報リテラシー	1・2③	1		○								兼2	オムニバス・共同(一部)	
	人文社会系キャリアマネジメント	1・2②③	2		○								兼1		
	理工系キャリアマネジメント	1・2②	2		○								兼1		
	ストレスマネジメント	1・2③	2		○								兼1		
	小計(11科目)	-	0	14	0	-	-	7	2	0	0	0	兼36	-	
研究科共通科目	生命・医療倫理学A	1①	1			○		5	1	1			兼1	オムニバス	
	研究方法論A	1①	1			○		5	3				兼1	オムニバス・共同(一部)	
	スタートアップ生命科学コースワーク	1①	1				○		1						
	生体医工学イノベーションA	1①	1			○		1					兼6	オムニバス	
	多職種連携A	1①	1			○		8						オムニバス	
	医学統計パッケージ演習	1③	1				○	1			2			集中	
	小計(6科目)	-	2	4	0	-	-	20	5	1	2	0	兼8	-	
専攻共通科目	生命医療科学論	1①	1			○		8	1						
	栄養学	1③	1			○		3	2				兼3	オムニバス	
	健康生活科学	1③	1			○		1					兼8	オムニバス・共同(一部)	
	予防医学・健康指導特論A	1①	1			○		3	2	1	1			オムニバス	
	予防医学・健康指導特論B	1③	1			○		4	2		1			オムニバス	
	Health Communication and Health Promotion	1③	1			○		1	1					共同	
	Research Methodology in Health Science	1①	1			○		1	1					共同	
	小計(7科目)	-	0	7	0	-	-	14	8	1	1	0	兼11	-	
プログラム専門科目	専門共通	保健科学特論Ⅰ(調査研究)	1前		2		○		7						オムニバス
		保健科学特論Ⅱ(質的研究)	1後		2		○		7						オムニバス
		保健科学特論Ⅲ(実験研究)	1前		2		○		7						オムニバス
		Epidemiology and Disease Prevention	1前		2		○		1	1					共同
		Statistics in Health Science	1後		2		○		1						
		Global Health Challenges and Solutions I	1後		2		○		1	1					共同
		看護学領域	健康推進科学特論	1後		2		○		1					
	健康情報学特論		1前		2		○		1					兼1	共同
	基礎看護方法学特論		1前		2		○		1						
	助産・母性看護方法学特論		2前		2		○		1					兼2	オムニバス
	小児看護方法学特論		1後		2		○		1		1				
	成人看護方法学特論		1前		2		○		1						
	成人健康学特論		1前		2		○		1		1				
	老年・がん看護方法学特論		1前		2		○		1						
	精神保健看護方法学特論		1前		2		○		1						
	地域・在宅看護方法学特論		1前		2		○		1						
	地域・学校看護方法学特論		1前		2		○		1						
	健康情報学解析特論		1前		2		○		1						
	看護学教育特論		1後		2		○		1						
	健康推進科学特別演習		1前・後		2			○	1						
	健康情報学特別演習		1前・後		2			○	1					兼1	
	基礎看護方法学特別演習		1前・後		2			○	1						
	助産・母性看護方法学特別演習		1前・後		2			○	1					兼1	共同
	小児看護方法学特別演習		1前・後		2			○	1		1				共同
	成人看護方法学特別演習		1前・後		2			○	1						
	成人健康学特別演習		1前・後		2			○	1						
	老年・がん看護方法学特別演習	1前・後		2			○	1							
精神保健看護方法学特別演習	1前・後		2			○	1								
地域・在宅看護方法学特別演習	1前・後		2			○	1		1				共同		

プログラム専門科目	看護学領域	地域・学校看護方法学特別演習	1前・後	2	○	1	1	共同	
		健康推進科学特別研究	1～2	10	○	1			
		健康情報学特別研究	1～2	10	○	1			
		基礎看護方法学特別研究	1～2	10	○	1			
		助産・母性看護方法学特別研究	1～2	10	○	1			
		小児看護方法学特別研究	1～2	10	○	1			
		成人看護方法学特別研究	1～2	10	○	1			
		成人健康学特別研究	1～2	10	○	1			
		老年・がん看護方法学特別研究	1～2	10	○	1			
		精神保健看護方法学特別研究	1～2	10	○	1			
		地域・在宅看護方法学特別研究	1～2	10	○	1			
		地域・学校看護方法学特別研究	1～2	10	○	1			
		看護理論	1後	2	○	2		兼2 共同	
		看護研究	1前	2	○	2	1	兼3 共同	
		看護倫理	1前	2	○	2		兼2 共同	
		コンサルテーション論	2前	2	○	2		兼1 共同	
		臨床薬理学	1後	2	○	2		兼1 共同	
		フィジカルアセスメント	1前	2	○	1			
		病態生理学	1前	2	○	2		共同	
		がん看護学特論1	1前	2	○	2		共同	
		がん看護学特論2	1前	2	○	1	1	共同	
		がん看護学特論3	1前	2	○	1	1	共同	
		がん看護学特論4	1前	2	○	1	1	共同	
		がん看護学特論5	1後	2	○	1			
		がん看護学演習1	1通	2	○	1			
		がん看護学演習2	1後	2	○	1	1	1	共同
		がん看護学実習1	1後	2		○	1		
		がん看護学実習2	1後	2		○	1	1	共同
		がん看護学実習3	1後	2		○	1	1	共同
		がん看護学実習4	1前	2		○	1		
		がん看護学実習5	1後	2		○	1	1	共同
		がん看護学課題研究	2通	2	○	1	1	1	共同
		慢性疾患ケア看護学特論1	1前	2	○	1	1		兼1 共同
		慢性疾患ケア看護学特論2	1前	2	○	1	1		
		慢性疾患ケア看護学特論3	1後	2	○	1			兼1 共同
		慢性疾患ケア看護学特論4	1後	2	○	1			兼4 共同
		慢性疾患ケア看護学特論5	2前	2	○	2		1	共同
		慢性疾患ケア看護学演習1	1後	2		○	1	1	共同
		慢性疾患ケア看護学演習2	2前	2		○	1	1	共同
		慢性疾患ケア看護学実習1	1後	2		○	1	1	共同
		慢性疾患ケア看護学実習2	2前	2		○	1		
		慢性疾患ケア看護学実習3	2前	2		○	1		
		慢性疾患ケア看護学実習4	2後	2		○	1	1	共同
慢性疾患ケア看護学実習5	2後	2		○	1	1	共同		
慢性疾患ケア看護学課題研究	2通	2	○	1	1	1	共同		
健康情報学教育演習	1通	1	○	1					
健康開発科学教育演習	1通	1	○	1					
基礎看護方法学教育演習	1通	1	○	1					
助産・母性看護方法学教育演習	1通	1	○	1					
小児看護方法学教育演習	1通	1	○	1					
成人健康学教育演習	1通	1	○	1					
成人看護方法学教育演習	1通	1	○	1					
精神保健看護方法学教育演習	1通	1	○	1					
地域・在宅看護方法学教育演習	1通	1	○	1					
地域・学校看護方法学教育演習	1通	1	○	1					
老年・がん看護方法学教育演習	1通	1	○	1					
健康情報学臨地教育実習	1通	1		○	1				
健康開発科学臨地教育実習	1通	1		○	1				
基礎看護方法学臨地教育実習	1通	1		○	1				
助産・母性看護方法学臨地教育実習	1通	1		○	1				
小児看護方法学臨地教育実習	1通	1		○	1				
成人健康学臨地教育実習	1通	1		○	1				
成人看護方法学臨地教育実習	1通	1		○	1				
精神保健看護方法学臨地教育実習	1通	1		○	1				
地域・在宅看護方法学臨地教育実習	1通	1		○	1				
地域・学校看護方法学臨地教育実習	1通	1		○	1				
老年・がん看護方法学臨地教育実習	1通	1		○	1				

看護学領域	健康情報学総合臨地教育実習	1通	1			○	1												
	健康開発科学総合臨地教育実習	1通	1			○	1												
	基礎看護方法学総合臨地教育実習	1通	1			○	1												
	助産・母性看護方法学総合臨地教育実習	1通	1			○	1												
	小児看護方法学総合臨地教育実習	1通	1			○	1												
	成人健康学総合臨地教育実習	1通	1			○	1												
	成人看護方法学総合臨地教育実習	1通	1			○	1												
	精神保健看護方法学総合臨地教育実習	1通	1			○	1												
	地域・在宅看護方法学総合臨地教育実習	1通	1			○	1												
	地域・学校看護方法学総合臨地教育実習	1通	1			○	1												
	老年・がん看護方法学総合臨地教育実習	1通	1			○	1												
	保健学領域	生体構造学特論	1前	2			○	1											
		スポーツリハビリテーション学特論	1前	2			○	1			1								共同
生体運動・動作解析学特論		1前	2			○	1			1									共同
生体機能解析制御科学特論		1前	2			○	1	1											兼1 共同
運動器機能医科学特論		1前	2			○	1			1									共同
生体環境適応科学特論		1前	2			○	1												
生理機能情報科学特論		1前	2			○	1												
作業行動探索科学特論		1前	2			○	1					1							兼1 共同
作業機能制御科学特論		1前	2			○	1												
上肢機能解析制御科学特論		1前	2			○	1					1							共同
精神機能制御科学特論		1前	2			○	1												
感覚運動神経科学特論		1前	2			○	1												
生体構造学特別演習		1前・後	2			○	1												
スポーツリハビリテーション学特別演習		1前・後	2			○	1					1							
生体運動・動作解析学特別演習		1前・後	2			○	1					1							
生体機能解析制御科学特別演習		1前・後	2			○	1	1											
運動器機能医科学特別演習		1前・後	2			○	1					1							共同
生体環境適応科学特別演習		1前・後	2			○	1												
生理機能情報科学特別演習		1前・後	2			○	1												
作業行動探索科学特別演習		1前・後	2			○	1					1							共同
作業機能制御科学特別演習		1前・後	2			○	1												
上肢機能解析制御科学特別演習		1前・後	2			○	1												
精神機能制御科学特別演習		1前・後	2			○	1												
感覚運動神経科学特別演習		1前・後	2			○	1						1						共同
生体構造学特別研究		1～2	10			○	1												
スポーツリハビリテーション学特別研究		1～2	10			○	1					1	1						兼1
生体運動・動作解析学特別研究	1～2	10			○	1					1								
生体機能解析制御科学特別研究	1～2	10			○	1													
運動器機能医科学特別研究	1～2	10			○	1						1							
生体環境適応科学特別研究	1～2	10			○	1													
生理機能情報科学特別研究	1～2	10			○	1													
作業行動探索科学特別研究	1～2	10			○	1													
作業機能制御科学特別研究	1～2	10			○	1													
上肢機能解析制御科学特別研究	1～2	10			○	1													
精神機能制御科学特別研究	1～2	10			○	1													
感覚運動神経科学特別研究	1～2	10			○	1							1						
口腔健康科学領域	口腔健康科学特論	1前	2			○	5											兼4	
	口腔インプラント工学特論	1前・後	2			○	1											オムニバス	
	機能修復工学特論	1前・後	2			○				1									
	口腔衛生管理学特論	1前・後	2			○					1								
	口腔衛生教育学特論	1前・後	2			○				1									
	学校健康教育学特論	1前・後	2			○							1						
	歯科衛生士教育学特論	1前・後	2			○				1									
	口腔工学特論	1前・後	2			○				1									
	口腔保健学研究特論	1前・後	2			○							1						
	情報システム工学特論	1前・後	2			○				1									
	探索口腔科学特論	1前・後	2			○								1					
	生体構造学特論	1前・後	2			○				1									
	顎口腔発達・機能学特論	1前・後	2			○				1									
	顎口腔発達・機能学演習A	1～2	4			○				1									
	歯科衛生士教育学演習A	1～2	4			○								1					
	口腔保健学研究演習A	1～2	4			○								1					
	生体構造・機能修復学演習A	1～2	4			○					1								
	医療システム工学演習A	1～2	4			○				1									
口腔工学演習A	1～2	4			○				1										
顎口腔発達・機能学演習B	1～2	4			○				1										

I 設置の趣旨・必要性

1. 背景等

平成28年1月に、国連開発計画（UNDP）は持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）として17のグローバル目標を設定し、その中で、あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進することを目標3として挙げている。

我が国では、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針として「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21（第2次））」を平成25年度から適応した。この中で、国民の健康の増進の推進に関する基本的な方向として、①健康寿命の延伸と健康格差の縮小、②生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、③社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上、④健康を支え、守るための社会環境の整備、⑤栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善を挙げている。これらの基本的な方向を実現するため、栄養・食生活など各分野に関する生活習慣の改善が重要であり、ライフステージや性差、社会経済的状况等の違いに着目し、生活習慣病を発症する危険度の高い集団などへの働きかけを重点的に行うとともに、地域や職場等を通じた国民への働きかけを進めるとしている。

また、未来投資戦略 2017—Society 5.0の実現に向けた改革の中で、我が国の政策資源を集中投入し、未来投資を促進すべき5つの分野として「健康寿命の延伸」を挙げ、我が国は、グローバルにも突出して高齢化社会をいち早く迎えることとなる一方で、国民皆保険制度や介護保険制度の下でデータが豊富にあることから、健康管理と病気・介護予防、自立支援に軸足を置いた、「新しい健康・医療・介護システム」を構築することにより、健康寿命を更に延伸し、世界に先駆けて生涯現役社会を実現させるとしている。

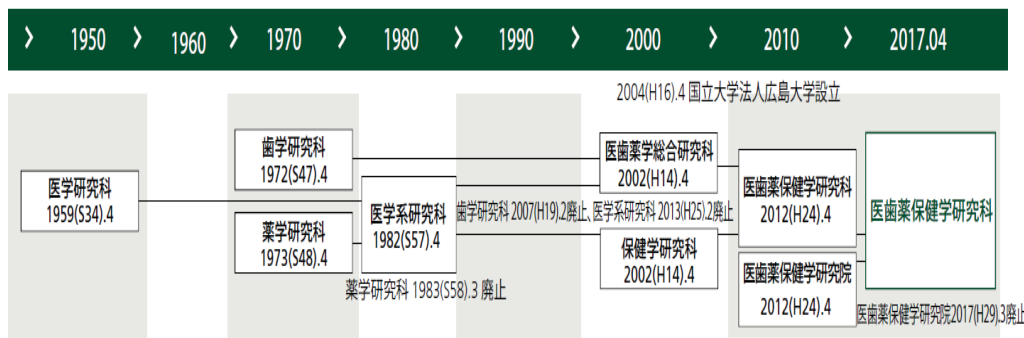
2. 広島大学の現状

平成14年4月から医歯薬学総合研究科と保健学研究科の2研究科で、大学院教育を行ってきたが、医歯薬学総合研究科と保健学研究科の共通目的は「新規医療の開発と高度実践医療の提供」に資する新時代の医学・医療開発研究の展開とそれを担う専門的人材の養成にある。そこで、平成24年4月に、共通の目的を有する2つの研究科を融合した医歯薬保健学研究科を設置した。

医歯薬保健学研究科では、旧来の学問分野の枠組みを超えた新しい領域や複合領域で活躍できる人材養成、学術の高度化・複合化に対応できる研究活動の活性化、新しい知の創造を目指した大規模プロジェクト研究を推進できる組織作りなど、それまでの2研究科では不可能であったより柔軟な教育、研究を展開し、「超高齢社会」に対応する医療、QOL（生活の質）に重点を置いたカスタムメイド医療、患者中心のチーム医療、広島で推進すべき放射線障害に対する医療などの社会的要請に対応してきた。また、医学物理学における幅広い知識を身につけ、医学物理学の基礎的・臨床的研究に取り組むとともに、医学物理士を目指す人材を養成するために、平成24年4月に、歯学科学専攻（修士課程）に医学物理士コースを設置した。

平成27年4月には、科学的根拠に基づく医療を実施できる能力を有する医療従事者や公衆衛生行政の担当者及び研究方法や評価において専門的な知識・技能を修得し、臨床、保健、医療行政の課題解決に取り組む人材の養成を目的として、歯学科学専攻（修士課程）に公衆衛生学（MPH）コースを設置した。

このような体制のもとで、特徴ある様々な未来型医療の創生研究やこれを担う高度専門人材の教育・養成に加え、極めて細分化かつ高度化する新時代の医学・医療に対応するための緊密な学際的・学際教育・研究を展開している。



3. 機能強化と課題

平成14年4月に、生命医科学に関する新たな知の創造を目指す研究とその応用による先進的な医療開発、さらに新たな分野を切り開く高度専門医療人の養成を目指して医歯薬学総合研究科を、「健康管理」、「疾病予防」及び「リハビリテーション」等々人のQOL（生活の質）向上に資することを中心的課題として高度専門医療人の養成を目指して保健学研究科を設置した。

さらに平成24年4月には、超高齢化社会において患者と病気が共存する状態が増加しており、医師・歯科医師による処置や服薬だけでなく、生活指導や運動療法などが一層重要になっている。他方、医療の急速な進歩と医療制度の変化は、看護やリハビリテーションにも大きな影響を及ぼしている。このような社会状況に対応するために、医歯薬学総合研究科と保健学研究科を一つに統合し、医歯薬保健学研究科を設置した。

これらの改編により、医学・歯学・薬学・保健学分野の学生が同一研究科内で教育・研究を展開、発展させることで、より高度な医療人養成や研究の進歩に繋がってきた。

広島大学では、平成29年4月に新長期ビジョン「SPLENDOR (Sustainable Peace Leader Enhancement by Nurturing Development of Research) PLAN 2017」を策定・公表した。このビジョンにおいて、「これまで以上に、人間、社会、文化、食料、環境、自然の持続性に関連する全ての既存の学問領域を包含し、平和の構築に限りなくチャレンジし、働きかける新しい平和科学の理念『持続可能な発展を導く科学』の創生を目指した活動を展開し、100年後にも世界で光り輝く大学としての責務を果たす。」ことを宣言した。また、ビジョンの一つに「『持続可能な発展を導く科学』の骨格を創る基礎分野と、本学の強みである教育学、物性物理、宇宙科学、材料科学、半導体・ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、食料科学などの分野を融合し、より高度な世界的研究へと発展させることを掲げている。また、原爆の惨禍からの復興を支えてきた大学として、放射線障害に係る医療に関する研究拠点を発展させるとともに、再生医療、肝疾患や脳科学の分野を世界的な研究として発展させる。」ことを挙げた。

このように、未来社会の方向性の中で、医学医療や保健学の役割はさらに重要であるが、医系科学はその中核をなす医学・歯学・薬学・保健学といった専門領域のみならず、その基礎となる生命・生物系科学や人文社会科学との連携において、持続可能な発展を導く科学の一分野として役割を果たす必要がある。

そこで、大学院教育においても、医学・歯学・薬学・保健学のさらなる深化とともに、急速な進歩を続ける生命・生物系領域や健康を取り巻く社会経済的な背景となる人文社会科学系領域を理解することによって、全てのライフステージに対応し、健康寿命を延伸させる新しい健康・医療・介護システムを構築するための人材が求められており、既存の研究科における教育のさらなる融合や他の研究科との分野横断的なプログラムの提供が必要となっている。

また、看護学・保健学・口腔健康科学など医療のみならず健康科学に係る人材育成は、上記のように人々のQOL向上や健康寿命の延伸に極めて重要で、未来社会の創造に向かってさらに重要性が増してきた。医療を支えるコメディカル教育は教育内容に共通する部分が多いことに加え、今後、社会で求められる新たな医療提供体制（多職種連携、地域包括ケアなど）にとって、それら三つの分野がさらに垣根を越えて協働することが重要である。

これらの社会からの要請に応えるべき機能強化の必要性や課題をうけて、医学・歯学・薬学・保健学分野における基盤的研究の深化とこれら分野間の連携・融合のさらなる強化を図り、医学・歯学・薬学・保健学分野の枠組みを超えて展開するために「医系科学研究科」を組織する。

「医系科学研究科」には、研究能力に裏打ちされ、かつ医療系の幅広い知識と学識を有した高度専門医療人としての指導的臨床能力を優した医師、歯科医師、薬剤師又はこれらの枠を超えた先端的生命科学研究に精通した人材を養成することを目的とする「医歯薬学専攻（博士課程）」とQOL向上や健康寿命の延伸に貢献し、多職種連携、地域包括ケアなど新たな医療提供体制において重要な役割を担う健康科学に係る人材を養成することを目的とする「総合健康科学専攻（博士課程前期及び博士課程後期）」の2専攻を置く。

「医系科学研究科」では、上記の課題や社会的要請に応えるために、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を養成するとともに、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材を養成する。そのため、大学院共通科目や研究科共通科目、専攻共通科目を履修させる。

新設する「総合生命科学研究科」との分野横断型のプログラムである「生命医療科学プログラム」を創設し、医系領域のみならず複合領域や新しい領域で活躍できる人材を養成する。

また、専攻の整理の中で、従来の保健学専攻と口腔健康科学専攻については、教育内容に共通性があることや、今後の医療提供体制においてそれら2つの分野が垣根を越えて協働することが重要であることから、保健科学プログラムとしてまとめる。

4. 広島大学大学院の3つのポリシー（博士課程前期）

(1) ディプロマ・ポリシー

広島大学大学院では、新しい平和科学、すなわち「持続可能な発展を導く科学」の創生と、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献する人材の育成を教育目標とし、次の方針に従って当該学位を授与する。

以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に、修士の学位を授与する。

- ① 専門分野における高度な知識と研究力を有している。
- ② 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない広い視野を有している。
- ③ 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と複眼的思考力に裏打ちされた課題発見能力を有している。
- ④ 多分野の専門家で構成されるチームの一員として社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- ⑤ 修士学位取得者としての使命を自覚し、高い倫理観を有している。

(2) カリキュラム・ポリシー

広島大学大学院では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

学生が自分の専門以外の分野に触れる機会を増やし、広い範囲から研究テーマを見つけ、また研究テーマの変更や進路の選択が柔軟に行えるような環境、さらに、学生が社会とのつながりを意識し、開かれた問題意識を持ち、新たな発想ができるような環境を提供するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ① それぞれの専門分野に必要な高度な専門的知識と能力の獲得を促すため、専攻分野に関連する専門科目を体系的に提供する。
- ② 研究科や専門領域を超えた広い視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるための科目やキャリアパスを拡げるための科目を大学院共通科目として開設する。
- ③ 人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学のそれぞれの分野において共通基盤となる能力を涵養するため、研究科共通科目を開設する。
- ④ 主として専攻する領域以外の授業科目の履修を必修とする。また、専門領域の異なるゼミの履修や研究指導を受けることにより修得した単位を修了要件とすることができる。
- ⑤ 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。
- ⑥ 異なる分野の専門家がチームとして取り組む研究プロジェクトへ参加することにより、修了要件とすることができる単位を修得できる。

(3) アドミッション・ポリシー

広島大学大学院では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を期待する。

- ① 広島大学の理念に共感し、現在の人類社会が抱える課題又は今後抱えるかもしれない課題に、自らの教養、知識、能力及び行動力によりチャレンジすることにより、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人
- ② 幅広い教養と共に、人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学のそれぞれの分野における高度な知識と研究能力を身に付け、多角的視点から「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人、又は学問での研鑽の成果を還元することにより社会に貢献したいという志を持つ人
- ③ 世界中から好奇心にあふれる若者や学び直しの社会人が集う、世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスで、多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付け、持続可能な共生社会を実現しようとする意欲を持つ人

5. 医系科学研究科の3つのポリシー（博士課程前期）

医学・歯学・薬学・保健学の4分野における基盤的研究の深化と分野間の連携・融合を図り、生命医科学の急速な進歩と医療技術の高度化に迅速に対応する先端的な教育研究を推進することにより、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を育成する。また、旧来の学問分野の枠組みを超えて、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材の育成を目的とする。

(1) ディプロマ・ポリシー

医系科学研究科では、教育上の目的に沿った人材の育成を目標とし、次の方針に従って当該学位を授与する。

以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に、研究テーマ及び専門領域に応じて「修士（医科学）、修士（歯科学）、修士（公衆衛生学）、修士（薬科学）、修士（看護学）、修士（保健学）、修士（口腔健康科学）、修士（学術）」のいずれかの学位を授与する。

- ① 専門分野における高度な知識と研究力を有している。
- ② 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない広い視野を有している。
- ③ 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と複眼的思考力に裏打ちされた課題発見能力を有している。
- ④ 学際的・国際的なコミュニケーション能力を有し、多分野の専門家で構成されるチームの一員として社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- ⑤ 修士学位取得者としての使命を自覚し、高い倫理観を有している。

(2) カリキュラム・ポリシー

医系科学研究科では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

学生が自分の専門以外の分野に触れる機会を増やし、広い範囲から研究テーマを見つけ、また研究テーマの変更や進路の選択が柔軟に行えるような環境、さらに、学生が社会とのつながりを意識し、開かれた問題意識を持ち、新たな発想ができるような環境を提供するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ① それぞれの専門分野で必要な高度な専門的知識と能力の獲得を促すため、専攻分野に関連する専門科目を体系的に提供する。
- ② 研究科や専門領域を超えた広い視野と社会への関心や問題意識を涵養し、「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるための科目やキャリアパスを拓くための科目を大学院共通科目として開設する。
- ③ 医系科学分野において共通基盤となる能力を涵養するため、生命・医療倫理及び多職種連携に関する科目を必修とした研究科共通科目を開設する。
- ④ 主として専攻する領域以外の授業科目の履修を必修とする。また、専門領域の異なるゼミの履修や研究指導を受けることにより修得した単位を修了要件とすることができる。
- ⑤ 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。
- ⑥ 異なる分野の専門家がチームとして取り組む研究プロジェクトへ参加することにより、修了要件とすることができる単位を修得できる。

(3) アドミッション・ポリシー

医系科学研究科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を期待する。

- ① 広島大学の理念に共感し、現在の人類社会が抱える課題又は今後抱えるかもしれない課題に、自らの教養、健康科学における高度な知識、能力及び行動力によりチャレンジすることで、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人
- ② 幅広い教養と共に、狭い専門領域にとらわれない広い視野と健康科学における高度な知識と研究能力を身に付け、「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人、又は学問での研鑽の成果を還元することにより地域や国際社会に貢献したいという志を持つ人
- ③ 世界中から好奇心にあふれる若者や学び直しの社会人が集う、世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスで、多様性に関する理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付け、持続可能な共生社会を実現しようとする意欲を持つ人

6. 保健科学プログラムの目的（博士課程前期）

急速に進行する少子高齢化社会において、社会的ニーズの高まっている高齢者の健康増進を図る上で介護施設、地域に密着した在宅等での高齢者ケアにおいて看護師、理学療法士、作業療法士に対するニーズは高まり、より高度で総合的かつ専門的な知識と実践が求められている。また、特に超高齢社会においてオーラルフレイルティから低栄養に陥ることによる日常生活動作（ADL）の低下や口腔微生物の誤嚥による肺炎など、口腔と全身との関連の重要性が増してきている。しかし口腔ケアが全身ケアに重要な要素であることも認識されつつあるが、口腔ケアと全身ケアを総合的に研究あるいは教育する機関は不十分なのが現状である。

従って今回本学既存の2専攻を統合することで、これまで全国的にも数少ない保健科学プログラムを立ち上げることで、総合的かつ斬新な全身ケアに関する教育・研究を展開するのが設置の趣旨である。

看護学領域（看護学）、リハビリテーション学領域（理学療法学、作業療法学）、口腔健康科学領域（口腔保健学、口腔工学）の教員が協力して幅広い教育体制を構築することで、高度かつ、時代に対応した教育を提供できる。また、各領域独自で海外などの協定校や共同研究施設があるが、それらからの海外留学生の増加や本学からの大学院生の留学、大学院生・教員間の交流・研究が拡大・加速することが期待される。さらに、教員相互の協力・連携を密にすることで、研究分野の拡大と教育負担の軽減が期待される。

学士課程では既に医歯薬保健学研究科全てが関与した多職種連携教育（IPE）を実施しているが、医系科学研究科に保健科学プログラムを設置することで、大学院生参加型のIPEへ発展させる。また、養護教諭専修免許状の授与を受ける所要資格を得られる学生が増加することも期待される。

保健学プログラムでは、従来の学問・研究分野を超えた連携・融合と基盤的研究の深化を図り、高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人の育成を目的としている。看護学領域においては、同じ看護職であっても、多様な看護学教育のニーズに応える人材を養成するため、標準的な看護学の教育課程のほか、専門看護師コース及びキャリア支援コースを置き、専門看護師コースでは、特定の専門看護分野の知識・技術を身に付けることを目指す者を対象に専門看護師（CNS）の人材養成を行う。それぞれの専門分野に応じた授業内容を充実させている。キャリア支援コースでは、実務経験を有する看護職の中で、看護教育や看護研究の力をつけて活動領域を広げたいと思う者を対象とし、看護基礎教育と臨床におけるキャリア支援教育を担うための教育能力及び臨床実践に根差した研究を遂行するための研究能力を高める授業を重点的に履修できるよう配置し、実務経験が豊富ばかりでなく教育力・研究力を有した看護人材を養成する。

口腔健康科学領域においては、歯科衛生士又は歯科技工士について、より高度化した歯科医療の中で歯科医師と連携し、チーム医療を実践できるOral Health Manager及びOral Engineerを高度専門的医療人として養成するとともに、我が国の研究をリードし口腔健康科学の拠点となるべく各分野の高度な研究教育を展開し、国際的に活躍できる人材の養成を目標とする。

また、有資格者だけでなく他学部出身者も対象に、国民の健康の維持増進を目的とし、口腔から全身の健康を維持促進するための口腔健康科学という領域における教育者・研究者を養成する。

7. 保健科学プログラムの3つのポリシー（博士課程前期）

(1) ディプロマ・ポリシー

以下の能力を身に付け、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に、主たる研究テーマ及び専門領域に応じて、修士（看護学）、修士（保健学）又は修士（口腔健康科学）の学位を授与する。

- ① 保健・医療・福祉の各分野における豊かで幅広い学識及び問題解決能力を身に付け、独創性及び未来志向性を有している。
- ② 深い専門知識に基づいて、先進的な保健・医療・福祉の各分野の研究開発及び実践・指導能力を身に付けている。
- ③ 高度専門医療人として必要な能力を身に付けている。

(2) カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

- ① カリキュラムは、講義、演習及び特別研究から構成する。
- ② 生命・医療倫理に関する科目を必修とし、豊かな人間性を涵養する。
- ③ 保健科学や高度先進医療の研究に必要な倫理及び研究法の基礎、さらに幅広い専門知識の修得を可能とするオムニバス講義を共通科目として設定する。
- ④ 専門科目の講義は、包括的な専門知識の修得を可能にするために、分野を超えて実施する。
- ⑤ 各専門科目の演習を充実する。

(3) アドミッション・ポリシー

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、次のような学生の入学を期待する。

- ① 保健科学（看護学・保健学・口腔保健学・口腔工学）における豊かで幅広い学識を身に付けたい人
- ② 社会における複雑化した保健科学（看護学・保健学・口腔保健学・口腔工学）について問題解決能力を身に付けたい人
- ③ 先進的な保健科学（看護学・保健学・口腔保健学・口腔工学）を遂行できる能力を身に付けたい人

II 教育課程編成の考え方・特色

1. 研究科の教育課程編成の考え方

医系科学研究科では、医学・歯学・薬学・保健学の4専門分野の教育・研究のさらなる深化とともに、急速な進歩を続ける生命・生物系領域や健康を取り巻く社会経済的な背景となる人文社会科学系領域を理解することによって、全てのライフステージに対応し、健康寿命を延伸させる新しい健康・医療・介護システムを構築するための人材を育成するために、既存の医歯薬保健学研究科における教育・研究のさらなる融合とともに他の研究分野との横断的なプログラムの提供できる編成とする。そのために、

- 1) 高度専門医療人を養成するための専門プログラムを充実させる。
- 2) 複合領域や新しい領域で活躍できる人材を養成することを目的として、大学院共通科目、研究科共通科目、専攻共通科目を履修させる。
- 3) 生命科学分野と融合した分野横断型のプログラムである「生命医療科学プログラム」を創設する。
- 4) 教育内容に共通性があり今後の医療提供体制において協働することが重要であることから、保健学分野と口腔健康科学分野を包含する保健科学プログラムを設置する。

これらの編成により、大学院生は、所属する学位プログラムで深い専門性を身に付けるだけでなく、分野を超えた教員の講義を受講することが可能となり幅広い知識を修得することが可能となる。

また、本研究科の研究指導は、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制としており、専門分野の異なる副指導教員が参画している研究プロジェクトに、学生が参加した場合については、当該研究プロジェクトに従事した時間数を、研究指導の授業時間として扱うことにより、学生は専門分野だけでなく、幅広い視野を身に付けることが可能となる。

2. 大学院共通科目の特色（博士課程前期）

広島大学大学院のディプロマ・ポリシーに従い、広い視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるために、さらに、最近の社会システムの進展を正しく把握し、現代社会で活躍するための基本的な知識を身に付けるために開設する。

そのために、次の2つのカテゴリーの大学院共通科目を開設し、学生は、各カテゴリーから、それぞれ1単位以上を選択し、履修する。

- (1) 持続可能な発展科目
国際的目標である「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」を理解し、「持続可能な発展を導く科学」を創出する能力を身に付けさせる。
- (2) キャリア開発・データリテラシー科目
最近の社会システムの進展を知り、また、これからの時代に必須であるIT関連の知識を身に付けさせる。

3. 研究科共通科目の特色（博士課程前期）

研究科共通科目は、研究科のディプロマ・ポリシーに従い、医系科学分野において共通基盤となる能力を涵養するため4単位以上を履修することとし、うち「生命・医療倫理学A」及び「多職種連携A」の2単位を必修とする。

- ① 生命・医療倫理学A
- ② 研究方法論A
- ③ スタートアップ生命科学コースワーク
- ④ 生体工学イノベーションA
- ⑤ 多職種連携A
- ⑥ 医学統計パッケージ演習

4. 総合健康科学専攻共通科目の特色（博士課程前期）

専攻共通科目は、複合領域や新しい領域で活躍できる能力を身に付ける科目である。

学生は、学んできたバックグラウンドが異なるため、指導教員と相談の上、2単位以上を選択し、履修する。

- ① 生命医療科学論
- ② 栄養学
- ③ 健康生活科学
- ④ 予防医学・健康指導特論A
- ⑤ 予防医学・健康指導特論B
- ⑥ Health Communication and Health Promotion
- ⑦ Research Methodology in Health Science

5. 保健科学プログラムの特色（博士課程前期）

本プログラムは、講義、演習及び特別研究から構成する。また研究科共通科目である「生命・医療倫理学」を必修科目に位置づけ、保健学のみならず、医学・歯学・薬学の教員によるオムニバス形式の講義により、各専門領域の研究において必要とされる倫理に関する内容を教授することで、高度先進医療の研究に必要な倫理の獲得を目指す。さらに幅広い専門知識の習得を可能とするオムニバス講義を共通科目として複数設定することで幅広い学問を身に付けられる。

専門科目の講義は、看護学、保健学、口腔保健学の包括的な専門知識の習得を可能にするために、プログラム専門科目中の「専門共通」科目を、3領域の学生が選択できるように、分野を超えて実施するとともに、各専門科目の演習を充実することで、更なる上（博士課程後期進学など）を目指した向上心を持った大学院生を育む。

また、4月入学と10月入学の全ての外国人留学生も、標準修業年限内に英語科目のみで全ての必要科目が履修・修了できる。

6. 学位プログラムの選択

学位プログラムの選択は、入学者選抜において、学位プログラムごとに募集人員を設けて実施する。
 総合健康科学専攻博士課程前期では、入学定員を76人として設定し、プログラム毎の受入目安は、保健科学プログラム46人、薬科学プログラム18人、公衆衛生学プログラム5人、医学物理士プログラム2人、生命医療科学プログラム5人を想定している。

各プログラムにおいては、入学希望者は入学試験出願前に必ず研究志望先の教授に連絡を取ることとしており、その際に、指導可能な学生数を超えた場合には、受入を断っている。また、研究内容等を確認し、より相応しい研究室を紹介するなど、一部の教員に過剰な負担がかからないようにしている。

7. 学位の名称

健康開発科学、成人看護開発学、地域・在宅看護開発学等の看護学分野及びスポーツリハビリテーション学、作業行動探索科学、精神機能制御科学等の保健学分野並びに口腔保健学、口腔工学、生体構造・機能修復学等の口腔健康科学分野における研究を主な研究対象とした教育課程であることから、保健科学プログラムで授与する学位は、「修士（看護学）」（Master of Science in Nursing）、「修士（保健学）」（Master of Health Science）又は「修士（口腔健康科学）」（Master of Oral Health Science）とする。

8. 履修モデル

【保健科学プログラム（専門看護師コース及びキャリア支援コースを除く）】

	1年次			
	前期		後期	
	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム
大学院共通科目				
研究科共通科目	生命・医療倫理学A① 多職種連携A① 研究方法論A① 生体工学イノベーションA①			
専攻共通科目	予防医学・健康指導特論A①		健康生活科学①	
プログラム専門科目	保健科学特論Ⅰ（調査研究）②		Statistics in Health Science②	
	精神機能制御科学特論②			
	健康情報学特論②			
			精神機能制御科学特別演習②	
			健康情報学特別演習②	
精神機能制御科学特別研究（2年次に続く）				
	2年次			
	前期		後期	
	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム
大学院共通科目			Hiroshimaから世界平和を考える① 医療情報リテラシー①	
研究科共通科目				
専攻共通科目				
プログラム専門科目	精神機能制御科学特別研究⑩			

【保健科学プログラム（専門看護師コース）】

	1年次			
	前期		後期	
	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム
大学院共通科目				
研究科共通科目	生命・医療倫理学A① 多職種連携A① 研究方法論A① 生体医工学イノベーションA①			
専攻共通科目	予防医学・健康指導特論A①		健康生活科学①	
プログラム 専門科目	看護研究②		看護理論②	
	看護倫理②		臨床薬理学②	
	フィジカルアセスメント②			
	病態生理学②			
	がん看護学特論1②		がん看護学特論5②	
	がん看護学特論2②			
	がん看護学特論3②			
	がん看護学特論4②			
	がん看護学演習1②			
			がん看護学演習2②	
	がん看護学実習4②		がん看護学実習1②	
			がん看護学実習2②	
			がん看護学実習3②	
		がん看護学実習5②		
	2年次			
	前期		後期	
	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム
大学院共通科目		ダイバーシティの理解①	医療情報リテラシー①	
研究科共通科目				
専攻共通科目				
プログラム 専門科目	コンサルテーション論②			
	がん看護学課題研究②			

【保健科学プログラム（キャリア支援コース）】

	1年次			
	前期		後期	
	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム
大学院共通科目				
研究科共通科目	生命・医療倫理学A① 多職種連携A① 生体工学イノベーションA①		医学統計パッケージ演習①	
専攻共通科目	Research Methodology in Health Science①		Health Communication and Health Promotion①	
プログラム 専門科目	保健科学特論Ⅰ（調査研究）②		看護学教育特論②	
	健康情報学解析特論②		看護理論②	
	地域・在宅看護方法学特論②			
	地域・在宅看護方法学特別演習②			
	地域・在宅看護方法学特別研究（2年次に続く）			
	地域・在宅看護方法学教育演習①			
	地域・在宅看護方法学総合臨地教育実習①			
	2年次			
	前期		後期	
	第1ターム	第2ターム	第3ターム	第4ターム
大学院共通科目	SDGs への学問的アプローチA①		ストレスマネジメント①	
研究科共通科目				
専攻共通科目				
プログラム 専門科目	地域・在宅看護方法学特別研究⑩			

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>以下のとおり、修了に必要な単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。</p> <p>修了要件単位数：30単位（ただし、専門看護師コースの場合は48単位、キャリア支援コースの場合は32単位）</p> <p>1. 保健科学プログラム（専門看護師コース及びキャリア支援コースを除く。）</p> <p>(1) 大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修）</p> <p>(2) 研究科共通科目：4単位以上（ただし、生命・医療倫理学A及び多職種連携Aを必修）</p> <p>(3) 専攻共通科目：2単位以上（予防医学・健康指導特論Aを必修）</p> <p>(4) プログラム専門科目：2.2単位以上（専門共通から2単位以上、看護学及び保健学領域の履修者については、特論から2単位以上、特別演習から2単位以上、特別研究から1.0単位、口腔健康科学領域の履修者については、特論から6単位以上、演習から4単位以上、特別研究から1.0単位）</p> <p>2. 保健科学プログラム（専門看護師コース）</p> <p>(1) 大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修）</p> <p>(2) 研究科共通科目：4単位以上（ただし、生命・医療倫理学A及び多職種連携Aを必修）</p> <p>(3) 専攻共通科目：2単位以上（予防医学・健康指導特論Aを必修）</p> <p>(4) プログラム専門科目：看護学領域から4.0単位以上（ただし、「看護理論」、「看護研究」、「看護倫理」、「コンサルテーション論」、「臨床薬理学」、「フィジカルアセスメント」及び「病態生理学」の1.4単位を必修。がん看護学又は慢性疾患ケア看護学の特論、演習、実習、課題研究の2.6単位を必修。）</p> <p>3. 保健科学プログラム（キャリア支援コース）</p> <p>(1) 大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修）</p> <p>(2) 研究科共通科目：4単位以上（ただし、生命・医療倫理学A及び多職種連携Aを必修）</p> <p>(3) 専攻共通科目：2単位以上（ただし、Health Communication and Health Promotion及びResearch Methodology in Health Scienceを必修）</p> <p>(4) プログラム専門科目：2.4単位以上（専門共通から2単位以上、看護学領域から2.2単位以上（ただし、「看護理論」、「看護研究」、「看護倫理」、「コンサルテーション論」、「臨床薬理学」、「フィジカルアセスメント」及び「病態生理学」のうちから2単位を必修。「健康情報学解析特論」及び「看護学教育特論」の4単位を必修。特論から2単位、特別演習から2単位、特別研究から1.0単位、指導教員の指定する教育演習、臨地教育実習、総合臨地教育実習のうちから2単位を必修。）</p>	1学年の学期区分	2学期（4ターム）
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要(事前伺い)

(総合健康科学専攻 博士課程前期 薬科学プログラム)

科目区分	授業科目	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
大学院共通科目	Hiroshimaから世界平和を考える	1・2③		1		○									兼5	オムニバス	
	Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace	1・2③		1		○									兼7	オムニバス	
	Japanese Experience of Human Development- Culture, Education, and Health	1・2④		1		○			2						兼4	オムニバス	
	SDGsへの学問的アプローチA	1・2①		1		○			2	1					兼5	オムニバス・共同(一部)	
	SDGsへの学問的アプローチB	1・2③		1		○									兼7	オムニバス	
	ダイバーシティの理解	1・2②		1		○									兼4	兼中・オムニバス・共同(一部)	
	データリテラシー	1・2①		1		○									兼2	オムニバス	
	医療情報リテラシー	1・2③		1		○			6	1					兼2	オムニバス・共同(一部)	
	人文社会系キャリアマネジメント	1・2②③		2		○									兼1		
	理工系キャリアマネジメント	1・2②		2		○									兼1		
	ストレスマネジメント	1・2③		2		○									兼1		
小計(11科目)	-	-	0	14	0	-	-	-	7	2	0	0	0	兼36	-		
研究科共通科目	生命・医療倫理学A	1①	1			○			5	1	1			兼1	オムニバス		
	研究方法論A	1①		1		○			5	3				兼1	オムニバス・共同(一部)		
	スタートアップ生命科学コースワーク	1①		1				○		1							
	生体工学イノベーションA	1①		1		○			1					兼6	オムニバス		
	多職種連携A	1①	1			○			8						兼1	オムニバス	
	医学統計パッケージ演習	1③		1			○		1			2			兼8	集中	
小計(6科目)	-	-	2	4	0	-	-	-	20	5	1	2	0	兼8	-		
専攻共通科目	生命医療科学論	1①		1		○			8	1						兼1	オムニバス・共同(一部)
	栄養学	1③		1		○			3	2				兼3	オムニバス		
	健康生活科学	1③		1		○			1					兼8	オムニバス・共同(一部)		
	予防医学・健康指導特論A	1①		1		○			3	2	1	1			兼1	オムニバス	
	予防医学・健康指導特論B	1③		1		○			4	2		1			兼1	オムニバス	
	Health Communication and Health Promotion	1③		1		○			1	1					兼1	共同	
	Research Methodology in Health Science	1①		1		○			1	1					兼1	共同	
小計(7科目)	-	-	0	7	0	-	-	-	14	8	1	1	0	兼11	-		
プログラム専門科目	薬科学特論	1①	2			○			4						兼13	オムニバス	
	生薬学特論	1①		2		○			1							隔年	
	薬物治療学特論	1①		2		○			1							隔年	
	創薬合成化学特論	1①		2		○			1							隔年	
	核酸分析化学特論	1②		2		○			1					兼1	隔年・共同		
	医薬分子機能科学特論	1②		2		○			1							隔年	
	生体機能分子動態学特論	1②		2		○			1							隔年	
	細胞再生機構特論	1②		2		○			1							隔年	
	細胞内情報伝達学特論	1③		2		○			1							隔年	
	微生物医薬品開発学特論	1③		2		○			1							隔年	
	薬効解析科学特論	1③		2		○			1							隔年	
	薬物動態解析・制御科学特論	1③		2		○			1							隔年	
	治療薬効学特論	1④		2		○			1							隔年	
	応用薬物治療学特論	1④		2		○			1							隔年	
	漢方診療学特論	1④		2		○			1							隔年	
	未病・予防医学特論	1④		2		○								兼2	隔年・共同		
	English Communication	1④		2		○									兼1		
	生薬学特論演習	1通		4			○		1								
	薬物治療学特論演習	1通		4			○		1								
	創薬合成化学特論演習	1通		4			○		1								
	核酸分析化学特論演習	1通		4			○		1								
	医薬分子機能科学特論演習	1通		4			○		1								
	生体機能分子動態学特論演習	1通		4			○		1								
	生物物理化学特論演習	1通		4			○		1	1		1				共同	
	分子神経毒性学特論演習	1通		4			○		1								
	細胞再生機構特論演習	1通		4			○		1								
細胞内情報伝達学特論演習	1通		4			○		1									
微生物医薬品開発学特論演習	1通		4			○		1									
抗生物質生合成学特論演習	1通		4			○		1									

I 設置の趣旨・必要性

1. 背景等

平成28年1月に、国連開発計画（UNDP）は持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）として17のグローバル目標を設定し、その中で、あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進することを目標3として挙げている。

我が国では、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針として「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21（第2次））」を平成25年度から適応した。この中で、国民の健康の増進の推進に関する基本的な方向として、①健康寿命の延伸と健康格差の縮小、②生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、③社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上、④健康を支え、守るための社会環境の整備、⑤栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善を挙げている。これらの基本的な方向を実現するため、栄養・食生活など各分野に関する生活習慣の改善が重要であり、ライフステージや性差、社会経済的状况等の違いに着目し、生活習慣病を発症する危険度の高い集団などへの働きかけを重点的に行うとともに、地域や職場等を通じた国民への働きかけを進めるとしている。

また、未来投資戦略 2017—Society 5.0の実現に向けた改革の中で、我が国の政策資源を集中投入し、未来投資を促進すべき5つの分野として「健康寿命の延伸」を挙げ、我が国は、グローバルにも突出して高齢化社会をいち早く迎えることとなる一方で、国民皆保険制度や介護保険制度の下でデータが豊富にあることから、健康管理と病気・介護予防、自立支援に軸足を置いた、「新しい健康・医療・介護システム」を構築することにより、健康寿命を更に延伸し、世界に先駆けて生涯現役社会を実現させるとしている。

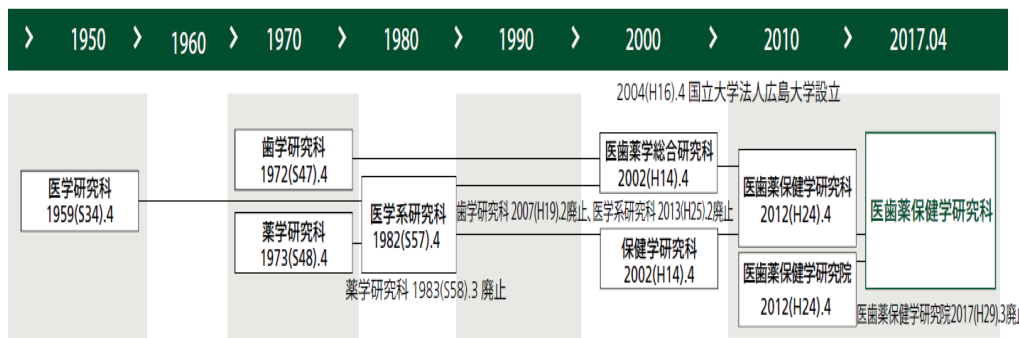
2. 広島大学の現状

平成14年4月から医歯薬学総合研究科と保健学研究科の2研究科で、大学院教育を行ってきたが、医歯薬学総合研究科と保健学研究科の共通目的は「新規医療の開発と高度実践医療の提供」に資する新時代の医学・医療開発研究の展開とそれを担う専門的人材の養成にある。そこで、平成24年4月に、共通の目的を有する2つの研究科を融合した医歯薬保健学研究科を設置した。

医歯薬保健学研究科では、旧来の学問分野の枠組みを超えた新しい領域や複合領域で活躍できる人材養成、学術の高度化・複合化に対応できる研究活動の活性化、新しい知の創造を目指した大規模プロジェクト研究を推進できる組織作りなど、それまでの2研究科では不可能であったより柔軟な教育、研究を展開し、「超高齢社会」に対応する医療、QOL（生活の質）に重点を置いたカスタムメイド医療、患者中心のチーム医療、広島で推進すべき放射線障害に対する医療などの社会的要請に対応してきた。また、医学物理学における幅広い知識を身につけ、医学物理学の基礎的・臨床的研究に取り組むとともに、医学物理士を目指す人材を養成するために、平成24年4月に、歯科学専攻（修士課程）に医学物理士コースを設置した。

平成27年4月には、科学的根拠に基づく医療を実施できる能力を有する医療従事者や公衆衛生行政の担当者及び研究方法や評価において専門的な知識・技能を修得し、臨床、保健、医療行政の課題解決に取り組む人材の養成を目的として、歯科学専攻（修士課程）に公衆衛生学（MPH）コースを設置した。

このような体制のもとで、特徴ある様々な未来型医療の創生研究やこれを担う高度専門人材の教育・養成に加え、極めて細分化かつ高度化する新時代の医学・医療に対応するための緊密な学際的教育・研究を展開している。



3. 機能強化と課題

平成14年4月に、生命医科学に関する新たな知の創造を目指す研究とその応用による先進的な医療開発、さらに新たな分野を切り開く高度専門医療人の養成を目指して医歯薬学総合研究科を、「健康管理」、「疾病予防」及び「リハビリテーション」等々々のQOL（生活の質）向上に資することを中心的課題として高度専門医療人の養成を目指して保健学研究科を設置した。

さらに平成24年4月には、超高齢化社会において患者と病気が共存する状態が増加しており、医師・歯科医師による処置や服薬だけでなく、生活指導や運動療法などが一層重要になっている。他方、医療の急速な進歩と医療制度の変化は、看護やリハビリテーションにも大きな影響を及ぼしている。このような社会状況に対応するために、医歯薬学総合研究科と保健学研究科を一つに統合し、医歯薬保健学研究科を設置した。

これらの改編により、医学・歯学・薬学・保健学分野の学生が同一研究科内で教育・研究を展開、発展させることで、より高度な医療人養成や研究の進歩に繋がってきた。

広島大学では、平成29年4月に新長期ビジョン「SPLENDOR (Sustainable Peace Leader Enhancement by Nurturing Development of Research) PLAN 2017」を策定・公表した。このビジョンにおいて、「これまで以上に、人間、社会、文化、食料、環境、自然の持続性に関連する全ての既存の学問領域を包含し、平和の構築に限りなくチャレンジし、働きかける新しい平和科学の理念『持続可能な発展を導く科学』の創生を目指した活動を展開し、100年後にも世界で光り輝く大学としての責務を果たす。」ことを宣言した。また、ビジョンの一つに「『持続可能な発展を導く科学』の骨格を創る基礎分野と、本学の強みである教育学、物性物理、宇宙科学、材料科学、半導体・ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、食料科学などの分野を融合し、より高度な世界的研究へと発展させることを掲げている。また、原爆の惨禍からの復興を支えてきた大学として、放射線障害に係る医療に関する研究拠点を発展させるとともに、再生医療、肝疾患や脳科学の分野を世界的な研究として発展させる。」ことを挙げた。

このように、未来社会の方向性の中で、医学医療や保健学の役割はさらに重要であるが、医系科学はその中核をなす医学・歯学・薬学・保健学といった専門領域のみならず、その基礎となる生命・生物系科学や人文社会科学との連携において、持続可能な発展を導く科学の一分野として役割を果たす必要がある。

そこで、大学院教育においても、医学・歯学・薬学・保健学のさらなる深化とともに、急速な進歩を続ける生命・生物系領域や健康を取り巻く社会経済的な背景となる人文社会科学系領域を理解することによって、全てのライフステージに対応し、健康寿命を延伸させる新しい健康・医療・介護システムを構築するための人材が求められており、既存の研究科における教育のさらなる融合や他の研究科との分野横断的なプログラムの提供が必要となっている。

また、看護学・保健学・口腔健康科学など医療のみならず健康科学に係る人材育成は、上記のように人々のQOL向上や健康寿命の延伸に極めて重要で、未来社会の創造に向かってさらに重要性が増してきた。医療を支えるメディカル教育は教育内容に共通する部分が多いことに加え、今後、社会で求められる新たな医療提供体制（多職種連携、地域包括ケアなど）にとって、それら三つの分野がさらに垣根を越えて協働することが重要である。

これらの社会からの要請に応えるべき機能強化の必要性や課題をうけて、医学・歯学・薬学・保健学分野における基盤的研究の深化とこれら分野間の連携・融合のさらなる強化を図り、医学・歯学・薬学・保健学分野の枠組みを超えて展開するために「医系科学研究科」を組織する。

「医系科学研究科」には、研究能力に裏打ちされ、かつ医療系の幅広い知識と学識を有した高度専門医療人としての指導的臨床能力を優した医師、歯科医師、薬剤師又はこれらの枠を超えた先端的生命科学研究に精通した人材を養成することを目的とする「医歯薬学専攻（博士課程）」とQOL向上や健康寿命の延伸に貢献し、多職種連携、地域包括ケアなど新たな医療提供体制において重要な役割を担う健康科学に係る人材を養成することを目的とする「総合健康科学専攻（博士課程前期及び博士課程後期）」の2専攻を置く。

「医系科学研究科」では、上記の課題や社会的要請に応えるために、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を養成するとともに、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材を養成する。そのため、大学院共通科目や研究科共通科目、専攻共通科目を履修させる。

新設する「統合生命科学研究科」との分野横断型のプログラムである「生命医療科学プログラム」を創設し、医系領域のみならず複合領域や新しい領域で活躍できる人材を養成する。

また、専攻の整理の中で、従来の保健学専攻と口腔健康科学専攻については、教育内容に共通性があることや、今後の医療提供体制においてそれら2つの分野が垣根を越えて協働することが重要であることから、保健科学プログラムとしてまとめる。

4. 広島大学大学院の3つのポリシー（博士課程前期）

(1) ディプロマ・ポリシー

広島大学大学院では、新しい平和科学、すなわち「持続可能な発展を導く科学」の創生と、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献する人材の育成を教育目標とし、次の方針に従って当該学位を授与する。

以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に、修士の学位を授与する。

- ① 専門分野における高度な知識と研究力を有している。
- ② 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない広い視野を有している。
- ③ 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と複眼的思考力に裏打ちされた課題発見能力を有している。
- ④ 多分野の専門家で構成されるチームの一員として社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- ⑤ 修士学位取得者としての使命を自覚し、高い倫理観を有している。

(2) カリキュラム・ポリシー

広島大学大学院では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

学生が自分の専門以外の分野に触れる機会を増やし、広い範囲から研究テーマを見つけ、また研究テーマの変更や進路の選択が柔軟に行えるような環境、さらに、学生が社会とのつながりを意識し、開かれた問題意識を持ち、新たな発想ができるような環境を提供するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ① それぞれの専門分野で必要な高度な専門的知識と能力の獲得を促すため、専攻分野に関連する専門科目を体系的に提供する。
- ② 研究科や専門領域を超えた広い視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるための科目やキャリアパスを拡げるための科目を大学院共通科目として開設する。
- ③ 人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学のそれぞれの分野において共通基盤となる能力を涵養するため、研究科共通科目を開設する。
- ④ 主として専攻する領域以外の授業科目の履修を必修とします。また、専門領域の異なるゼミの履修や研究指導を受けることにより修得した単位を修了要件とすることができる。
- ⑤ 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。
- ⑥ 異なる分野の専門家がチームとして取り組む研究プロジェクトへ参加することにより、修了要件とすることができる単位を修得できる。

(3) アドミッション・ポリシー

広島大学大学院では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を期待する。

- ① 広島大学の理念に共感し、現在の人類社会が抱える課題又は今後抱えるかもしれない課題に、自らの教養、知識、能力及び行動力によりチャレンジすることにより、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人
- ② 幅広い教養と共に、人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学のそれぞれの分野における高度な知識と研究能力を身に付け、多角的視点から「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人、又は学問での研鑽の成果を還元することにより社会に貢献したいという志を持つ人
- ③ 世界中から好奇心にあふれる若者や学び直しの社会人が集う、世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスで、多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付け、持続可能な共生社会を実現しようとする意欲を持つ人

5. 医系科学研究科の3つのポリシー（博士課程前期）

医学・歯学・薬学・保健学の4分野における基盤的研究の深化と分野間の連携・融合を図り、生命医科学の急速な進歩と医療技術の高度化に迅速に対応する先端的な教育研究を推進することにより、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を育成する。また、旧来の学問分野の枠組みを超えて、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材の育成を目的とする。

(1) ディプロマ・ポリシー

医系科学研究科では、教育上の目的に沿った人材の育成を目標とし、次の方針に従って当該学位を授与する。

以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に、研究テーマ及び専門領域に応じて「修士（医科学）、修士（歯科学）、修士（公衆衛生学）、修士（薬科学）、修士（看護学）、修士（保健学）、修士（口腔健康科学）、修士（学術）」のいずれかの学位を授与する。

- ① 専門分野における高度な知識と研究力を有している。
- ② 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない広い視野を有している。
- ③ 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と複眼的思考力に裏打ちされた課題発見能力を有している。
- ④ 学際的・国際的なコミュニケーション能力を有し、多分野の専門家で構成されるチームの一員として社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- ⑤ 修士学位取得者としての使命を自覚し、高い倫理観を有している。

(2) カリキュラム・ポリシー

医系科学研究科では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

学生が自分の専門以外の分野に触れる機会を増やし、広い範囲から研究テーマを見つけ、また研究テーマの変更や進路の選択が柔軟に行えるような環境、さらに、学生が社会とのつながりを意識し、開かれた問題意識を持ち、新たな発想ができるような環境を提供するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ① それぞれの専門分野に必要な高度な専門的知識と能力の獲得を促すため、専攻分野に関連する専門科目を体系的に提供する。
- ② 研究科や専門領域を超えた広い視野と社会への関心や問題意識を涵養し、「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるための科目やキャリアパスを広げるための科目を大学院共通科目として開設する。
- ③ 医系科学分野において共通基盤となる能力を涵養するため、生命・医療倫理及び多職種連携に関する科目を必修とした研究科共通科目を開設する。
- ④ 主として専攻する領域以外の授業科目の履修を必修とする。また、専門領域の異なるゼミの履修や研究指導を受けることにより修得した単位を修了要件とすることができる。
- ⑤ 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。
- ⑥ 異なる分野の専門家がチームとして取り組む研究プロジェクトへ参加することにより、修了要件とすることができる単位を修得できる。

(3) アドミッション・ポリシー

医系科学研究科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を期待する。

- ① 広島大学の理念に共感し、現在の人類社会が抱える課題又は今後抱えるかもしれない課題に、自らの教養、健康科学における高度な知識、能力及び行動力によりチャレンジすることで、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人
- ② 幅広い教養と共に、狭い専門領域にとらわれない広い視野と健康科学における高度な知識と研究能力を身に付け、「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人、又は学問での研鑽の成果を還元することにより地域や国際社会に貢献したいという志を持つ人
- ③ 世界中から好奇心にあふれる若者や学び直しの社会人が集う、世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスで、多様性に関する理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付け、持続可能な共生社会を実現しようとする意欲を持つ人

6. 薬科学プログラムの目的（博士課程前期）

急速な国民の高齢化、生活習慣や生活環境の変化は、我が国における疾病構造に大きな影響を与えているが、それに伴う医療に対する社会的要請として、がん、痴呆、生活習慣病などの高齢者に多い疾病の克服のため、高度先進医療の普及が叫ばれている。また、医師、薬剤師、看護師などの医療従事者が、相互に連携しつつそれぞれの専門性を発揮するチーム医療のさらなる推進が求められている。

この中において、薬物治療は必要不可欠であり、高品質で有効・安全な新規医薬品の開発が急務となっている。また、近年、医療は生命科学分野における研究の発展により飛躍的に進歩しており、遺伝子工学に基づく再生医療や各人の特性に応じたカスタムメイド治療の進歩が著しい。このような高度先進医療の中において、新規医薬品創製はますますその重要性を増してきている。同時に、新規医薬品の創製に際し、医療・薬物療法の現状や問題点を理解することは極めて重要である。

また、ポストゲノム生命科学技術を駆使した創薬科学、ドラッグデリバリーシステム、バイオイメージング技術の開発は製薬業界のみならず広く社会から求められている。

さらに、医薬品創製に関わる学問分野のグローバル化が急速に進み、日本国内にとどまらず世界で活躍する創薬研究者が切望される時代となっており、そのための人材養成が強く求められている。

薬科学プログラム（博士課程前期）は、現在極めて需要が高い医薬品創製における基盤科学を習得する目的で創薬科学や生命薬学に特化したプログラムとなっており、創薬研究を中心とした分野の人材育成を目的として新たに設置するものである。

7. 薬科学プログラムの3つのポリシー（博士課程前期）

(1) ディプロマ・ポリシー

以下の能力を身に付け、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に、修士（薬科学）の学位を授与する。

- ① 創薬研究者及び生命薬科学研究者として幅広い分野で活躍できる素養を身に付けている。
- ② 創薬、行政の領域を目指し、薬科学の確立と普及を担う教育者・研究者となるための能力を身に付けている。
- ③ 薬科学分野で国際的に活躍できる素養を身に付けている。

(2) カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

- ① カリキュラムは、講義、演習及び特別研究から構成する。
- ② 生命・医療倫理に関する科目を必修とし、豊かな人間性を涵養する。
- ③ 薬科学の確立と普及を担う教育者・研究者となるための能力を身に付けるため、教育・研究の柱となる薬科学分野の知識に必要な理論並びに我が国における創薬の現状に関する理解を深める事を目的として、必修科目として薬科学特論を履修する。
- ④ 薬科学分野で国際的に活躍できる素養を身に付けるために、幅広い知識と学識を深める事を目的として、オムニバス講義科目を選択必修科目として履修する。

(3) アドミッション・ポリシー

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、次のような学生の入学を期待する。

- ① 創薬研究・生命薬科学研究の基礎を幅広く学びたい人
- ② 創薬企業の研究・開発領域で活躍したい人
- ③ 薬科学分野で国際的に活躍したい人

II 教育課程編成の考え方・特色

1. 研究科の教育課程編成の考え方

医系科学研究科では、医学・歯学・薬学・保健学の4専門分野の教育・研究のさらなる深化とともに、急速な進歩を続ける生命・生物系領域や健康を取り巻く社会経済的な背景となる人文社会科学系領域を理解することによって、全てのライフステージに対応し、健康寿命を延伸させる新しい健康・医療・介護システムを構築するための人材を育成するために、既存の医歯薬保健学研究科における教育・研究のさらなる融合とともに他の研究分野との横断的なプログラムの提供できる編成とする。そのために、

- 1) 高度専門医療人を養成するための専門プログラムを充実させる。
- 2) 複合領域や新しい領域で活躍できる人材を養成することを目的として、大学院共通科目、研究科共通科目、専攻共通科目を履修させる。
- 3) 生命科学分野と融合した分野横断型のプログラムである「生命医療科学プログラム」を創設する。
- 4) 教育内容に共通性があり今後の医療提供体制において協働することが重要であることから、保健学分野と口腔健康科学分野を包含する保健科学プログラムを設置する。

これらの編成により、大学院生は、所属する学位プログラムで深い専門性を身に付けるだけでなく、分野を超えた教員の講義を受講することが可能となり幅広い知識を修得することが可能となる。

また、本研究科の研究指導は、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制としており、専門分野の異なる副指導教員が参画している研究プロジェクトに、学生が参加した場合については、当該研究プロジェクトに従事した時間数を、研究指導の授業時間として扱うことにより、学生は専門分野だけでなく、幅広い視野を身に付けることが可能となる。

2. 大学院共通科目の特色（博士課程前期）
 広島大学大学院のディプロマ・ポリシーに従い、広い視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるために、さらに、最近の社会システムの進展を正しく把握し、現代社会で活躍するための基本的な知識を身に付けるために開設する。
 そのために、次の2つのカテゴリーの大学院共通科目を開設し、学生は、各カテゴリーから、それぞれ1単位以上を選択し、履修する。
 (1) 持続可能な発展科目
 国際的目標である「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」を理解し、「持続可能な発展を導く科学」を創出する能力を身に付けさせる。
 (2) キャリア開発・データリテラシー科目
 最近の社会システムの進展を知り、また、これからの時代に必須であるIT関連の知識を身に付けさせる。
3. 研究科共通科目の特色（博士課程前期）
 研究科共通科目は、研究科のディプロマ・ポリシーに従い、医系科学分野において共通基盤となる能力を涵養するため4単位以上を履修することとし、うち「生命・医療倫理学A」及び「多職種連携A」の2単位を必修とする。
 ① 生命・医療倫理学A
 ② 研究方法論A
 ③ スタートアップ生命科学コースワーク
 ④ 生体医工学イノベーションA
 ⑤ 多職種連携A
 ⑥ 医学統計パッケージ演習
4. 総合健康科学専攻共通科目の特色（博士課程前期）
 専攻共通科目は、複合領域や新しい領域で活躍できる能力を身に付ける科目である。
 学生は、学んできたバックグラウンドが異なるため、指導教員と相談の上、2単位以上を選択し、履修する。
 ① 生命医療科学論
 ② 栄養学
 ③ 健康生活科学
 ④ 予防医学・健康指導特論A
 ⑤ 予防医学・健康指導特論B
 ⑥ Health Communication and Health Promotion
 ⑦ Research Methodology in Health Science
5. 薬科学プログラムの特色（博士課程前期）
 薬科学プログラムが医療系・総合健康科学系領域であることから、その基礎を理解するために研究科共通科目の中から生命・医療倫理学A、多職種連携Aを必修とするとともに、医薬品創製を行う基盤として必要な創薬的アプローチと生命薬学的アプローチを習得するために薬科学特論の履修を必修とした。また、大学院共通科目の持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修（キャリア開発・データリテラシー科目からは、データリテラシー関係の科目の履修を推奨）することとした。さらに、専攻共通科目の予防医学・健康指導特論Aの履修を推奨している。
6. 学位プログラムの選択
 学位プログラムの選択は、入学者選抜において、学位プログラムごとに募集人員を設けて実施する。
7. 学位の名称
 創薬合成化学、薬効解析科学、生薬学等の薬科学分野における研究を主な研究対象とした教育課程であることから、薬科学プログラムで授与する学位は、「修士（薬科学）」（Master of Medicinal Science）とする。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。 修了要件単位数：30単位 (1) 大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修。ただし、キャリア開発・データリテラシー科目からは、データリテラシー関係の科目の履修を推奨。） (2) 研究科共通科目：4単位以上（ただし、生命・医療倫理学A及び多職種連携Aを必修） (3) 専攻共通科目：2単位以上（ただし、予防医学・健康指導特論Aの履修を推奨） (4) プログラム専門科目：22単位以上（薬科学特論を含む講義科目及び演習科目から10単位以上、特別研究12単位を必修）	1 学年の学期区分	2 学期（4ターム）
	1 学期の授業期間	15 週
	1 時限の授業時間	90 分

教育課程等の概要(事前伺い)

(総合健康科学専攻 博士課程前期 公衆衛生学プログラム)

科目区分	授業科目	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院共通科目	Hiroshimaから世界平和を考える	1・2③		1		○									兼5	オムニバス
	Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace	1・2③		1		○									兼7	オムニバス
	Japanese Experience of Human Development- Culture, Education, and Health	1・2④		1		○			2						兼4	オムニバス
	SDGsへの学問的アプローチA	1・2①		1		○			2	1					兼5	オムニバス・共同(一部)
	SDGsへの学問的アプローチB	1・2③		1		○									兼7	オムニバス
	ダイバーシティの理解	1・2②		1		○									兼4	集中・オムニバス・共同(一部)
	データリテラシー	1・2①		1		○									兼2	オムニバス
	医療情報リテラシー	1・2③		1		○			6	1					兼2	オムニバス・共同(一部)
	人文社会系キャリアマネジメント	1・2②③		2		○									兼1	
	理工系キャリアマネジメント	1・2②		2		○									兼1	
	ストレスマネジメント	1・2③		2		○									兼1	
小計(11科目)	-	-	0	14	0	-	-	-	7	2	0	0	0	0	兼36	-
研究科共通科目	生命・医療倫理学A	1①	1			○			5	1	1				兼1	オムニバス
	研究方法論A	1①	1			○			5	3					兼1	オムニバス・共同(一部)
	スタートアップ生命科学コースワーク	1①	1							1						
	生体工学イノベーションA	1①	1			○			1						兼6	オムニバス
	多職種連携A	1①	1			○			8							オムニバス
	医学統計パッケージ演習	1③	1				○		1				2			集中
小計(6科目)	-	-	2	4	0	-	-	20	5	1	2	0	0	兼8	-	
専攻共通科目	生命医療科学論	1①	1			○			8	1						オムニバス・共同(一部)
	栄養学	1③	1			○			3	2					兼3	オムニバス
	健康生活科学	1③	1			○			1						兼8	オムニバス・共同(一部)
	予防医学・健康指導特論A	1①	1			○			3	2	1	1				オムニバス
	予防医学・健康指導特論B	1③	1			○			4	2		1				オムニバス
	Health Communication and Health Promotion	1③	1			○			1	1						共同
	Research Methodology in Health Science	1①	1			○			1	1						共同
小計(7科目)	-	-	0	7	0	-	-	14	8	1	1	0	0	兼11	-	
プログラム専門科目	疫学基礎論	1前	2			○			1				3		兼2	集中・オムニバス
	臨床研究方法論	1後	2			○			1				2		兼1	オムニバス
	生物統計学・臨床統計学基礎論	1前	1			○			2				2		兼1	オムニバス
	臨床法医学概論	1前	2			○			1	1						オムニバス
	総合医療実践学特論	1後	2			○			2	1	1		3		兼3	オムニバス
	環境保健学概論	1前	1			○			2				1		兼5	オムニバス
	医療政策・国際保健概論	1前	1			○			2				1		兼5	オムニバス
	国際感染症概論	1前	1			○			1							
	公衆衛生学特別研究(疫学)	1後～2	6				○		1				1			集中
	公衆衛生学特別研究(生物統計学)	1後～2	6				○		1				1			集中
	公衆衛生学特別研究(社会科学・行動科学)	1後～2	6				○		1							集中
	公衆衛生学特別研究(保健行政・医療管理学)	1後～2	6				○		1							集中
	公衆衛生学特別研究(国際保健・環境保健学)	1後～2	6				○		1							集中
	疫学調査分析演習	2前	2				○		1				3			集中・共同
	臨床医歯学総論	1後	2				○		6	1	3		2			オムニバス
	人体の構造	1前	2				○		4				1		兼1	オムニバス
	人体の機能	1前	2				○		6	2	2		1			オムニバス
	病因病態学	1後	2				○		4	2	2		1			オムニバス
	生体防御学	1後	1				○		2	1			2			オムニバス
	総合薬理学	1後	1				○		2						兼1	オムニバス
	分子生物学と放射線防護	1前	2				○		3	3	3		3		兼1	オムニバス
	人体解剖学実習	1後	2						4							共同
	組織学実習	1前	1						2							共同
小計(23科目)	-	-	12	47	0	-	-	35	11	11	17	0	0	兼19	-	
合計(47科目)			14	72	0	-	-	55	23	13	17	0	0	兼66	-	
学位又は称号	修士(公衆衛生学)		学位又は学科の分野				医学関係									

I 設置の趣旨・必要性

1. 背景等

平成28年1月に、国連開発計画（UNDP）は持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）として17のグローバル目標を設定し、その中で、あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進することを目標3として挙げている。

我が国では、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針として「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21（第2次））」を平成25年度から適応した。この中で、国民の健康の増進の推進に関する基本的な方向として、①健康寿命の延伸と健康格差の縮小、②生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、③社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上、④健康を支え、守るための社会環境の整備、⑤栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善を挙げている。これらの基本的な方向を実現するため、栄養・食生活など各分野に関する生活習慣の改善が重要であり、ライフステージや性差、社会経済的状况等の違いに着目し、生活習慣病を発症する危険度の高い集団などへの働きかけを重点的に行うとともに、地域や職場等を通じた国民への働きかけを進めるとしている。

また、未来投資戦略 2017—Society 5.0の実現に向けた改革の中で、我が国の政策資源を集中投入し、未来投資を促進すべき5つの分野として「健康寿命の延伸」を挙げ、我が国は、グローバルにも突出して高齢化社会をいち早く迎えることとなる一方で、国民皆保険制度や介護保険制度の下でデータが豊富にあることから、健康管理と病気・介護予防、自立支援に軸足を置いた、「新しい健康・医療・介護システム」を構築することにより、健康寿命を更に延伸し、世界に先駆けて生涯現役社会を実現させるとしている。

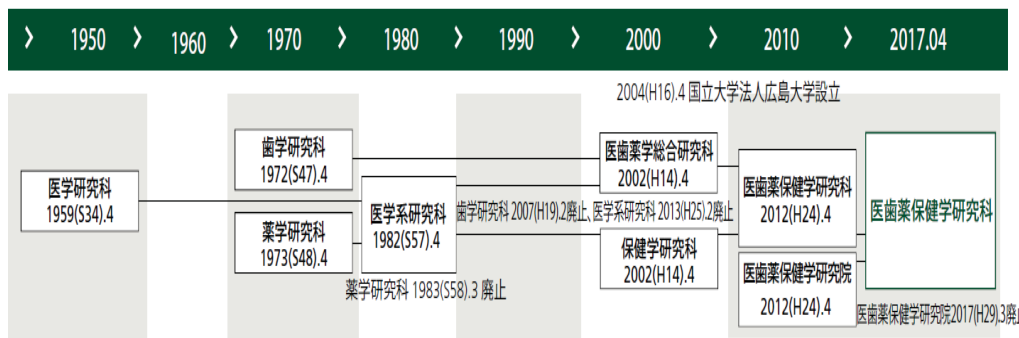
2. 広島大学の現状

平成14年4月から医歯薬学総合研究科と保健学研究科の2研究科で、大学院教育を行ってきたが、医歯薬学総合研究科と保健学研究科の共通目的は「新規医療の開発と高度実践医療の提供」に資する新時代の医学・医療開発研究の展開とそれを担う専門的人材の養成にある。そこで、平成24年4月に、共通の目的を有する2つの研究科を融合した医歯薬保健学研究科を設置した。

医歯薬保健学研究科では、旧来の学問分野の枠組みを超えた新しい領域や複合領域で活躍できる人材養成、学術の高度化・複合化に対応できる研究活動の活性化、新しい知の創造を目指した大規模プロジェクト研究を推進できる組織作りなど、それまでの2研究科では不可能であったより柔軟な教育、研究を展開し、「超高齢社会」に対応する医療、QOL（生活の質）に重点を置いたカスタムメイド医療、患者中心のチーム医療、広島で推進すべき放射線障害に対する医療などの社会的要請に対応してきた。また、医学物理学における幅広い知識を身につけ、医学物理学の基礎的・臨床的研究に取り組むとともに、医学物理士を目指す人材を養成するために、平成24年4月に、歯科学専攻（修士課程）に医学物理士コースを設置した。

平成27年4月には、科学的根拠に基づく医療を実施できる能力を有する医療従事者や公衆衛生行政の担当者及び研究方法や評価において専門的な知識・技能を修得し、臨床、保健、医療行政の課題解決に取り組む人材の養成を目的として、歯科学専攻（修士課程）に公衆衛生学（MPH）コースを設置した。

このような体制のもとで、特徴ある様々な未来型医療の創生研究やこれを担う高度専門人材の教育・養成に加え、極めて細分化かつ高度化する新時代の医学・医療に対応するための緊密な学際教育・研究を展開している。



3. 機能強化と課題

平成14年4月に、生命医科学に関する新たな知の創造を目指す研究とその応用による先進的な医療開発、さらに新たな分野を切り開く高度専門医療人の養成を目指して医歯薬学総合研究科を、「健康管理」、「疾病予防」及び「リハビリテーション」等々々のQOL（生活の質）向上に資することを中心的課題として高度専門医療人の養成を目指して保健学研究科を設置した。

さらに平成24年4月には、超高齢化社会において患者と病気が共存する状態が増加しており、医師・歯科医師による処置や服薬だけでなく、生活指導や運動療法などが一層重要になっている。他方、医療の急速な進歩と医療制度の変化は、看護やリハビリテーションにも大きな影響を及ぼしている。このような社会状況に対応するために、医歯薬学総合研究科と保健学研究科を一つに統合し、医歯薬保健学研究科を設置した。

これらの改編により、医学・歯学・薬学・保健学分野の学生が同一研究科内で教育・研究を展開、発展させることで、より高度な医療人養成や研究の進歩に繋がってきた。

広島大学では、平成29年4月に新長期ビジョン「SPLENDOR (Sustainable Peace Leader Enhancement by Nurturing Development of Research) PLAN 2017」を策定・公表した。このビジョンにおいて、「これまで以上に、人間、社会、文化、食料、環境、自然の持続性に関連する全ての既存の学問領域を包含し、平和の構築に限りなくチャレンジし、働きかける新しい平和科学の理念『持続可能な発展を導く科学』の創生を目指した活動を展開し、100年後にも世界で光り輝く大学としての責務を果たす。」ことを宣言した。また、ビジョンの一つに「『持続可能な発展を導く科学』の骨格を創る基礎分野と、本学の強みである教育学、物性物理、宇宙科学、材料科学、半導体・ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、食料科学などの分野を融合し、より高度な世界的研究へと発展させることを掲げている。また、原爆の惨禍からの復興を支えてきた大学として、放射線障害に係る医療に関する研究拠点を発展させるとともに、再生医療、肝疾患や脳科学の分野を世界的な研究として発展させる。」ことを挙げた。

このように、未来社会の方向性の中で、医学医療や保健学の役割はさらに重要であるが、医系科学はその中核をなす医学・歯学・薬学・保健学といった専門領域のみならず、その基礎となる生命・生物系科学や人文社会科学との連携において、持続可能な発展を導く科学の一分野として役割を果たす必要がある。

そこで、大学院教育においても、医学・歯学・薬学・保健学のさらなる深化とともに、急速な進歩を続ける生命・生物系領域や健康を取り巻く社会経済的な背景となる人文社会科学系領域を理解することによって、全てのライフステージに対応し、健康寿命を延伸させる新しい健康・医療・介護システムを構築するための人材が求められており、既存の研究科における教育のさらなる融合や他の研究科との分野横断的なプログラムの提供が必要となっている。

また、看護学・保健学・口腔健康科学など医療のみならず健康科学に係る人材育成は、上記のように人々のQOL向上や健康寿命の延伸に極めて重要で、未来社会の創造に向かってさらに重要性が増してきた。医療を支えるコメディカル教育は教育内容に共通する部分が多いことに加え、今後、社会で求められる新たな医療提供体制（多職種連携、地域包括ケアなど）にとって、それら三つの分野がさらに垣根を越えて協働することが重要である。

これらの社会からの要請に応えるべき機能強化の必要性や課題をうけて、医学・歯学・薬学・保健学分野における基盤的研究の深化とこれら分野間の連携・融合のさらなる強化を図り、医学・歯学・薬学・保健学分野の枠組みを超えて展開するために「医系科学研究科」を組織する。

「医系科学研究科」には、研究能力に裏打ちされ、かつ医療系の幅広い知識と学識を有した高度専門医療人としての指導的臨床能力を優した医師、歯科医師、薬剤師又はこれらの枠を超えた先端的的生命科学研究に精通した人材を養成することを目的とする「医歯薬学専攻（博士課程）」とQOL向上や健康寿命の延伸に貢献し、多職種連携、地域包括ケアなど新たな医療提供体制において重要な役割を担う健康科学に係る人材を養成することを目的とする「総合健康科学専攻（博士課程前期及び博士課程後期）」の2専攻を置く。

「医系科学研究科」では、上記の課題や社会的要請に応えるために、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を養成するとともに、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材を養成する。そのため、大学院共通科目や研究科共通科目、専攻共通科目を履修させる。

新設する「統合生命科学研究科」との分野横断型のプログラムである「生命医療科学プログラム」を創設し、医系領域のみならず複合領域や新しい領域で活躍できる人材を養成する。

また、専攻の整理の中で、従来の保健学専攻と口腔健康科学専攻については、教育内容に共通性があることや、今後の医療提供体制においてそれら2つの分野が垣根を越えて協働することが重要であることから、保健科学プログラムとしてまとめる。

4. 広島大学大学院の3つのポリシー（博士課程前期）

(1) ディプロマ・ポリシー

広島大学大学院では、新しい平和科学、すなわち「持続可能な発展を導く科学」の創生と、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献する人材の育成を教育目標とし、次の方針に従って当該学位を授与する。

以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に、修士の学位を授与する。

- ① 専門分野における高度な知識と研究力を有している。
- ② 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない広い視野を有している。
- ③ 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と複眼的思考力に裏打ちされた課題発見能力を有している。
- ④ 多分野の専門家で構成されるチームの一員として社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- ⑤ 修士学位取得者としての使命を自覚し、高い倫理観を有している。

(2) カリキュラム・ポリシー

広島大学大学院では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

学生が自分の専門以外の分野に触れる機会を増やし、広い範囲から研究テーマを見つけ、また研究テーマの変更や進路の選択が柔軟に行えるような環境、さらに、学生が社会とのつながりを意識し、開かれた問題意識を持ち、新たな発想ができるような環境を提供するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ① それぞれの専門分野で必要な高度な専門的知識と能力の獲得を促すため、専攻分野に関連する専門科目を体系的に提供する。
- ② 研究科や専門領域を超えた広い視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるための科目やキャリアパスを拓くための科目を大学院共通科目として開設する。
- ③ 人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学のそれぞれの分野において共通基盤となる能力を涵養するため、研究科共通科目を開設する。
- ④ 主として専攻する領域以外の授業科目の履修を必修とします。また、専門領域の異なるゼミの履修や研究指導を受けることにより修得した単位を修了要件とすることができます。
- ⑤ 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。
- ⑥ 異なる分野の専門家がチームとして取り組む研究プロジェクトへ参加することにより、修了要件とすることができる単位を修得できる。

(3) アドミッション・ポリシー

広島大学大学院では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を期待する。

- ① 広島大学の理念に共感し、現在の人類社会が抱える課題又は今後抱えるかもしれない課題に、自らの教養、知識、能力及び行動力によりチャレンジすることにより、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人
- ② 幅広い教養と共に、人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学のそれぞれの分野における高度な知識と研究能力を身に付け、多角的視点から「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人、又は学問での研鑽の成果を還元することにより社会に貢献したいという志を持つ人
- ③ 世界中から好奇心にあふれる若者や学び直しの社会人が集う、世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスで、多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付け、持続可能な共生社会を実現しようとする意欲を持つ人

5. 医系科学研究科の3つのポリシー（博士課程前期）

医学・歯学・薬学・保健学の4分野における基盤的研究の深化と分野間の連携・融合を図り、生命医科学の急速な進歩と医療技術の高度化に迅速に対応する先端的な教育研究を推進することにより、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を育成する。また、旧来の学問分野の枠組みを超えて、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材の育成を目的とする。

(1) ディプロマ・ポリシー

医系科学研究科では、教育上の目的に沿った人材の育成を目標とし、次の方針に従って当該学位を授与する。

以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に、研究テーマ及び専門領域に応じて「修士（医科学）、修士（歯科学）、修士（公衆衛生学）、修士（薬科学）、修士（看護学）、修士（保健学）、修士（口腔健康科学）、修士（学術）」のいずれかの学位を授与する。

- ① 専門分野における高度な知識と研究力を有している。
- ② 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない広い視野を有している。
- ③ 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と複眼的思考力に裏打ちされた課題発見能力を有している。
- ④ 学際的・国際的なコミュニケーション能力を有し、多分野の専門家で構成されるチームの一員として社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- ⑤ 修士学位取得者としての使命を自覚し、高い倫理観を有している。

(2) カリキュラム・ポリシー

医系科学研究科では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

学生が自分の専門以外の分野に触れる機会を増やし、広い範囲から研究テーマを見つけ、また研究テーマの変更や進路の選択が柔軟に行えるような環境、さらに、学生が社会とのつながりを意識し、開かれた問題意識を持ち、新たな発想ができるような環境を提供するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ① それぞれの専門分野に必要な高度な専門的知識と能力の獲得を促すため、専攻分野に関連する専門科目を体系的に提供する。
- ② 研究科や専門領域を超えた広い視野と社会への関心や問題意識を涵養し、「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるための科目やキャリアパスを広げるための科目を大学院共通科目として開設する。
- ③ 医系科学分野において共通基盤となる能力を涵養するため、生命・医療倫理及び多職種連携に関する科目を必修とした研究科共通科目を開設する。
- ④ 主として専攻する領域以外の授業科目の履修を必修とする。また、専門領域の異なるゼミの履修や研究指導を受けることにより、修得した単位を修了要件とすることができる。
- ⑤ 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。
- ⑥ 異なる分野の専門家がチームとして取り組む研究プロジェクトへ参加することにより、修了要件とすることができる単位を修得できる。

(3) アドミッション・ポリシー

医系科学研究科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を期待する。

- ① 広島大学の理念に共感し、現在の人類社会が抱える課題又は今後抱えるかもしれない課題に、自らの教養、健康科学における高度な知識、能力及び行動力によりチャレンジすることで、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人
- ② 幅広い教養と共に、狭い専門領域にとらわれない広い視野と健康科学における高度な知識と研究能力を身に付け、「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人、又は学問での研鑽の成果を還元することにより地域や国際社会に貢献したいという志を持つ人
- ③ 世界中から好奇心にあふれる若者や学び直しの社会人が集う、世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスで、多様性に関する理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付け、持続可能な共生社会を実現しようとする意欲を持つ人

6. 公衆衛生学プログラムの目的（博士課程前期）

超高齢化・超少子化社会の進展に伴う疾病構造の変化や急速に進むグローバル化の中で、医療、保健、福祉、医療行政、臨床研究などの現場では、より専門性を深めること、並びにそれぞれの専門に加えて、疫学、生物統計学、社会科学・行動科学、保健行政・医療管理学、国際保健・環境保健学の5分野にわたる公衆衛生学を修めた者が求められている。

また、科学技術の進歩や国際化を含めた社会経済構造の変化に伴い重要性を増しているレギュラトリーサイエンスの概念（科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づいた確かな予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会との調和の上で最も望ましい姿に調整するための科学）を理解し、診療、臨床研究、保健施策、保健指導、医療及び国際保健医療等の場において適切にかつ効果的に実践できる者が求められている。

このような社会的・学術的要請の下、広島大学では、公衆衛生大学院の国際基準である(1)疫学(Epidemiology)、(2)生物統計学(Biostatistics)、(3)社会科学・行動科学(Social and Behavioral Sciences)、(4)保健行政・医療管理学(Health Service Administration)、(5)国際保健・環境保健学(Environmental Health Sciences)の5分野の教育を体系的に行う公衆衛生学プログラム(修士課程前期)を設置して、リサーチマインドを持ち科学的根拠に基づく医療(EBM:Evidence-Based Medicine)を実践する医療従事者や政策の企画立案を担う公衆衛生行政担当者等の養成を行う。

7. 公衆衛生学プログラムの3つのポリシー（博士課程前期）

(1) ディプロマ・ポリシー

以下の能力を身に付け、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に、修士(公衆衛生学)の学位を授与する。

- ① 科学的根拠に基づく医療(EBM: Evidence-Based Medicine)を実施できる能力を身に付けていること。
- ② 健康増進、予防対策、治療戦略等エビデンスに基づいた疾病対策の実施や健康長寿社会構築の現実的政策提言が可能な技術と能力を身に付けていること。
- ③ 研究方法及び評価において専門的な知識・技能を有し、超高齢化社会と疾病構造の変化及びグローバル化に応じた、臨床、保健、医療行政などの課題解決のための臨床研究・疫学調査研究の実践的能力を有したリサーチマインドを身に付けていること。

(2) カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

- ① カリキュラムは、講義、演習・実習、特別研究から構成される。
- ② 生命・医療倫理に関する科目を必修とし、豊かな人間性を涵養する。
- ③ 公衆衛生大学院の国際基準である5分野において必修科目・選択科目を開設する体系的な教育課程とする。
- ④ 集団を対象とした健康・疾病の状況を把握・評価する手法である疫学・生物統計学に加え、保健統計、健康政策、研究方法論及び研究倫理、臨床疫学、保健行政、医療管理、国際保健や環境保健など幅広い分野の科目履修を通じ、エビデンスに基づいた臨床診断・実践的臨床研究力や行政施策の提言など疾病対策のための実践的能力を修得することができる教育課程とする。

(3) アドミッション・ポリシー

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、次のような学生の入学を期待する。

- ① 科学的根拠に基づく医療(EBM: Evidence-Based Medicine)を実施できる能力を有する医療従事者や公衆衛生行政の担当者として活躍したい人
- ② 研究方法及び評価において専門的な知識・技能を習得し、臨床、保健、医療行政分野において課題解決に取り組みたい人

II 教育課程編成の考え方・特色

1. 研究科の教育課程編成の考え方

医系科学研究科では、医学・歯学・薬学・保健学の4専門分野の教育・研究のさらなる深化とともに、急速な進歩を続ける生命・生物系領域や健康を取り巻く社会経済的背景となる人文社会科学系領域を理解することによって、全てのライフステージに対応し、健康寿命を延伸させる新しい健康・医療・介護システムを構築するための人材を育成するために、既存の医歯薬保健学研究科における教育・研究のさらなる融合とともに他の研究分野との横断的なプログラムの提供できる編成とする。そのために、

- 1) 高度専門医療人を養成するための専門プログラムを充実させる。
- 2) 複合領域や新しい領域で活躍できる人材を養成することを目的として、大学院共通科目、研究科共通科目、専攻共通科目を履修させる。
- 3) 生命科学分野と融合した分野横断型のプログラムである「生命医療科学プログラム」を創設する。
- 4) 教育内容に共通性があり今後の医療提供体制において協働することが重要であることから、保健学分野と口腔健康科学分野を包含する保健科学プログラムを設置する。

これらの編成により、大学院生は、所属する学位プログラムで深い専門性を身に付けるだけでなく、分野を超えた教員の講義を受講することが可能となり幅広い知識を修得することが可能となる。

また、本研究科の研究指導は、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制としており、専門分野の異なる副指導教員が参画している研究プロジェクトに、学生が参加した場合については、当該研究プロジェクトに従事した時間数を、研究指導の授業時間として扱うことにより、学生は専門分野だけでなく、幅広い視野を身に付けることが可能となる。

2. 大学院共通科目の特色（博士課程前期）
 広島大学大学院のディプロマ・ポリシーに従い、広い視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるために、さらに、最近の社会システムの進展を正しく把握し、現代社会で活躍するための基本的な知識を身に付けるために開設する。
 そのために、次の2つのカテゴリーの大学院共通科目を開設し、学生は、各カテゴリーから、それぞれ1単位以上を選択し、履修する。
- (1) 持続可能な発展科目
 国際的目標である「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」を理解し、「持続可能な発展を導く科学」を創出する能力を身に付けさせる。
 - (2) キャリア開発・データリテラシー科目
 最近の社会システムの進展を知り、また、これからの時代に必須であるIT関連の知識を身に付けさせる。
3. 研究科共通科目の特色（博士課程前期）
 研究科共通科目は、研究科のディプロマ・ポリシーに従い、医系科学分野において共通基盤となる能力を涵養するため4単位以上を履修することとし、うち「生命・医療倫理学A」及び「多職種連携A」の2単位を必修とする。
- ① 生命・医療倫理学A
 - ② 研究方法論A
 - ③ スタートアップ生命科学コースワーク
 - ④ 生体医工学イノベーションA
 - ⑤ 多職種連携A
 - ⑥ 医学統計パッケージ演習
4. 総合健康科学専攻共通科目の特色（博士課程前期）
 専攻共通科目は、複合領域や新しい領域で活躍できる能力を身に付ける科目である。
 学生は、学んできたバックグラウンドが異なるため、指導教員と相談の上、2単位以上を選択し、履修する。
- ① 生命医療科学論
 - ② 栄養学
 - ③ 健康生活科学
 - ④ 予防医学・健康指導特論A
 - ⑤ 予防医学・健康指導特論B
 - ⑥ Health Communication and Health Promotion
 - ⑦ Research Methodology in Health Science
5. 公衆衛生学プログラムの特色（博士課程前期）
 公衆衛生大学院の国際基準である5分野；(1)疫学（Epidemiology）、(2)生物統計学（Biostatistics）、(3)社会科学・行動科学（Social and Behavioral Sciences）、(4)保健行政・医療管理学（Health Service Administration）、(5)国際保健・環境保健学（Environmental Health Sciences）において必修科目・選択科目を開設する体系的な教育課程とする。
 さらに、集団を対象とした健康・疾病の状況を把握・評価する手法である疫学・生物統計学に加え、保健統計、健康政策、研究方法論及び研究倫理、臨床疫学、保健行政、医療管理、国際保健や環境保健など幅広い分野の科目履修を通じ、エビデンスに基づいた臨床診断・実践的臨床研究力や行政施策の提言など疾病対策のための実践的能力を修得することができる教育課程とする。海外留学生を10月入学者として受け入れ、4月入学者とあわせて5人の受け入れとする。
 本教育課程の特徴として、公衆衛生領域で活躍する人材育成を目的とする2年コースと、一定の実務経験者を有する医師・歯科医師・薬剤師などを対象とした高度専門職業人の育成を目的とする1年コースを設置している。
 2年コースは、公衆衛生に係る広い視野と見識を習得し社会全体の健康増進のために、エビデンスに基づく公衆衛生上の諸課題解決を図ることのできる人材の育成を目的とするコースである。履修科目は、まず1年目に必修科目、共通科目・専門科目の選択科目の履修を推奨し、1年次後期から公衆衛生学特別研究を履修するように順序性を定めている。また、自然科学系学部、社会科学系学部、人文科学系学部等の非医療系学部出身者には、「生命医療科学論」又は「臨床医歯学総論」を履修するよう定めている。
 一方、1年コースは、一定の実務経験を有する医師・歯科医師・薬剤師などを対象として、リサーチマインドを持ち科学的根拠に基づく医療（EBM: Evidence-Based Medicine）を実践し、医療・公衆衛生上の諸課題解決に対して指導的役割を果たすことのできる人材の育成を目的とするコースである。
 また、広島県と本学が共同で設置した「ひろしま社会医学系専門医研修プログラム」（3年間）では、2年目に当該課程に在籍し修士（公衆衛生学）が1年で取得できる。すなわち、研修修了後は社会医学専門医資格と修士（公衆衛生学）の双方を取得し、エビデンスに基づいた課題解決をリードできる専門家として地域社会の健康増進に貢献することが期待される。自治体と連携したこのような制度は他に例がなく、本教育課程の特色といえる。
6. 学位プログラムの選択
 学位プログラムの選択は、入学者選抜において、学位プログラムごとに募集人員を設けて実施する。

7. 学位の名称

疫学，社会科学・行動科学，保健行政・医療管理学等の公衆衛生学分野における研究を主な研究対象とした教育課程であることから，公衆衛生学プログラムで授与する学位は，「修士（公衆衛生学）」（Master of Public Health）とする。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>修了に必要な単位数を30単位以上とし，以下のとおり，単位を修得し，かつ必要な研究指導を受けた上で，修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。</p> <p>修了要件単位数：30単位 (1) 大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から，それぞれ1単位以上を履修） (2) 研究科共通科目：4単位以上（ただし，生命・医療倫理学A，多職種連携A及び医学統計パッケージ演習を必修） (3) 専攻共通科目：2単位以上（予防医学・健康指導特論A及び予防医学・健康指導特論Bを必修） (4) プログラム専門科目：22単位以上（ただし，必修科目の8科目12単位，特別研究6単位を含む）</p> <p>自然科学系学部、社会科学系学部、人文科学系学部等の非医療系学部出身者にあつては，「生命医療科学論」又は「臨床医歯学総論」を履修すること。</p>	1 学年の学期区分	2 学期（4ターム）
	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分

教育課程等の概要(事前伺い)																
(総合健康科学専攻 博士課程前期 医学物理士プログラム)																
科目区分	授業科目	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える	1・2③	1			○								兼5	オムニバス
		Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace	1・2③	1			○								兼7	オムニバス
		Japanese Experience of Human Development- Culture, Education, and Health	1・2④	1			○			2					兼4	オムニバス
		SDGsへの学問的アプローチA	1・2①	1			○			2	1				兼5	オムニバス・共同(一部)
		SDGsへの学問的アプローチB	1・2③	1			○								兼7	オムニバス
		ダイバーシティの理解	1・2②	1			○								兼4	オムニバス・共同(一部)
	キャリア開発・キャリアテラシー科目	データリテラシー	1・2①	1			○			6	1				兼2	オムニバス
		医療情報リテラシー	1・2③	1			○								兼2	オムニバス・共同(一部)
		人文社会系キャリアマネジメント	1・2②③	2			○								兼1	
		理工系キャリアマネジメント	1・2②	2			○								兼1	
		ストレスマネジメント	1・2③	2			○								兼1	
	小計(11科目)	-	0	14	0	-	-	-	7	2	0	0	0	兼36	-	
研究科共通科目	生命・医療倫理学A	1①	1			○			5	1	1			兼1	オムニバス	
	研究方法論A	1①	1			○			5	3				兼1	オムニバス・共同(一部)	
	スタートアップ生命科学コースワーク	1①	1					○		1						
	生体医工学イノベーションA	1①	1			○			1					兼6	オムニバス	
	多職種連携A	1①	1			○			8						オムニバス	
	医学統計パッケージ演習	1③	1				○		1			2			集中	
	小計(6科目)	-	2	4	0	-	-	-	20	5	1	2	0	兼8	-	
専攻共通科目	生命医療科学論	1①	1			○			8	1					オムニバス・共同(一部)	
	栄養学	1③	1			○			3	2				兼3	オムニバス	
	健康生活科学	1③	1			○			1					兼8	オムニバス・共同(一部)	
	予防医学・健康指導特論A	1①	1			○			3	2	1	1			オムニバス	
	予防医学・健康指導特論B	1③	1			○			4	2		1			オムニバス	
	Health Communication and Health Promotion	1③	1			○			1	1					共同	
	Research Methodology in Health Science	1①	1			○			1	1					共同	
	小計(7科目)	-	0	7	0	-	-	-	14	8	1	1	0	兼11	-	
プログラム専門科目	放射線診断物理学	1前	1			○									兼1	
	放射線治療物理学	1前	2			○									兼1	
	核医学物理学	1後	1			○									兼1	
	放射線診断学・核医学	1前	1			○			1							
	放射線腫瘍学	1前	2			○			1							
	放射線治療物理学演習	1後	2				○							兼1		
	放射線計測学演習	1後	2				○							兼1		
	画像診断物理学演習	1後	2				○							兼1		
	核医学物理学演習	2前	2				○							兼1		
	放射線安全演習	1後	2				○							兼1		
	医歯科学特別研究(放射線腫瘍学)	2通	4					○	1							
	人体の構造	1前	2			○			4			1		兼1	オムニバス	
	人体の機能	1前	2			○			6	2	2	1			オムニバス	
	病因病態学	1後	2			○			4	2	2	1			オムニバス	
	生体防御学	1後	1			○			2	1		2			オムニバス	
	総合薬理学	1後	1			○			2					兼1	オムニバス	
	医療政策・国際保健概論	1前	1			○			2			1		兼5	オムニバス	
	臨床医学総論	1後	2			○			6	1	3	2			オムニバス	
	分子生物学と放射線防護	1前	2			○			3	3	3	3		兼1	オムニバス	
	人体解剖学実習	1後	2					○	4						共同	
	組織学実習	1前	1					○	2						共同	
	科学英語	1前	1			○								兼1		
	医療統計学	1前	1			○								兼2	共同	
	保健物理学	1後	2			○								兼1		
	小計(24科目)	-	21	20	0	-	-	-	31	9	10	11	0	兼16	-	
合計(48科目)				23	45	0	-	-	49	21	12	14	0	兼63	-	
学位又は称号	修士(医科学)		学位又は学科の分野				医学関係									

I 設置の趣旨・必要性

1. 背景等

平成28年1月に、国連開発計画（UNDP）は持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）として17のグローバル目標を設定し、その中で、あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進することを目標3として挙げている。

我が国では、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針として「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21（第2次））」を平成25年度から適応した。この中で、国民の健康の増進の推進に関する基本的な方向として、①健康寿命の延伸と健康格差の縮小、②生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、③社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上、④健康を支え、守るための社会環境の整備、⑤栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善を挙げている。これらの基本的な方向を実現するため、栄養・食生活など各分野に関する生活習慣の改善が重要であり、ライフステージや性差、社会経済的状况等の違いに着目し、生活習慣病を発症する危険度の高い集団などへの働きかけを重点的に行うとともに、地域や職場等を通じた国民への働きかけを進めるとしている。

また、未来投資戦略 2017—Society 5.0の実現に向けた改革の中で、我が国の政策資源を集中投入し、未来投資を促進すべき5つの分野として「健康寿命の延伸」を挙げ、我が国は、グローバルにも突出して高齢化社会をいち早く迎えることとなる一方で、国民皆保険制度や介護保険制度の下でデータが豊富にあることから、健康管理と病気・介護予防、自立支援に軸足を置いた、「新しい健康・医療・介護システム」を構築することにより、健康寿命を更に延伸し、世界に先駆けて生涯現役社会を実現させるとしている。

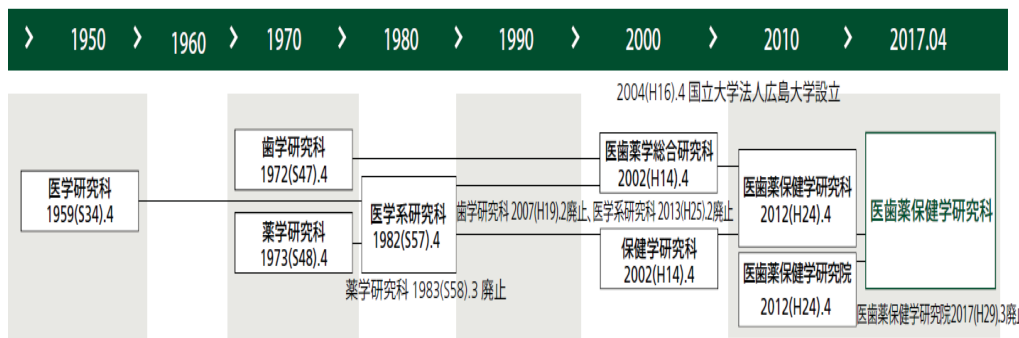
2. 広島大学の現状

平成14年4月から歯歯薬学総合研究科と保健学研究科の2研究科で、大学院教育を行ってきたが、歯歯薬学総合研究科と保健学研究科の共通目的は「新規医療の開発と高度実践医療の提供」に資する新時代の医学・医療開発研究の展開とそれを担う専門的人材の養成にある。そこで、平成24年4月に、共通の目的を有する2つの研究科を融合した歯歯薬保健学研究科を設置した。

歯歯薬保健学研究科では、旧来の学問分野の枠組みを超えた新しい領域や複合領域で活躍できる人材養成、学術の高度化・複合化に対応できる研究活動の活性化、新しい知の創造を目指した大規模プロジェクト研究を推進できる組織作りなど、それまでの2研究科では不可能であったより柔軟な教育、研究を展開し、「超高齢社会」に対応する医療、QOL（生活の質）に重点を置いたカスタムメイド医療、患者中心のチーム医療、広島で推進すべき放射線障害に対する医療などの社会的要請に対応してきた。また、医学物理学における幅広い知識を身につけ、医学物理学の基礎的・臨床的研究に取り組むとともに、医学物理士を目指す人材を養成するために、平成24年4月に、歯歯薬科学専攻（修士課程）に医学物理士コースを設置した。

平成27年4月には、科学的根拠に基づく医療を実施できる能力を有する医療従事者や公衆衛生行政の担当者及び研究方法や評価において専門的な知識・技能を修得し、臨床、保健、医療行政の課題解決に取り組む人材の養成を目的として、歯歯薬科学専攻（修士課程）に公衆衛生学（MPH）コースを設置した。

このような体制のもとで、特徴ある様々な未来型医療の創生研究やこれを担う高度専門人材の教育・養成に加え、極めて細分化かつ高度化する新時代の医学・医療に対応するための緊密な学際教育・研究を展開している。



3. 機能強化と課題

平成14年4月に、生命医科学に関する新たな知の創造を目指す研究とその応用による先進的な医療開発、さらに新たな分野を切り開く高度専門医療人の養成を目指して歯歯薬学総合研究科を、「健康管理」、「疾病予防」及び「リハビリテーション」等々人のQOL（生活の質）向上に資することを中心的課題として高度専門医療人の養成を目指して保健学研究科を設置した。

さらに平成24年4月には、超高齢化社会において患者と病気が共存する状態が増加しており、医師・歯科医師による処置や服薬だけでなく、生活指導や運動療法などが一層重要になっている。他方、医療の急速な進歩と医療制度の変化は、看護やリハビリテーションにも大きな影響を及ぼしている。このような社会状況に対応するために、歯歯薬学総合研究科と保健学研究科を一つに統合し、歯歯薬保健学研究科を設置した。

これらの改編により、医学・歯学・薬学・保健学分野の学生が同一研究科内で教育・研究を展開、発展させることで、より高度な医療人養成や研究の進歩に繋がってきた。

広島大学では、平成29年4月に新長期ビジョン「SPLENDOR (Sustainable Peace Leader Enhancement by Nurturing Development of Research) PLAN 2017」を策定・公表した。このビジョンにおいて、「これまで以上に、人間、社会、文化、食料、環境、自然の持続性に関連する全ての既存の学問領域を包含し、平和の構築に限りなくチャレンジし、働きかける新しい平和科学の理念『持続可能な発展を導く科学』の創生を目指した活動を展開し、100年後にも世界で光り輝く大学としての責務を果たす。」ことを宣言した。また、ビジョンの一つに「『持続可能な発展を導く科学』の骨格を創る基礎分野と、本学の強みである教育学、物性物理、宇宙科学、材料科学、半導体・ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、食料科学などの分野を融合し、より高度な世界的研究へと発展させることを掲げている。また、原爆の惨禍からの復興を支えてきた大学として、放射線障害に係る医療に関する研究拠点を発展させるとともに、再生医療、肝疾患や脳科学の分野を世界的な研究として発展させる。」ことを挙げた。

このように、未来社会の方向性の中で、医学医療や保健学の役割はさらに重要であるが、医系科学はその中核をなす医学・歯学・薬学・保健学といった専門領域のみならず、その基礎となる生命・生物系科学や人文社会科学との連携において、持続可能な発展を導く科学の一分野として役割を果たす必要がある。

そこで、大学院教育においても、医学・歯学・薬学・保健学のさらなる深化とともに、急速な進歩を続ける生命・生物系領域や健康を取り巻く社会経済的な背景となる人文社会科学系領域を理解することによって、全てのライフステージに対応し、健康寿命を延伸させる新しい健康・医療・介護システムを構築するための人材が求められており、既存の研究科における教育のさらなる融合や他の研究科との分野横断的なプログラムの提供が必要となっている。

また、看護学・保健学・口腔健康科学など医療のみならず健康科学に係る人材育成は、上記のように人々のQOL向上や健康寿命の延伸に極めて重要で、未来社会の創造に向かってさらに重要性が増してきた。医療を支えるコメディカル教育は教育内容に共通する部分が多いことに加え、今後、社会で求められる新たな医療提供体制（多職種連携、地域包括ケアなど）にとって、それら三つの分野がさらに垣根を越えて協働することが重要である。

これらの社会からの要請に応えるべき機能強化の必要性や課題をうけて、医学・歯学・薬学・保健学分野における基盤的研究の深化とこれら分野間の連携・融合のさらなる強化を図り、医学・歯学・薬学・保健学分野の枠組みを超えて展開するために「医系科学研究科」を組織する。

「医系科学研究科」には、研究能力に裏打ちされ、かつ医療系の幅広い知識と学識を有した高度専門医療人としての指導的臨床能力を優した医師、歯科医師、薬剤師又はこれらの枠を超えた先端的的生命科学研究に精通した人材を養成することを目的とする「医歯薬学専攻（博士課程）」とQOL向上や健康寿命の延伸に貢献し、多職種連携、地域包括ケアなど新たな医療提供体制において重要な役割を担う健康科学に係る人材を養成することを目的とする「総合健康科学専攻（博士課程前期及び博士課程後期）」の2専攻を置く。

「医系科学研究科」では、上記の課題や社会的要請に応えるために、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を養成するとともに、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材を養成する。そのため、大学院共通科目や研究科共通科目、専攻共通科目を履修させる。

新設する「総合生命科学研究科」との分野横断型のプログラムである「生命医療科学プログラム」を創設し、医系領域のみならず複合領域や新しい領域で活躍できる人材を養成する。

また、専攻の整理の中で、従来の保健学専攻と口腔健康科学専攻については、教育内容に共通性があることや、今後の医療提供体制においてそれら2つの分野が垣根を越えて協働することが重要であることから、保健科学プログラムとしてまとめる。

4. 広島大学大学院の3つのポリシー（博士課程前期）

(1) ディプロマ・ポリシー

広島大学大学院では、新しい平和科学、すなわち「持続可能な発展を導く科学」の創生と、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献する人材の育成を教育目標とし、次の方針に従って当該学位を授与する。

以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に、修士の学位を授与する。

- ① 専門分野における高度な知識と研究力を有している。
- ② 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない広い視野を有している。
- ③ 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と複眼的思考力に裏打ちされた課題発見能力を有している。
- ④ 多分野の専門家で構成されるチームの一員として社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- ⑤ 修士学位取得者としての使命を自覚し、高い倫理観を有している。

(2) カリキュラム・ポリシー

広島大学大学院では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

学生が自分の専門以外の分野に触れる機会を増やし、広い範囲から研究テーマを見つけ、また研究テーマの変更や進路の選択が柔軟に行えるような環境、さらに、学生が社会とのつながりを意識し、開かれた問題意識を持ち、新たな発想ができるような環境を提供するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ① それぞれの専門分野に必要な高度な専門的知識と能力の獲得を促すため、専攻分野に関連する専門科目を体系的に提供する。
- ② 研究科や専門領域を超えた広い視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるための科目やキャリアパスを拡げるための科目を大学院共通科目として開設する。
- ③ 人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学のそれぞれの分野において共通基盤となる能力を涵養するため、研究科共通科目を開設する。
- ④ 主として専攻する領域以外の授業科目の履修を必修とします。また、専門領域の異なるゼミの履修や研究指導を受けることにより修得した単位を修了要件とすることができる。
- ⑤ 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。
- ⑥ 異なる分野の専門家がチームとして取り組む研究プロジェクトへ参加することにより、修了要件とすることができる単位を修得できる。

(3) アドミッション・ポリシー

広島大学大学院では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を期待する。

- ① 広島大学の理念に共感し、現在の人類社会が抱える課題又は今後抱えるかもしれない課題に、自らの教養、知識、能力及び行動力によりチャレンジすることにより、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人
- ② 幅広い教養と共に、人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学のそれぞれの分野における高度な知識と研究能力を身に付け、多角的視点から「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人、又は学問での研鑽の成果を還元することにより社会に貢献したいという志を持つ人
- ③ 世界中から好奇心にあふれる若者や学び直しの社会人が集う、世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスで、多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付け、持続可能な共生社会を実現しようとする意欲を持つ人

5. 医系科学研究科の3つのポリシー（博士課程前期）

医学・歯学・薬学・保健学の4分野における基盤的研究の深化と分野間の連携・融合を図り、生命医科学の急速な進歩と医療技術の高度化に迅速に対応する先端的な教育研究を推進することにより、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を育成する。また、旧来の学問分野の枠組みを超えて、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材の育成を目的とする。

(1) ディプロマ・ポリシー

医系科学研究科では、教育上の目的に沿った人材の育成を目標とし、次の方針に従って当該学位を授与する。

以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に、研究テーマ及び専門領域に応じて「修士（医科学）、修士（歯科学）、修士（公衆衛生学）、修士（薬科学）、修士（看護学）、修士（保健学）、修士（口腔健康科学）、修士（学術）」のいずれかの学位を授与する。

- ① 専門分野における高度な知識と研究力を有している。
- ② 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない広い視野を有している。
- ③ 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と複眼的思考力に裏打ちされた課題発見能力を有している。
- ④ 学際的・国際的なコミュニケーション能力を有し、多分野の専門家で構成されるチームの一員として社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- ⑤ 修士学位取得者としての使命を自覚し、高い倫理観を有している。

(2) カリキュラム・ポリシー

医系科学研究科では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

学生が自分の専門以外の分野に触れる機会を増やし、広い範囲から研究テーマを見つけ、また研究テーマの変更や進路の選択が柔軟に行えるような環境、さらに、学生が社会とのつながりを意識し、開かれた問題意識を持ち、新たな発想ができるような環境を提供するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ① それぞれの専門分野で必要な高度な専門的知識と能力の獲得を促すため、専攻分野に関連する専門科目を体系的に提供する。
- ② 研究科や専門領域を超えた広い視野と社会への関心や問題意識を涵養し、「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるための科目やキャリアパスを拓くための科目を大学院共通科目として開設する。
- ③ 医系科学分野において共通基盤となる能力を涵養するため、生命・医療倫理及び多職種連携に関する科目を必修とした研究科共通科目を開設する。
- ④ 主として専攻する領域以外の授業科目の履修を必修とする。また、専門領域の異なるゼミの履修や研究指導を受けることにより、修得した単位を修了要件とすることができる。
- ⑤ 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。
- ⑥ 異なる分野の専門家がチームとして取り組む研究プロジェクトへ参加することにより、修了要件とすることができる単位を修得できる。

(3) アドミッション・ポリシー

医系科学研究科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を期待する。

- ① 広島大学の理念に共感し、現在の人類社会が抱える課題又は今後抱えるかもしれない課題に、自らの教養、健康科学における高度な知識、能力及び行動力によりチャレンジすることで、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人
- ② 幅広い教養と共に、狭い専門領域にとらわれない広い視野と健康科学における高度な知識と研究能力を身に付け、「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人、又は学問での研鑽の成果を還元することにより地域や国際社会に貢献したいという志を持つ人
- ③ 世界中から好奇心にあふれる若者や学び直しの社会人が集う、世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスで、多様性に関する理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付け、持続可能な共生社会を実現しようとする意欲を持つ人

6. 医学物理士プログラムの目的（博士課程前期）

医学物理士とは、放射線を用いた医療が適切に実施されるよう、医学物理学の面で貢献する職種であり、近年の社会的な背景により、大学院レベルでの高度な人材養成が求められている。

このような社会的背景の下、広島大学では、平成24年4月から大学院医歯薬保健学研究科医歯科学専攻（修士課程）に医学物理士コースを開設し、医学物理士となるために必要な教育を実施している。

医学物理士プログラムでは、医学物理学分野の高度専門職業人として活躍できる人材、医学物理学の普及を担う教育者・研究者並びに医学物理学分野で国際的に活躍できる人材の養成を目的としている。

7. 医学物理士プログラムの3つのポリシー（博士課程前期）

(1) ディプロマ・ポリシー

以下の能力を身に付け、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に、修士（医科学）の学位を授与する。

- ① 医学・歯学・薬学・保健学・物理学の各分野における豊かな学識と問題解決能力を身に付けている。
- ② 独創的で未来志向的な研究姿勢を持っている。
- ③ 医学物理士認定試験の受験資格を得るために必要な知識・技能を身に付けている。

(2) カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

- ① カリキュラムは、講義、演習及び特別研究から構成される。
- ② 生命・医療倫理に関する科目を必修とし、豊かな人間性を涵養する。
- ③ 医学物理の分野で必要とする専門知識に加え、包括的な専門知識の習得を可能にし、さらに大学院博士課程後期の研究機会の拡大を考慮して研究法の基礎、及び分野を越えた幅広い分野の専門科目を履修する。
- ④ 医学物理士認定機構の教育コース認定要件を満たす科目の履修により、医学物理士認定試験の受験資格を得るために必要な知識・能力を習得する。

(3) アドミッション・ポリシー

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、次のような学生の入学を期待する。

- ① 医学物理学における幅広い知識を身に付けたい人
- ② 医学物理学において基礎的・臨床的研究に取り組みたい人
- ③ 医学物理学の知識・専門性をもって、放射線災害の予防、放射線機器の品質保証等の専門的業務に携わりたい人
- ④ 医学物理士を目指す人

II 教育課程編成の考え方・特色

1. 研究科の教育課程編成の考え方

医系科学研究科では、医学・歯学・薬学・保健学の4専門分野の教育・研究のさらなる深化とともに、急速な進歩を続ける生命・生物系領域や健康を取り巻く社会経済的な背景となる人文社会科学系領域を理解することによって、全てのライフステージに対応し、健康寿命を延伸させる新しい健康・医療・介護システムを構築するための人材を育成するために、既存の医歯薬保健学研究科における教育・研究のさらなる融合とともに他の研究分野との横断的なプログラムの提供できる編成とする。そのために、

- 1) 高度専門医療人を養成するための専門プログラムを充実させる。
- 2) 複合領域や新しい領域で活躍できる人材を養成することを目的として、大学院共通科目、研究科共通科目、専攻共通科目を履修させる。
- 3) 生命科学分野と融合した分野横断型のプログラムである「生命医療科学プログラム」を創設する。
- 4) 教育内容に共通性があり今後の医療提供体制において協働することが重要であることから、保健学分野と口腔健康科学分野を包含する保健科学プログラムを設置する。

これらの編成により、大学院生は、所属する学位プログラムで深い専門性を身に付けるだけでなく、分野を超えた教員の講義を受講することが可能となり幅広い知識を修得することが可能となる。

また、本研究科の研究指導は、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制としており、専門分野の異なる副指導教員が参画している研究プロジェクトに、学生が参加した場合については、当該研究プロジェクトに従事した時間数を、研究指導の授業時間として扱うことにより、学生は専門分野だけでなく、幅広い視野を身に付けることが可能となる。

2. 大学院共通科目の特色（博士課程前期）

広島大学大学院のディプロマ・ポリシーに従い、広い視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるために、さらに、最近の社会システムの進展を正しく把握し、現代社会で活躍するための基本的な知識を身に付けるために開設する。

そのために、次の2つのカテゴリーの大学院共通科目を開設し、学生は、各カテゴリーから、それぞれ1単位以上を選択し、履修する。

- (1) 持続可能な発展科目
国際的目標である「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」を理解し、「持続可能な発展を導く科学」を創出する能力を身に付けさせる。
- (2) キャリア開発・データリテラシー科目
最近の社会システムの進展を知り、また、これからの時代に必須であるIT関連の知識を身に付けさせる。

3. 研究科共通科目の特色（博士課程前期）

研究科共通科目は、研究科のディプロマ・ポリシーに従い、医系科学分野において共通基盤となる能力を涵養するため4単位以上を履修することとし、うち「生命・医療倫理学A」及び「多職種連携A」の2単位を必修とする。

- ① 生命・医療倫理学A
- ② 研究方法論A
- ③ スタートアップ生命科学コースワーク
- ④ 生体医工学イノベーションA
- ⑤ 多職種連携A
- ⑥ 医学統計パッケージ演習

4. 総合健康科学専攻共通科目の特色（博士課程前期）

専攻共通科目は、複合領域や新しい領域で活躍できる能力を身に付ける科目である。

学生は、学んできたバックグラウンドが異なるため、指導教員と相談の上、2単位以上を選択し、履修する。

- ① 生命医療科学論
- ② 栄養学
- ③ 健康生活科学
- ④ 予防医学・健康指導特論A
- ⑤ 予防医学・健康指導特論B
- ⑥ Health Communication and Health Promotion
- ⑦ Research Methodology in Health Science

5. 医学物理士プログラムの特色（博士課程前期）

カリキュラムは、講義、実習、演習、実習、特別研究から構成する。

医学物理の分野で必要とする専門知識に加え、医学、医療に関する包括的な知識の習得が可能な授業科目を配置している。さらに、共通科目では、研究法の基礎や分野を越えた幅広い知識の習得が可能な授業科目を配置している。

医学物理士認定機構の教育コース認定要件を満たす科目の履修により、医学物理士認定試験の受験資格を得るために必要な知識・技能を修得できることが特色である。

6. 学位プログラムの選択

学位プログラムの選択は、入学者選抜において、学位プログラムごとに募集人員を設けて実施する。

7. 学位の名称

放射線診断物理学、核医学物理学、放射線腫瘍学等の医科学分野における研究を主な研究対象とした教育課程であることから、医学物理士プログラムで授与する学位は、「修士（医科学）」(Master of Medical Science)とする。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。 修了要件単位数：30単位 (1) 大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修） (2) 研究科共通科目：4単位以上（ただし、生命・医療倫理学A及び多職種連携Aを必修） (3) 専攻共通科目：2単位以上 (4) プログラム専門科目：22単位以上（ただし、必修科目の11科目21単位を含む。）	1学年の学期区分	2学期（4ターム）
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要(事前伺い)

(総合健康科学専攻 博士課程前期 生命医療科学プログラム)

科目区分	授業科目	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
大学院共通科目	Hiroshimaから世界平和を考える	1・2③		1		○									兼5	オムニバス	
	Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace	1・2③		1		○									兼7	オムニバス	
	Japanese Experience of Human Development- Culture, Education, and Health	1・2④		1		○			2						兼4	オムニバス	
	SDGsへの学問的アプローチA	1・2①		1		○			2	1					兼5	オムニバス・共同(一部)	
	SDGsへの学問的アプローチB	1・2③		1		○									兼7	オムニバス	
	ダイバーシティの理解	1・2②		1		○									兼4	集中・オムニバス・共同(一部)	
	データリテラシー	1・2①		1		○									兼2	オムニバス	
	医療情報リテラシー	1・2③		1		○			6	1					兼2	オムニバス・共同(一部)	
	人文社会系キャリアマネジメント	1・2②③		2		○									兼1		
	理工系キャリアマネジメント	1・2②		2		○									兼1		
	ストレスマネジメント	1・2③		2		○									兼1		
小計(11科目)	-	-	0	14	0	-	-	-	7	2	0	0	0	0	兼36	-	
研究科共通科目	生命・医療倫理学A	1①	1			○			5	1	1				兼1	オムニバス	
	研究方法論A	1①		1		○			5	3					兼1	オムニバス・共同(一部)	
	スタートアップ生命科学コースワーク	1①		1				○		1							
	生体工学イノベーションA	1①		1		○			1						兼6	オムニバス	
	多職種連携A	1①	1			○			8							オムニバス	
	医学統計パッケージ演習	1③		1			○		1				2			集中	
小計(6科目)	-	-	2	4	0	-	-	-	20	5	1	2	0	0	兼8	-	
専攻共通科目	生命医療科学論	1①		1		○			8	1						オムニバス・共同(一部)	
	栄養学	1③		1		○			3	2					兼3	オムニバス	
	健康生活科学	1③		1		○			1						兼8	オムニバス・共同(一部)	
	予防医学・健康指導特論A	1①		1		○			3	2	1	1				オムニバス	
	予防医学・健康指導特論B	1③		1		○			4	2		1				オムニバス	
	Health Communication and Health Promotion	1③		1		○			1	1						共同	
	Research Methodology in Health Science	1①		1		○			1	1						共同	
小計(7科目)	-	-	0	7	0	-	-	-	14	8	1	1	0	0	兼11	-	
プログラム専門科目	特別演習	1通	4				○		28							兼2	
	特別研究	1~2	8					○	28							兼2	
	人体の構造	1前	2			○			4			1			兼1	オムニバス	
	人体の機能	1前	2			○			6	2	2	1				オムニバス	
	病因病態学	1後	2			○			4	2	2	1				オムニバス	
	生体防御学	1後	1			○			2	1		2				オムニバス	
	総合薬理学	1後	1			○			2						兼1	オムニバス	
	医療政策・国際保健概論	1前	1			○			2			1				兼5	オムニバス
	臨床医歯学総論	1後	2			○			6	1	3	2					オムニバス
	生物統計学・臨床統計学基礎論	1前		1		○			2			2				兼1	オムニバス
	分子生物学と放射線防護	1前		2		○			3	3	3	3				兼1	オムニバス
	人体解剖学実習	1後		2				○	4							共同	
	セルダイナミクス・ゲノミクス学特論	1・2④		2		○										兼4	前年・オムニバス
	先端的神経細胞科学	1・2④		2		○	※				1					兼3	オムニバス・共同(一部) 修演習
	細胞機能科学A	1・2②		2		○										兼2	前年・オムニバス
	細胞機能科学B	1・2④		2		○										兼2	前年・オムニバス・共同(一部)
	数理生物学	1・2③		2		○										兼2	
	遺伝子化学A	1・2④		2		○										兼3	集中・隔年・オムニバス・共同
	食品栄養機能学 I	1・2①		2		○										兼1	
	食品衛生微生物学 I	1・2①		2		○										兼2	オムニバス
	応用動物生命科学 I	1・2②		2		○										兼3	オムニバス
	応用分子細胞生物学 I	1・2②		2		○										兼4	オムニバス
小計(22科目)	-	-	21	27	0	-	-	-	37	9	10	13	0	0	兼38	-	
合計(46科目)			23	52	0	-	-	-	55	21	12	14	0	0	兼75	-	
学位又は称号	修士(医科学), 修士(歯科学), 修士(学術)			学位又は学科の分野				医学, 歯学関係									

I 設置の趣旨・必要性

1. 背景等

平成28年1月に、国連開発計画（UNDP）は持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）として17のグローバル目標を設定し、その中で、あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進することを目標3として挙げている。

我が国では、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針として「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21（第2次））」を平成25年度から適応した。この中で、国民の健康の増進の推進に関する基本的な方向として、①健康寿命の延伸と健康格差の縮小、②生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、③社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上、④健康を支え、守るための社会環境の整備、⑤栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善を挙げている。これらの基本的な方向を実現するため、栄養・食生活など各分野に関する生活習慣の改善が重要であり、ライフステージや性差、社会経済的状况等の違いに着目し、生活習慣病を発症する危険度の高い集団などへの働きかけを重点的に行うとともに、地域や職場等を通じた国民への働きかけを進めるとしている。

また、未来投資戦略 2017—Society 5.0の実現に向けた改革の中で、我が国の政策資源を集中投入し、未来投資を促進すべき5つの分野として「健康寿命の延伸」を挙げ、我が国は、グローバルにも突出して高齢化社会をいち早く迎えることとなる一方で、国民皆保険制度や介護保険制度の下でデータが豊富にあることから、健康管理と病気・介護予防、自立支援に軸足を置いた、「新しい健康・医療・介護システム」を構築することにより、健康寿命を更に延伸し、世界に先駆けて生涯現役社会を実現させるとしている。

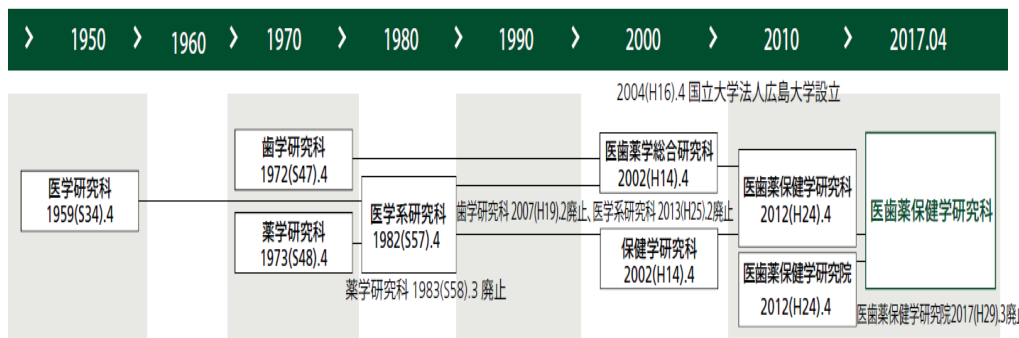
2. 広島大学の現状

平成14年4月から医歯薬学総合研究科と保健学研究科の2研究科で、大学院教育を行ってきたが、医歯薬学総合研究科と保健学研究科の共通目的は「新規医療の開発と高度実践医療の提供」に資する新時代の医学・医療開発研究の展開とそれを担う専門的人材の養成にある。そこで、平成24年4月に、共通の目的を有する2つの研究科を融合した医歯薬保健学研究科を設置した。

医歯薬保健学研究科では、旧来の学問分野の枠組みを超えた新しい領域や複合領域で活躍できる人材養成、学術の高度化・複合化に対応できる研究活動の活性化、新しい知の創造を目指した大規模プロジェクト研究を推進できる組織作りなど、それまでの2研究科では不可能であったより柔軟な教育、研究を展開し、「超高齢社会」に対応する医療、QOL（生活の質）に重点を置いたカスタムメイド医療、患者中心のチーム医療、広島で推進すべき放射線障害に対する医療などの社会的要請に対応してきた。また、医学物理学における幅広い知識を身につけ、医学物理学の基礎的・臨床的研究に取り組むとともに、医学物理士を目指す人材を養成するために、平成24年4月に、歯科学専攻（修士課程）に医学物理士コースを設置した。

平成27年4月には、科学的根拠に基づく医療を実施できる能力を有する医療従事者や公衆衛生行政の担当者及び研究方法や評価において専門的な知識・技能を修得し、臨床、保健、医療行政の課題解決に取り組む人材の養成を目的として、歯科学専攻（修士課程）に公衆衛生学（MPH）コースを設置した。

このような体制のもとで、特徴ある様々な未来型医療の創生研究やこれを担う高度専門人材の教育・養成に加え、極めて細分化かつ高度化する新時代の医学・医療に対応するための緊密な学際的教育・研究を展開している。



3. 機能強化と課題

平成14年4月に、生命医科学に関する新たな知の創造を目指す研究とその応用による先進的な医療開発、さらに新たな分野を切り開く高度専門医療人の養成を目指して医歯薬学総合研究科を、「健康管理」、「疾病予防」及び「リハビリテーション」等々人のQOL（生活の質）向上に資することを中心的課題として高度専門医療人の養成を目指して保健学研究科を設置した。

さらに平成24年4月には、超高齢化社会において患者と病気が共存する状態が増加しており、医師・歯科医師による処置や服薬だけでなく、生活指導や運動療法などが一層重要になっている。他方、医療の急速な進歩と医療制度の変化は、看護やリハビリテーションにも大きな影響を及ぼしている。このような社会状況に対応するために、医歯薬学総合研究科と保健学研究科を一つに統合し、医歯薬保健学研究科を設置した。

これらの改編により、医学・歯学・薬学・保健学分野の学生が同一研究科内で教育・研究を展開、発展させることで、より高度な医療人養成や研究の進歩に繋がってきた。

広島大学では、平成29年4月に新長期ビジョン「SPLENDOR (Sustainable Peace Leader Enhancement by Nurturing Development of Research) PLAN 2017」を策定・公表した。このビジョンにおいて、「これまで以上に、人間、社会、文化、食料、環境、自然の持続性に関連する全ての既存の学問領域を包含し、平和の構築に限りなくチャレンジし、働きかける新しい平和科学の理念『持続可能な発展を導く科学』の創生を目指した活動を展開し、100年後にも世界で光り輝く大学としての責務を果たす。」ことを宣言した。また、ビジョンの一つに「『持続可能な発展を導く科学』の骨格を創る基礎分野と、本学の強みである教育学、物性物理、宇宙科学、材料科学、半導体・ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、食料科学などの分野を融合し、より高度な世界的研究へと発展させることを掲げている。また、原爆の惨禍からの復興を支えてきた大学として、放射線障害に係る医療に関する研究拠点を発展させるとともに、再生医療、肝疾患や脳科学の分野を世界的な研究として発展させる。」ことを挙げた。

このように、未来社会の方向性の中で、医学医療や保健学の役割はさらに重要であるが、医系科学はその中核をなす医学・歯学・薬学・保健学といった専門領域のみならず、その基礎となる生命・生物系科学や人文社会科学との連携において、持続可能な発展を導く科学の一分野として役割を果たす必要がある。

そこで、大学院教育においても、医学・歯学・薬学・保健学のさらなる深化とともに、急速な進歩を続ける生命・生物系領域や健康を取り巻く社会経済的な背景となる人文社会科学系領域を理解することによって、全てのライフステージに対応し、健康寿命を延伸させる新しい健康・医療・介護システムを構築するための人材が求められており、既存の研究科における教育のさらなる融合や他の研究科との分野横断的なプログラムの提供が必要となっている。

また、看護学・保健学・口腔健康科学など医療のみならず健康科学に係る人材育成は、上記のように人々のQOL向上や健康寿命の延伸に極めて重要で、未来社会の創造に向かってさらに重要性が増してきた。医療を支えるコメディカル教育は教育内容に共通する部分が多いことに加え、今後、社会で求められる新たな医療提供体制（多職種連携、地域包括ケアなど）にとって、それら三つの分野がさらに垣根を越えて協働することが重要である。

これらの社会からの要請に応えるべき機能強化の必要性や課題をうけて、医学・歯学・薬学・保健学分野における基盤的研究の深化とこれら分野間の連携・融合のさらなる強化を図り、医学・歯学・薬学・保健学分野の枠組みを超えて展開するために「医系科学研究科」を組織する。

「医系科学研究科」には、研究能力に裏打ちされ、かつ医療系の幅広い知識と学識を有した高度専門医療人としての指導的臨床能力を優れた医師、歯科医師、薬剤師又はこれらの枠を超えた先端的生命科学研究に精通した人材を養成することを目的とする「医歯薬学専攻（博士課程）」とQOL向上や健康寿命の延伸に貢献し、多職種連携、地域包括ケアなど新たな医療提供体制において重要な役割を担う健康科学に係る人材を養成することを目的とする「総合健康科学専攻（博士課程前期及び博士課程後期）」の2専攻を置く。

「医系科学研究科」では、上記の課題や社会的要請に応えるために、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を養成するとともに、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材を養成する。そのため、大学院共通科目や研究科共通科目、専攻共通科目を履修させる。

新設する「統合生命科学研究科」との分野横断型のプログラムである「生命医療科学プログラム」を創設し、医系領域のみならず複合領域や新しい領域で活躍できる人材を養成する。

また、専攻の整理の中で、従来の保健学専攻と口腔健康科学専攻については、教育内容に共通性があることや、今後の医療提供体制においてそれら2つの分野が垣根を越えて協働することが重要であることから、保健科学プログラムとしてまとめる。

4. 広島大学大学院の3つのポリシー（博士課程前期）

(1) ディプロマ・ポリシー

広島大学大学院では、新しい平和科学、すなわち「持続可能な発展を導く科学」の創生と、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献する人材の育成を教育目標とし、次の方針に従って当該学位を授与する。

以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に、修士の学位を授与する。

- ① 専門分野における高度な知識と研究力を有している。
- ② 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない広い視野を有している。
- ③ 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と複眼的思考力に裏打ちされた課題発見能力を有している。
- ④ 多分野の専門家で構成されるチームの一員として社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- ⑤ 修士学位取得者としての使命を自覚し、高い倫理観を有している。

(2) カリキュラム・ポリシー

広島大学大学院では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

学生が自分の専門以外の分野に触れる機会を増やし、広い範囲から研究テーマを見つけ、また研究テーマの変更や進路の選択が柔軟に行えるような環境、さらに、学生が社会とのつながりを意識し、開かれた問題意識を持ち、新たな発想ができるような環境を提供するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ① それぞれの専門分野に必要な高度な専門的知識と能力の獲得を促すため、専攻分野に関連する専門科目を体系的に提供する。
- ② 研究科や専門領域を超えた広い視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるための科目やキャリアパスを拡げるための科目を大学院共通科目として開設する。
- ③ 人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学のそれぞれの分野において共通基盤となる能力を涵養するため、研究科共通科目を開設する。
- ④ 主として専攻する領域以外の授業科目の履修を必修とします。また、専門領域の異なるゼミの履修や研究指導を受けることにより修得した単位を修了要件とすることができる。
- ⑤ 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。
- ⑥ 異なる分野の専門家がチームとして取り組む研究プロジェクトへ参加することにより、修了要件とすることができる単位を修得できる。

(3) アドミッション・ポリシー

広島大学大学院では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を期待する。

- ① 広島大学の理念に共感し、現在の人類社会が抱える課題又は今後抱えるかもしれない課題に、自らの教養、知識、能力及び行動力によりチャレンジすることにより、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人
- ② 幅広い教養と共に、人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学のそれぞれの分野における高度な知識と研究能力を身に付け、多角的視点から「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人、又は学問での研鑽の成果を還元することにより社会に貢献したいという志を持つ人
- ③ 世界中から好奇心にあふれる若者や学び直しの社会人が集う、世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスで、多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付け、持続可能な共生社会を実現しようとする意欲を持つ人

5. 医系科学研究科の3つのポリシー（博士課程前期）

医学・歯学・薬学・保健学の4分野における基盤的研究の深化と分野間の連携・融合を図り、生命医科学の急速な進歩と医療技術の高度化に迅速に対応する先端的な教育研究を推進することにより、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を育成する。また、旧来の学問分野の枠組みを超えて、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材の育成を目的とする。

(1) ディプロマ・ポリシー

医系科学研究科では、教育上の目的に沿った人材の育成を目標とし、次の方針に従って当該学位を授与する。

以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に、研究テーマ及び専門領域に応じて「修士（医科学）、修士（歯科学）、修士（公衆衛生学）、修士（薬科学）、修士（看護学）、修士（保健学）、修士（口腔健康科学）、修士（学術）」のいずれかの学位を授与する。

- ① 専門分野における高度な知識と研究力を有している。
- ② 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない広い視野を有している。
- ③ 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と複眼的思考力に裏打ちされた課題発見能力を有している。
- ④ 学際的・国際的なコミュニケーション能力を有し、多分野の専門家で構成されるチームの一員として社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- ⑤ 修士学位取得者としての使命を自覚し、高い倫理観を有している。

(2) カリキュラム・ポリシー

医系科学研究科では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

学生が自分の専門以外の分野に触れる機会を増やし、広い範囲から研究テーマを見つけ、また研究テーマの変更や進路の選択が柔軟に行えるような環境、さらに、学生が社会とのつながりを意識し、開かれた問題意識を持ち、新たな発想ができるような環境を提供するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ① それぞれの専門分野に必要な高度な専門的知識と能力の獲得を促すため、専攻分野に関連する専門科目を体系的に提供する。
- ② 研究科や専門領域を超えた広い視野と社会への関心や問題意識を涵養し、「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるための科目やキャリアパスを拓くための科目を大学院共通科目として開設する。
- ③ 医系科学分野において共通基盤となる能力を涵養するため、生命・医療倫理及び多職種連携に関する科目を必修とした研究科共通科目を開設する。
- ④ 主として専攻する領域以外の授業科目の履修を必修とする。また、専門領域の異なるゼミの履修や研究指導を受けることにより、修得した単位を修了要件とすることができる。
- ⑤ 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。
- ⑥ 異なる分野の専門家がチームとして取り組む研究プロジェクトへ参加することにより、修了要件とすることができる単位を修得できる。

(3) アドミッション・ポリシー

医系科学研究科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を期待する。

- ① 広島大学の理念に共感し、現在の人類社会が抱える課題又は今後抱えるかもしれない課題に、自らの教養、健康科学における高度な知識、能力及び行動力によりチャレンジすることで、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人
- ② 幅広い教養と共に、狭い専門領域にとらわれない広い視野と健康科学における高度な知識と研究能力を身に付け、「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人、又は学問での研鑽の成果を還元することにより地域や国際社会に貢献したいという志を持つ人
- ③ 世界中から好奇心にあふれる若者や学び直しの社会人が集う、世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスで、多様性に関する理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付け、持続可能な共生社会を実現しようとする意欲を持つ人

6. 生命医療科学プログラムの目的（博士課程前期）

昨今の生命医療科学研究の飛躍的な進歩は、医学・歯学医療を大きく変貌させつつある。例えば、遺伝子診断に基づくプレジジョンメディシン、iPS細胞を使った再生医療、ゲノム創薬、AIの医療への活用等は、従来からあった医療課題解決へ向けての期待を大きくさせている。同時に、少子・高齢化に伴う疾病構造の変化や、医療倫理問題、患者の生活の質の改善、福祉工学との連携等、複雑な課題が増加している。医療従事者のみではこのように急速に拡大する生命医療科学領域に対応することは困難であり、多様な専門的背景を持つ人材の学際的活躍が求められている。

本プログラムの設置は、医学部、歯学部、薬学部及び獣医学部の6年制課程以外の4年制課程の学部等で専門知識や技能を修得した学生を受け入れ、医学、歯学などの生命医療科学に関する基礎的知識の体系的かつ集中的教育を行い、医学、歯学などの生命医療科学における先端的・学際的な研究推進に貢献しうる人材を養成することを趣旨としている。

さらに、医療、製薬、医用工学はもとより、様々な研究領域の学際的関連分野において、高度の専門的な学識をもって活躍できる人材の養成も趣旨としている。

7. 生命医療科学プログラムの3つのポリシー（博士課程前期）

(1) ディプロマ・ポリシー

以下の能力を身に付け、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格した学生に、修士（医科学）、修士（歯科学）又は修士（学術）の学位を授与する。

- ① 基礎医学・歯学研究の基盤となる知識を身に付けている。
- ② 社会における基礎医学、歯学研究の役割を理解している。
- ③ 基礎医学・歯学研究の応用と実践を理解している。
- ④ 教育研究機関において、基礎医学・歯学研究を推進できる能力を身に付けている。
- ⑤ バイオテクノロジー、医療等に関する企業等において研究開発又は医療関係業務に携わるために必要な能力を身に付けている。
- ⑥ 医療機関において、研究志向を持ち医療人としての業務を遂行できる。

(2) カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

- ① カリキュラムは、講義、演習・実習、特別研究から構成される。
- ② 基礎医学・歯学科目の履修により、医学、歯学研究の基盤となる知識を修得する。
- ③ 生命・医療倫理学を含む社会医学・歯学科目の履修により、社会における医学、歯学研究の役割を習得する。
- ④ 臨床医学・歯学科目の履修により、医学・歯学研究の応用と実践を理解する。
- ⑤ 修得した①から③の知識・能力を活用して、教育・研究機関において基礎医学・歯学研究を推進できる能力を習得する。
- ⑥ 習得した①から③の知識・能力を活用して、企業等において研究開発や医療関係業務に携わることができる能力を習得する。

(3) アドミッション・ポリシー

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、次のような学生の入学を期待する。

- ① 生命医科学、医学・歯学における幅広い知識を身に付けたい人
- ② 生命医科学、医学・歯学において基礎的・応用的研究に取り組みたい人
- ③ 教育・研究機関において、基礎医学・歯学研究を推進したい人
- ④ バイオテクノロジー、医療等に関する企業等において研究開発又は医療関係業務に携わりたい人
- ⑤ 医療機関において、研究志向を持ち医療人としての業務に携わりたい人

II 教育課程編成の考え方・特色

1. 研究科の教育課程編成の考え方

医系科学研究科では、医学・歯学・薬学・保健学の4専門分野の教育・研究のさらなる深化とともに、急速な進歩を続ける生命・生物系領域や健康を取り巻く社会経済的な背景となる人文社会科学系領域を理解することによって、全てのライフステージに対応し、健康寿命を延伸させる新しい健康・医療・介護システムを構築するための人材を育成するために、既存の医歯薬保健学研究科における教育・研究のさらなる融合とともに他の研究分野との横断的なプログラムの提供できる編成とする。そのために、

- 1) 高度専門医療人を養成するための専門プログラムを充実させる。
- 2) 複合領域や新しい領域で活躍できる人材を養成することを目的として、大学院共通科目、研究科共通科目、専攻共通科目を履修させる。
- 3) 生命科学分野と融合した分野横断型のプログラムである「生命医療科学プログラム」を創設する。
- 4) 教育内容に共通性があり今後の医療提供体制において協働することが重要であることから、保健学分野と口腔健康科学分野を包含する保健科学プログラムを設置する。

これらの編成により、大学院生は、所属する学位プログラムで深い専門性を身に付けるだけでなく、分野を超えた教員の講義を受講することが可能となり幅広い知識を修得することが可能となる。

また、本研究科の研究指導は、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制としており、専門分野の異なる副指導教員が参画している研究プロジェクトに、学生が参加した場合については、当該研究プロジェクトに従事した時間数を、研究指導の授業時間として扱うことにより、学生は専門分野だけでなく、幅広い視野を身に付けることが可能となる。

2. 大学院共通科目の特色（博士課程前期）
 広島大学大学院のディプロマ・ポリシーに従い、広い視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるために、さらに、最近の社会システムの進展を正しく把握し、現代社会で活躍するための基本的な知識を身に付けるために開設する。
 そのために、次の2つのカテゴリーの大学院共通科目を開設し、学生は、各カテゴリーから、それぞれ1単位以上を選択し、履修する。
 (1) 持続可能な発展科目
 国際的目標である「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）」を理解し、「持続可能な発展を導く科学」を創出する能力を身に付けさせる。
 (2) キャリア開発・データリテラシー科目
 最近の社会システムの進展を知り、また、これからの時代に必須であるIT関連の知識を身に付けさせる。
3. 研究科共通科目の特色（博士課程前期）
 研究科共通科目は、研究科のディプロマ・ポリシーに従い、医系科学分野において共通基盤となる能力を涵養するため4単位以上を履修することとし、うち「生命・医療倫理学A」及び「多職種連携A」の2単位を必修とする。
 ① 生命・医療倫理学A
 ② 研究方法論A
 ③ スタートアップ生命科学コースワーク
 ④ 生体医工学イノベーションA
 ⑤ 多職種連携A
 ⑥ 医学統計パッケージ演習
4. 総合健康科学専攻共通科目の特色（博士課程前期）
 専攻共通科目は、複合領域や新しい領域で活躍できる能力を身に付ける科目である。
 学生は、学んできたバックグラウンドが異なるため、指導教員と相談の上、2単位以上を選択し、履修する。
 ① 生命医療科学論
 ② 栄養学
 ③ 健康生活科学
 ④ 予防医学・健康指導特論A
 ⑤ 予防医学・健康指導特論B
 ⑥ Health Communication and Health Promotion
 ⑦ Research Methodology in Health Science
5. 生命医療科学プログラムの特色（博士課程前期）
 カリキュラムは、講義、実習、特別演習、特別研究から構成する。基礎医学・歯学などの生命医療科学科目の履修により、生命医療科学研究の基盤となる知識を習得する。
 生命・医療倫理学を含む社会医学科目の履修により、社会における医学研究の役割を習得する。さらに、臨床医学・歯学科目の履修により、医学・歯学研究を含む生命医療科学の応用と実践を理解する。
 これらの科目の履修から習得した知識・能力を活用して、演習、実習、特別研究に取り組み、教育・研究機関や企業等において、生命医療科学研究を推進できる能力を習得する。あるいは、高い研究志向を持って医療に従事できる能力を習得する。
 6年制の医学部・歯学部の教育内容を集約し集中して受けることができ、その知識を背景に研究能力を育むことができることが特色である。
6. 学位プログラムの選択
 学位プログラムの選択は、入学者選抜において、学位プログラムごとに募集人員を設けて実施する。
7. 学位の名称
 人体構造学、人体機能学及び病因病態学等の医科学分野と数理生物学、遺伝子科学等の生命科学分野の融合研究分野における研究を対象とした教育課程であることから、生命医療科学プログラムで授与する学位は、「修士（医科学）」（Master of Medical Science）、「修士（歯科学）」（Master of Dental Science）又は「修士（学術）」（Master of Philosophy）とする。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
修了に必要な単位数を33単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。 修了要件単位数：33単位 (1) 大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修。ただし、キャリア開発・データリテラシー科目からは、データリテラシー関係の科目の履修を推奨。） (2) 研究科共通科目：4単位以上（ただし、生命・医療倫理学A及び多職種連携Aを必修） (3) 専攻共通科目：2単位以上 (4) プログラム専門科目：25単位以上（医療科学科目から必修科目7科目21単位を含む21単位以上、生命科学科目から2単位以上）	1学年の学期区分	2学期（4ターム）
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要(事前伺い)

(総合健康科学専攻 博士課程後期)

科目区分	授業科目	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院共通科目	発展科目 持続可能な	スペシャリスト型SDGsアイデアマイニング学生セミナー	1・2・3①	1				○							兼1	集中
		SDGsの観点から見た地域開発セミナー	1・2・3	1				○							兼1	集中
		普遍的平和を目指して	1・2・3④	1			○								兼4	オムニバス
	キャリア開発・ データリテラシー 科目	データサイエンス	1・2・3④		2		○								兼1	
		パターン認識と機械学習	1・2・3②		2		○								兼1	
		データサイエンティスト養成	1・2・3		1		○								兼1	
		医療情報リテラシー活用	1・2・3③		1		○								兼9	オムニバス・共同 (一部)
		リーダーシップ手法	1・2・3①		1		○								兼1	
		高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	1・2・3②④		1		○								兼1	
		イノベーション演習	1・2・3③		2			○							兼1	
		長期インターンシップ	1・2・3		2				○						兼1	
小計(11科目)	-	0	15	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	兼18	-	
研究科共通科目	生命・医療倫理学B	1①	1			○			1					兼7	オムニバス	
	研究方法論B	1①		1		○			3					兼6	オムニバス・共同 (一部)	
	アドバンスド生命科学コースワーク	1③		1				○						兼1		
	バイオメディカルサイエンスの創生展開	1③		1			○		2					兼7	オムニバス・共同 (一部)	
	生体医工学イノベーションB	1①		1		○								兼7	オムニバス	
	多職種連携B	1①	1			○			4					兼4	オムニバス	
小計(6科目)	-	2	4	0	-	-	-	10	0	0	0	0	0	兼28	-	
専攻共通科目	臨床腫瘍学	1①		1		○								兼9	オムニバス・共同 (一部)	
	放射線統合医科学	1①		1		○			1					兼7	オムニバス	
	薬物治療学	1③		1		○								兼4	オムニバス	
	がん診療各論	1①		1		○								兼8	オムニバス	
	Environment and Health	1①		1		○			1	1					共同	
	Research Methodology and Health System Management	1③		1		○			1	1					共同	
小計(6科目)	-	0	6	0	-	-	-	2	1	0	0	0	0	兼25	-	
プログラム 専門科目	ヘルスプロモーション研究法論	1後		2		○			7						オムニバス	
	Advanced Research Methodology in Health Science	1前		2		○			1	1					共同	
	Advanced Statistics in Health Science	1後		2		○			1							
	Global Health Challenges and Solutions II	1後		2		○			1	1				兼1	共同	
	健康推進科学特講	1前		2		○			1							
	健康情報学特講	1前		2		○			1					兼1	共同	
	基礎看護技術開発学特講	1前		2		○			1							
	助産・母性看護方法開発学特講	1前		2		○			1					兼1	共同	
	小児看護方法開発学特講	1前		2		○			1							
	成人看護方法開発学特講	1前		2		○			1							
	成人健康学特講	1前		2		○			1							
	老年・がん看護方法開発学特講	1前		2		○			1							
	精神保健看護方法開発学特講	1前		2		○			1							
	地域・在宅看護方法開発学特講	1前		2		○			1							
	地域・学校看護方法開発学特講	1前		2		○			1							
	健康推進科学特講演習	1前・後		2				○	1							
	健康情報学特講演習	1前・後		2				○	1					兼1	共同	
	基礎看護技術開発学特講演習	1前・後		2				○	1							
	助産・母性看護方法開発学特講演習	1前・後		2				○	1		1				共同	
	小児看護方法開発学特講演習	1前・後		2				○	1							
	成人看護方法開発学特講演習	1前・後		2				○	1							
	成人健康学特講演習	1前・後		2				○	1							
	老年・がん看護方法開発学特講演習	1前・後		2				○	1							
精神保健看護方法開発学特講演習	1前・後		2				○	1								
地域・在宅看護方法開発学特講演習	1前・後		2				○	1		1				共同		
地域・学校看護方法開発学特講演習	1前・後		2				○	1								
看護開発科学特別研究	1~3		6				○	10								
生体構造学特講	1前		2			○		1								
スポーツリハビリテーション学特講	1前		2			○		1		1				共同		
生体運動・動作解析学特講	1前		2			○		1								
生体機能解析制御科学特講	1前		2			○		1	1					共同		

プログラム専門科目	運動器機能医科学特講	1前	2		○			1		1			共同	
	生体環境適応科学特講	1前	2		○			1						
	生理機能情報科学特講	1前	2		○			1						
	作業行動探索科学特講	1前	2		○			1						
	作業機能制御科学特講	1前	2		○			1						
	上肢機能解析制御科学特講	1前	2		○			1						
	精神機能制御科学特講	1前	2		○			1						
	感覚運動神経科学特講	1前	2		○			1						
	生体構造学特講演習	1前・後	2			○		1						
	スポーツリハビリテーション学特講演習	1前・後	2			○		1		1			共同	
	生体運動・動作解析学特講演習	1前・後	2			○		1		1			共同	
	生体機能解析制御科学特講演習	1前・後	2			○		1	1				共同	
	運動器機能医科学特講演習	1前・後	2			○		1		1			共同	
	生体環境適応科学特講演習	1前・後	2			○		1						
	生理機能情報科学特講演習	1前・後	2			○		1						
	作業行動探索科学特講演習	1前・後	2			○		1						
	作業機能制御科学特講演習	1前・後	2			○		1						
	上肢機能解析制御科学特講演習	1前・後	2			○		1						
	精神機能制御科学特講演習	1前・後	2			○		1						
	感覚運動神経科学特講演習	1前・後	2			○		1						
	心身機能生活制御科学特別研究	1～3	6			○		9						
	口腔健康科学特講Ⅰ	1前	2		○			2					兼1	
	口腔健康科学特講Ⅱ	1前	2		○			1					兼1	
	応用口腔生物学特別演習	1～2	4		○			1						
	口腔リハビリテーション工学特別演習	1～2	4		○			1						
	生体構造・機能修復学特別演習	1～2	4		○			1	1				共同	
	医療システム工学特別演習	1～2	4		○			1						
	口腔保健・衛生学特別演習	1～2	4		○			1						
	口腔保健発達機能学特別演習	1～2	4		○			1						
	口腔保健管理學特別演習	1～2	4		○			1						
	口腔健康増進学特別演習	1～2	4		○			1						
	応用口腔生物・リハビリテーション工学特別研究	1～3	6				○	1						
	生体構造・機能修復学特別研究	1～3	6				○	1	1					
	医療システム工学特別研究	1～3	6				○	1						
	口腔保健・衛生学特別研究	1～3	6				○	1						
	口腔保健発達・健康増進学特別研究	1～3	6				○	1						
	口腔保健管理學特別研究	1～3	6				○	1						
	薬科学特講	1①②	2		○			2						兼15
	生薬学特別演習	1～2	4			○		1						
	創薬合成化学特別演習	1～2	4			○		1						
	医薬分子機能科学特別演習	1～2	4			○		1						
微生物医薬品開発学特別演習	1～2	4			○		1							
薬効解析科学特別演習	1～2	4			○		1							
薬物動態解析・制御科学特別演習	1～2	4			○		1	1		1			共同	
未病・予防医学特別演習	1～2	4			○								兼1	
生薬学特別研究	1～3	6				○	1							
創薬合成化学特別研究	1～3	6				○	1							
医薬分子機能科学特別研究	1～3	6				○	1							
微生物医薬品開発学特別研究	1～3	6				○	1							
薬効解析科学特別研究	1～3	6				○	1							
薬物動態解析・制御科学特別研究	1～3	6				○	1							
未病・予防医学特別研究	1～3	6				○							兼1	
特別演習	1～2	4			○			10					兼19	
特別研究	1～3	6				○		10					兼19	
English Presentation	1前・後	2		○									兼1	
英語論文修辞学	1前・後	2		○									兼1	
小計(87科目)	-	0	270	0	-		40	4	5	1	0	兼41	-	
合計(110科目)			2	295	0	-	40	4	5	1	0	兼99	-	
学位又は称号	博士(医科学), 博士(歯科学), 博士(薬科学), 博士(看護学), 博士(保健学), 博士(口腔健康科学), 博士(学術)		学位又は学科の分野				医学関係, 歯学関係, 薬学関係, 保健衛生学関係(看護学関係), 保健衛生学関係(リハビリテーション関係), 保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)							

教育課程等の概要(事前伺い)

(総合健康科学専攻 博士課程後期 保健科学プログラム)

科目区分	授業科目	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
大学院共通科目	持続可能な発展科目 SDGsの観点から見た地域開発セミナー 普遍的平和を目指して	1・2・3①		1				○							兼1	集中	
		1・2・3		1				○							兼1	集中	
		1・2・3④		1			○								兼4	オムニバス	
	キャリア開発・リーダーシップ科目	データサイエンス	1・2・3④		2				○							兼1	
		パターン認識と機械学習	1・2・3②		2				○							兼1	
		データサイエンティスト養成	1・2・3		1				○							兼1	
		医療情報リテラシー活用	1・2・3③		1				○							兼9	オムニバス・共同(一部)
		リーダーシップ手法	1・2・3①		1				○							兼1	
		高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	1・2・3②④		1				○							兼1	
		イノベーション演習	1・2・3③		2				○							兼1	
	長期インターンシップ	1・2・3		2				○							兼1		
小計(11科目)		-	0	15	0			-		0	0	0	0	0	兼18	-	
研究科共通科目	生命・医療倫理学B	1①		1				○							兼7	オムニバス	
	研究方法論B	1①		1				○							兼6	オムニバス・共同(一部)	
	アドバンスド生命科学コースワーク	1③		1						○					兼1		
	バイオメディカルサイエンスの創生展開	1③		1				○							兼7	オムニバス・共同(一部)	
	生体医工学イノベーションB	1①		1				○							兼7	オムニバス	
	多職種連携B	1①		1				○							兼4	オムニバス	
小計(6科目)		-	2	4	0			-		10	0	0	0	0	兼28	-	
専攻共通科目	臨床腫瘍学	1①		1				○							兼9	オムニバス・共同(一部)	
	放射線統合医科学	1①		1				○							兼7	オムニバス	
	薬物治療学	1③		1				○							兼4	オムニバス	
	がん診療各論	1①		1				○							兼8	オムニバス	
	Environment and Health	1①		1				○			1					共同	
	Research Methodology and Health System Management	1③		1				○			1	1				共同	
小計(6科目)		-	0	6	0			-		2	1	0	0	0	兼25	-	
プログラム専門科目 看護学領域	ヘルスプロモーション研究法論	1後		2				○							7		オムニバス
	Advanced Research Methodology in Health Science	1前		2				○							1	1	共同
	Advanced Statistics in Health Science	1後		2				○							1		共同
	Global Health Challenges and Solutions II	1後		2				○							1	1	兼1 共同
	健康推進科学特講	1前		2				○							1		
	健康情報学特講	1前		2				○							1		兼1 共同
	基礎看護技術開発学特講	1前		2				○							1		
	助産・母性看護方法開発学特講	1前		2				○							1		兼1 共同
	小児看護方法開発学特講	1前		2				○							1		
	成人看護方法開発学特講	1前		2				○							1		
	成人健康学特講	1前		2				○							1		
	老年・がん看護方法開発学特講	1前		2				○							1		
	精神保健看護方法開発学特講	1前		2				○							1		
	地域・在宅看護方法開発学特講	1前		2				○							1		
	地域・学校看護方法開発学特講	1前		2				○							1		
	健康推進科学特講演習	1前・後		2					○						1		
	健康情報学特講演習	1前・後		2					○						1		兼1 共同
	基礎看護技術開発学特講演習	1前・後		2					○						1		
	助産・母性看護方法開発学特講演習	1前・後		2					○						1	1	共同
	小児看護方法開発学特講演習	1前・後		2					○						1		
	成人看護方法開発学特講演習	1前・後		2					○						1		
	成人健康学特講演習	1前・後		2					○						1		
	老年・がん看護方法開発学特講演習	1前・後		2					○						1		
	精神保健看護方法開発学特講演習	1前・後		2					○						1		
	地域・在宅看護方法開発学特講演習	1前・後		2					○						1	1	共同
	地域・学校看護方法開発学特講演習	1前・後		2					○						1		
	看護開発科学特別研究	1~3		6					○						10		

I 設置の趣旨・必要性

1. 背景等

平成28年1月に、国連開発計画（UNDP）は持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）として17のグローバル目標を設定し、その中で、あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進することを目標3として挙げている。

我が国では、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針として「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21（第2次））」を平成25年度から適応した。この中で、国民の健康の増進の推進に関する基本的な方向として、①健康寿命の延伸と健康格差の縮小、②生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、③社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上、④健康を支え、守るための社会環境の整備、⑤栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善を挙げている。これらの基本的な方向を実現するため、栄養・食生活など各分野に関する生活習慣の改善が重要であり、ライフステージや性差、社会経済的状况等の違いに着目し、生活習慣病を発症する危険度の高い集団などへの働きかけを重点的に行うとともに、地域や職場等を通じた国民への働きかけを進めるとしている。

また、未来投資戦略 2017—Society 5.0の実現に向けた改革の中で、我が国の政策資源を集中投入し、未来投資を促進すべき5つの分野として「健康寿命の延伸」を挙げ、我が国は、グローバルにも突出して高齢化社会をいち早く迎えることとなる一方で、国民皆保険制度や介護保険制度の下でデータが豊富にあることから、健康管理と病気・介護予防、自立支援に軸足を置いた、「新しい健康・医療・介護システム」を構築することにより、健康寿命を更に延伸し、世界に先駆けて生涯現役社会を実現させるとしている。

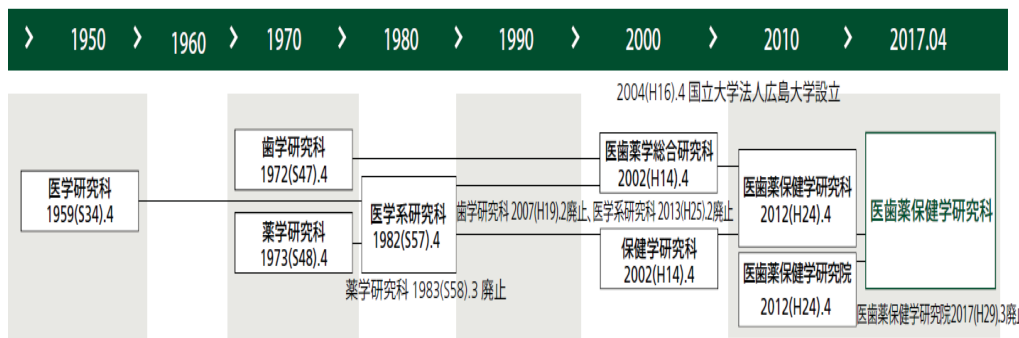
2. 広島大学の現状

平成14年4月から医歯薬学総合研究科と保健学研究科の2研究科で、大学院教育を行ってきたが、医歯薬学総合研究科と保健学研究科の共通目的は「新規医療の開発と高度実践医療の提供」に資する新時代の医学・医療開発研究の展開とそれを担う専門的人材の養成にある。そこで、平成24年4月に、共通の目的を有する2つの研究科を融合した医歯薬保健学研究科を設置した。

医歯薬保健学研究科では、旧来の学問分野の枠組みを超えた新しい領域や複合領域で活躍できる人材養成、学術の高度化・複合化に対応できる研究活動の活性化、新しい知の創造を目指した大規模プロジェクト研究を推進できる組織作りなど、それまでの2研究科では不可能であったより柔軟な教育、研究を展開し、「超高齢社会」に対応する医療、QOL（生活の質）に重点を置いたカスタムメイド医療、患者中心のチーム医療、広島で推進すべき放射線障害に対する医療などの社会的要請に対応してきた。また、医学物理学における幅広い知識を身につけ、医学物理学の基礎的・臨床的研究に取り組むとともに、医学物理士を目指す人材を養成するために、平成24年4月に、歯科学専攻（修士課程）に医学物理士コースを設置した。

平成27年4月には、科学的根拠に基づく医療を実施できる能力を有する医療従事者や公衆衛生行政の担当者及び研究方法や評価において専門的な知識・技能を修得し、臨床、保健、医療行政の課題解決に取り組む人材の養成を目的として、歯科学専攻（修士課程）に公衆衛生学（MPH）コースを設置した。

このような体制のもとで、特徴ある様々な未来型医療の創生研究やこれを担う高度専門人材の教育・養成に加え、極めて細分化かつ高度化する新時代の医学・医療に対応するための緊密な学際教育・研究を展開している。



3. 機能強化と課題

平成14年4月に、生命医科学に関する新たな知の創造を目指す研究とその応用による先進的な医療開発、さらに新たな分野を切り開く高度専門医療人の養成を目指して医歯薬学総合研究科を、「健康管理」、「疾病予防」及び「リハビリテーション」等々人のQOL（生活の質）向上に資することを中心的課題として高度専門医療人の養成を目指して保健学研究科を設置した。

さらに平成24年4月には、超高齢化社会において患者と病気が共存する状態が増加しており、医師・歯科医師による処置や服薬だけでなく、生活指導や運動療法などが一層重要になっている。他方、医療の急速な進歩と医療制度の変化は、看護やリハビリテーションにも大きな影響を及ぼしている。このような社会状況に対応するために、医歯薬学総合研究科と保健学研究科を一つに統合し、医歯薬保健学研究科を設置した。

これらの改編により、医学・歯学・薬学・保健学分野の学生が同一研究科内で教育・研究を展開、発展させることで、より高度な医療人養成や研究の進歩に繋がってきた。

広島大学では、平成29年4月に新長期ビジョン「SPLENDOR (Sustainable Peace Leader Enhancement by Nurturing Development of Research) PLAN 2017」を策定・公表した。このビジョンにおいて、「これまで以上に、人間、社会、文化、食料、環境、自然の持続性に関連する全ての既存の学問領域を包含し、平和の構築に限りなくチャレンジし、働きかける新しい平和科学の理念『持続可能な発展を導く科学』の創生を目指した活動を展開し、100年後にも世界で光り輝く大学としての責務を果たす。」ことを宣言した。また、ビジョンの一つに「『持続可能な発展を導く科学』の骨格を創る基礎分野と、本学の強みである教育学、物性物理、宇宙科学、材料科学、半導体・ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、食料科学などの分野を融合し、より高度な世界的研究へと発展させることを掲げている。また、原爆の惨禍からの復興を支えてきた大学として、放射線障害に係る医療に関する研究拠点を発展させるとともに、再生医療、肝疾患や脳科学の分野を世界的な研究として発展させる。」ことを挙げた。

このように、未来社会の方向性の中で、医学医療や保健学の役割はさらに重要であるが、医系科学はその中核をなす医学・歯学・薬学・保健学といった専門領域のみならず、その基礎となる生命・生物系科学や人文社会科学との連携において、持続可能な発展を導く科学の一分野として役割を果たす必要がある。

そこで、大学院教育においても、医学・歯学・薬学・保健学のさらなる深化とともに、急速な進歩を続ける生命・生物系領域や健康を取り巻く社会経済的な背景となる人文社会科学系領域を理解することによって、全てのライフステージに対応し、健康寿命を延伸させる新しい健康・医療・介護システムを構築するための人材が求められており、既存の研究科における教育のさらなる融合や他の研究科との分野横断的なプログラムの提供が必要となっている。

また、看護学・保健学・口腔健康科学など医療のみならず健康科学に係る人材育成は、上記のように人々のQOL向上や健康寿命の延伸に極めて重要で、未来社会の創造に向かってさらに重要性が増してきた。医療を支えるコメディカル教育は教育内容に共通する部分が多いことに加え、今後、社会で求められる新たな医療提供体制（多職種連携、地域包括ケアなど）にとって、それら三つの分野がさらに垣根を越えて協働することが重要である。

これらの社会からの要請に応えるべき機能強化の必要性や課題をうけて、医学・歯学・薬学・保健学分野における基盤的研究の深化とこれら分野間の連携・融合のさらなる強化を図り、医学・歯学・薬学・保健学分野の枠組みを超えて展開するために「医系科学研究科」を組織する。

「医系科学研究科」には、研究能力に裏打ちされ、かつ医療系の幅広い知識と学識を有した高度専門医療人としての指導的臨床能力を優した医師、歯科医師、薬剤師又はこれらの枠を超えた先端的生命科学研究に精通した人材を養成することを目的とする「医歯薬学専攻（博士課程）」とQOL向上や健康寿命の延伸に貢献し、多職種連携、地域包括ケアなど新たな医療提供体制において重要な役割を担う健康科学に係る人材を養成することを目的とする「総合健康科学専攻（博士課程前期及び博士課程後期）」の2専攻を置く。

「医系科学研究科」では、上記の課題や社会的要請に応えるために、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を養成するとともに、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材を養成する。そのため、大学院共通科目や研究科共通科目、専攻共通科目を履修させる。

新設する「総合生命科学研究科」との分野横断型のプログラムである「生命医療科学プログラム」を創設し、医系領域のみならず複合領域や新しい領域で活躍できる人材を養成する。

また、専攻の整理の中で、従来の保健学専攻と口腔健康科学専攻については、教育内容に共通性があることや、今後の医療提供体制においてそれら2つの分野が垣根を越えて協働することが重要であることから、保健科学プログラムとしてまとめる。

4. 広島大学大学院の3つのポリシー（博士課程後期）

(1) ディプロマ・ポリシー

広島大学大学院では、新しい平和科学、すなわち「持続可能な発展を導く科学」の創生と、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献する人材の育成を教育目標とし、次の方針に従って当該学位を授与する。

以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、博士の学位を授与する。

- ① 専門分野における卓越した専門知識と研究力を有している。
- ② 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない学際的かつ国際的な視野を有している。
- ③ 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と柔軟な複眼的思考力に裏打ちされた卓越した課題発見能力を有している。
- ④ 多分野の専門家で構成されるチームのリーダーとして社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- ⑤ 博士学位取得者としての使命を自覚し、極めて高い倫理観を有している。

(2) カリキュラム・ポリシー

広島大学大学院では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

学生が自分の専門以外の分野に触れる機会を増やし、広い範囲から研究テーマを見つけ、また研究テーマの変更や進路の選択が柔軟に行えるような環境、さらに、学生が社会とのつながりを意識し、開かれた問題意識を持ち、新たな発想ができるような環境を提供するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ① それぞれの専門分野に必要な卓越した専門的知識と研究能力の獲得を促すため、専攻分野に関連する専門科目を体系的に提供する。
- ② 研究科や専門領域を超えた学際的かつ国際的な視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるための科目やキャリアパスを拡げるための科目を大学院共通科目として開設する。
- ③ 人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学のそれぞれの分野において共通基盤となる能力を涵養するため、研究科共通科目を開設する。
- ④ 主として専攻する領域以外の授業科目の履修を必修とする。また、専門領域の異なるゼミの履修や研究指導を受けることにより修得した単位を修了要件とすることができる。
- ⑤ 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。
- ⑥ 異なる分野の専門家がチームとして取り組む研究プロジェクトへ参加することにより、修了要件とすることができる単位を修得できる。

(3) アドミッション・ポリシー

広島大学大学院では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を期待する。

- ① 広島大学の理念に共感し、現在の人類社会が抱える課題又は今後抱えるかもしれない課題に、自らの教養、知識、能力及び行動力によりチャレンジすることにより、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人
- ② 幅広い教養と共に、人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学のそれぞれの分野における高度な知識と研究能力を身に付け、多角的視点から「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人、又は学問での研鑽の成果を還元することにより社会に貢献したいという志を持つ人
- ③ 世界中から好奇心にあふれる若者や学び直しの社会人が集う、世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスで、多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付け、持続可能な共生社会を実現しようとする意欲を持つ人

5. 医系科学研究科の3つのポリシー（博士課程後期）

医学・歯学・薬学・保健学の4分野における基盤的研究の深化と分野間の連携・融合を図り、生命医科学の急速な進歩と医療技術の高度化に迅速に対応する先端的な教育研究を推進することにより、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を育成する。また、旧来の学問分野の枠組みを超えて、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材の育成を目的とする。

(1) ディプロマ・ポリシー

医系科学研究科では、教育上の目的に沿った人材の育成を目標とし、次の方針に従って当該学位を授与する。

以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、研究テーマ及び専門領域に応じて「博士（医学）、博士（歯学）、博士（薬学）、博士（薬科学）、博士（看護学）、博士（保健学）、博士（口腔健康科学）、博士（医科学）、博士（歯科学）、博士（学術）」のいずれかの学位を授与する。

- ① 専門分野における卓越した専門知識と高度な研究力を有している。
- ② 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない学際的かつ国際的な視野を有している。
- ③ 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と柔軟な複眼的思考力に裏打ちされた卓越した課題発見能力を有している。
- ④ 学際的・国際的なコミュニケーション能力を有し、多分野の専門家で構成されるチームのリーダーとして社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- ⑤ 博士学位取得者としての使命を自覚し、極めて高い倫理観を有している。

(2) カリキュラム・ポリシー

医系科学研究科では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

学生が自分の専門以外の分野に触れる機会を増やし、広い範囲から研究テーマを見つけ、また研究テーマの変更や進路の選択が柔軟に行えるような環境、さらに、学生が社会とのつながりを意識し、開かれた問題意識を持ち、新たな発想ができるような環境を提供するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ① それぞれの専門分野で必要な卓越した専門的知識と高度な研究能力の獲得を促すため、専攻分野に関連する専門科目を体系的に提供する。
- ② 研究科や専門領域を超えた学際的かつ国際的な視野と社会への関心や問題意識を涵養し、「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるための科目やキャリアパスを拡げるための科目を大学院共通科目として開設する。
- ③ 医系科学分野において共通基盤となる能力を涵養するため、生命・医療倫理及び多職種連携に関する科目を必修とした研究科共通科目を開設する。
- ④ 主として専攻する領域以外の授業科目の履修を必修とする。また、専門領域の異なるゼミの履修や研究指導を受けることにより修得した単位を、修了要件とすることができる。
- ⑤ 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。
- ⑥ 異なる分野の専門家がチームとして取り組む研究プロジェクトへ参加することにより、修了要件とすることができる単位を修得できる。

(3) アドミッション・ポリシー

医系科学研究科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を期待する。

- ① 広島大学の理念に共感し、現在の人類社会が抱える課題又は今後抱えるかもしれない課題に、自らの教養、医学・歯学・薬学・保健学における卓越した知識、高度な能力及び行動力によりチャレンジすることで、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人
- ② 幅広い教養とともに、狭い専門領域にとらわれない学際的かつ国際的な視野と医学・歯学・薬学・保健学における卓越した知識と高度な研究能力を身に付け、多角的視点から「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人、又は学問での研鑽の成果を還元することにより地域や国際社会に貢献したいという志を持つ人
- ③ 世界中から好奇心にあふれる若者や学び直しの社会人が集う、世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスで、多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付け、持続可能な共生社会を実現しようとする意欲を持つ人

6. 保健科学プログラムの目的（博士課程後期）

急速に進行する少子高齢化社会において、社会的ニーズの高まっている高齢者の健康増進を図る上で介護施設、地域に密着した在宅等での高齢者ケアにおいて看護師、理学療法士、作業療法士に対するニーズは高まり、より高度で総合的かつ専門的な知識と実践が求められている。また、特に超高齢社会においてオーラルフレイルティから低栄養に陥ることによる日常生活動作（ADL）の低下や口腔微生物の誤嚥による肺炎など、口腔と全身との関連の重要性が増してきている。しかし口腔ケアが全身ケアに重要な要素であることも認識されつつあるが、口腔ケアと全身ケアを総合的に研究あるいは教育する機関は不十分なのが現状である。

従って今回本学既存の2専攻を統合することで、これまで全国的にも数少ない保健科学プログラムを立ち上げることで、総合的かつ斬新な全身ケアに関する教育・研究を展開するのが設置の趣旨である。

看護学領域（看護学）、リハビリテーション学領域（理学療法、作業療法）、口腔健康科学領域（口腔保健学、口腔工学）の教員が協力して幅広い教育体制を構築することで、高度かつ、時代に対応した教育を提供できる。また、各領域独自で海外などの協定校や共同研究施設があるが、それらからの海外留学生の増加や本学からの大学院生の留学、大学院生・教員間の交流・研究が拡大・加速することが期待される。さらに、教員相互の協力・連携を密にすることで、研究分野の拡大と教育負担の軽減が期待される。

学士課程では既に医歯薬保健学研究科全てが関与した多職種連携教育（IPE）を実施しているが、医系科学研究科に保健科学プログラムを設置することで、大学院生参加型のIPEへ発展させる。

7. 保健科学プログラムの3つのポリシー（博士課程後期）

(1) ディプロマ・ポリシー

以下の能力を身に付け、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、主たる研究テーマ及び専門領域に応じて、博士（看護学）、博士（保健学）又は博士（口腔健康科学）の学位を授与する。

- ① 保健・医療・福祉の各分野における新しい専門研究を推進する能力及び国際的視野を有して、教育・研究をリード、展開し、国際的に貢献できる能力を身に付けている。
- ② 先進的な保健・医療・福祉に関する情報を社会的・国際的に発信し、活躍できる能力を身に付けている。
- ③ 高度な専門知識及び優れた研究能力に基づいて保健・医療・福祉の各分野の実践・指導ができる。
- ④ 国民の健康の維持増進を目的とし、全身の健康を維持増進するための保健科学の学術分野を構築できる能力を身に付けている。

(2) カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

- ① カリキュラムは、講義、演習、特別研究から構成する。
- ② 生命・医療倫理に関する科目を必修とし、豊かな人間性を涵養する。
- ③ 高度な保健科学の各分野を学ぶ上で基盤となる科目を設ける。
- ④ 幅広い知識と学識を深めることを目的として、オムニバス講義科目を設定する。
- ⑤ 各専門科目の演習を充実する。

(3) アドミッション・ポリシー

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、次のような学生の入学を期待する。

- ① 医学的見識とともに、保健科学（看護学・保健学・口腔保健学・口腔工学）分野の学問を深め、各分野における教育・研究を推進する能力を身に付けたい人
- ② 大学等における教育者、食育・健康知識の発展を担う研究者及びIT・分子生物学等を基盤とした、臨床システムの普及を担う高度専門知識を有する教育者・研究者となり、活躍したい人
- ③ 保健・医療・福祉の現場で活躍できる指導的専門職者・管理者を目指す人
- ④ 先進的な健康保健学（看護学・保健学・口腔保健学・口腔工学）を遂行できる能力を身に付けたい人

II 教育課程編成の考え方・特色

1. 研究科の教育課程編成の考え方

医系科学研究科では、医学・歯学・薬学・保健学の4専門分野の教育・研究のさらなる深化とともに、急速な進歩を続ける生命・生物系領域や健康を取り巻く社会経済的な背景となる人文社会科学系領域を理解することによって、全てのライフステージに対応し、健康寿命を延伸させる新しい健康・医療・介護システムを構築するための人材を育成するために、既存の医歯薬保健学研究科における教育・研究のさらなる融合とともに他の研究分野との横断的なプログラムの提供できる編成とする。そのために、

- 1) 高度専門医療人を養成するための専門プログラムを充実させる。
- 2) 複合領域や新しい領域で活躍できる人材を養成することを目的として、大学院共通科目、研究科共通科目、専攻共通科目を履修させる。
- 3) 生命科学分野と融合した分野横断型のプログラムである「生命医療科学プログラム」を創設する。
- 4) 教育内容に共通性があり今後の医療提供体制において協働することが重要であることから、保健学分野と口腔健康科学分野を包含する保健科学プログラムを設置する。

これらの編成により、大学院生は、所属する学位プログラムで深い専門性を身に付けるだけでなく、分野を超えた教員の講義を受講することが可能となり幅広い知識を修得することが可能となる。

また、本研究科の研究指導は、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制としており、専門分野の異なる副指導教員が参画している研究プロジェクトに、学生が参加した場合については、当該研究プロジェクトに従事した時間数を、研究指導の授業時間として扱うことにより、学生は専門分野だけでなく、幅広い視野を身に付けることが可能となる。

2. 大学院共通科目の特色（博士課程後期）
 広島大学大学院のディプロマ・ポリシーに従い、広い視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるために、さらに、社会のさまざまな課題に対応するための実践的な力を身に付けるために開設する。
 そのために、次の2つのカテゴリーの大学院共通科目を開設し、学生は、各カテゴリーから、それぞれ1単位以上を選択し、履修する。
- (1) 持続可能な発展科目
 国際的目標である「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals: SDGs)を理解し、社会のさまざまな課題を解決する能力を身に付けさせる。
- (2) キャリア開発・データリテラシー科目
 現代社会の課題に具体的に取り組み、また、これからの時代に必須であるIT関連の知識・技術を使うことができる能力を身に付けさせる。
 なお、長期インターンシップについては、学生の希望を踏まえ、大学が、国内外の民間企業、公的機関、非営利団体などから受入先候補を選び、学生とのマッチングを行い派遣先を決定する。
3. 研究科共通科目の特色（博士課程）
 研究科共通科目は、研究科のディプロマ・ポリシーに従い、医系科学分野において共通基盤となる能力を涵養するため4単位以上を履修することとし、うち「生命・医療倫理学B」及び「多職種連携B」の2単位を必修としている。
- ① 生命・医療倫理学B
 ② 研究方法論B
 ③ アドバンスド生命科学コースワーク
 ④ バイオメディカルサイエンスの創生展開
 ⑤ 生体医工学イノベーションB
 ⑥ 多職種連携B
4. 総合健康科学専攻の共通科目の特色（博士課程後期）
 専攻共通科目は、複合領域や新しい領域で活躍できる能力を身に付ける科目である。
 学生は、学んできたバックグラウンドが異なるため、指導教員と相談の上、2単位以上を選択し、履修する。
- ① 臨床腫瘍学
 ② 放射線統合医科学
 ③ 薬物治療学
 ④ がん診療各論
 ⑤ Environment and Health
 ⑥ Research Methodology and Health System Management
5. 保健科学プログラムの特色（博士課程後期）
 本プログラムでは、講義、演習、特別研究から構成し、博士課程前期から、更により高度な保健科学の各分野を学ぶ上で基盤となる科目を設ける。また、学際的で幅広い知識と学識を深めることを目的として、オムニバス講義科目を複数設定して幅広い学問を身に付けられるとともに、各専門科目の演習を充実することで、より高度な知識と学識を有する研究者や教育者を数多く育成・輩出できるよう各分野での教育協力や研究指導体制を構築している。また、4月入学と10月入学の全ての外国人留学生も、標準修了年限内に英語科目のみで全ての必要科目が履修・修了できる。
6. 学位プログラムの選択
 学位プログラムの選択は、入学者選抜において、学位プログラムごとに募集人員を設けて実施する。
7. 学位の名称
 健康開発科学、成人看護開発学、地域・在宅看護開発学等の看護学分野及びスポーツリハビリテーション学、作業行動探索科学、精神機能制御科学等の保健学分野並びに口腔保健学、口腔工学、生体構造・機能修復学等の口腔健康科学分野における研究を主な研究対象とした教育課程であることから、保健科学プログラムで授与する学位は、「博士（看護学）」(Doctor of Philosophy in Nursing)、「博士（保健学）」(Doctor of Philosophy in Health Science) 又は「博士（口腔健康科学）」(Doctor of Philosophy in Oral Health Science) とする。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
修了に必要な単位数を22単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 修了要件単位数：22単位 (1) 大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修） (2) 研究科共通科目：4単位以上（ただし、生命・医療倫理学B及び多職種連携Bを必修） (3) 専攻共通科目：2単位以上 (4) プログラム専門科目：14単位以上（専門共通から2単位以上（ヘルスプロモーション研究法論の履修を推奨）、看護学及び保健学領域の履修者については、特講から2単位以上、演習から2単位以上、特別研究から6単位、口腔健康科学領域の履修者については、特講から2単位以上、演習から4単位以上、特別研究から6単位）	1学年の学期区分	2学期（4ターム）
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要(事前伺い)

(総合健康科学専攻 博士課程後期 薬科学プログラム)

科目区分	授業科目	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
大学院共通科目	持続可能な発展科目 スペシャル型SDGsアイデアメイニング学生セミナー SDGsの観点から見た地域開発セミナー 普遍的平和を目指して	1・2・3①		1			○								兼1	集中	
		1・2・3		1			○								兼1	集中	
		1・2・3④		1			○								兼4	オムニバス	
	キャリア開発・データサイエンス・リサーチ科目	データサイエンス	1・2・3④		2			○								兼1	
		パターン認識と機械学習	1・2・3②		2			○								兼1	
		データサイエンティスト養成	1・2・3		1			○								兼1	
		医療情報リテラシー活用	1・2・3③		1			○								兼9	オムニバス・共同(一部)
		リーダーシップ手法	1・2・3①		1			○								兼1	
		高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント	1・2・3②④		1			○								兼1	
		イノベーション演習	1・2・3③		2				○							兼1	
	長期インターンシップ	1・2・3		2				○							兼1		
小計(11科目)	-	0	15	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	兼18	-		
研究科共通科目	生命・医療倫理学B	1①	1				○								兼7	オムニバス	
	研究方法論B	1①	1				○								兼6	オムニバス・共同(一部)	
	アドバンスド生命科学コースワーク	1③	1										○		兼1		
	バイオメディカルサイエンスの創生展開	1③	1				○								兼7	オムニバス・共同(一部)	
	生体医工学イノベーションB	1①	1				○								兼7	オムニバス	
	多職種連携B	1①	1				○								兼4	オムニバス	
小計(6科目)	-	2	4	0	-	-	-	10	0	0	0	0	0	兼28	-		
専攻共通科目	臨床腫瘍学	1①	1				○								兼9	オムニバス・共同(一部)	
	放射線統合医科学	1①	1				○								兼7	オムニバス	
	薬物治療学	1③	1				○								兼4	オムニバス	
	がん診療各論	1①	1				○								兼8	オムニバス	
	Environment and Health	1①	1				○				1				共同		
	Research Methodology and Health System Management	1③	1				○				1	1			共同		
小計(6科目)	-	0	6	0	-	-	-	2	1	0	0	0	0	兼25	-		
プログラム専門科目	薬科学特講	1①②	2				○								兼15	オムニバス・共同(一部)	
	生薬学特別演習	1~2	4					○							1		
	創薬合成化学特別演習	1~2	4					○							1		
	医薬分子機能科学特別演習	1~2	4					○							1		
	微生物医薬品開発学特別演習	1~2	4					○							1		
	薬効解析科学特別演習	1~2	4					○							1		
	薬物動態解析・制御科学特別演習	1~2	4					○							1		
	未病・予防医学特別演習	1~2	4					○							1		
	生薬学特別研究	1~3	6												○		
	創薬合成化学特別研究	1~3	6												○		
	医薬分子機能科学特別研究	1~3	6												○		
	微生物医薬品開発学特別研究	1~3	6												○		
	薬効解析科学特別研究	1~3	6												○		
	薬物動態解析・制御科学特別研究	1~3	6												○		
	未病・予防医学特別研究	1~3	6												○		
	English Presentation	1前	2					○								兼1	
	英語論文修辞学	1前後	2					○								兼1	
小計(17科目)	-	2	74	0	-	-	-	6	1	0	1	0	0	兼17	-		
合計(40科目)			4	99	0	-	-	16	2	0	1	0	0	兼63	-		
学位又は称号	博士(薬科学)		学位又は学科の分野				薬学関係										

I 設置の趣旨・必要性

1. 背景等

平成28年1月に、国連開発計画（UNDP）は持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）として17のグローバル目標を設定し、その中で、あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進することを目標3として挙げている。

我が国では、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針として「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21（第2次））」を平成25年度から適応した。この中で、国民の健康の増進の推進に関する基本的な方向として、①健康寿命の延伸と健康格差の縮小、②生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、③社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上、④健康を支え、守るための社会環境の整備、⑤栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善を挙げている。これらの基本的な方向を実現するため、栄養・食生活など各分野に関する生活習慣の改善が重要であり、ライフステージや性差、社会経済的状况等の違いに着目し、生活習慣病を発症する危険度の高い集団などへの働きかけを重点的に行うとともに、地域や職場等を通じた国民への働きかけを進めるとしている。

また、未来投資戦略 2017—Society 5.0の実現に向けた改革の中で、我が国の政策資源を集中投入し、未来投資を促進すべき5つの分野として「健康寿命の延伸」を挙げ、我が国は、グローバルにも突出して高齢化社会をいち早く迎えることとなる一方で、国民皆保険制度や介護保険制度の下でデータが豊富にあることから、健康管理と病気・介護予防、自立支援に軸足を置いた、「新しい健康・医療・介護システム」を構築することにより、健康寿命を更に延伸し、世界に先駆けて生涯現役社会を実現させるとしている。

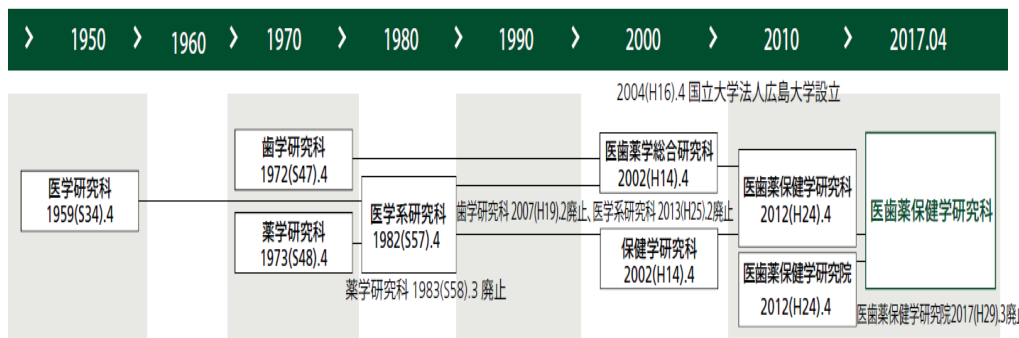
2. 広島大学の現状

平成14年4月から医歯薬学総合研究科と保健学研究科の2研究科で、大学院教育を行ってきたが、医歯薬学総合研究科と保健学研究科の共通目的は「新規医療の開発と高度実践医療の提供」に資する新時代の医学・医療開発研究の展開とそれを担う専門的人材の養成にある。そこで、平成24年4月に、共通の目的を有する2つの研究科を融合した医歯薬保健学研究科を設置した。

医歯薬保健学研究科では、旧来の学問分野の枠組みを超えた新しい領域や複合領域で活躍できる人材養成、学術の高度化・複合化に対応できる研究活動の活性化、新しい知の創造を目指した大規模プロジェクト研究を推進できる組織作りなど、それまでの2研究科では不可能であったより柔軟な教育、研究を展開し、「超高齢社会」に対応する医療、QOL（生活の質）に重点を置いたカスタムメイド医療、患者中心のチーム医療、広島で推進すべき放射線障害に対する医療などの社会的要請に対応してきた。また、医学物理学における幅広い知識を身につけ、医学物理学の基礎的・臨床的研究に取り組むとともに、医学物理士を目指す人材を養成するために、平成24年4月に、歯科学専攻（修士課程）に医学物理士コースを設置した。

平成27年4月には、科学的根拠に基づく医療を実施できる能力を有する医療従事者や公衆衛生行政の担当者及び研究方法や評価において専門的な知識・技能を修得し、臨床、保健、医療行政の課題解決に取り組む人材の養成を目的として、歯科学専攻（修士課程）に公衆衛生学（MPH）コースを設置した。

このような体制のもとで、特徴ある様々な未来型医療の創生研究やこれを担う高度専門人材の教育・養成に加え、極めて細分化かつ高度化する新時代の医学・医療に対応するための緊密な学際的教育・研究を展開している。



3. 機能強化と課題

平成14年4月に、生命医科学に関する新たな知の創造を目指す研究とその応用による先進的な医療開発、さらに新たな分野を切り開く高度専門医療人の養成を目指して医歯薬学総合研究科を、「健康管理」、「疾病予防」及び「リハビリテーション」等々人のQOL（生活の質）向上に資することを中心的課題として高度専門医療人の養成を目指して保健学研究科を設置した。

さらに平成24年4月には、超高齢化社会において患者と病気が共存する状態が増加しており、医師・歯科医師による処置や服薬だけでなく、生活指導や運動療法などが一層重要になっている。他方、医療の急速な進歩と医療制度の変化は、看護やリハビリテーションにも大きな影響を及ぼしている。このような社会状況に対応するために、医歯薬学総合研究科と保健学研究科を一つに統合し、医歯薬保健学研究科を設置した。

これらの改編により、医学・歯学・薬学・保健学分野の学生が同一研究科内で教育・研究を展開、発展させることで、より高度な医療人養成や研究の進歩に繋がってきた。

広島大学では、平成29年4月に新長期ビジョン「SPLENDOR (Sustainable Peace Leader Enhancement by Nurturing Development of Research) PLAN 2017」を策定・公表した。このビジョンにおいて、「これまで以上に、人間、社会、文化、食料、環境、自然の持続性に関連する全ての既存の学問領域を包含し、平和の構築に限りなくチャレンジし、働きかける新しい平和科学の理念『持続可能な発展を導く科学』の創生を目指した活動を展開し、100年後にも世界で光り輝く大学としての責務を果たす。」ことを宣言した。また、ビジョンの一つに「『持続可能な発展を導く科学』の骨格を創る基礎分野と、本学の強みである教育学、物性物理学、宇宙科学、材料科学、半導体・ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、食料科学などの分野を融合し、より高度な世界的研究へと発展させることを掲げている。また、原爆の惨禍からの復興を支えてきた大学として、放射線障害に係る医療に関する研究拠点を発展させるとともに、再生医療、肝疾患や脳科学の分野を世界的な研究として発展させる。」ことを挙げた。

このように、未来社会の方向性の中で、医学医療や保健学の役割はさらに重要であるが、医系科学はその中核をなす医学・歯学・薬学・保健学といった専門領域のみならず、その基礎となる生命・生物系科学や人文社会科学との連携において、持続可能な発展を導く科学の一分野として役割を果たす必要がある。

そこで、大学院教育においても、医学・歯学・薬学・保健学のさらなる深化とともに、急速な進歩を続ける生命・生物系領域や健康を取り巻く社会経済的な背景となる人文社会科学系領域を理解することによって、全てのライフステージに対応し、健康寿命を延伸させる新しい健康・医療・介護システムを構築するための人材が求められており、既存の研究科における教育のさらなる融合や他の研究科との分野横断的なプログラムの提供が必要となっている。

また、看護学・保健学・口腔健康科学など医療のみならず健康科学に係る人材育成は、上記のように人々のQOL向上や健康寿命の延伸に極めて重要で、未来社会の創造に向かってさらに重要性が増してきた。医療を支えるコメディカル教育は教育内容に共通する部分が多いことに加え、今後、社会で求められる新たな医療提供体制（多職種連携、地域包括ケアなど）にとって、それら三つの分野がさらに垣根を越えて協働することが重要である。

これらの社会からの要請に応えるべき機能強化の必要性や課題をうけて、医学・歯学・薬学・保健学分野における基盤的研究の深化とこれら分野間の連携・融合のさらなる強化を図り、医学・歯学・薬学・保健学分野の枠組みを超えて展開するために「医系科学研究科」を組織する。

「医系科学研究科」には、研究能力に裏打ちされ、かつ医療系の幅広い知識と学識を有した高度専門医療人としての指導的臨床能力を優した医師、歯科医師、薬剤師又はこれらの枠を超えた先端的生命科学研究に精通した人材を養成することを目的とする「医歯薬学専攻（博士課程）」とQOL向上や健康寿命の延伸に貢献し、多職種連携、地域包括ケアなど新たな医療提供体制において重要な役割を担う健康科学に係る人材を養成することを目的とする「総合健康科学専攻（博士課程前期及び博士課程後期）」の2専攻を置く。

「医系科学研究科」では、上記の課題や社会的要請に応えるために、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を養成するとともに、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材を養成する。そのため、大学院共通科目や研究科共通科目、専攻共通科目を履修させる。

新設する「総合生命科学研究科」との分野横断型のプログラムである「生命医療科学プログラム」を創設し、医系領域のみならず複合領域や新しい領域で活躍できる人材を養成する。

また、専攻の整理の中で、従来の保健学専攻と口腔健康科学専攻については、教育内容に共通性があることや、今後の医療提供体制においてそれら2つの分野が垣根を越えて協働することが重要であることから、保健科学プログラムとしてまとめる。

4. 広島大学大学院の3つのポリシー（博士課程後期）

(1) ディプロマ・ポリシー

広島大学大学院では、新しい平和科学、すなわち「持続可能な発展を導く科学」の創生と、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献する人材の育成を教育目標とし、次の方針に従って当該学位を授与する。

以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、博士の学位を授与する。

- ① 専門分野における卓越した専門知識と研究力を有している。
- ② 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない学際的かつ国際的な視野を有している。
- ③ 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と柔軟な複眼的思考力に裏打ちされた卓越した課題発見能力を有している。
- ④ 多分野の専門家で構成されるチームのリーダーとして社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- ⑤ 博士学位取得者としての使命を自覚し、極めて高い倫理観を有している。

(2) カリキュラム・ポリシー

広島大学大学院では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

学生が自分の専門以外の分野に触れる機会を増やし、広い範囲から研究テーマを見つけ、また研究テーマの変更や進路の選択が柔軟に行えるような環境、さらに、学生が社会とのつながりを意識し、開かれた問題意識を持ち、新たな発想ができるような環境を提供するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ① それぞれの専門分野に必要な卓越した専門的知識と研究能力の獲得を促すため、専攻分野に関連する専門科目を体系的に提供する。
- ② 研究科や専門領域を超えた学際的かつ国際的な視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるための科目やキャリアパスを拡げるための科目を大学院共通科目として開設する。
- ③ 人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学のそれぞれの分野において共通基盤となる能力を涵養するため、研究科共通科目を開設する。
- ④ 主として専攻する領域以外の授業科目の履修を必修とする。また、専門領域の異なるゼミの履修や研究指導を受けることにより修得した単位を、修了要件とすることができる。
- ⑤ 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。
- ⑥ 異なる分野の専門家がチームとして取り組む研究プロジェクトへ参加することにより、修了要件とすることができる単位を修得できる。

(3) アドミッション・ポリシー

広島大学大学院では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を期待する。

- ① 広島大学の理念に共感し、現在の人類社会が抱える課題又は今後抱えるかもしれない課題に、自らの教養、知識、能力及び行動力によりチャレンジすることにより、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人
- ② 幅広い教養と共に、人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学のそれぞれの分野における高度な知識と研究能力を身に付け、多角的視点から「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人、又は学問での研鑽の成果を還元することにより社会に貢献したいという志を持つ人
- ③ 世界中から好奇心にあふれる若者や学び直しの社会人が集う、世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスで、多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付け、持続可能な共生社会を実現しようとする意欲を持つ人

5. 医系科学研究科の3つのポリシー（博士課程後期）

医学・歯学・薬学・保健学の4分野における基盤的研究の深化と分野間の連携・融合を図り、生命医科学の急速な進歩と医療技術の高度化に迅速に対応する先端的な教育研究を推進することにより、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を育成する。また、旧来の学問分野の枠組みを超えて、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材の育成を目的とする。

(1) ディプロマ・ポリシー

医系科学研究科では、教育上の目的に沿った人材の育成を目標とし、次の方針に従って当該学位を授与する。

以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、研究テーマ及び専門領域に応じて「博士（医学）、博士（歯学）、博士（薬学）、博士（薬科学）、博士（看護学）、博士（保健学）、博士（口腔健康科学）、博士（医科学）、博士（歯科学）、博士（学術）」のいずれかの学位を授与する。

- ① 専門分野における卓越した専門知識と高度な研究力を有している。
- ② 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない学際的かつ国際的な視野を有している。
- ③ 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と柔軟な複眼的思考力に裏打ちされた卓越した課題発見能力を有している。
- ④ 学際的・国際的なコミュニケーション能力を有し、多分野の専門家で構成されるチームのリーダーとして社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- ⑤ 博士学位取得者としての使命を自覚し、極めて高い倫理観を有している。

(2) カリキュラム・ポリシー

医系科学研究科では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

学生が自分の専門以外の分野に触れる機会を増やし、広い範囲から研究テーマを見つけ、また研究テーマの変更や進路の選択が柔軟に行えるような環境、さらに、学生が社会とのつながりを意識し、開かれた問題意識を持ち、新たな発想ができるような環境を提供するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ① それぞれの専門分野で必要な卓越した専門的知識と高度な研究能力の獲得を促すため、専攻分野に関連する専門科目を体系的に提供する。
- ② 研究科や専門領域を超えた学際的かつ国際的な視野と社会への関心や問題意識を涵養し、「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるための科目やキャリアパスを拡げるための科目を大学院共通科目として開設する。
- ③ 医系科学分野において共通基盤となる能力を涵養するため、生命・医療倫理及び多職種連携に関する科目を必修とした研究科共通科目を開設する。
- ④ 主として専攻する領域以外の授業科目の履修を必修とする。また、専門領域の異なるゼミの履修や研究指導を受けることにより修得した単位を、修了要件とすることができる。
- ⑤ 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。
- ⑥ 異なる分野の専門家がチームとして取り組む研究プロジェクトへ参加することにより、修了要件とすることができる単位を修得できる。

(3) アドミッション・ポリシー

医系科学研究科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を期待する。

- ① 広島大学の理念に共感し、現在の人類社会が抱える課題又は今後抱えるかもしれない課題に、自らの教養、医学・歯学・薬学・保健学における卓越した知識、高度な能力及び行動力によりチャレンジすることで、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人
- ② 幅広い教養とともに、狭い専門領域にとらわれない学際的かつ国際的な視野と医学・歯学・薬学・保健学における卓越した知識と高度な研究能力を身に付け、多角的視点から「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人、又は学問での研鑽の成果を還元することにより地域や国際社会に貢献したいという志を持つ人
- ③ 世界中から好奇心にあふれる若者や学び直しの社会人が集う、世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスで、多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付け、持続可能な共生社会を実現しようとする意欲を持つ人

6. 薬科学プログラムの目的（博士課程後期）

急速な国民の高齢化、生活習慣や生活環境の変化は、我が国における疾病構造に大きな影響を与えているが、それに伴う医療に対する社会的要請として、がん、痴呆、生活習慣病などの高齢者に多い疾病の克服のため、高度先進医療の普及が叫ばれている。また、医師、薬剤師、看護師などの医療従事者が、相互に連携しつつそれぞれの専門性を発揮するチーム医療のさらなる推進が求められている。

この中において、薬物治療は必要不可欠であり、高品質な新規医薬品の開発が急務となっている。また、近年、医療は生命科学分野における研究の発展により飛躍的に進歩しており、遺伝子工学に基づく再生医療や各人の特性に応じたカスタムメイド治療の進歩が著しい。このような高度先進医療の中において、新規医薬品創製はますますその重要性を増してきている。

また、ポストゲノム生命科学技術を駆使した創薬科学、ドラッグデリバリーシステム、バイオイメージング技術の開発は製薬業界のみならず広く社会から求められている。

さらに、医薬品創製に関わる学問分野のグローバル化が急速に進み、日本国内にとどまらず世界で活躍する創薬研究者が切望される時代となっており、そのための人材養成が強く求められている。

薬科学プログラム（博士課程後期）は、医療・薬物療法の現状や問題点を理解した上で、我が国における医薬品創製を实践・先導するために必要な研究能力とともに国際的な展開力を身に付けるためのプログラムとなっており、創薬研究を中心とした分野において指導的立場となる人材育成を目的として新たに設置するものである。

7. 薬科学プログラムの3つのポリシー（博士課程後期）

(1) ディプロマ・ポリシー

以下の能力を身に付け、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、博士（薬科学）の学位を授与する。

- ① 薬科学に関する深い学識及び高い見識を身に付けている。
- ② 大学教員や創薬、行政の領域を目指し、薬科学の研究・教育を通じて、我が国の創薬科学及び生命薬科学の発展に貢献できる能力を身に付けている。
- ③ 国際的視点に立って創薬科学及び生命薬科学を基礎とした応用研究を展開できる能力を身に付けている。

(2) カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

- ① カリキュラムは、講義、特別演習及び特別研究から構成する。
- ② 生命・医療倫理に関する科目を必修とし、豊かな人間性を涵養する。
- ③ 薬科学の研究・教育を通じて、我が国の創薬科学及び生命薬科学の発展に貢献できる能力を身に付けるために、教育・研究の柱となる薬科学分野の知識に専門性を活かした高度な研究能力を培うため必修科目の講義として薬科学特講を履修する。
- ④ 国際的視点に立って創薬科学及び生命薬科学を基礎とした応用研究を展開できる能力を身に付けるために、幅広い知識と学識を深めることを目的として、オムニバス講義科目を履修する。

(3) アドミッション・ポリシー

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、次のような学生の入学を期待する。

- ① 主体的に薬科学研究を展開できる能力を身に付けたい人
- ② 指導的立場に立って我が国の創薬科学・生命薬科学に関する教育・研究を推進する能力を身に付けたい人
- ③ 新薬開発を目指し国際的に活躍したい人

II 教育課程編成の考え方・特色

1. 研究科の教育課程編成の考え方

医系科学研究科では、医学・歯学・薬学・保健学の4専門分野の教育・研究のさらなる深化とともに、急速な進歩を続ける生命・生物系領域や健康を取り巻く社会経済的な背景となる人文社会科学系領域を理解することによって、全てのライフステージに対応し、健康寿命を延伸させる新しい健康・医療・介護システムを構築するための人材を育成するために、既存の医歯薬保健学研究科における教育・研究のさらなる融合とともに他の研究分野との横断的なプログラムの提供できる編成とする。そのために、

- 1) 高度専門医療人を養成するための専門プログラムを充実させる。
- 2) 複合領域や新しい領域で活躍できる人材を養成することを目的として、大学院共通科目、研究科共通科目、専攻共通科目を履修させる。
- 3) 生命科学分野と融合した分野横断型のプログラムである「生命医療科学プログラム」を創設する。
- 4) 教育内容に共通性があり今後の医療提供体制において協働することが重要であることから、保健学分野と口腔健康科学分野を包含する保健科学プログラムを設置する。

これらの編成により、大学院生は、所属する学位プログラムで深い専門性を身に付けるだけでなく、分野を超えた教員の講義を受講することが可能となり幅広い知識を修得することが可能となる。

また、本研究科の研究指導は、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制としており、専門分野の異なる副指導教員が参画している研究プロジェクトに、学生が参加した場合については、当該研究プロジェクトに従事した時間数を、研究指導の授業時間として扱うことにより、学生は専門分野だけでなく、幅広い視野を身に付けることが可能となる。

2. 大学院共通科目の特色（博士課程後期）
 広島大学大学院のディプロマ・ポリシーに従い、広い視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるために、さらに、社会のさまざまな課題に対応するための実践的な力を身に付けるために開設する。
 そのために、次の2つのカテゴリーの大学院共通科目を開設し、学生は、各カテゴリーから、それぞれ1単位以上を選択し、履修する。
- (1) 持続可能な発展科目
 国際的目標である「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals: SDGs)を理解し、社会のさまざまな課題を解決する能力を身に付けさせる。
 - (2) キャリア開発・データリテラシー科目
 現代社会の課題に具体的に取り組み、また、これからの時代に必須であるIT関連の知識・技術を使うことができる能力を身に付けさせる。
 なお、長期インターンシップについては、学生の希望を踏まえ、大学が、国内外の民間企業、公的機関、非営利団体などから受入先候補を選び、学生とのマッチングを行い派遣先を決定する。
3. 研究科共通科目の特色（博士課程）
 研究科共通科目は、研究科のディプロマ・ポリシーに従い、医系科学分野において共通基盤となる能力を涵養するため4単位以上を履修することとし、うち「生命・医療倫理学B」及び「多職種連携B」の2単位を必修としている。
- ① 生命・医療倫理学B
 - ② 研究方法論B
 - ③ アドバンスド生命科学コースワーク
 - ④ バイオメディカルサイエンスの創生展開
 - ⑤ 生体工学イノベーションB
 - ⑥ 多職種連携B
4. 総合健康科学専攻の共通科目の特色（博士課程後期）
 専攻共通科目は、複合領域や新しい領域で活躍できる能力を身に付ける科目である。
 学生は、学んできたバックグラウンドが異なるため、指導教員と相談の上、2単位以上を選択し、履修する。
- ① 臨床腫瘍学
 - ② 放射線統合医科学
 - ③ 薬物治療学
 - ④ がん診療各論
 - ⑤ Environment and Health
 - ⑥ Research Methodology and Health System Management
5. 薬科学プログラムの特色（博士課程後期）
 薬科学プログラムが医療系・総合健康科学領域であることから、研究科共通科目の中から生命・医療倫理学B、多職種連携Bを必修とするとともに、医薬品創製を行うために必要な創薬的アプローチと生命薬学的アプローチを修得するために薬科学特講の履修を必修とした。
 また、大学院共通科目の持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修（キャリア開発・データリテラシー科目からは、データリテラシー関係の科目の履修を推奨）することとした。
6. 学位プログラムの選択
 学位プログラムの選択は、入学者選抜において、学位プログラムごとに募集人員を設けて実施する。
7. 学位の名称
 創薬合成化学、薬効解析科学、生薬学等の薬科学分野における研究を主な研究対象とした教育課程であることから、薬科学プログラムで授与する学位は、「博士（薬科学）」(Doctor of Philosophy in Medicinal Science)とする。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
修了に必要な単位数を22単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 修了要件単位数：22単位 (1) 大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修。ただし、キャリア開発・データリテラシー科目からは、データリテラシー関係の科目の履修を推奨。） (2) 研究科共通科目：4単位以上（ただし、生命・医療倫理学B及び多職種連携Bを必修） (3) 専攻共通科目：2単位以上 (4) プログラム専門科目：14単位以上（薬科学特講を含む講義科目から4単位以上、特別演習4単位、特別研究6単位を必修）	1 学年の学期区分	2 学期（4ターム）
	1 学期の授業期間	1 5 週
	1 時限の授業時間	9 0 分

教育課程等の概要(事前伺い)

(総合健康科学専攻 博士課程後期 生命医療科学プログラム)

科目区分	授業科目	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
大学院共通科目	持続可能な発展科目 スペシャル型SDGsアイデアメイニング学生セミナー SDGsの観点から見た地域開発セミナー 普遍的平和を目指して	1・2・3①		1			○								兼1	集中	
		1・2・3		1			○								兼1	集中	
		1・2・3④		1			○								兼4	オムニバス	
	キャリア開発・テラシー科目	データサイエンス パターン認識と機械学習 データサイエンティスト養成 医療情報リテラシー活用 リーダーシップ手法 高度イノベーション人材のためのキャリアマネジメント イノベーション演習 長期インターンシップ	1・2・3④		2			○								兼1	オムニバス・共同(一部)
			1・2・3②		2			○								兼1	
			1・2・3		1			○								兼1	
			1・2・3③		1			○								兼9	
			1・2・3①		1			○								兼1	
			1・2・3②④		1			○								兼1	
	1・2・3③		2				○							兼1			
	1・2・3		2				○							兼1			
小計(11科目)	-	0	15	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	兼18	-		
研究科共通科目	生命・医療倫理学B 研究方法論B アドバンスド生命科学コースワーク バイオメディカルサイエンスの創生展開 生体医工学イノベーションB 多職種連携B	1①		1			○			1					兼7	オムニバス	
		1①		1			○			3					兼6	オムニバス・共同(一部)	
		1③		1					○		2				兼1	オムニバス・共同(一部)	
		1③		1			○				2				兼7	オムニバス・共同(一部)	
		1①		1			○				2				兼7	オムニバス	
		1①	1				○				4				兼4	オムニバス	
小計(6科目)	-	2	4	0	-	-	-	10	0	0	0	0	0	兼28	-		
専攻共通科目	臨床腫瘍学 放射線統合医科学 薬物治療学 がん診療各論 Environment and Health Research Methodology and Health System Management	1①		1			○								兼9	オムニバス・共同(一部)	
		1①		1			○			1					兼7	オムニバス	
		1③		1			○								兼4	オムニバス	
		1①		1			○								兼8	オムニバス	
		1①		1			○			1	1					共同	
		1③		1			○			1	1					共同	
小計(6科目)	-	0	6	0	-	-	-	2	1	0	0	0	0	兼25	-		
プログラム専	特別演習 特別研究 English Presentation 英語論文修辞学	1~2		4				○		10					兼19		
		1~3		6					○	10					兼19		
		1前・後		2				○							兼1		
		1前・後		2				○							兼1		
		小計(4科目)	-	14	0	0	-	-	-	10	0	0	0	0	0	兼21	-
合計(27科目)			16	25	0	-	-	-	16	1	0	0	0	0	兼67	-	
学位又は称号	博士(医科学), 博士(歯科学), 博士(学術)		学位又は学科の分野				医学, 歯学関係										

I 設置の趣旨・必要性

1. 背景等

平成28年1月に、国連開発計画（UNDP）は持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）として17のグローバル目標を設定し、その中で、あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を推進することを目標3として挙げている。

我が国では、国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針として「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21（第2次））」を平成25年度から適応した。この中で、国民の健康の増進の推進に関する基本的な方向として、①健康寿命の延伸と健康格差の縮小、②生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、③社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上、④健康を支え、守るための社会環境の整備、⑤栄養・食生活、身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善を挙げている。これらの基本的な方向を実現するため、栄養・食生活など各分野に関する生活習慣の改善が重要であり、ライフステージや性差、社会経済的状况等の違いに着目し、生活習慣病を発症する危険度の高い集団などへの働きかけを重点的に行うとともに、地域や職場等を通じた国民への働きかけを進めるとしている。

また、未来投資戦略 2017—Society 5.0の実現に向けた改革の中で、我が国の政策資源を集中投入し、未来投資を促進すべき5つの分野として「健康寿命の延伸」を挙げ、我が国は、グローバルにも突出して高齢化社会をいち早く迎えることとなる一方で、国民皆保険制度や介護保険制度の下でデータが豊富にあることから、健康管理と病気・介護予防、自立支援に軸足を置いた、「新しい健康・医療・介護システム」を構築することにより、健康寿命を更に延伸し、世界に先駆けて生涯現役社会を実現させるとしている。

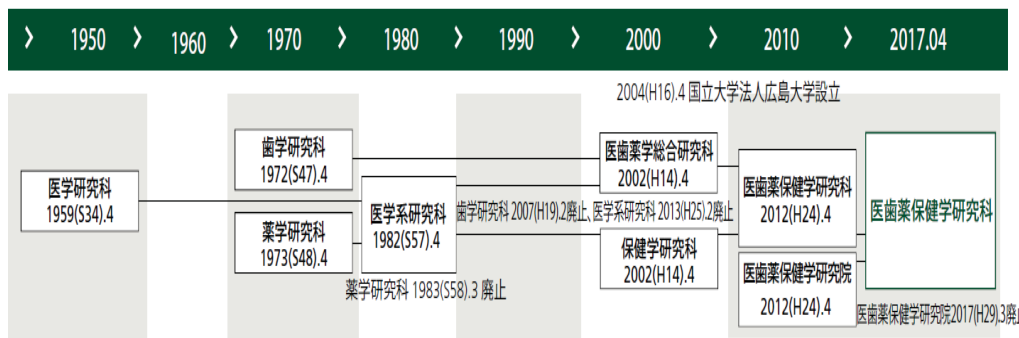
2. 広島大学の現状

平成14年4月から医歯薬学総合研究科と保健学研究科の2研究科で、大学院教育を行ってきたが、医歯薬学総合研究科と保健学研究科の共通目的は「新規医療の開発と高度実践医療の提供」に資する新時代の医学・医療開発研究の展開とそれを担う専門的人材の養成にある。そこで、平成24年4月に、共通の目的を有する2つの研究科を融合した医歯薬保健学研究科を設置した。

医歯薬保健学研究科では、旧来の学問分野の枠組みを超えた新しい領域や複合領域で活躍できる人材養成、学術の高度化・複合化に対応できる研究活動の活性化、新しい知の創造を目指した大規模プロジェクト研究を推進できる組織作りなど、それまでの2研究科では不可能であったより柔軟な教育、研究を展開し、「超高齢社会」に対応する医療、QOL（生活の質）に重点を置いたカスタムメイド医療、患者中心のチーム医療、広島で推進すべき放射線障害に対する医療などの社会的要請に対応してきた。また、医学物理学における幅広い知識を身につけ、医学物理学の基礎的・臨床的研究に取り組むとともに、医学物理士を目指す人材を養成するために、平成24年4月に、歯科学専攻（修士課程）に医学物理士コースを設置した。

平成27年4月には、科学的根拠に基づく医療を実施できる能力を有する医療従事者や公衆衛生行政の担当者及び研究方法や評価において専門的な知識・技能を修得し、臨床、保健、医療行政の課題解決に取り組む人材の養成を目的として、歯科学専攻（修士課程）に公衆衛生学（MPH）コースを設置した。

このような体制のもとで、特徴ある様々な未来型医療の創生研究やこれを担う高度専門人材の教育・養成に加え、極めて細分化かつ高度化する新時代の医学・医療に対応するための緊密な学際的教育・研究を展開している。



3. 機能強化と課題

平成14年4月に、生命医科学に関する新たな知の創造を目指す研究とその応用による先進的な医療開発、さらに新たな分野を切り開く高度専門医療人の養成を目指して医歯薬学総合研究科を、「健康管理」、「疾病予防」及び「リハビリテーション」等々人のQOL（生活の質）向上に資することを中心的課題として高度専門医療人の養成を目指して保健学研究科を設置した。

さらに平成24年4月には、超高齢化社会において患者と病気が共存する状態が増加しており、医師・歯科医師による処置や服薬だけでなく、生活指導や運動療法などが一層重要になっている。他方、医療の急速な進歩と医療制度の変化は、看護やリハビリテーションにも大きな影響を及ぼしている。このような社会状況に対応するために、医歯薬学総合研究科と保健学研究科を一つに統合し、医歯薬保健学研究科を設置した。

これらの改編により、医学・歯学・薬学・保健学分野の学生が同一研究科内で教育・研究を展開、発展させることで、より高度な医療人養成や研究の進歩に繋がってきた。

広島大学では、平成29年4月に新長期ビジョン「SPLENDOR (Sustainable Peace Leader Enhancement by Nurturing Development of Research) PLAN 2017」を策定・公表した。このビジョンにおいて、「これまで以上に、人間、社会、文化、食料、環境、自然の持続性に関連する全ての既存の学問領域を包含し、平和の構築に限りなくチャレンジし、働きかける新しい平和科学の理念『持続可能な発展を導く科学』の創生を目指した活動を展開し、100年後にも世界で光り輝く大学としての責務を果たす。」ことを宣言した。また、ビジョンの一つに「『持続可能な発展を導く科学』の骨格を創る基礎分野と、本学の強みである教育学、物性物理学、宇宙科学、材料科学、半導体・ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、食料科学などの分野を融合し、より高度な世界的研究へと発展させることを掲げている。また、原爆の惨禍からの復興を支えてきた大学として、放射線障害に係る医療に関する研究拠点を発展させるとともに、再生医療、肝疾患や脳科学の分野を世界的な研究として発展させる。」ことを挙げた。

このように、未来社会の方向性の中で、医学医療や保健学の役割はさらに重要であるが、医系科学はその中核をなす医学・歯学・薬学・保健学といった専門領域のみならず、その基礎となる生命・生物系科学や人文社会科学との連携において、持続可能な発展を導く科学の一分野として役割を果たす必要がある。

そこで、大学院教育においても、医学・歯学・薬学・保健学のさらなる深化とともに、急速な進歩を続ける生命・生物系領域や健康を取り巻く社会経済的な背景となる人文社会科学系領域を理解することによって、全てのライフステージに対応し、健康寿命を延伸させる新しい健康・医療・介護システムを構築するための人材が求められており、既存の研究科における教育のさらなる融合や他の研究科との分野横断的なプログラムの提供が必要となっている。

また、看護学・保健学・口腔健康科学など医療のみならず健康科学に係る人材育成は、上記のように人々のQOL向上や健康寿命の延伸に極めて重要で、未来社会の創造に向かってさらに重要性が増してきた。医療を支えるコメディカル教育は教育内容に共通する部分が多いことに加え、今後、社会で求められる新たな医療提供体制（多職種連携、地域包括ケアなど）にとって、それら三つの分野がさらに垣根を越えて協働することが重要である。

これらの社会からの要請に応えるべき機能強化の必要性や課題をうけて、医学・歯学・薬学・保健学分野における基盤的研究の深化とこれら分野間の連携・融合のさらなる強化を図り、医学・歯学・薬学・保健学分野の枠組みを超えて展開するために「医系科学研究科」を組織する。

「医系科学研究科」には、研究能力に裏打ちされ、かつ医療系の幅広い知識と学識を有した高度専門医療人としての指導的臨床能力を優した医師、歯科医師、薬剤師又はこれらの枠を超えた先端的生命科学研究に精通した人材を養成することを目的とする「医歯薬学専攻（博士課程）」とQOL向上や健康寿命の延伸に貢献し、多職種連携、地域包括ケアなど新たな医療提供体制において重要な役割を担う健康科学に係る人材を養成することを目的とする「総合健康科学専攻（博士課程前期及び博士課程後期）」の2専攻を置く。

「医系科学研究科」では、上記の課題や社会的要請に応えるために、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を養成するとともに、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材を養成する。そのため、大学院共通科目や研究科共通科目、専攻共通科目を履修させる。

新設する「総合生命科学研究科」との分野横断型のプログラムである「生命医療科学プログラム」を創設し、医系領域のみならず複合領域や新しい領域で活躍できる人材を養成する。

また、専攻の整理の中で、従来の保健学専攻と口腔健康科学専攻については、教育内容に共通性があることや、今後の医療提供体制においてそれら2つの分野が垣根を越えて協働することが重要であることから、保健科学プログラムとしてまとめる。

4. 広島大学大学院の3つのポリシー（博士課程後期）

(1) ディプロマ・ポリシー

広島大学大学院では、新しい平和科学、すなわち「持続可能な発展を導く科学」の創生と、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献する人材の育成を教育目標とし、次の方針に従って当該学位を授与する。

以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、博士の学位を授与する。

- ① 専門分野における卓越した専門知識と研究力を有している。
- ② 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない学際的かつ国際的な視野を有している。
- ③ 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と柔軟な複眼的思考力に裏打ちされた卓越した課題発見能力を有している。
- ④ 多分野の専門家で構成されるチームのリーダーとして社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- ⑤ 博士学位取得者としての使命を自覚し、極めて高い倫理観を有している。

(2) カリキュラム・ポリシー

広島大学大学院では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

学生が自分の専門以外の分野に触れる機会を増やし、広い範囲から研究テーマを見つけ、また研究テーマの変更や進路の選択が柔軟に行えるような環境、さらに、学生が社会とのつながりを意識し、開かれた問題意識を持ち、新たな発想ができるような環境を提供するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ① それぞれの専門分野に必要な卓越した専門的知識と研究能力の獲得を促すため、専攻分野に関連する専門科目を体系的に提供する。
- ② 研究科や専門領域を超えた学際的かつ国際的な視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるための科目やキャリアパスを拡げるための科目を大学院共通科目として開設する。
- ③ 人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学のそれぞれの分野において共通基盤となる能力を涵養するため、研究科共通科目を開設する。
- ④ 主として専攻する領域以外の授業科目の履修を必修とする。また、専門領域の異なるゼミの履修や研究指導を受けることにより修得した単位を修了要件とすることができる。
- ⑤ 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。
- ⑥ 異なる分野の専門家がチームとして取り組む研究プロジェクトへ参加することにより、修了要件とすることができる単位を修得できる。

(3) アドミッション・ポリシー

広島大学大学院では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を期待する。

- ① 広島大学の理念に共感し、現在の人類社会が抱える課題又は今後抱えるかもしれない課題に、自らの教養、知識、能力及び行動力によりチャレンジすることにより、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人
- ② 幅広い教養と共に、人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学のそれぞれの分野における高度な知識と研究能力を身に付け、多角的視点から「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人、又は学問での研鑽の成果を還元することにより社会に貢献したいという志を持つ人
- ③ 世界中から好奇心にあふれる若者や学び直しの社会人が集う、世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスで、多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付け、持続可能な共生社会を実現しようとする意欲を持つ人

5. 医系科学研究科の3つのポリシー（博士課程後期）

医学・歯学・薬学・保健学の4分野における基盤的研究の深化と分野間の連携・融合を図り、生命医科学の急速な進歩と医療技術の高度化に迅速に対応する先端的な教育研究を推進することにより、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を育成する。また、旧来の学問分野の枠組みを超えて、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材の育成を目的とする。

(1) ディプロマ・ポリシー

医系科学研究科では、教育上の目的に沿った人材の育成を目標とし、次の方針に従って当該学位を授与する。

以下の能力を身に付け、所定の単位数を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、研究テーマ及び専門領域に応じて「博士（医学）、博士（歯学）、博士（薬学）、博士（薬科学）、博士（看護学）、博士（保健学）、博士（口腔健康科学）、博士（医科学）、博士（歯科学）、博士（学術）」のいずれかの学位を授与する。

- ① 専門分野における卓越した専門知識と高度な研究力を有している。
- ② 幅広く深い教養と狭い専門領域にとらわれない学際的かつ国際的な視野を有している。
- ③ 未体験の事態でも対応可能な高度な論理力と柔軟な複眼的思考力に裏打ちされた卓越した課題発見能力を有している。
- ④ 学際的・国際的なコミュニケーション能力を有し、多分野の専門家で構成されるチームのリーダーとして社会における様々な課題解決に取り組む行動力を有している。
- ⑤ 博士学位取得者としての使命を自覚し、極めて高い倫理観を有している。

(2) カリキュラム・ポリシー

医系科学研究科では、ディプロマ・ポリシーに示す目標を学生が達成できるように、以下の方針で教育課程を編成し、実施する。

学生が自分の専門以外の分野に触れる機会を増やし、広い範囲から研究テーマを見つけ、また研究テーマの変更や進路の選択が柔軟に行えるような環境、さらに、学生が社会とのつながりを意識し、開かれた問題意識を持ち、新たな発想ができるような環境を提供するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ① それぞれの専門分野で必要な卓越した専門的知識と高度な研究能力の獲得を促すため、専攻分野に関連する専門科目を体系的に提供する。
- ② 研究科や専門領域を超えた学際的かつ国際的な視野と社会への関心や問題意識を涵養し、「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるための科目やキャリアパスを拡げるための科目を大学院共通科目として開設する。
- ③ 医系科学分野において共通基盤となる能力を涵養するため、生命・医療倫理及び多職種連携に関する科目を必修とした研究科共通科目を開設する。
- ④ 主として専攻する領域以外の授業科目の履修を必修とする。また、専門領域の異なるゼミの履修や研究指導を受けることにより修得した単位を、修了要件とすることができる。
- ⑤ 研究指導は、主指導教員と、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制とする。
- ⑥ 異なる分野の専門家がチームとして取り組む研究プロジェクトへ参加することにより、修了要件とすることができる単位を修得できる。

(3) アドミッション・ポリシー

医系科学研究科では、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、入学前に以下のような志や意欲をもち、それに必要な基礎学力を持つ学生の入学を期待する。

- ① 広島大学の理念に共感し、現在の人類社会が抱える課題又は今後抱えるかもしれない課題に、自らの教養、医学・歯学・薬学・保健学における卓越した知識、高度な能力及び行動力によりチャレンジすることで、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献しようとする意欲を持つ人
- ② 幅広い教養とともに、狭い専門領域にとらわれない学際的かつ国際的な視野と医学・歯学・薬学・保健学における卓越した知識と高度な研究能力を身に付け、多角的視点から「持続可能な発展を導く科学」としての平和科学の創生を目指す人、又は学問での研鑽の成果を還元することにより地域や国際社会に貢献したいという志を持つ人
- ③ 世界中から好奇心にあふれる若者や学び直しの社会人が集う、世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスで、多様性に関する深い理解と国際的なコミュニケーション能力を身に付け、持続可能な共生社会を実現しようとする意欲を持つ人

6. 生命医療科学プログラムの目的（博士課程後期）

生命医療科学プログラム（博士課程前期）で養成した人材に、さらに高度な医学や歯学、生命医療科学における先端的・学際的な研究推進能力を涵養させることが本プログラムの趣旨である。

医療、製薬、医用工学はもとより、様々な研究領域の学際的関連分野において、中心的な役割を担って活躍する研究者、教育者あるいは医療従事者を養成するために本プログラムの設置が必要である。

7. 生命医療科学プログラムの3つのポリシー（博士課程後期）

(1) ディプロマ・ポリシー

以下の能力を身に付け、かつ、所定の単位数を修得し、研究指導を受け、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、博士（医科学）、博士（歯科学）又は博士（学術）の学位を授与する。

- ① 基礎医学・歯学研究における高度な知識を身に付けている。
- ② 社会における基礎医学、歯学研究の役割を理解している。
- ③ 基礎医学・歯学研究の応用と実践を理解している。
- ④ 教育研究機関において、基礎医学・歯学研究を推進できる高度な能力を身に付けている。
- ⑤ バイオテクノロジー、医療等に関する企業等において研究開発又は医療関係業務に携わるために必要な高度な能力を身に付けている。
- ⑥ 医療機関において、高い研究志向を持ち医療人としての業務を遂行できる。

(2) カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに基づき、以下の方針のもとに教育課程を編成し、実施する。

- ① カリキュラムは、講義、演習・実習、特別研究から構成される。
- ② 基礎医学・歯学科目の履修により、医学、歯学研究における高度な知識を習得する。
- ③ 生命・医療倫理学を含む社会医学・歯学科目の履修により、社会における医学、歯学研究の役割を習得する。
- ④ 臨床医学・歯学科目の履修により、医学・歯学研究の応用と実践を理解する。
- ⑤ 習得した①から③の知識・能力を活用して、教育・研究機関において基礎医学・歯学研究を推進できる高度な能力を習得する。
- ⑥ 修得した①から③の知識・能力を活用して、企業等において研究開発や医療関係業務に携わることができる高度な能力を習得する。

(3) アドミッション・ポリシー

ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、次のような学生の入学を期待する。

- ① 生命医科学、医学・歯学における幅広い知識を身に付けたい人
- ② 生命医科学、医学・歯学において応用的研究に取り組みたい人
- ③ 教育・研究機関において、基礎医学・歯学研究を推進したい人
- ④ バイオテクノロジー、医療等に関する企業等において研究開発又は医療関係業務に携わりたい人
- ⑤ 医療機関において、高い研究志向を持ち医療人としての業務に携わりたい人

II 教育課程編成の考え方・特色

1. 研究科の教育課程編成の考え方

医系科学研究科では、医学・歯学・薬学・保健学の4専門分野の教育・研究のさらなる深化とともに、急速な進歩を続ける生命・生物系領域や健康を取り巻く社会経済的な背景となる人文社会科学系領域を理解することによって、全てのライフステージに対応し、健康寿命を延伸させる新しい健康・医療・介護システムを構築するための人材を育成するために、既存の医歯薬保健学研究科における教育・研究のさらなる融合とともに他の研究分野との横断的なプログラムの提供できる編成とする。そのために、

- 1) 高度専門医療人を養成するための専門プログラムを充実させる。
- 2) 複合領域や新しい領域で活躍できる人材を養成することを目的として、大学院共通科目、研究科共通科目、専攻共通科目を履修させる。
- 3) 生命科学分野と融合した分野横断型のプログラムである「生命医療科学プログラム」を創設する。
- 4) 教育内容に共通性があり今後の医療提供体制において協働することが重要であることから、保健学分野と口腔健康科学分野を包含する保健科学プログラムを設置する。

これらの編成により、大学院生は、所属する学位プログラムで深い専門性を身に付けるだけでなく、分野を超えた教員の講義を受講することが可能となり幅広い知識を修得することが可能となる。

また、本研究科の研究指導は、主指導教員とは専門の異なる教員を含む2人以上の副指導教員との複数指導体制としており、専門分野の異なる副指導教員が参画している研究プロジェクトに、学生が参加した場合については、当該研究プロジェクトに従事した時間数を、研究指導の授業時間として扱うことにより、学生は専門分野だけでなく、幅広い視野を身に付けることが可能となる。

2. 大学院共通科目の特色（博士課程後期）

広島大学大学院のディプロマ・ポリシーに従い、広い視野と社会への関心や問題意識を涵養し、それぞれの専門分野が「持続可能な発展を導く科学」としてどのような貢献が可能であるかの考察を深めるために、さらに、社会のさまざまな課題に対応するための実践的な力を身に付けるために開設する。

そのために、次の2つのカテゴリーの大学院共通科目を開設し、学生は、各カテゴリーから、それぞれ1単位以上を選択し、履修する。

(1) 持続可能な発展科目

国際的目標である「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals: SDGs)を理解し、社会のさまざまな課題を解決する能力を身に付けさせる。

(2) キャリア開発・データリテラシー科目

現代社会の課題に具体的に取り組み、また、これからの時代に必須であるIT関連の知識・技術を使うことができる能力を身に付けさせる。

なお、長期インターンシップについては、学生の希望を踏まえ、大学が、国内外の民間企業、公的機関、非営利団体などから受入先候補を選び、学生とのマッチングを行い派遣先を決定する。

3. 研究科共通科目の特色（博士課程）

研究科共通科目は、研究科のディプロマ・ポリシーに従い、医系科学分野において共通基盤となる能力を涵養するため4単位以上を履修することとし、うち「生命・医療倫理学B」及び「多職種連携B」の2単位を必修としている。

- ① 生命・医療倫理学B
- ② 研究方法論B
- ③ アドバンスド生命科学コースワーク
- ④ バイオメディカルサイエンスの創生展開
- ⑤ 生体工学イノベーションB
- ⑥ 多職種連携B

4. 総合健康科学専攻の共通科目の特色（博士課程後期）

専攻共通科目は、複合領域や新しい領域で活躍できる能力を身に付ける科目である。

学生は、学んできたバックグラウンドが異なるため、指導教員と相談の上、2単位以上を選択し、履修する。

- ① 臨床腫瘍学
- ② 放射線統合医科学
- ③ 薬物治療学
- ④ がん診療各論
- ⑤ Environment and Health
- ⑥ Research Methodology and Health System Management

5. 生命医療科学プログラムの特色（博士課程後期）

カリキュラムは、講義、実習、特別演習、特別研究から構成する。研究科共通科目では、生命医療科学プログラム（博士課程前期）で習得した能力をさらに発展させるために、アドバンスド生命科学コースワーク、バイオメディカルサイエンスの創生展開などで、博士課程前期より高度化した教育課程編成を行う。また、専攻共通科目では、臨床腫瘍学、放射線統合医科学、薬物治療学、がん診療各論などの、より実践的な臨床医学・歯学の科目を履修させる。さらに、英語論文作成や英語による発表を意識した英語科目を開講していることも特色としてあげられる。

このような授業科目を履修した上で、より豊富な特別演習、特別研究に取り組み、様々な研究分野や医療分野で中心的な役割を担って活躍する人材の養成を目指す。

6. 学位プログラムの選択

学位プログラムの選択は、入学者選抜において、学位プログラムごとに募集人員を設けて実施する。

7. 学位の名称

人体構造学、人体機能学及び病因病態学等の医科学分野と数理生物学、遺伝子科学等の生命科学分野の融合研究分野における研究を対象とした教育課程であることから、生命医療科学プログラムで授与する学位は、「博士（医科学）」(Doctor of Philosophy in Medical Science)、「博士（歯科学）」(Doctor of Philosophy in Dental Science) 又は「博士（学術）」(Doctor of Philosophy) とする。

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
修了に必要な単位数を22単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 修了要件単位数：22単位 (1) 大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修。ただし、キャリア開発・データリテラシー科目からは、データリテラシー関係の科目の履修を推奨。） (2) 研究科共通科目：4単位以上（ただし、生命・医療倫理学B及び多職種連携Bを必修） (3) 専攻共通科目：2単位以上 (4) プログラム専門科目：14単位	1学年の学期区分	2学期（4ターム）
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要(事前伺い)

(医歯薬学専攻(博士課程))【現行】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
科必修	生命・医療倫理特論	1前	2			○			5	1	1			兼9	オムニバス
	小計(1科目)	-	2	0	0				5	1	1	0	0		-
	解剖学及び発生生物学特別演習	1～2		4			○		1						
	神経生物学特別演習	1～2		4			○		1						
	統合バイオ特別演習	1～2		4			○							兼1	
	心臓血管生理医学特別演習	1～2		4			○		1	1	1				
	神経生理学特別演習	1～2		4			○		1		1				
	分子細胞情報学特別演習	1～2		4			○		1						
	医化学特別演習	1～2		4			○		1		1				
	神経薬理学特別演習	1～2		4			○		1						
	分子病理学特別演習	1～2		4			○		1	1				兼1	
	病理学特別演習	1～2		4			○		1						
	ウイルス学特別演習	1～2		4			○		1	1					
	疫学・疾病制御学特別演習	1～2		4			○		1			1			
	公衆衛生学特別演習	1～2		4			○		1						
	法医学特別演習	1～2		4			○		1						
	分子中毒学特別演習	1～2		4			○			1					
	免疫学特別演習	1～2		4			○		1						
	消化器・代謝内科学特別演習	1～2		4			○		1	1					
	分子内科学特別演習	1～2		4			○		1		1				
	脳神経内科学特別演習	1～2		4			○		1	1					
	精神神経医科学特別演習	1～2		4			○		1					兼3	
	小児科学特別演習	1～2		4			○		1						
	外科学特別演習	1～2		4			○		1	1	1				
	消化器・移植外科学特別演習	1～2		4			○		1	2				兼3	
	脳神経外科学特別演習	1～2		4			○		1						
	整形外科特別演習	1～2		4			○		1						
	皮膚科学特別演習	1～2		4			○		1						
	腎泌尿器科学特別演習	1～2		4			○		1	1					
	視覚病態学特別演習	1～2		4			○		1	1					
	耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学特別演習	1～2		4			○		1	1	1				
	放射線診断学特別演習	1～2		4			○		1					兼1	
	放射線腫瘍学特別演習	1～2		4			○		1						
	産科婦人科学特別演習	1～2		4			○		1						
	麻酔蘇生学特別演習	1～2		4			○		1	1					
	循環器内科学特別演習	1～2		4			○		1						
	救急集中治療医学特別演習	1～2		4			○		2						
	内視鏡医学特別演習	1～2		4			○		1						
	システム医療学特別演習	1～2		4			○		1						
	感染症学特別演習	1～2		4			○		1						
	病理診断学特別演習	1～2		4			○		1						
	リウマチ・膠原病学特別演習	1～2		4			○		1						
	リハビリテーション学特別演習	1～2		4			○		1						
	腎臓内科学特別演習	1～2		4			○		1						
	形成外科学特別演習	1～2		4			○		1						
	総合診療医学特別演習	1～2		4			○		1	1	1				
	がん化学療法科学特別演習	1～2		4			○		1						
	生命科学特別演習	1～2		4			○		2						
	精神病態制御学特別演習	1～2		4			○							兼1	
	関節外科学特別演習	1～2		4			○								
	がん臨床制御学特別演習	1～2		4			○							兼4	
	がん化学療法演習	1後～2		6			○		1						
	がん放射線療法演習	1後～2		6			○		1		1				
	乳がん治療演習	1後～2		6			○		1	1					
	がん緩和医療演習	1後～2		6			○		1			1			
	集学的がん治療の実際	2前		2			○		1						
専門科	婦人科がん治療演習	1後～2		6			○		1						
	臨床研究の基礎および実践	1後		2			○		1	1		2			

教育課程等の概要(事前伺い)

(医歯薬学専攻(博士課程))【現行】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	解剖学及び発生生物学特別実験	1～3		12				○	1						
	神経生物学特別実験	1～3		12				○	1						
	統合バイオ特別実験	1～3		12				○							兼1
	心臓血管生理医学特別実験	1～3		12				○	1	1	1				
	神経生理学特別実験	1～3		12				○	1		1				
	分子細胞情報学特別実験	1～3		12				○	1						
	医化学特別実験	1～3		12				○	1		1				
	神経薬理学特別実験	1～3		12				○	1						
	分子病理学特別実験	1～3		12				○	1	1					
	病理学特別実験	1～3		12				○	1						
	ウイルス学特別実験	1～3		12				○	1	1					
	疫学・疾病制御学特別実験	1～3		12				○	1			2			
	公衆衛生学特別実験	1～3		12				○	1						
	法医学特別実験	1～3		12				○	1						
	分子中毒学特別実験	1～3		12				○		1					
	免疫学特別実験	1～3		12				○	1						
	消化器・代謝内科学特別実験	1～3		12				○	1	1					兼5
	分子内科学特別実験	1～3		12				○	1		1				
	脳神経内科学特別実験	1～3		12				○	1	1	1				
	精神神経医科学特別実験	1～3		12				○	1						
	小児科学特別実験	1～3		12				○	1						
	外科学特別実験	1～3		12				○	1	1	1				
	消化器・移植外科学特別実験	1～3		12				○	1	2					兼2
	脳神経外科学特別実験	1～3		12				○	1						
	整形外科特別実験	1～3		12				○	1						
	皮膚科学特別実験	1～3		12				○	1						
	腎泌尿器科学特別実験	1～3		12				○	1	1					
	視覚病態学特別実験	1～3		12				○	1	1					
	耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学特別実験	1～3		12				○	1	1	1	1			
	放射線診断学特別実験	1～3		12				○	1						
	放射線腫瘍学特別実験	1～3		12				○	1		1				
	産科婦人科学特別実験	1～3		12				○	1						
	麻酔蘇生学特別実験	1～3		12				○	1	1					
	循環器内科学特別実験	1～3		12				○	1						
	救急集中治療医学特別実験	1～3		12				○	2						
	内視鏡医学特別実験	1～3		12				○	1						
	システム医療学特別実験	1～3		12				○	2						
	感染症学特別実験	1～3		12				○	1						
	病理診断学特別実験	1～3		12				○	1						
	リウマチ・膠原病学特別実験	1～3		12				○	1						
	リハビリテーション学特別実験	1～3		12				○	1						
	腎臓内科学特別実験	1～3		12				○	1						
	形成外科学特別実験	1～3		12				○	1						
	総合診療医学特別実験	1～3		12				○	1	1	1				
	がん化学療法科学特別実験	1～3		12				○							
	生命科学特別実験	1～3		12				○	2						
	精神病態制御学特別実験	1～3		12				○							兼1
	がん臨床制御学特別実験	1～3		12				○							兼4
	死因究明特別実験	1～3		12				○	5						兼1
	生体材料学特別実験	1～3		12				○	1			1			
	口腔生化学特別実験	1～3		12				○	1						
	顎顔面解剖学特別実験	1～3		12				○	1						
	細菌学特別実験	1～3		12				○							兼2
	口腔生理学特別実験	1～3		12				○	1			1			
	細胞分子薬理学特別実験	1～3		12				○	1						
	口腔顎顔面病理病態学特別実験	1～3		12				○	1	1		1			
	歯周病態学特別実験	1～3		12				○	1	1					
	分子口腔医学・顎顔面外科学特別実験	1～3		12				○	1						

専
門
科
目
II

教育課程等の概要(事前伺い)

(医歯薬学専攻(博士課程))【現行】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
	粘膜免疫学特別実験	1～3		12				○	1	1							
	歯科放射線学特別実験	1～3		12				○		1							
	硬組織代謝生物学特別実験	1～3		12				○	1								
	歯科麻酔学特別実験	1～3		12				○	1								
	歯髄生物学特別実験	1～3		12				○	1								
	口腔外科学特別実験	1～3		12				○		1							
	先端歯科補綴学特別実験	1～3		12				○	1	3	3	7					
	歯科矯正学特別実験	1～3		12				○	1	1							
	小児歯科学特別実験	1～3		12				○	1								
	国際歯科医学・分子腫瘍学特別実験	1～3		12				○	1								
	歯科医学教育学特別実験	1～3		12				○	1								
	障害者歯科学特別実験	1～3		12				○	1								
	死因究明特別実験	1～3		12				○	5						兼1		
	法歯学特別実験	1～3		12				○	1						兼1		
	生理化学特別実験	1～3		12				○		1							
	生体機能分子動態学特別実験	1～3		12				○	1			1					
	細胞分子生物学特別実験	1～3		12				○	1								
	臨床薬物治療学特別実験	1～3		12				○	1	1							
	治療薬効学特別実験	1～3		12				○	1	1							
	病院薬剤学特別実験	1～3		12				○	1	1		1					
	核酸分析化学特別実験	1～3		12				○	1								
	漢方診療学特別実験	1～3		12				○	1								
	細胞修復制御学特別実験	1～3		12				○	1		1						
	放射線細胞応答学特別実験	1～3		12				○									
	疾患モデル解析学特別実験	1～3		12				○									
	分子疫学特別実験	1～3		12				○	1	1		1					
	計量生物学特別実験	1～3		12				○		1							
	線量測定・評価学特別実験	1～3		12				○	1								
	放射線ゲノム疾患学特別実験	1～3		12				○	1								
	ゲノム障害病理学特別実験	1～3		12				○	1								
	がん分子病態学特別実験	1～3		12				○	1								
	分子発がん制御学特別実験	1～3		12				○									
	幹細胞機能学特別実験	1～3		12				○									
	放射線医療開発学特別実験	1～3		12				○	1								
	血液・腫瘍内科学特別実験	1～3		12				○	1								
	腫瘍外科学特別実験	1～3		12				○	1	1							
	放射線誘発突然変異解析特別実験	1～3		12				○							兼2		
	放射線健康影響疫学特別実験	1～3		12				○							兼2		
	生体ゲノム制御機能特別実験	1～3		12				○							兼3		
	がん重粒子線治療法特別実験	1～3		12				○							兼2		
	分子イメージング診断法特別実験	1～3		12				○							兼1		
	低線量放射線安全研究特別実験	1～3		12				○							兼2		
	緊急被ばく医療開発特別実験	1～3		12				○							兼1		
	小計(213科目)	-	0	1660	0			-	184	64	25	34	0		-		
選択科目	共通科目Ⅱ	研究方法特論	1前	2				○	10	5					兼1		
		スタートアップ生命科学コースワーク	1前	2				○		1							
		アドバンスド生命科学コースワーク	1後	2				○		1							
		バイオメディカルサイエンスの創生展開	1後	2				○	14	1	1						
		社会貢献推進特論	3前	1				○									
		臨床腫瘍学総論	1前	2				○	9	3	1	2				兼1	
		がん診療各論	1前	2				○	5	2	6	2					オムニバス
		放射線統合医科学	1前	2				○	8	2	2						兼3
		ヘルスプロモーション研究法特論	1後	2				○	7								
		薬物治療学特論	1後	2				○	5	3		2					
		死因究明特論	2後	2				○	4	1							

教育課程等の概要(事前伺い)

(医歯薬学専攻(博士課程))【現行】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
推奨科目	English Presentation	2前			2	○				1					兼1 兼3 兼3
	英語論文修辞学	1後			2	○									
	バイオデザイン概論	1前			2	○			1			1			
	バイオデザイン演習 I	1通			2	○			1			1			
	小計(15科目)	-	0	21	8		-		64	20	10	8	0	-	
合計(229科目)		-	2	1681	8		-		88	43	23	25	0	-	
学位又は称号	博士(医学), 博士(歯学), 博士(薬学), 博士(学術)		学位又は学科の分野			医学関係, 歯学関係, 薬学関係									

教育課程等の概要(事前伺い)

(口腔健康科学専攻(博士課程前期))【現行】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
必修科目	生命・医療倫理学	1前	2			○			5	1	1				兼9	オムニバス
	口腔健康科学特論	1前	2			○			8		1				兼5	オムニバス
	小計(2科目)	-	4	0	0	-			13	1	2	0	0		-	
選択必修科目	顎口腔発達・機能学演習A	1~2		4			○									
	歯科衛生士教育学演習A	1~2		4			○									
	口腔保健学研究演習A	1~2		4			○					1				
	生体構造・機能修復学演習A	1~2		4			○				1					
	医療システム・生体材料工学演習A	1~2		4			○		1							
	口腔工学演習A	1~2		4			○		1							
	顎口腔発達・機能学演習B	1~2		4			○		1						兼1	
	歯科衛生士教育学演習B	1~2		4			○		1							
	口腔保健学研究演習B	1~2		4			○		1							
	生体構造・機能修復学演習B	1~2		4			○		1	1						
	医療システム・生体材料工学演習B	1~2		4			○		1							
	口腔工学演習B	1~2		4			○		1							
	医用機器工学演習B	1~2		2			○								兼1	
	医療情報・画像処理工学演習B	1~2		2			○								兼1	
	顎口腔発達・機能学研究	1~2		12			○		1						兼1	
	歯科衛生士教育学研究	1~2		12			○		1							
	口腔保健学研究	1~2		12			○		1							
	生体構造・機能修復学研究	1~2		12			○		1	1						
	医療システム・生体材料工学研究	1~2		12			○		1							
	口腔工学研究	1~2		12			○		1							
小計(20科目)	-		0	124	0	-		14	3	2	0	0		-		
選択科目	研究方法概論	1前		2		○			10	5					兼1	オムニバス
	基礎生命科学コースワーク	1前		2			○			1						
	調査研究法特論	1前		2			○		7							オムニバス
	質的研究法特論	1後		2			○		7						兼3	オムニバス
	医歯薬保健学特論	1前		2			○		22	1	3	3				オムニバス
	情報医工学特論	1前		2			○		1							
	医工学イノベーション特論	1後		2			○		1						兼6	
	栄養学特論	1後		2			○		4	2					兼3	オムニバス
	健康生活科学	1後		2			○		1						兼9	オムニバス
	口腔インプラント工学特論	1前		2			○		1							
	機能修復工学特論	1前		2			○			1						
	口腔衛生管理学特論	1前		2			○				1					
	口腔衛生教育学特論	1前		2			○					1				
	学校健康教育学特論	1前		2			○						1			
歯科衛生士教育学特論	1前		2			○		1								
口腔工学特論	1前		2			○		1								
口腔保健学研究特論	1前		2			○		1								
情報システム工学特論	1前		2			○		1								
生体材料学特論	1前		2			○					1					
生体構造学特論	1前		2			○		1								
顎口腔発達・機能学特論	1前		2			○								兼1		
科推目奨	バイオデザイン概論	1前			2	○		1				1		兼2		
	バイオデザイン演習I	1通			2	○		1				1		兼2		
	小計(23科目)	-	0	42	4	-		61	10	6	5	0		-		
合計(45科目)		-	4	166	4	-		52	10	9	1	0		-		
学位又は称号	修士(口腔健康科学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係										

教育課程等の概要(事前伺い)

(口腔健康科学専攻(博士課程後期))【現行】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
選択必修科目	基礎的 口腔健康科学特講Ⅰ	1前		2		○			3						兼1	
	基礎的 口腔健康科学特講Ⅱ	1前		2		○			3	1					兼1	
	専門選択科目Ⅰ	応用口腔生物学特別演習	1~2		4			○		1						
		口腔リハビリテーション工学特別演習	1~2		4			○		1						
		生体構造・機能修復学特別演習	1~2		4			○		1	1					
		医療システム・生体材料工学特別演習	1~2		4			○		1						
		口腔保健・衛生学特別演習	1~2		4			○		1						
		口腔保健発達機能学特別演習	1~2		4			○		1						
		口腔保健管理学特別演習	1~2		4			○		1						
		口腔健康増進学特別演習	1~2		4			○		1						
	専門選択科目Ⅱ	応用口腔生物・リハビリテーション工学特別研究	1~3		6			○		1						
		生体構造・機能修復学特別研究	1~3		6			○		1	1					
		医療システム・生体材料工学特別研究	1~3		6			○		1						
		口腔保健・衛生学特別研究	1~3		6			○		1						
		口腔保健発達・健康増進学特別研究	1~3		6			○	○	1						
		口腔保健管理学特別研究	1~3		6			○		1						
小計(16科目)		-	0	72	0		-		20	3	0	0	0		-	
選択科目	共通科目	研究方法特論	1前		2		○		10	5					兼1	オムニパス
		スタートアップ生命科学コースワーク	1前		2			○			1					
		アドバンスド生命科学コースワーク	1後		2			○			1					
		バイオメディカルサイエンスの創生展開	1後		2		○		13	1	1					オムニパス
		社会貢献推進特論	3前		1		○									
		臨床腫瘍学総論	1前		2		○		9	1	1	2			兼3	オムニパス
		放射線統合医科学	1前		2		○		8	2	2				兼1	オムニパス
		ヘルスプロモーション研究法特論	1後		2		○		7							オムニパス
		薬物治療学特論	1後		2		○		5	3		2				オムニパス
	科推 目奨	English Presentation	1前			2	○			1						
		英語論文修辞学	1後			2	○									兼1
		バイオデザイン概論	1前			2	○		1			1			兼3	
		バイオデザイン演習Ⅰ	1通			2	○		1			1			兼3	
小計(13科目)		-	0	17	8		-		54	15	4	6	0		-	
合計(29科目)		-	0	89	8		-		52	15	4	5	0		-	
学位又は称号	博士(口腔健康科学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係										

教育課程等の概要(事前伺い)

(薬科学専攻(博士課程前期))【現行】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
必修科目	生命・医療倫理学	1前	2			○			5	1	1			兼9	オムニバス	
	薬科学特論	1前	2			○			2	1				兼12	オムニバス	
	小計(2科目)	-	4			-			7	2	1	0	0	-	-	
選択必修科目	生薬学特論演習	1通		4			○		1							
	薬物治療学特論演習	1通		4			○		1							
	創薬合成化学特論演習	1通		4			○		1							
	核酸分析化学特論演習	1通		4			○		1							
	医薬分子機能科学特論演習	1通		4			○		1							
	生体機能分子動態学特論演習	1通		4			○		1			1				
	生物物理化学特論演習	1通		4			○			1						
	分子神経毒性学特論演習	1通		4			○									
	細胞再生機構特論演習	1通		4			○		1							
	細胞内情報伝達学特論演習	1通		4			○			1						
	細胞薬理学特論演習	1通		4			○			1						
	微生物医薬品開発学特論演習	1通		4			○		1		1					
	抗生物質合成学特論演習	1通		4			○			1						
	構造生物学特論演習	1通		4			○									
	薬効解析科学特論演習	1通		4			○		1							
	薬物動態解析・制御科学特論演習	1通		4			○		1			1				
	治療薬効学特論演習	1通		4			○		1							
	細胞がん化機構特論演習	1通		4			○			1		1				
	医薬品創剤科学特論演習	1通		4			○		1	1						
	分子治療薬効学特論演習	1通		4			○		1	1						
	応用薬物治療学特論演習	1通		4			○		1	1		1				
薬物治療情報学特論演習	1通		4			○			1							
生薬・漢方医療学特論演習	1通		4			○			1							
分子薬理学特論演習	1通		4			○		1								
漢方診療学特論演習	1通		4			○		1								
未病・予防医学特論演習	1通		4			○								兼1		
専門選択科目Ⅲ	生薬学特別実習	1後～2		12				○	1							
	薬物治療学特別実習	1後～2		12				○	1							
	創薬合成化学特別実習	1後～2		12				○	1							
	核酸分析化学特別実習	1後～2		12				○	1							
	医薬分子機能科学特別実習	1後～2		12				○	1							
	生体機能分子動態学特別実習	1後～2		12				○	1			1				
	細胞再生機構特別実習	1後～2		12				○	1							
	細胞内情報伝達学特別実習	1後～2		12				○		1						
	微生物医薬品開発学特別実習	1後～2		12				○	1		1					
	薬効解析科学特別実習	1後～2前・後	12		12			○	1							
	薬物動態解析・制御科学特別実習	1後～2		12				○	1	1		1				
	治療薬効学特別実習	1後～2		12				○	1							
	応用薬物治療学特別実習	1後～2		12				○	1	1		1				
	漢方診療学特別実習	1後～2		12				○	1							
未病・予防医学特別実習	1後～2		12				○							兼1		
小計(41科目)	-	0	276	0			-	28	13	0	6	0	-	-		
共通科目Ⅱ	研究方法概論	1前		2			○		10	5				兼1	オムニバス	
	基礎生命科学コースワーク	1前		2				○		1						
	調査研究法特論	1前		2			○		7						オムニバス	
	質的研究法特論	1後		2			○		7					兼3	オムニバス	
	医歯薬保健学特論	1前		2			○		22	1	3	3			オムニバス	
	情報医工学特論	1前		2			○		1							
	医工学イノベーション特論	1後		2			○		1						兼6	オムニバス
	栄養学特論	1後		2			○		4	2					兼3	オムニバス
	健康生活科学	1後		2			○		1						兼9	オムニバス
	生薬学特論	1前		2			○		1							隔年開講
薬物治療学特論	1前		2			○		1							隔年開講	
創薬合成化学特論	1前		2			○		1							隔年開講	
核酸分析化学特論	1前		2			○		1						兼1	隔年開講	

教育課程等の概要(事前伺い)

(薬科学専攻(博士課程前期))【現行】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
択科目 専門 選択 科目 I	医薬分子機能科学特論	1前		2		○			1						隔年開講
	生体機能分子動態学特論	1前		2		○			1						隔年開講
	細胞再生機構特論	1前		2		○			1						隔年開講
	細胞内情報伝達学特論	1前		2		○				1					隔年開講
	微生物医薬品開発学特論	1前		2		○				1					隔年開講
	薬効解析科学特論	1前		2		○				1					隔年開講
	薬物動態解析・制御科学特論	1前		2		○				1					隔年開講
	治療薬効学特論	1前		2		○				1					隔年開講
	応用薬物治療学特論	1前		2		○				1					隔年開講
	漢方診療学特論	1前		2		○				1					隔年開講
	未病・予防医学特論	1前		2		○									兼2 隔年開講
English Communication	1前		2		○									兼1	
科推 目奨	バイオデザイン概論	1前			2	○			1				1		兼2
	バイオデザイン演習 I	1通			2	○			1				1		兼2
	小計(27科目)	-	0	50	4		-		68	10	3	5	0		-
合計(70科目)		-	4	326	4		-		56	17	4	4	0		-
学位又は称号	修士(薬科学)		学位又は学科の分野				薬学関係								

教育課程等の概要(事前伺い)

(薬科学専攻(博士課程後期))【現行】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
科必修	薬科学特講	1前	2			○			2	1					兼12	オムニバス
	小計(1科目)	-	2			-			2	1	0	0	0		-	
選択必修科目	生薬学特別演習	1~2		4			○		1							
	創薬合成化学特別演習	1~2		4			○		1							
	医薬分子機能科学特別演習	1~2		4			○		1							
	微生物医薬品開発学特別演習	1~2		4			○		1							
	薬効解析科学特別演習	1~2		4			○		1							
	薬物動態解析・制御科学特別演習	1~2		4			○		1	1		1				
	未病・予防医学特別演習	1~2		4			○								兼1	
	生薬学特別実験	1~3		6				○	1							
	創薬合成化学特別実験	1~3		6				○	1							
	医薬分子機能科学特別実験	1~3		6				○	1							
	微生物医薬品開発学特別実験	1~3		6				○	1							
	薬効解析科学特別実験	1~3		6				○	1							
	薬物動態解析・制御科学特別実験	1~3		6				○	1							
	未病・予防医学特別実験	1~3		6				○							兼1	
小計(14科目)	-		0	70	0		-	12	1	0	1	0			-	
選択科目	研究方法特論	1前		2			○		10	5					兼1	オムニバス
	スタートアップ生命科学コースワーク	1前		2				○		1						
	アドバンスド生命科学コースワーク	1後		2				○		1						
	バイオメディカルサイエンスの創生展開	1後		2			○		13	1	1					オムニバス
	社会貢献推進特論	3前		1			○									
	臨床腫瘍学総論	1前		2			○		9	1	1	2			兼3	オムニバス
	放射線統合医科学	1前		2			○		8	2	2				兼1	オムニバス
	ヘルスプロモーション研究法特論	1後		2			○		7							オムニバス
	薬物治療学特論	1後		2			○		5	3		2				オムニバス
	English Presentation	1前			2		○			1						
	英語論文修辞学	1後			2		○								兼1	
	バイオデザイン概論	1前			2		○		1			1			兼3	
	バイオデザイン演習 I	1通			2		○		1			1			兼3	
小計(13科目)	-		0	17	8		-	54	15	4	6	0			-	
合計(28科目)		-	2	87	8		-	49	14	4	6	0			-	
学位又は称号	博士(薬科学)		学位又は学科の分野			薬学関係										

教育課程等の概要(事前伺い)

(保健学専攻(博士課程前期))【現行】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
科目必修	生命・医療倫理学	1前	2			○			5	1	1			兼9	オムバス
科目必修	小計(1科目)	-	2			-			5	1	1	0	0	-	-
専門科目 I	健康推進科学特論	1前	2			○			1					兼1	
	健康情報学特論	1前	2			○			1					兼1	
	基礎看護方法学特論	1前	2			○			1					兼2	
	助産・母性看護方法開発学特論	1前	2			○			1					兼2	
	小児看護方法学特論	1前	2			○			1		1			兼2	
	成人看護方法学特論	1前	2			○			1					兼2	
	成人健康学特論	1前	2			○			1		1			兼2	
	老年・がん看護方法学特論	1前	2			○			1					兼2	
	精神保健看護方法学特論	1前	2			○			1					兼2	
	地域・在宅看護方法学特論	1前	2			○			1					兼1	
	地域・学校看護方法学特論	1前	2			○			1					兼1	
	生体構造学特論	1前	2			○			1					兼1	
	スポーツリハビリテーション学特論	1前	2			○			1		1			兼1	
	生体運動・動作解析学特論	1前	2			○			1		1			兼1	
	生体機能解析制御科学特論	1前	2			○			1	1				兼1	
	運動器機能医科学特論	1前	2			○			1		1			兼1	
	生体環境適応科学特論	1前	2			○			1					兼1	
	生理機能情報科学特論	1前	2			○			1			1		兼1	
	作業行動探索科学特論	1前	2			○			1					兼1	
	作業機能制御科学特論	1前	2			○			1					兼1	
上肢機能解析制御科学特論	1前	2			○			1		1			兼1		
精神機能制御科学特論	1前	2			○			1					兼1		
感覚運動神経科学特論	1前	2			○			1					兼1		
専門科目 II	健康推進科学特別演習	1通	2			○			1					兼1	
	健康情報学特別演習	1通	2			○			1					兼1	
	基礎看護方法学特別演習	1通	2			○			1					兼1	
	助産・母性看護方法開発学特別演習	1通	2			○			1					兼1	
	小児看護方法学特別演習	1通	2			○			1		1			兼1	
	成人看護方法学特別演習	1通	2			○			1					兼1	
	成人健康学特別演習	1通	2			○			1					兼1	
	老年・がん看護方法学特別演習	1通	2			○			1					兼1	
	精神保健看護方法学特別演習	1通	2			○			1					兼1	
	地域・在宅看護方法学特別演習	1通	2			○			1		1			兼1	
	地域・学校看護方法学特別演習	1通	2			○			1					兼1	
	生体構造学特別演習	1通	2			○			1					兼1	
	スポーツリハビリテーション学特別演習	1通	2			○			1		1			兼1	
	生体運動・動作解析学特別演習	1通	2			○			1		1			兼1	
	生体機能解析制御科学特別演習	1通	2			○			1	1		1		兼1	
	運動器機能医科学特別演習	1通	2			○			1		1			兼1	
	生体環境適応科学特別演習	1通	2			○			2		1			兼1	
生理機能情報科学特別演習	1通	2			○			1			1		兼1		
作業行動探索科学特別演習	1通	2			○			1		1			兼1		
作業機能制御科学特別演習	1通	2			○			1					兼1		
上肢機能解析制御科学特別演習	1通	2			○			1					兼1		
精神機能制御科学特別演習	1通	2			○			1					兼1		
感覚運動神経科学特別演習	1通	2			○			1			1		兼1		
専	健康推進科学特別研究	1~2	10			○			1					兼1	
	健康情報学特別研究	1~2	10			○			1					兼1	
	基礎看護方法学特別研究	1~2	10			○			1					兼1	
	助産・母性看護方法開発学特別研究	1~2	10			○			1					兼1	
	小児看護方法学特別研究	1~2	10			○			1					兼1	
	成人看護方法学特別研究	1~2	10			○			1					兼1	
	成人健康学特別研究	1~2	10			○			1					兼1	
	老年・がん看護方法学特別研究	1~2	10			○			1					兼1	
精神保健看護方法学特別研究	1~2	10			○			1					兼1		
地域・在宅看護方法学特別研究	1~2	10			○			1					兼1		

教育課程等の概要(事前伺い)

(保健学専攻(博士課程前期))【現行】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
選択必修科目	Ⅲ	地域・学校看護方法学特別研究	1～2	10			○		1						兼1
	生体構造学特別研究	1～2	10			○		1							
	スポーツリハビリテーション学特別研究	1～2	10			○		1		1					
	生体運動・動作解析学特別研究	1～2	10			○		1		1					
	生体機能解析制御科学特別研究	1～2	10			○		1		1					
	運動器機能医科学特別研究	1～2	10			○		1		1					
	生体環境適応科学特別研究	1～2	10			○		1							
	生理機能情報科学特別研究	1～2	10			○		1							
	作業行動探索科学特別研究	1～2	10			○		1							
	作業機能制御科学特別研究	1～2	10			○		1							
	上肢機能解析制御科学特別研究	1～2	10			○		1							
	精神機能制御科学特別研究	1～2	10			○		1							
	感覚運動神経科学特別研究	1～2	10			○		1							
専門科目	Ⅳ	がん看護学特論 1	1前	2			○		2					兼2	
		がん看護学特論 2	1前	2			○		1						
		がん看護学特論 3	1前	2			○		1		1				
		がん看護学特論 4	1前	2			○		1						
		がん看護学特論 5	1後	2			○		1						
		がん看護学演習 1	1通	2				○	1						
		がん看護学演習 2	1後	2				○	1		1				
		がん看護学実習 1	1後	2					○	1					
		がん看護学実習 2	1後	2					○	1					
		がん看護学実習 3	1後	2					○	1		1			
		がん看護学実習 4	1前	2					○	1					
		がん看護学実習 5	1後	2					○	1					
		がん看護学課題研究	2通	2				○	1						
	Ⅴ	慢性疾患ケア看護学特論 1	1前	2			○		1					兼1 兼4	
		慢性疾患ケア看護学特論 2	1前	2			○		1						
		慢性疾患ケア看護学特論 3	1後	2			○		1						
		慢性疾患ケア看護学特論 4	1後	2			○		1						
		慢性疾患ケア看護学特論 5	2前	2			○		2			1			
		慢性疾患ケア看護学演習 1	1後	2				○	1			1			
		慢性疾患ケア看護学演習 2	2前	2				○	1			1			
		慢性疾患ケア看護学実習 1	1後	2					○	1			1		
		慢性疾患ケア看護学実習 2	2前	2					○	1					
		慢性疾患ケア看護学実習 3	2前	2					○	1					
慢性疾患ケア看護学実習 4	2後	2					○	1			1				
慢性疾患ケア看護学実習 5	2後	2					○	1			1				
慢性疾患ケア看護学課題研究	2通	2				○	1				1				
Ⅴ	健康情報学教育演習	1通	1				○		1						
	健康開発科学教育演習	1通	1				○		1						
	基礎看護方法学教育演習	1通	1				○		1						
	助産・母性看護方法学教育演習	1通	1				○		1						
	小児看護方法学教育演習	1通	1				○		1						
	成人健康学教育演習	1通	1				○		1						
	成人看護方法学教育演習	1通	1				○		1						
	精神保健看護方法学教育演習	1通	1				○		1						
	地域・在宅看護方法学教育演習	1通	1				○		1						
	地域・学校看護方法学教育演習	1通	1				○		1						
	老年・がん看護方法学教育演習	1通	1				○		1						
	健康情報学臨地教育実習	1通	1					○	1						
	健康開発科学臨地教育実習	1通	1					○	1						
	基礎看護方法学臨地教育実習	1通	1					○	1						
	助産・母性看護方法学臨地教育実習	1通	1					○	1						
	小児看護方法学臨地教育実習	1通	1					○	1						
	成人健康学臨地教育実習	1通	1					○	1						
成人看護方法学臨地教育実習	1通	1					○	1							
精神保健看護方法学臨地教育実習	1通	1					○	1							

教育課程等の概要(事前伺い)

(保健学専攻(博士課程前期))【現行】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
	地域・在宅看護方法学臨地教育実習	1通		1				○	1								
	地域・学校看護方法学臨地教育実習	1通		1				○	1								
	老年・がん看護方法学臨地教育実習	1通		1				○	1								
	健康情報学総合臨地教育実習	1通		1				○	1								
	健康開発科学総合臨地教育実習	1通		1				○	1								
	基礎看護方法学総合臨地教育実習	1通		1				○	2								
	助産・母性看護方法学総合臨地教育実習	1通		1				○	1								
	小児看護方法学総合臨地教育実習	1通		1				○	1								
	成人健康学総合臨地教育実習	1通		1				○	1								
	成人看護方法学総合臨地教育実習	1通		1				○	1								
	精神保健看護方法学総合臨地教育実習	1通		1				○	1								
	地域・在宅看護方法学総合臨地教育実習	1通		1				○	1								
	地域・学校看護方法学総合臨地教育実習	1通		1				○	1								
	老年・がん看護方法学総合臨地教育実習	1通		1				○	1								
	小計(128科目)	-	0	407	0			-	129	2	18	10	0			-	
選択科目	研究手法概論	1前		2				○	10	5					兼1	オムニバース	
	基礎生命科学コースワーク	1前		2				○		1						オムニバース	
	調査研究法特論	1前		2				○	7							オムニバース	
	質的研究法特論	1後		2				○	7						兼3	オムニバース	
	実験研究法特論	1前		2				○	7							オムニバース	
	Epidemiology and Disease Prevention	1前		2				○	1	1					兼1		
	Health Communication and Health Promotion	1後		2				○	1	1							
	Research Methodology in Health Science	1前		2				○	1	1							
	Statistics in Health Science	1前		2				○	1								
	Global Health Challenges and Solutions I	1前		2				○	1	1					兼1		
	予防医学・健康指導特論 I	1前		2				○	5	2	1				兼4	オムニバース	
	予防医学・健康指導特論 II	1後		2				○	6	1					兼6	オムニバース	
	医歯薬保健学特論	1前		2				○	22	1	3	2				オムニバース	
	情報医工学特論	1前		2				○	1								
	医工学イノベーション特論	1後		2				○	1						兼6	オムニバース	
	栄養学特論	1後		2				○	4	2					兼3	オムニバース	
	健康生活科学	1後		2				○	1						兼9	オムニバース	
共通科目 III	看護理論	1後		2				○	2						兼2		
	看護研究	1前		2				○	2						兼4		
	看護倫理	1前		2				○	2						兼2		
	コンサルテーション論	2前		2				○	2						兼2		
	臨床薬理学	1後		2				○	4		1	3			兼1	オムニバース	
	フィジカルアセスメント	1前		2				○	3							オムニバース	
共通科目 IV	健康情報学解析特論	1前		2				○	1								
	看護学教育特論	1後		2				○	1								
科推目奨	バイオデザイン概論	1前			2			○	1				1		兼2		
	バイオデザイン演習 I	1通			2			○	1				1		兼2		
	小計(28科目)	-	0	52	4			-	104	16	6	12	0			-	
合計(157科目)		-	2	459	4			-	62	14	15	13	0			-	
学位又は称号	修士(看護学), 修士(保健学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係										

教育課程等の概要(事前伺い)

(保健学専攻(博士課程後期))【現行】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
選択必修科目	健康推進科学特講	1前		2		○			1									
	健康情報学特講	1前		2		○			1							兼1		
	基礎看護技術開発学特講	1前		2		○			1							兼1		
	助産・母性看護方法開発学特講	1前		2		○			1									
	小児看護方法開発学特講	1前		2		○			1									
	成人看護方法開発学特講	1前		2		○			1									
	成人健康学特講	1前		2		○			1		1							
	老年・がん看護方法開発学特講	1前		2		○			1									
	精神保健看護方法開発学特講	1前		2		○			1									
	地域・在宅看護方法開発学特講	1前		2		○			1									
	地域・学校看護方法開発学特講	1前		2		○			1							兼1		
	生体構造学特講	1前		2		○												
	スポーツリハビリテーション学特講	1前		2		○				1								
	生体運動・動作解析学特講	1前		2		○				1		1						
	生体機能解析制御科学特講	1前		2		○				1	1							
	運動器機能医科学特講	1前		2		○				1		1						
	生体環境適応科学特講	1前		2		○				1								
	生理機能情報科学特講	1前		2		○				1								
	作業行動探索科学特講	1前		2		○				1								
	作業機能制御科学特講	1前		2		○				1								
	上肢機能解析制御科学特講	1前		2		○				1								
	精神機能制御科学特講	1前		2		○				1								
	感覚運動神経科学特講	1前		2		○				1								
	専門科目Ⅱ	健康推進科学特講演習	1通		2			○		1								1
		健康情報学特講演習	1通		2			○		1								
		基礎看護技術開発学特講演習	1通		2			○		1								
		助産・母性看護方法開発学特講演習	1通		2			○		1								
小児看護方法開発学特講演習		1通		2			○		1									
成人看護方法開発学特講演習		1通		2			○		1									
成人健康学特講演習		1通		2			○		1									
老年・がん看護方法開発学特講演習		1通		2			○		1									
精神保健看護方法開発学特講演習		1通		2			○		1									
地域・在宅看護方法開発学特講演習		1通		2			○		1		1						1	
地域・学校看護方法開発学特講演習		1通		2			○		1									
生体構造学特講演習		1通		2			○											
スポーツリハビリテーション学特講演習		1通		2			○			1		1						
生体運動・動作解析学特講演習		1通		2			○			1		1						
生体機能解析制御科学特講演習		1通		2			○			1	1							
運動器機能医科学特講演習		1通		2			○			2		1						
生体環境適応科学特講演習		1通		2			○			1								
生理機能情報科学特講演習		1通		2			○			1								
作業行動探索科学特講演習		1通		2			○			1								
作業機能制御科学特講演習	1通		2			○			1									
上肢機能解析制御科学特講演習	1通		2			○			1									
精神機能制御科学特講演習	1通		2			○			1									
感覚運動神経科学特講演習	1通		2			○			1			1						
Ⅲ 専門科目	看護開発科学特別研究	1~2		4			○		11								兼1	
	心身機能生活制御科学特別研究	1~2		4			○		12		2							
	小計(48科目)	-	0	100	0		-		68	2	9	1	0				-	
選択共通科目	ヘルスプロモーション研究法特論	1後		2			○		7								オムニバス	
	Environment and Health	1前		2			○		1	1							兼1	
	Research Methodology and Health System Management	1後		2			○		1	1								
	Advanced Research Methodology in Health Science	1前		2			○		1	1								
	Advanced Statistics in Health Science	1後		2			○		1									
	Global Health Challenges and Solutions II	1後		2			○		1	1							兼1	
	研究方法特論	1前		2			○		10	5							兼1	
	スタートアップ生命科学コースワーク	1前		2			○			1								
	アドバンスド生命科学コースワーク	1後		2			○			1								

教育課程等の概要(事前伺い)

(保健学専攻(博士課程後期))【現行】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
本科目	バイオメディカルサイエンスの創生展開	1後		2		○			13	1	1				オムニバス
	社会貢献推進特論	3前		1		○									
	臨床腫瘍学総論	1前		2		○			9	1	1	2		兼3	オムニバス
	放射線統合医科学	1前		2		○			8	2	2			兼1	オムニバス
	薬物治療学特論	1後		2		○			5	3		2			オムニバス
科推 目奨	English Presentation	1前			2	○				1					
	英語論文修辞学	1後			2	○									兼1
	バイオデザイン概論	1前			2	○			1			1		兼3	
	バイオデザイン演習 I	1通			2	○			1			1		兼3	
	小計(18科目)	-	2	25	8		-		59	19	4	6	0		-
合計(66科目)		-	2	125	8		-		52	14	7	3	0		-
学位又は称号	博士(看護学), 博士(保健学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係									

教育課程等の概要(事前伺い)

(医歯科学専攻(修士課程)医歯科学コース)【現行】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	生命・医療倫理学	1前	2			○			5	1	1			兼9	オムニバス
	人体の構造	1前	2			○			5			2			オムニバス
	人体の機能	1前	2			○			7	2	2	1		兼1	オムニバス
	病因病態学	1後	2			○			5	2	2	1			オムニバス
	生体防御学	1後	1			○			3	2		2		兼1	オムニバス
	総合薬理学	1後	1			○			2					兼2	オムニバス
	医療政策・国際保健概論	1前	1			○			2			1		兼7	オムニバス
	臨床医歯学総論	1後	2			○			8	1	3	2			オムニバス
小計(8科目)	-	13			-			37	8	8	9	0		-	
専門科目 I	医歯科学演習(解剖学及び発生生物学)	1通		4			○		1						
	医歯科学演習(神経生物学)	1通		4			○		1						
	医歯科学演習(統合バイオ)	1通		4			○		1						
	医歯科学演習(心臓血管生理医学)	1通		4			○		1						
	医歯科学演習(神経生理学)	1通		4			○		1						
	医歯科学演習(分子細胞情報学)	1通		4			○		1						
	医歯科学演習(医化学)	1通		4			○		1						
	医歯科学演習(神経薬理学)	1通		4			○		1						
	医歯科学演習(分子病理学)	1通		4			○		1						
	医歯科学演習(病理学)	1通		4			○		1						
	医歯科学演習(ウイルス学)	1通		4			○		1						
	医歯科学演習(疫学・疾病制御学)	1通		4			○		1			2			
	医歯科学演習(公衆衛生学)	1通		4			○		1						
	医歯科学演習(法医学)	1通		4			○		1						
	医歯科学演習(免疫学)	1通		4			○		1						
	医歯科学演習(生命科学)	1通		4			○		2						
	医歯科学演習(生体材料学)	1通		4			○		1			1			
	医歯科学演習(口腔生化学)	1通		4			○		1						
	医歯科学演習(顎顔面解剖学)	1通		4			○		1						
	医歯科学演習(細菌学)	1通		4			○							1	
	医歯科学演習(口腔生理学)	1通		4			○		1			1			
	医歯科学演習(細胞分子薬理学)	1通		4			○		1						
	医歯科学演習(口腔顎顔面病理病態学)	1通		4			○		1	1		1			
	医歯科学演習(粘膜免疫学)	1通		4			○		1						
	医歯科学演習(硬組織代謝生物学)	1通		4			○		1						
	医歯科学演習(歯科医学教育学)	1通		4			○		1						
	医歯科学演習(細胞修復制御学)	1通		4			○		1						
	医歯科学演習(放射線細胞応答学)	1通		4			○								
	医歯科学演習(疾患モデル解析学)	1通		4			○								
	医歯科学演習(分子疫学)	1通		4			○		1	1		1			
	医歯科学演習(計量生物学)	1通		4			○			1					
	医歯科学演習(線量測定・評価学)	1通		4			○		1						
	医歯科学演習(放射線ゲノム疾患学)	1通		4			○		1						
医歯科学演習(ゲノム障害病理学)	1通		4			○		1							
医歯科学演習(がん分子病態学)	1通		4			○		1							
医歯科学演習(分子発がん制御学)	1通		4			○									
医歯科学演習(幹細胞生物学)	1通		4			○									
医歯科学演習(放射線医療開発学)	1通		4			○		1							
選択必修科目	医歯科学特別研究(解剖学及び発生生物学)	1~2		8			○		1						
	医歯科学特別研究(神経生物学)	1~2		8			○		1						
	医歯科学特別研究(統合バイオ)	1~2		8			○		1						
	医歯科学特別研究(心臓血管生理医学)	1~2		8			○		1						
	医歯科学特別研究(神経生理学)	1~2		8			○		1						
	医歯科学特別研究(分子細胞情報学)	1~2		8			○		1						
	医歯科学特別研究(医化学)	1~2		8			○		1						
	医歯科学特別研究(神経薬理学)	1~2		8			○		1						
	医歯科学特別研究(分子病理学)	1~2		8			○		1						
	医歯科学特別研究(病理学)	1~2		8			○		1						
	医歯科学特別研究(ウイルス学)	1~2		8			○		1						

教育課程等の概要(事前伺い)

(医歯科学専攻(修士課程)医歯科学コース)【現行】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門科目 II	医歯科学特別研究 (疫学・疾病制御学)	1~2		8				○		1				2		1		
	医歯科学特別研究 (公衆衛生学)	1~2		8				○		1								
	医歯科学特別研究 (法医学)	1~2		8				○		1								
	医歯科学特別研究 (免疫学)	1~2		8				○		1								
	医歯科学特別研究 (生命科学)	1~2		8				○		2								
	医歯科学特別研究 (生体材料学)	1~2		8				○		1			1					
	医歯科学特別研究 (口腔生化学)	1~2		8				○		1								
	医歯科学特別研究 (顎顔面解剖学)	1~2		8				○		1								
	医歯科学特別研究 (細菌学)	1~2		8				○										
	医歯科学特別研究 (口腔生理学)	1~2		8				○		1			1					
	医歯科学特別研究 (細胞分子薬理学)	1~2		8				○		1								
	医歯科学特別研究 (口腔顎顔面病理病態学)	1~2		8				○		1	1		1					
	医歯科学特別研究 (粘膜免疫学)	1~2		8				○		1								
	医歯科学特別研究 (硬組織代謝生物学)	1~2		8				○		1								
	医歯科学特別研究 (歯科医学教育学)	1~2		8				○		1								
	医歯科学特別研究 (細胞修復制御学)	1~2		8				○		1								
	医歯科学特別研究 (放射線細胞応答学)	1~2		8				○										
	医歯科学特別研究 (疾患モデル解析学)	1~2		8				○										
	医歯科学特別研究 (分子疫学)	1~2		8				○		1	1		1					
	医歯科学特別研究 (計量生物学)	1~2		8				○			1							
	医歯科学特別研究 (線量測定・評価学)	1~2		8				○		1								
	医歯科学特別研究 (放射線ゲノム疾患学)	1~2		8				○		1								
	医歯科学特別研究 (ゲノム障害病理学)	1~2		8				○		1								
	医歯科学特別研究 (がん分子病態学)	1~2		8				○		1								
医歯科学特別研究 (分子発がん制御学)	1~2		8				○											
医歯科学特別研究 (幹細胞生物学)	1~2		8				○											
医歯科学特別研究 (放射線医療開発学)	1~2		8				○		1									
小計 (76科目)		-	0	456	0			-	66	6	0	12	0		-			
選択科目	共通科目	研究方法概論	1前	2				○		10	5				兼1	オムニバス		
		基礎生命科学コースワーク	1前	2				○			1							
		調査研究法特論	1前	2					○	7						オムニバス		
		質的研究法特論	1後	2					○	7					兼3	オムニバス		
		医歯薬保健学特論	1前	2					○	22	1	3	3			オムニバス		
		情報工学特論	1前	2					○	1								
		工医学イノベーション特論	1後	2					○	1					兼6			
		栄養学特論	1後	2					○	4	2				兼3	オムニバス		
		健康生活科学	1後	2					○	1					兼9	オムニバス		
		選択科目	選択科目	分子生物学と放射線防護	1前	2				○		2	3	3	4		兼2	オムニバス
				人体解剖学実習	1後	2						4						
				組織学実習	1前	1							2					
				病院実習	1後	1												
				医歯学情報学	1後	1					○							
基礎放射線医学	1後			1					○									
再生医学・工医学	1後			1					○									
予防医学・健康指導特論 I	1前			2					○	5	2	1			兼4	オムニバス		
予防医学・健康指導特論 II	1後	2					○	6	1				兼6	オムニバス				
科目奨励	科目奨励	バイオデザイン概論	1前		2			○	1			1		兼3				
		バイオデザイン演習 I	1通		2			○	1			1		兼3				
小計 (20科目)		-	0	31	4			-	74	15	7	9	0		-			
合計 (104科目)		-	13	487	4			-	73	19	15	21	0		-			
学位又は称号	修士(医科学), 修士(歯科学), 修士(学術)		学位又は学科の分野			医学関係, 歯学関係												

教育課程等の概要 (事前伺い)

(医歯科学専攻(修士課程)医学物理士コース) 【現行】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
必修科目	生命・医療倫理学	1前	2			○			5	1	1			兼9	オムニバス
	放射線診断物理学	1前	1			○								兼1	
	放射線治療物理学	1前	2			○								兼1	
	核医学物理学	1後	1			○								兼1	
	放射線診断学・核医学	1前	1			○			1						
	放射線腫瘍学	1前	2			○			1						
	放射線治療物理学演習	1後	2			○								兼1	
	放射線計測学演習	1後	2				○							兼1	
	画像診断物理学演習	1後	2				○							兼1	
	核医学物理学演習	2前	2				○							兼1	
	放射線安全演習	1後	2			○								兼1	
	医歯科学特別研究 (放射線腫瘍学)	2通	4					○		1					
小計 (12科目)	-	23							8	1	1	0	0		-
共通科目	研究方法概論	1前		2		○			10	5				兼1	オムニバス
	基礎生命科学コースワーク	1前		2		○				1					
	調査研究法特論	1前		2		○			7						オムニバス
	質的研究法特論	1後		2		○			7					兼3	オムニバス
	医歯薬保健学特論	1前		2		○			22	1	3	3			オムニバス
	情報工学特論	1前		2		○			1						
	工工学イノベーション特論	1後		2		○			1					兼6	
	栄養学特論	1後		2		○			4	2				兼3	オムニバス
	健康生活科学	1後		2		○			1					兼9	オムニバス
選択科目	人体の構造	1前		2		○			5				2		オムニバス
	人体の機能	1前		2		○			7	2	2	1		兼1	オムニバス
	病因病態学	1後		2		○			5	2	2	1			オムニバス
	生体防御学	1後		1		○			3	1			2	兼1	オムニバス
	総合薬理学	1後		1		○			2					兼1	オムニバス
	医療政策・国際保健概論	1前		1		○			2				1	兼7	オムニバス
	臨床医歯学総論	1後		2		○			8	1	3	2			オムニバス
	分子生物学と放射線防護	1前		2		○			2	3	3	4		兼2	オムニバス
	人体解剖学実習	1後		2				○	4						
	組織学実習	1前		1				○	2						
	病院実習	1後		1				○							
	医歯学情報学	1後		1		○									
	基礎放射線医学	1後		1		○									
	再生医学・医工学	1後		1		○									
	予防医学・健康指導特論Ⅰ	1前		2		○			5	2	1			兼4	オムニバス
	予防医学・健康指導特論Ⅱ	1後		2		○			6	1				兼6	オムニバス
	科学英語	1前		1		○								兼1	
	医療統計学	1前		1		○								兼2	
	保健物理学	1後		2		○								兼1	
科推 目奨	バイオデザイン概論	1前			2	○			1				1		兼3
	バイオデザイン演習Ⅰ	1通			2	○			1				1		兼3
小計 (30科目)	-	0	46	4					106	21	14	18	0		-
合計 (42科目)		-	23	46	4				69	19	15	17	0		-
学位又は称号	修士(医科学), 修士(学術)		学位又は学科の分野				医学関係								

教育課程等の概要(事前伺い)

(医歯科学専攻(修士課程)公衆衛生学コース)【現行】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
必修科目	生命・医療倫理学	1前	2			○			5	1	1			兼9	オムニバス	
	疫学基礎論	1前	2			○			1			3		兼4		
	臨床研究方法論	1後	2			○			1	1		2				
	生物統計学・臨床統計学基礎論	1前	1			○			2			2		兼1		
	医学統計パッケージ演習	1後	2				○		1			2		兼1		
	臨床法医学概論	1前	2			○			1	1						
	総合医療実践学特論	1後	2			○			3	1	1	3		兼3		
	予防医学・健康指導特論I	1前	2			○			5	2	1			兼4	オムニバス	
	予防医学・健康指導特論II	1後	2			○			6	1				兼6	オムニバス	
	環境保健学概論	1前	1			○			2			1		兼5		
	医療政策・国際保健概論	1前	1			○			2			1		兼7	オムニバス	
	国際感染症概論	1前	1			○			1							
小計(12科目)	-		20						30	7	3	14	0		-	
選択必修科目	公衆衛生学特別研究(疫学)	1後~2		6			○		1			2		兼3		
	公衆衛生学特別研究(生物統計学)	1後~2		6			○		1			1				
	公衆衛生学特別研究(社会科学・行動科学)	1後~2		6			○		1							
	公衆衛生学特別研究(保健行政・医療管理学)	1後~2		6			○		1							
	公衆衛生学特別研究(国際保健・環境保健学)	1後~2		6			○		1							
小計(5科目)	-		0	30	0				5	0	0	3	0		-	
共通科目	研究方法概論	1前		2		○			10	5				兼1	オムニバス	
	基礎生命科学コースワーク	1前		2		○				1						
	調査研究法特論	1前		2		○			7							
	情報医工学特論	1前		2		○			1							
	医工学イノベーション特論	1後		2		○			1					兼6		
	栄養学特論	1後		2		○			4	2				兼3	オムニバス	
	健康生活科学	1後		2		○			1					兼9	オムニバス	
	選択科目	疫学調査分析演習	2前		2			○		1			1			
		質的研究法特論	1後		2		○			7					兼3	オムニバス
		臨床医歯学総論	1後		2		○			8	1	3	2		兼3	オムニバス
医歯薬保健学特論		1前		2		○			22	1	3	3		兼3	オムニバス	
人体の構造		1前		2		○			5			2		兼3	オムニバス	
人体の機能		1前		2		○			7	2	2	1	1	兼3	オムニバス	
病因病態学		1後		2		○			5	2	2	1		兼3	オムニバス	
生体防御学		1後		1		○			3	1		2		兼1	オムニバス	
総合薬理学		1後		1		○			2					兼1	オムニバス	
分子生物学と放射線防護		1前		2		○			2	3	3	4		兼2	オムニバス	
科目奨励	バイオデザイン概論	1前			2	○			1			1		兼3		
	バイオデザイン演習I	1通			2	○			1			1		兼3		
小計(21科目)	-		0	35	4				94	18	13	18	0		-	
合計(38科目)		-		20	65	4				71	22	16	23	0		-
学位又は称号	修士(公衆衛生学), 修士(学術)		学位又は学科の分野				医学関係									